マナビDXクエスト
MANABI-DELUXE QUEST

2025年度「マナビDX Quest」地域企業協働プログラム事例集

2026年3月

目次 (1/3)

本事業の概要 …… P4

パターン①「デジタル化の可能性検討」 …… P16

1 株式会社髙工
2 株式会社キューテスト
3 白崎建設株式会社
4 株式会社荻荘電機
5 株式会社アスピア
6 株式会社フォネット
7 株式会社ユニオンプレート
8 株式会社アンサーノックス
9 株式会社都築産業
10 東濃コアー株式会社
11 株式会社スギヨ
12 有限会社モメンタムファクトリー・Orii
13 株式会社平成フード
14 日本海給食株式会社
15 神楽電力株式会社
16 株式会社八天堂ファーム
17 岡山技研工業株式会社
18 大同塗装株式会社
19 つるや旅館
20 オウライ株式会社
21 有限会社森清掃社
22 株式会社総合技建コンサルタント
23 オノケングループ
24 成龍酒造株式会社
25 中央地所株式会社
26 株式会社七尾製菓
27 株式会社バイオテックス
28 株式会社仲宗根糀家

目次 (2/3)

パターン②「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」 …· P83

29 一般社団法人東北風土マラソン&フェスティバル
30 一般社団法人くるむ
31 株式会社Interund
32 株式会社北洲
33 株式会社タイハク
34 株式会社アングルクリエイト
35 株式会社EXIDEA
36 株式会社みんせつ
37 株式会社みんせつ
38 株式会社JIYU Laboratories
39 株式会社JIYU Laboratories
40 株式会社NEWGREEN
41 日精サービス株式会社
42 株式会社羽吹組
43 株式会社和井田製作所
44 株式会社松田電機工業所
45 東栄管機株式会社
46 協和ダンボール株式会社
47 レシップホールディングス株式会社
48 株式会社佐野塗工店
49 高山赤十字病院
50 株式会社フェイス
51 三陽陸運株式会社
52 株式会社平成フード
53 日本海給食株式会社
54 株式会社ニッコー
55 一般社団法人ファームサポート美郷
56 油谷湾温泉ホテル楊貴館
57 石見銀山みらいコンソーシアム
58 simasima
59 株式会社サンエスライン
60 林ホールディングズ株式会社
61 ことのは税理士法人
62 行政書士法人小金丸
63 内浜化成株式会社
64 オタライト株式会社
65 新日本造機株式会社
66 リーフ株式会社
67 株式会社是永商会
68 ザ・ハーモニー株式会社
69 渡辺鉄工株式会社
70 三和金属株式会社
71 鹿児島ケース株式会社
72 株式会社ア・トスフーズ
73 株式会社別大興産
74 一般社団法人日向市観光協会

目次 (3/3)

パターン③「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」 …… P179

75 株式会社西原商事ホールディングス
76 株式会社クリエスタ
77 株式会社デジオン
78 URBANIX株式会社
79 株式会社美装社

パターン1.5「デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析」 …… P193

80 株式会社ラブリントン
81 株式会社崎浜商店

本事業の概要

事業の背景

生成AI等の最新技術の利活用などデジタル化は不可逆的に進展している中で、各国ではデジタル投資が加速。地域企業が、今後も地域経済を支える主体であり続けるためには、自らの経営課題や事業環境の変化に合わせてDXによる業務・ビジネスモデルの変革を実行することが重要

そのためには、DX推進の担い手となるデジタル人材の育成・確保が必要不可欠であるが、現状では、デジタル人材が質・量ともに不足していることに加え、都市圏への偏在も課題となっている。
こうした課題解決に向けて、経済産業省では、令和4年度において、地域の企業のDXを加速させるために必要なデジタル人材を育成・確保する「デジタル人材育成プラットフォーム」を構築。4年目となる令和7年度は、デジタル人材が実践的なデジタル実装能力を磨くため、地域企業の現場で実際の課題解決に取り組むプログラム(地域企業協働プログラム)を10の事業者が提供する実証事業を実施

取り組みの内容

過去3年間に亘って取り組んだAI Quest事業を基に、
DXへとテーマを拡大して本年度は4年目となる取り組みを実施

2019年度
中小企業のAI活用におけるニーズを調査し優先的に導入を進めるべき業種・工程 (以下、「優先領域」) を明確化

2024年度
プログラム内容を充実・規模を拡大して「デジタル人材」の育成やコミュニティ形成を実施するとともに、地域の中小企業とネットワークを持つ「地域ハブ団体」とより密に連携

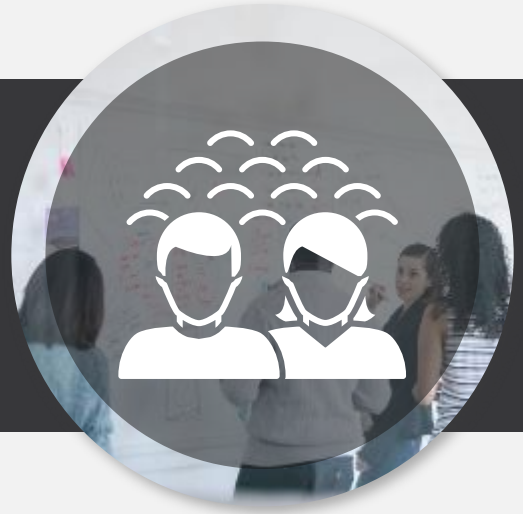
2024年度は、今年度の「地域企業協働プログラム」では、地域ハブ団体による主体的なプログラム設計・運営を推進し、10種類の多様なプログラムを提供
2024年度の成果は、公開済の事例集をご参照
DXQ-pbl-case_2024.pdf

2025年度
今年度の「地域企業協働プログラム」では、昨年度に引き続き、10の地域ハブ団体により多様なプログラムを提供

地域の中小企業77社 (81案件) と、マナビDX QuestのPBLを修了した受講生やDXに関する資格や経験を有する受講生、学生等が協働し、DXに関する様々な課題解決にあたった

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

地域企業協働プログラムの概要



受講生と、企業が協働し、
実際の課題解決に取り組むプログラム

期間	主として2025年11月～2026年1月の間の約2~3ヶ月間
参加要件	• 2025年度のマナビDX QuestのPBL修了者 / 過年度のマナビDX Quest修了者 • デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析、団体によって設定 (E資格・G検定の合格者、特定の講義を受講した者 等)
実施内容	企業のDX導入状況に応じて、「今後のDX推進に向けたプランを具体化したい」といった課題解決から、デジタル活用の有用性検証やDXビジネス変革検討 等のパターンを予定
受講生と企業の役割分担	受講生: デジタル関連の知見やスキルを元に、DX変革を主体的に推進 企業: 議論やデータ提供を通じて、受講生と共にDX変革を推進

参加企業

デジタル化の状況を問わず最終的にDXを目指す企業をお受入れ

協働プログラムの対象企業

デジタルトランスフォーメーション
(Digital Transformation)
組織横断 / 全体の業務・製造プロセスのデジタル化、
"顧客起点の価値創出" のための事業やビジネスモデルの変革

デジタライゼーション
(Digitalization)
個別の業務・製造プロセスのデジタル化

デジタイゼーション
(Digitization)
アナログ・物理データのデジタルデータ化

全ての段階に該当する企業が対象

- 将来的にはDX を目指すことを前提とする

Source: 経済産業省:DXレポート2 (2020年12月)

参加企業

具体的には、4つの段階の企業 (77企業・81案件) を受け入れ、段階別にゴールを設定

協働プログラムの対象企業

	パターン① デジタル化の可能性検討	パターン1.5 デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析	パターン② データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証	モデル・システムの実装・運用	パターン③ データ・デジタル技術を用いた新規事業検討
企業のデジタル化の状態	デジタル化にこれから取り組みたい 何からどう進めるべきかを検討し、具体的なアクションに移していきたい	デジタル化に向けた構想をブラッシュアップしたい 保有データの有効性を確認しつつ、ロードマップを具体化したい 活用可能なデータがある場合は、その一部を使って、分析や活用方法を試行したい	デジタル化の構想/テーマが決まっており、データがゼロではない 今後のプロジェクトの具体化 (取組み判断含む) や初期的な検証 (PoC) を実施したい	モデルやシステムは構築・検証済みであり、実装・運用していきたい 対象外 企業と受講生間の合意があれば、終了後に継続実施も可能	デジタル化の取組みは一定進んでおり、それらを活用した新しいビジネスモデルを創出したい
2か月間で取り組むことのイメージ	**DXへの意識醸成支援** **DXの推進計画の策定** • 現状把握・課題特定 • 打ち手の検討 • DX導入・展開計画の策定	**保有するデータの有効性検証** • 活用可能な場合はデータを基にした打ち手の具体化 • 不足する場合は取得方法の検討 **DX推進ロードマップの具体化**	**DX施策具体化・効果検証** • 今後の取組み方針の検討/計画策定 • PoCの実施 (モデル開発 等) • 本番実装・運用・展開計画の作成 等	**システムの開発・運用・改善** • システム実装のための運用環境の構築・整備 • 既に運用しているシステム・モデルの改善	**新たなビジネスの計画検討** • 新事業アイディアのブレスト/評価 • 実現までのロードマップの策定
各段階の案件数	**29案件**	**2案件**	**45案件**		**5案件**

参加企業の受け入れ要件

事業・段階別のゴールへの理解

- あくまで「学び合い」を目的とした事業であり、必ずしも何らかの成果物が伴うものではない
- 企業のDXの状況に応じて協働期間で達成できるゴールが異なる

経営者の巻き込み、主体的な検討

- 経営者・各部署の担当者の局所での議論への参加
- 受け身ではなく、主体的な議論へのご参加

事業体制への理解

- オンライン・完全リモートでの対応
- 平日夜 (19時～) または休日における、週1時間の打ち合わせ実施
- Slackでの質疑応答への対応

地域ハブ団体が主体となり、
多様な案件を開拓

地域ハブ団体にて面談・
左記の要件確認を踏まえて、
参加可否を判断

参加企業

参考)「地域ハブ団体」10社が主体となり、多様な案件を開拓

地域ハブ団体一覧

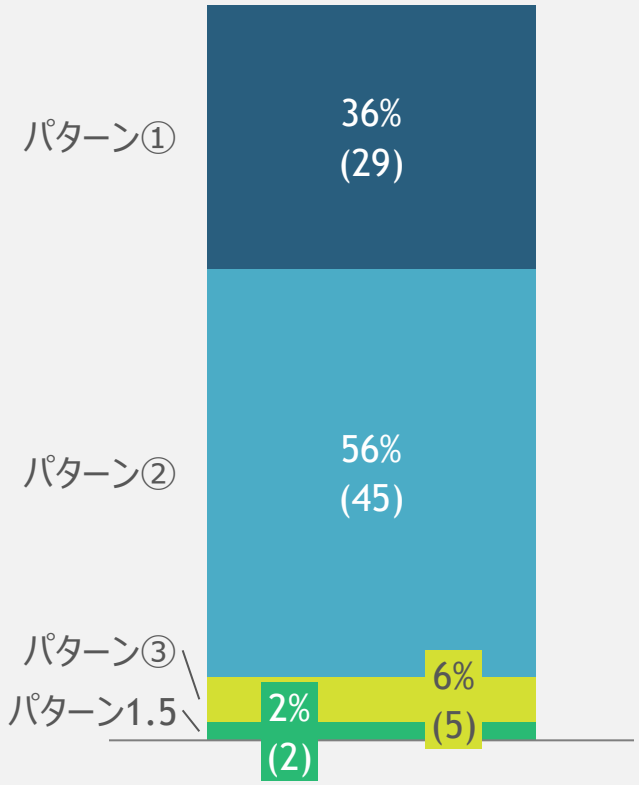
No	地域ハブ団体名	ブロック	事業の実施地域
1	株式会社ミヤックス	東北	宮城県
2	株式会社SIGNATE	関東 (北海道)	東京都、北海道
3	合同会社デロイト トーマツ[1]	中部	新潟県、山梨県、長野県
4	株式会社十六総合研究所	中部・三重	愛知県、岐阜県、三重県
5	株式会社ジェック経営コンサルタント	北陸	富山県、石川県
6	株式会社SAMURAI	中国 (北海道)	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、北海道
7	株式会社パソナJOBHUB	四国	愛媛県、香川県
8	公益財団法人九州先端科学技術研究所	九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
9	独立行政法人国立高等専門学校機構		福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
10	有限責任監査法人トーマツ	九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1. デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社は、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社と2025年12月1日付で合併し、「合同会社デロイト トーマツ」に変更

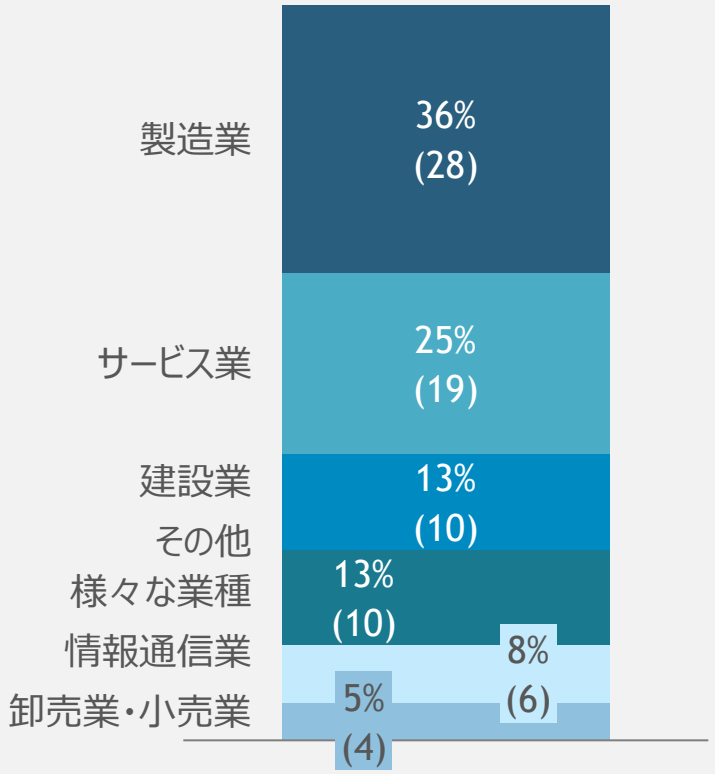
Source: 令和７年度地域デジタル人材育成・確保推進事業（デジタル人材育成における地域ハブ機能実証事業）に係る委託先の採択予定者一覧

2025年度協働プログラム参加企業 概要

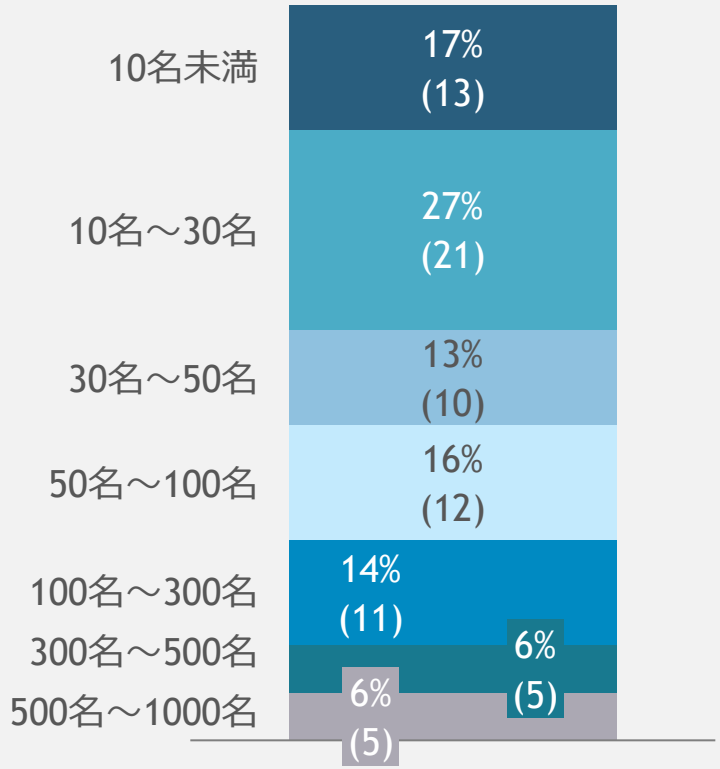
パターン別 (N=81[1])



業種別 (N=77[2])



企業規模 (N=77[2])



1. 案件数　2.社数

Copyright © 2021 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

参加企業および実施内容の概要 (1/4)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
1	株式会社髙工	建設業	宮城県	株式会社ミヤックス	将来を見据えたDXのロードマップ検討
2	株式会社キューテスト	サービス業	宮城県		子育て支援のための顧客管理高度化と勤怠DX
3	白崎建設株式会社	建設業	北海道	株式会社SIGNATE	建設現場の生産性向上を目指す、書類作成業務の効率化
4	株式会社荻荘電機	建設業	新潟県	合同会社 デロイト トーマツ	ペーパレス化の推進とDXロードマップの策定
5	株式会社アスピア	建設業	長野県		社内DX推進のロードマップ策定とDX認定取得のサポート
6	株式会社フォネット	情報通信業	山梨県		Microsoft365を駆使した社員教育・営業支援DX計画の策定
7	株式会社ユニオンプレート	製造業	長野県		AI-OCRを起点とした受注業務の検討
8	株式会社アンサーノックス	サービス業	山梨県		SSW事業での営業活動のDX化
9	株式会社都築産業	製造業	岐阜県	株式会社 十六総合研究所	現場業務課題への対応を起点とした、“自走型DX企業”への変革基礎形成
10	東濃コアー株式会社	製造業	岐阜県		データに基づく「適正在庫」の可視化と、現場主導の生産管理モデルの構築
11	株式会社スギヨ	製造業	石川県	株式会社ジェック 経営コンサルタント	海外事業部の業務効率化を目指したデジタル化推進ロードマップの検討
12	有限会社モメンタムファクトリー・Orii	製造業	富山県		社内手続業務の効率化を目指したDX推進ロードマップの検討
13	株式会社平成フード	製造業	富山県		生産基盤システムの運用方法の見直しによる生産管理機能の強化
14	日本海給食株式会社	製造業	富山県		受注から納品までのリードタイムを短縮するための業務フローの見直し
15	神楽電力株式会社	電気・ガス・熱供給・水道業	島根県	株式会社SAMURAI	浜田市を中心とした石見地区の地域DX推進
16	株式会社八天堂ファーム	農業・林業	広島県		AIを活用した農福事業の礎となるデータの整備と記録の自動化
17	岡山技研工業株式会社	製造業	岡山県		製造工程における工程データ収集のデジタル化・見える化
18	大同塗装株式会社	製造業	岡山県		船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化
19	つるや旅館	サービス業	香川県	株式会社パソナJOB HUB	データ活用基盤の構築と業務効率化
20	オウライ株式会社	サービス業	徳島県		宿泊運営の“現場オペレーション改革”に向けたDX推進
21	有限会社森清掃社	サービス業	香川県		事務作業のデジタル化
22	株式会社総合技建コンサルタント	製造業	香川県		在庫管理の効率化
23	オノケングループ	サービス業	香川県		アナログ管理からの脱却と「攻めのDX」への転換
24	成龍酒造株式会社	製造業	愛媛県		バックオフィス業務効率化検討プロジェクト

凡例: パターン①「デジタル化の可能性検討」、パターン②「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」、パターン③「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」
パターン1.5「デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析」

参加企業および実施内容の概要 (2/4)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
25	中央地所株式会社	サービス業	福岡県	公益財団法人 九州先端科学技術 研究所	DX推進計画の策定
26	株式会社七尾製菓	製造業	福岡県	独立行政法人 国立高等専門学校機構	生産管理システム構築に向けた検討
27	株式会社バイオテックス	建設業	佐賀県	有限責任監査法人 トーマツ	無料デジタルツールと生成AIを活用した業務改善の検討
28	株式会社仲宗根糀家	製造業	沖縄県		アナログな受発注・在庫管理業務の効率化と、Webサイトリニューアルに向けた戦略策定
29	一般社団法人東北風土マラソン&フェスティバル	サービス業	宮城県	株式会社ミヤックス	「日本で最もデジタルを有効活用したマラソン大会」を実現する
30	一般社団法人くるむ	卸売業・小売業	宮城県		DXによる業務効率化と社会的インパクトの可視化
31	株式会社Interund	卸売業・小売業	宮城県		LINE Botによる業務効率化とInstagram活用を通じた集客・運営強化
32	株式会社北洲	建設業	宮城県		既存営業データを活用した営業活動DX支援手法の検討
33	株式会社タイハク	製造業	宮城県		生成AIをフル活用して、バックオフィス業務の可能性を広げる！！
34	株式会社アングルクリエイト	複合サービス事業	東京都	株式会社SIGNATE	生成AIを活用したコンテンツ制作プロセスの効率化
35	株式会社EXIDEA	情報通信業	東京都		提案書資料生成AIエージェント
36	株式会社みんせつ	情報通信業	東京都		IR担当者業務代行向けAIエージェントPoC
37	株式会社みんせつ	情報通信業	東京都		AIによる自動応答のリアルタイム監視と品質補正
38	株式会社JIYU Laboratories	情報通信業	東京都		セマンティック検索システムの構築
39	株式会社JIYU Laboratories	情報通信業	東京都		実験情報の抽出モデル開発のPoC
40	株式会社NEWGREEN	農業・林業	東京都		AI, Notionを活用した農業支援サービスのUI/UXデザイン
41	日精サービス株式会社	運輸業・郵便業	新潟県	合同会社 デロイト トーマツ	フードロス削減に向けた需要予測とメニュー最適化の取り組み
42	株式会社羽吹組	建設業	新潟県		出面 (でづら) 表の自動集計の検討
43	株式会社和井田製作所	製造業	岐阜県	株式会社 十六総合研究所	来客対応のデジタル化とAI・自動化活用の推進
44	株式会社松田電機工業所	製造業	愛知県		原価計算・工数管理の業務改善検討
45	東栄管機株式会社	製造業	岐阜県		各支店・営業所における倉庫内オペレーションのDX

凡例: パターン①「デジタル化の可能性検討」、パターン②「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」、パターン③「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」
パターン1.5「デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析」

参加企業および実施内容の概要 (3/4)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
46	協和ダンボール株式会社	製造業	岐阜県	株式会社 十六総合研究所	データのデジタル化・蓄積手段構築
47	レシップホールディングス株式会社	製造業	岐阜県		データ活用の見える化と業務効率向上に向けた対応
48	株式会社佐野塗工店	建設業	愛知県		施工管理業務の効率化について
49	高山赤十字病院	医療・福祉	岐阜県		データ活用による動線の可視化
50	株式会社フェイス	運輸業・郵便業	富山県	株式会社ジェック 経営コンサルタント	灯油配送スケジュールの見直し
51	三陽陸運株式会社	運輸業・郵便業	富山県		不採算路線の受託停止判断指標情報の検討
52	株式会社平成フード	製造業	富山県		品質不具合データを基にした資料の設計
53	日本海給食株式会社	製造業	富山県		食数管理のデジタル化
54	株式会社ニッコー	製造業	北海道	株式会社SAMURAI	社内チャットボット開発及び活用ガイドライン整備
55	一般社団法人ファームサポート美郷	農業・林業	島根県		ミニトマト農家の栽培技術の再現化に向けてAIを活用した生産管理体制の構築
56	油谷湾温泉ホテル楊貴館	サービス業	山口県		旅館DX
57	石見銀山みらいコンソーシアム	サービス業	島根県		石見銀山エリアの関係人口可視化と経済圏最大化への検証
58	simasima	サービス業	香川県	株式会社パソナJOB HUB	バックオフィス業務効率化による戦略的時間の創出
59	株式会社サンエスライン	卸売業・小売業	佐賀県	公益財団法人 九州先端科学技術 研究所	機械学習を利用した需要予測モデル開発
60	林ホールディングズ株式会社	建設業	福岡県		生コンクリート輸送におけるAI配車計画システムの検証
61	ことのは税理士法人	サービス業	福岡県		AI×税理士による業務効率化
62	行政書士法人小金丸	サービス業	福岡県		知的資産を組織の競争力に変えるためのDX・AI活用
63	内浜化成株式会社	製造業	愛知県	独立行政法人 国立高等専門学校機構	成形IoTによる成形条件最適化
64	オタライト株式会社	製造業	福岡県		プラスチック射出成形工程の可視化及び成形品外観画像検査
65	新日本造機株式会社	製造業	広島県		切削工具の劣化診断に向けた計測と分析の試みと提案
66	リーフ株式会社	製造業	福岡県		在宅・介護領域におけるセンシングDXプラットフォーム開発
67	株式会社是永商会	製造業	福岡県		Next Growth～自走できるシステム開発～「社長ランチごちします。」
68	ザ・ハーモニー株式会社	医療・福祉	福岡県		認知症コミュニケーションロボットの開発

凡例: パターン①「デジタル化の可能性検討」、パターン②「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」、パターン③「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」
パターン1.5「デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析」

参加企業および実施内容の概要 (4/4)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
69	渡辺鉄工株式会社	製造業	福岡県	有限責任監査法人トーマツ	購買データに基づく購買最適化
70	三和金属株式会社	製造業	福岡県		鉄鋼端材の「資産化」に向けた在庫管理モデルの構築と外販プラットフォームへのロードマップ
71	鹿児島ケース株式会社	製造業	鹿児島		教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出
72	株式会社ア・トスフーズ	製造業	鹿児島県		AIとデータ活用による生産計画・営業管理の高度化および業務効率化の検討
73	株式会社別大興産	不動産業	大分県		デジタル技術を活用した社内マニュアルの高度化およびアメーバ経営の実現
74	一般社団法人日向市観光協会	サービス業	宮崎県		観光DXを通じた新たな顧客層の開拓
75	株式会社西原商事ホールディングス	サービス業	福岡県	公益財団法人九州先端科学技術研究所	環境DXによる脱炭素・資源循環を起点とした新規事業創出
76	株式会社クリエスタ	情報通信業	福岡県		高齢者向けのAIパートナーのプロトタイプ開発と価値検証
77	株式会社デジオン	情報通信業	福岡県		個人識別情報 (PII) のセキュリティDX推進
78	URBANIX株式会社	サービス業	福岡県		まちの余白を資源化するまちづくりDX
79	株式会社美装社	建設業	宮城県	株式会社ミヤックス	「看板×データ」
80	株式会社ラブリントン	サービス事業	熊本県	有限責任監査法人トーマツ	アナログ業務における非効率やヒューマンエラーの特定・業務改革の検討
81	株式会社崎浜商店	卸売業・小売業	沖縄県		配送業務をデジタル化し、配送効率向上、属人化の解消を実現するDX

凡例: パターン①「デジタル化の可能性検討」、パターン②「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」、パターン③「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」
パターン1.5「デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析」

パターン①
「デジタル化の可能性検討」の取り組み事例

「デジタル化構想・設計段階」の取り組み内容

企業の状態

- DXへの取組み意欲が高い
- 何からどう進めるべきかを検討し、具体的なアクションに移していきたい

本段階で目指すゴール

- デジタル/DX について、社内の理解が醸成されている
- 課題・構想を整理し、デジタル技術/データを利活用して解決が出来る可能性のあるテーマ候補が見えている
- 上記を踏まえて、企業が取るべきネクストアクションやロードマップが描かれている

参加企業および実施内容の概要 -パターン① (1/2)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
1	株式会社髙工	建設業	宮城県	株式会社ミヤックス	将来を見据えたDXのロードマップ検討
2	株式会社キューテスト	サービス業	宮城県		子育て支援のための顧客管理高度化と勤怠DX
3	白崎建設株式会社	建設業	北海道	株式会社SIGNATE	建設現場の生産性向上を目指す、書類作成業務の効率化
4	株式会社荻荘電機	建設業	新潟県	合同会社 デロイト トーマツ	ペーパレス化の推進とDXロードマップの策定
5	株式会社アスピア	建設業	長野県		社内DX推進のロードマップ策定とDX認定取得のサポート
6	株式会社フォネット	情報通信業	山梨県		Microsoft365を駆使した社員教育・営業支援DX計画の策定
7	株式会社ユニオンプレート	製造業	長野県		AI-OCRを起点とした受注業務の検討
8	株式会社アンサーノックス	サービス業	山梨県		SSW事業での営業活動のDX化
9	株式会社都築産業	製造業	岐阜県	株式会社 十六総合研究所	現場業務課題への対応を起点とした、“自走型DX企業”への変革基礎形成
10	東濃コアー株式会社	製造業	岐阜県		データに基づく「適正在庫」の可視化と、現場主導の生産管理モデルの構築
11	株式会社スギヨ	製造業	石川県	株式会社ジェック 経営コンサルタント	海外事業部の業務効率化を目指したデジタル化推進ロードマップの検討
12	有限会社モメンタムファクトリー・Orii	製造業	富山県		社内手続業務の効率化を目指したDX推進ロードマップの検討
13	株式会社平成フード	製造業	富山県		生産基盤システムの運用方法の見直しによる生産管理機能の強化
14	日本海給食株式会社	製造業	富山県		受注から納品までのリードタイムを短縮するための業務フローの見直し
15	神楽電力株式会社	電気・ガス・熱供給・水道業	島根県	株式会社SAMURAI	浜田市を中心とした石見地区の地域DX推進
16	株式会社八天堂ファーム	農業・林業	広島県		AIを活用した農福事業の礎となるデータの整備と記録の自動化
17	岡山技研工業株式会社	製造業	岡山県		製造工程における工程データ収集のデジタル化・見える化
18	大同塗装株式会社	製造業	岡山県		船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化
19	つるや旅館	サービス業	香川県	株式会社パソナJOB HUB	データ活用基盤の構築と業務効率化
20	オウライ株式会社	サービス業	徳島県		宿泊運営の“現場オペレーション改革”に向けたDX推進
21	有限会社森清掃社	サービス業	香川県		事務作業のデジタル化
22	株式会社総合技建コンサルタント	製造業	香川県		在庫管理の効率化
23	オノケングループ	サービス業	香川県		アナログ管理からの脱却と「攻めのDX」への転換
24	成龍酒造株式会社	卸売業・小売業	愛媛県		バックオフィス業務効率化検討プロジェクト

参加企業および実施内容の概要 -パターン① (2/2)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
25	中央地所株式会社	サービス業	福岡県	公益財団法人 九州先端科学技術 研究所	DX推進計画の策定
26	株式会社 七尾製菓	製造業	福岡県	独立行政法人 国立高等専門学校機構	生産管理システム構築に向けた検討
27	株式会社バイオテックス	建設業	佐賀県	有限責任監査法人 トーマツ	無料デジタルツールと生成AIを活用した業務改善の検討
28	株式会社仲宗根糀家	製造業	沖縄県		アナログな受発注・在庫管理業務の効率化と、Webサイトリニューアルに向けた戦略策定

株式会社 髙工 (建設業) の取組み事例: 将来を見据えたDXのロードマップ検討

参加者

企業	社名	株式会社髙工
	業種	建設業 (土木関連工事)
	事業概要	地域のインフラ整備
	所在地 (都道府県・市区町村)	宮城県仙台市
参加した受講生の概要	チーム名	BRISK
	チーム人数	5名
	進める中で工夫したこと	髙工様の現状を、打合せを通じて認識合せし、現場目線で考え、無理なく進めていけるようなDX提案を目指した

実施概要

課題内容

魅力ある会社づくりに向けたDX活用の方向性整理

- 将来、地域から魅力ある企業として認知され、若い働き手にも選ばれる会社を目指している
- その実現に向け、「会社の魅力向上」につながる取り組みには積極的に挑戦したい
- 一方で、DXで何ができるか、何から着手すべきかの具体的なイメージが持てていない

実施した検討内容

企業の現状把握とDX着手領域の検討

- 企業の現状や業務の進め方についてヒアリングを実施
- 経営層・現場双方の課題や改善ニーズを整理
- DXにより解決可能な領域や優先すべきテーマを検討

検討の成果

DX推進に向けた要点の整理と提案

- **DX化のロードマップを提示**し、中長期的な姿と実現ステップを共有
- 経費精算のデジタル化やチャットボットの**簡易デモ**を通じ、業務変化を体感いただいた
- DX定着に向けた重要ポイントを整理し、今後の**自走に向けた方向性を提案**

株式会社 髙工 (建設業) の取組み事例: 将来を見据えたDXのロードマップ検討

実施内容の詳細

1．現状把握・課題整理

“今の姿を正しく理解する”

- Web会議やQA表を用いてヒアリングを実施
- 自社の現状や、本部・現場双方の困りごとを収集
- 過去のデジタル化施策が定着しなかった要因を整理
- 建設業界の現状や関連法規制を調査

2．DX着手領域・優先テーマの検討

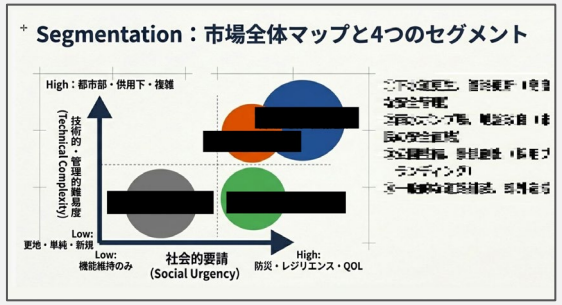
“どこからDXを始めるかを考える”

- 他社のDX事例を紹介し、「DXならこんなことができる」を共有
- 効果と難易度の観点から、自社にフィットするDX領域や優先テーマを検討
- Difyを用いた経費精算プロトタイプを共有し、「DXならこんな楽になる」を体感

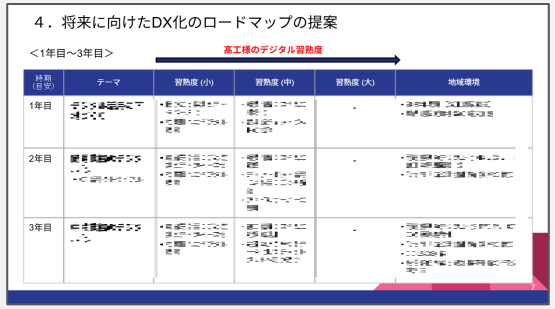
成果

「DX推進提案書」の作成

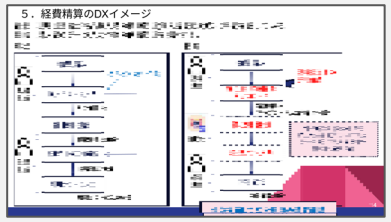
業界・市場分析



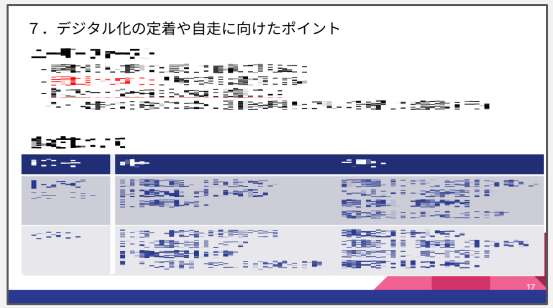
DX化のロードマップ



経費精算のデジタル化イメージ・デモ



DX定着・自走のポイント



株式会社キューテスト (育児・家事代行サービス業) の取組み事例: 子育て支援のための顧客管理高度化と勤怠DX

参加者

企業	社名	株式会社キューテスト
	業種	育児・家事代行サービス業
	事業概要	「日本の子育てがたのしくなるインフラを創る」をビジョンに掲げ、ベビーシッターを家事代行サービスを提供
	所在地(都道府県・市区町村)	宮城県仙台市
参加した受講生の概要	チーム名	かたひも
	チーム人数	5名
	進める中で工夫したこと	課題の深堀により根本的な解決に近づける。 実際にシステムを使用する方に寄り添ったシステム設計にした

実施概要

課題内容

事務作業の効率化

- 移動時間や距離、休憩時間等正確な計算を行い、適切な手当の付与をしたい
- 移動効率のいい予約のディレクション、勤怠管理の自動化し事務作業の効率化をしたい
- 日報データを活かしスタッフが活用できるchatボットを作って、サービスの向上を目指す

実施した検討内容

課題の発掘と自動化の提案

- 業務内容の詳細な洗い出し調査を実施、潜在的な課題の発掘
- 課題の分類を実施
- 業務の自動化アプリケーション/サイトの開発を検討

検討の成果

自動化の導入と運用

- 潜在的な課題の発掘とその分類
- 移動経路検索、勤怠管理、日報の三つの観点で自動化を導入
- 使用者に使いやすい設計

株式会社キューテスト (育児・家事代行サービス業) の取組み事例: 子育て支援のための顧客管理高度化と勤怠DX

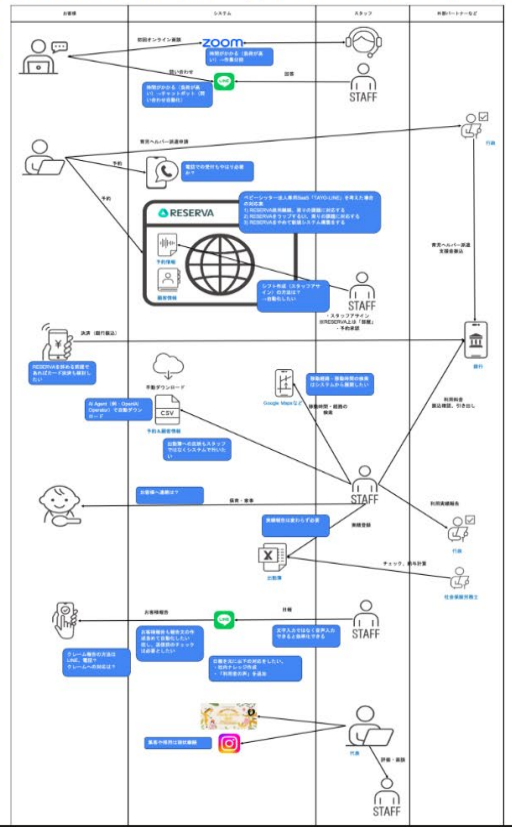
実施内容の詳細

課題の発見

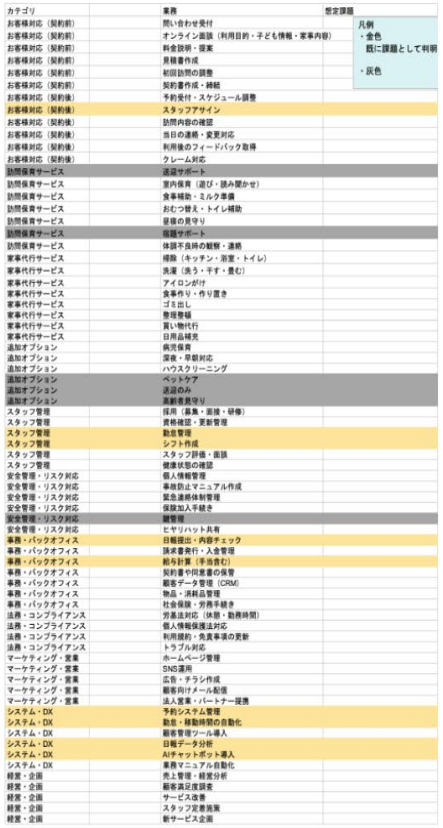
業務フローと詳細な業務内容の調査を行い課題を洗い出す

業務実態の把握と課題の洗い出し（今後のヒアリング等で細部を把握）

業務フロー分析



課題分析



カテゴリ	業務	想定課題
お客様対応（契約前）	問い合わせ受付	
お客様対応（契約前）	オンライン面談（利用目的・子ども情報・家事内容）	
お客様対応（契約前）	料金説明・提案	
お客様対応（契約前）	見積書作成	
お客様対応（契約前）	初回訪問の調整	
お客様対応（契約前）	契約書作成・締結	
お客様対応（契約後）	予約受付・スケジュール調整	
お客様対応（契約後）	スタッフアサイン	
お客様対応（契約後）	訪問内容の確認	
お客様対応（契約後）	当日の連絡・変更対応	
お客様対応（契約後）	利用後のフィードバック取得	
お客様対応（契約後）	クレーム対応	
訪問保育サービス	送迎サポート	
訪問保育サービス	室内保育（遊び・読み聞かせ）	
訪問保育サービス	食事補助・ミルク準備	
訪問保育サービス	おむつ替え・トイレ補助	
訪問保育サービス	昼寝の見守り	
訪問保育サービス	複数サポート	
訪問保育サービス	体調不良時の観察・連絡	
家事代行サービス	掃除（キッチン・浴室・トイレ）	
家事代行サービス	洗濯（洗う・干す・畳む）	
家事代行サービス	アイロンがけ	
家事代行サービス	食事作り・作り置き	
家事代行サービス	ゴミ出し	
家事代行サービス	整理整頓	
家事代行サービス	買い物代行	
家事代行サービス	日用品補充	
追加オプション	病児保育	
追加オプション	深夜・早朝対応	
追加オプション	ハウスクリーニング	
追加オプション	ペットケア	
追加オプション	送迎のみ	
追加オプション	高齢者見守り	
スタッフ管理	採用（募集・面接・研修）	
スタッフ管理	資格確認・更新管理	
スタッフ管理	勤怠管理	
スタッフ管理	シフト作成	
スタッフ管理	スタッフ評価・面談	
スタッフ管理	健康状態の確認	
安全管理・リスク対応	個人情報管理	
安全管理・リスク対応	事故防止マニュアル作成	
安全管理・リスク対応	緊急連絡体制管理	
安全管理・リスク対応	保険加入手続き	
安全管理・リスク対応	鍵管理	
安全管理・リスク対応	ヒヤリハット共有	
事務・バックオフィス	日報提出・内容チェック	
事務・バックオフィス	請求書発行・入金管理	
事務・バックオフィス	給与計算（手当含む）	
事務・バックオフィス	契約書や同意書の保管	
事務・バックオフィス	顧客データ管理（CRM）	
事務・バックオフィス	物品・消耗品管理	
事務・バックオフィス	社会保険・労務手続き	
法務・コンプライアンス	労基法対応（休憩・勤務時間）	
法務・コンプライアンス	個人情報保護法対応	
法務・コンプライアンス	利用規約・免責事項の更新	
法務・コンプライアンス	トラブル対応	
マーケティング・営業	ホームページ管理	
マーケティング・営業	SNS運用	
マーケティング・営業	広告・チラシ作成	
マーケティング・営業	顧客向けメール配信	
マーケティング・営業	法人営業・パートナー提携	
システム・DX	予約システム管理	
システム・DX	勤怠・稼動時間の自動化	
システム・DX	顧客管理ツール導入	
システム・DX	日報データ分析	
システム・DX	AIチャットボット導入	
システム・DX	業務マニュアル自動化	
経営・企画	売上管理・経営分析	
経営・企画	顧客満足度調査	
経営・企画	サービス改善	
経営・企画	スタッフ定着施策	
経営・企画	新サービス企画	

凡例
・金色
既に課題として判明
・灰色

成果

業務から課題をカテゴリ分けし、自動化の具体的な内容を提案

自動化: 移動経路検索、勤怠管理、日報

課題に対する打ち手一覧（総合評価）

No.	カテゴリ	打ち手 （具体的なアクションプラン・具備機能）	対応可否判断	
1	移動経路検索	Google Maps APIで移動距離・時間算出	○	
2		独自地点DB	○	
5	予約ディレクション（シフト調整）	空き枠自動挿入＋距離最適化AIまたは、ツール導入	△	（
6		相性スコアのマスタ化、自動割当てに利用	×	捨
7		RESERVA登録とGoogleカレンダー連携・一元入力	×	
8	勤怠管理（出勤簿入力等）自動化	出勤簿項目自動入力化（一部手動入力）	△	（
9		カレンダー/RESERVAと出勤簿の自動照合	○	
10	日報入力自動化（リフレクション）	投稿優先度タグ付け・通知制御導入	×	
11		スレッド整理またはSlack移行検討等移行検討	×	
12		音声入力フォーム導入 お客様共有用リフレクションの生成AI自動作成	○	
13		AI記入漏れ対応（未記入項目を質問し不足分を補完）	×	△
14		誤検索防止策（フルネーム＋内部IDに変更）	×	△
15		産後うつ・児童虐待等早期発見のためのAI判定	×	
16	情報一元化	顧客情報＋注意点＋過去要点等の情報一元化・閲覧	△	（
17	アカウント管理	個別アカウント＋権限設定変更	×	

株式会社キューテスト (育児・家事代行サービス業) の取組み事例: 子育て支援のための顧客管理高度化と勤怠DX

実施内容の詳細

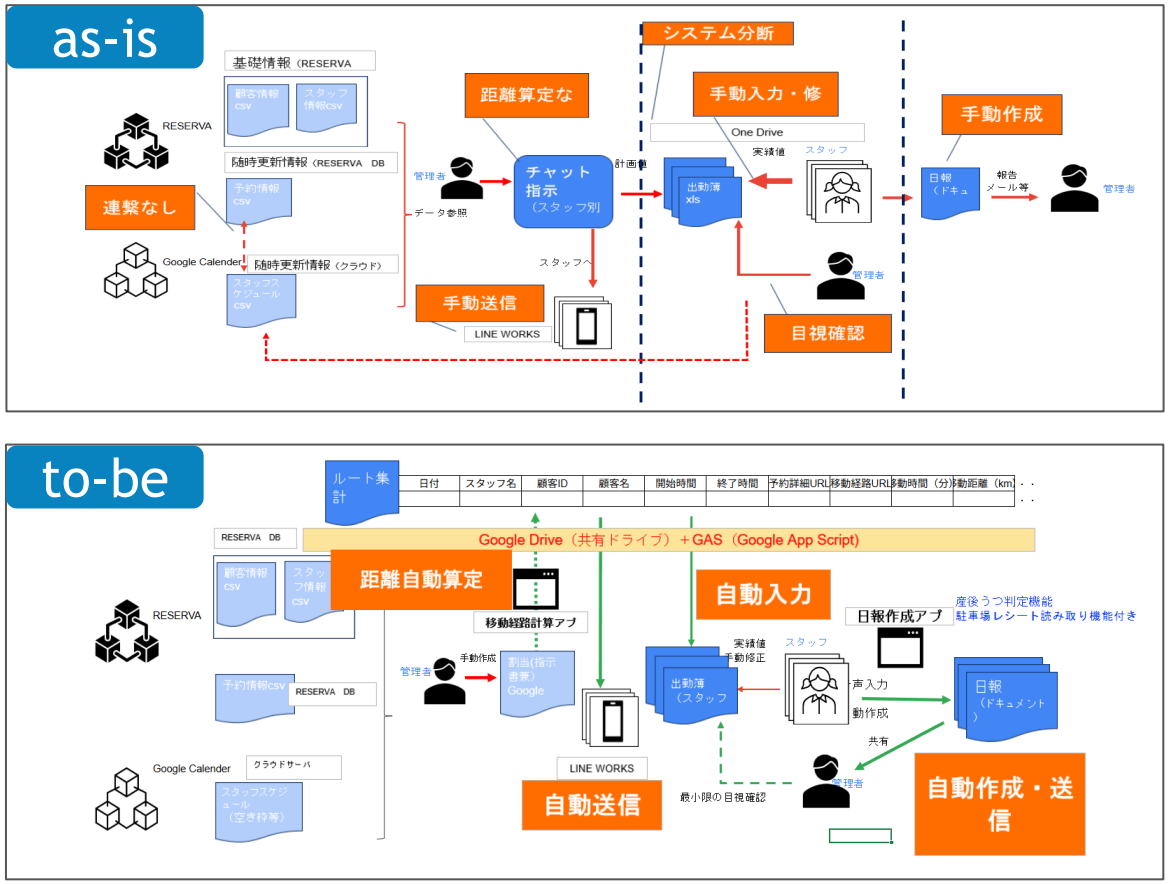
自動化内訳

- ①移動経路検索
  予約ごとに手動で移動経路を検索。移動時間が不正確。
  →予約サイト(RESELVA)・Googleカレンダー上のデータを
  GASで抽出して移動距離・時間を自動で算出する仕組み
  を作成。結果はGoogleスプレッドシートに自動入力。
  また、各スタッフのLINEWORKSへの予約情報の通知も
  自動で行う。

- ②勤怠管理
  訪問サービス後に移動時間を含む実績時間を手動入力。
  →①に付随して自動入力の仕組みを作成。
  手動で訂正できる仕組みも用意。
  天候に合わせて移動時間の調整も可能。
  スタッフ情報のアップデートにも対応。

成果

移動経路検索、勤怠管理、日報の三観点で自動化に成功



株式会社キューテスト (育児・家事代行サービス業) の取組み事例: 子育て支援のための顧客管理高度化と勤怠DX

実施内容の詳細

自動化内訳

- ③日報
  手動で作成してLINEへ通知。入力・確認に時間がかかる。
  →日報作成およびLINE通知を行うアプリを作成。
  音声入力にも対応。入力した日報は生成AIで社内用・お客様用の二通りを自動で作成する仕様。
  日報だけではなく事故報告や領収書写真のアップロードにも対応。

成果

移動経路検索、勤怠管理、日報の三観点で自動化に成功

白崎建設株式会社 (建設業) の取組み事例: 建設現場の生産性向上を目指す、書類作成業務の効率化

参加者

企業	社名	白崎建設株式会社
	業種	建設業
ロゴ (任意)	事業概要	総合工事業、専門工事業
	所在地 (都道府県・市区町村)	北海道釧路市
参加した受講生の概要	チーム名	S-Construction Docs.
	チーム人数	3名
ロゴ (任意)	スキル・PR	システムエンジニア、AIコンサルタント、ITコーディネータの3名。少数精鋭で臨みました
	進める中で工夫したこと	「小さく早く」成果を積上げる段階的な施策。直近施策は白崎建設様で自走可能にする

実施概要

課題内容

現場負担軽減に向けた書類作成時間短縮

- 建設業の現場では、品質・安全など多岐の書類作成が負担となっている
- また残業削減との両立も課題のため、書類作成を効率化し、生産性向上と働き方改善を図る

実施した検討内容

業務フロー作成による改善ポイントの可視化と改善フローの検討

- ヒアリングをもとに現状の業務フローを可視化
- その中で特定の書類作成に必要な重機情報の検索が、手作業で時間がかかっていた
- そこでこの情報検索を直近の効率化対象として改善フローを検討

検討の成果

検索効率化の作業フローと実現方法を提案。将来的なのDXの展開イメージも提案

- ITの利用により改善される重機情報の検索フローとその実現方法を提案した
- 予想効果: 時短効果は年間約360時間 (金額換算で約100万円/年)
- また、段階的に改革を進め、全社的なDXへとつなぐマイルストーンを提案した

株式会社荻荘電機 (電気工事業) の取組み事例: ペーパーレス化の推進とDXロードマップの策定

参加者

企業	社名	株式会社荻荘電機
	業種	電気工事業
	事業概要	配電線から建物設備、街灯・通信・放送まで幅広い電気工事を手掛ける
	所在地 (都道府県・市区町村)	新潟県新潟市
参加した受講生の概要	チーム名	ジェイド
	チーム人数	3名
	スキル・PR	ソフト技術・品質保証、kintone、バックオフィス業務等、多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成
	進める中で工夫したこと	管理部長だけでなく、社長や担当役員など社内の関係者を巻き込みながら進行し、課題に向き合った

実施概要

課題内容

ペーパーレス化の推進とDXロードマップの策定

- 「desknet's NEO」の有効活用・使用方法改善を図り、ペーパーレス化を推進したい
- ペーパーレス化に向けては、日報や車両運行管理表の 効率的なデータ化と資料自動作成、勤怠管理の転記・集計作業の自動化などを検討したい
- 検討内容を踏まえ、全社的なDパターン①: デジタル化の可能性検討Xロードマップを取りまとめたい

実施した検討内容

業務改善とDX推進に向けた具体的取組

- DX推進ロードマップを提案し、具体的な進め方を提案した。
- 支払業務改善: 紙中心のフローを効率化
- 体制構築とノーコード: 選別とkintone試作

検討の成果

改善方向性を整理し、効率的作業方法を提案し、改善の方向が明確化された

- DX推進ロードマップの最初のステップを重点実施する事になり資料作成の工数削減とミス削減、待ち時間削減などが実現予定
- 業務取捨選択と優先順位が明確化
- 支払業務改善案共有で意識変革促進
- ノーコード体験で導入選択肢を理解

株式会社荻荘電機 (電気工事業) の取組み事例: ペーパーレス化の推進とDXロードマップの策定

実施内容の詳細

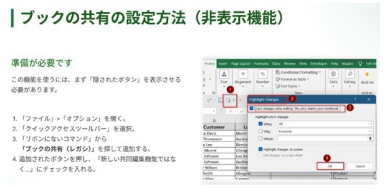
DX推進ロードマップを提示し推進した

- DX推進ロードマップの提示
  業務の説明を受け、資料作成時に多大な人手を費やしている状況が判明し、そこからの改善を始めるステップから、DXに至る道筋を示した
- 資料作成の効率化
  数字の2重転記を削減や、Excel機能による集計等の効率的な作成方法を実際の資料により提示
- 資料作成待ちの解消
  Excelの書込み待ちの状況解消の方法を提示

成果

DX推進ロードマップを理解頂き、工数削減、ミス削減等の改善を行った

- DXに至る最初のステップ (デジタイゼーション) の価値を認識頂き、数字の再入力業務の削減を重点的に実施する事を決定頂いた
- 再入力業務の具体的なファイルを頂き、削減方法を提示し確認頂いた
- 再入力業務の洗い出しを実施頂き、適用の全社展開を計画頂いた
- 提示頂いた毎月の役員会議への資料は、作成工数の削減や、資料作成ミスの削減などが達成できた
- 毎日の報告書の記入待ちが削減でき、現場作業終了の不要な待ちがなくなった

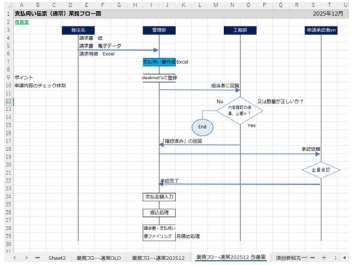


株式会社荻荘電機 (電気工事業) の取組み事例: ペーパーレス化の推進とDXロードマップの策定

実施内容の詳細

支払業務改善: 紙中心のフロー効率化を提案した

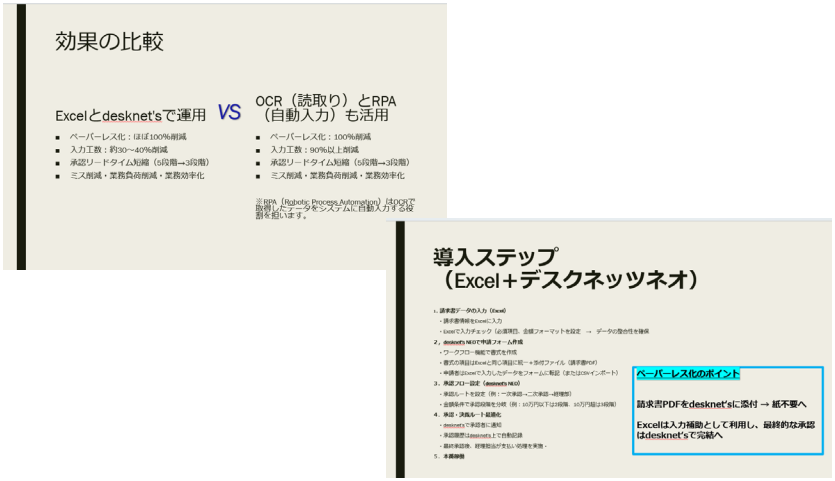
- 協働打合せやチーム会議を通して、現状課題の整理
- エクセルと紙ベースで運用されている「支払伺い書」による費用申請について、既存の請求書から試作したマスタデータからVLOOKUP関数を利用して申請テンプレートへ簡易的な入力デモンストレーションを行った
- 「支払い伺い書」の申請フロー・承認フローをエクセルで全体図と詳細図を作成して提示。同時に、現在の姿と理想の姿もフロー図で可視化しながら、既存のデスクネッツネオのワークフローを「支払伺い書」でも活用していくことの提案を行った



成果

デスクネッツネオを活用したデジタル化へのフロー案に納得いただいた

- 現状より一歩進んだデジタル化推進 (ペーパーレス化、工数削減) へ向けて、デスクネッツネオのワークフローの活用も今後のツールを選ぶ際の検討材料に入れていただくことの確認をしていただいた



株式会社荻荘電機 (電気工事業) の取組み事例: ペーパーレス化の推進とDXロードマップの策定

実施内容の詳細

業務改善体制の構築

- 業務選別シートを用いて、業務を「廃止」「継続(やり方を変える) 」「そのまま継続」に分類
- 改善が必要な業務については、担当者と完了予定日を設定し、進捗管理を可能にした
- 業務改善体制構築ロードマップを作成し、短期・中期・長期の施策を明確化して、2027年春の本社移転までにペーパーレス化を目標に据えた

ノーコードツールによる業務改善

- Excel業務の限界を踏まえ、脱Excelの選択肢として kintone導入の可能性を検討
- 日報アプリを試作し、実際に操作体験を提供して説明を行い、ノーコードツールの利便性を体感してもらった
- 改善手段の3択 (①Excel改善、②kintone導入、③別パッケージソフト導入) を提示し、比較検討を進めた

成果

業務改善の方向性とスケジュールが可視化され、全社的な改善活動の基盤が整った

- 業務の取捨選択が明確になり、不要業務の廃止や効率化の優先順位が整理された
- 担当者と期限を設定することで、改善活動が「やりっぱなし」にならず、責任と進捗が管理できる体制が整った
- ロードマップにより、短期的な改善と長期的な改革の両方を見通せるようになり、社員の合意形成とモチベーション向上につながった

ノーコードツールの有効性を体験し、改善手段の選択肢が整理された

- 日報アプリ・経費精算アプリの試作により、現場がノーコードツールの操作感と即時性を体験できた
- Excel改善と比較することで、kintone導入のメリット (情報の一元管理・リアルタイム可視化) が具体的に理解された
- 「Excel改善」「ノーコード導入」「パッケージ利用」という3つの選択肢が明示され、企業側が自社に適した改善手段を検討できる基盤が整った

株式会社アスピア (建設業) の取組み事例: 社内DX推進のロードマップ策定とDX認定取得のサポート

参加者

企業	社名	株式会社アスピア
	業種	建設業・不動産業
	事業概要	総合建設業、一級建築士事務所、宅地建物取引業
	所在地(都道府県・市区町村)	長野県松本市
参加した受講生の概要	チーム名	ワクワクLab
	チーム人数	5人
	スキル・PR	DX認定に強い人材と多様な業種・スキルを持つ仲間が協力し、現状把握と提案に全力で臨み、企業の成長とチームの成長の双方を実現します
	進める中で工夫したこと	• 企業様との定例WEB会議および メンバーとのコミュニケーション • 将来も見据えた「DX認定取得」への ロードマップの提案

実施概要

課題内容

デジタル化の可能性検討

- デジタル化の取り組みは各部任せになっており、社内全体の現状を把握できていない
- どこを目指し、何から手を付けていいかわからない
- デジタル技術に対する社内リテラシーの低さ

実施した検討内容

「DX認定」取得に向けた要件確認と現状把握

- ➡DX推進に向けたビジョン/要件/現状の問題点を整理し、取得へのロードマップを策定
- **全社アンケートによる利用ツール調査で現状把握**
- ➡ツールと業務上の課題を紐付けて現状を可視化し、優先度と対策手法を検討

検討の成果

中長期で着実にデジタル化を推進するために、下記項目を提案

- 26年7月の「DX認定」取得に向けた具体的タスク および スケジュール
- 社内でDXを定着させるための3カ年ロードマップ
- 社内のIT環境の状況と問題点の対策手法 および グループウェアに関する参考資料

株式会社アスピア (建設業) の取組み事例: 社内DX推進のロードマップ策定とDX認定取得のサポート

実施内容の詳細

「DX認定」取得に向けた要件確認と現状把握

①「DX認定」の取得要件を確認

- 経済産業省「デジタルガバナンス・コード」ならびに独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) ホームページより「DX認定」取得に必要な要件を確認
- 「DX認定」取得済の同業他社、同県内企業情報を収集

① デジタル化の現状を把握し、「DX認定」取得までに何が不足しているかを確認

- DXを推進していくにあたり、社長の想いや将来構想を確認するためにヒアリングを実施
- 業務把握・ITツール利用状況で収集した各部署のヒアリング内容を基に、課題、問題点を抽出し、不足を確認

全社アンケートによる利用ツール調査で現状把握

① 全社アンケートの実施

- 全社アンケートにより、業務におけるツール利用状況と運用上の困りごとを俯瞰して把握
- 回答内容 (自由記述を含む) を整理・分類し、課題となりやすい領域と論点を抽出して分析

① 課題に対する打ち手の検討

- 上流から取り組むDX認定と並走し、現場の課題をボトムアップで収集・分析し、主要論点を整理

成果

「DX認定」取得までのロードマップ策定

①「DX認定」取得までの全体スケジュールを可視化

- 2026年7月1日の「DX認定」取得を目指した短期スケジュール、および今後3年間のDX推進を見据えた長期スケジュールをガントチャートで可視化
- 「DX認定」取得の必須要件を確認した上で、短期スケジュールから逆引きし、いつまでに何をするべきかのタスクを整理し可視化

①「DX認定」取得までの必須要件の可視化と目指す姿をイメージした策定案を例示

- 「DX認定」申請時に必須となる「ビジョン」「戦略」「成果指標」「人材育成」「推進組織」「IT環境整備」「セキュリティ対策」の要件を可視化
- アスピア社が抱える課題を踏まえ、目指す姿をイメージしながら各要件の対策案を策定し例示
- 「DX認定」申請におけるポイントをまとめ、受講生側の取得経験を活かしたアドバイスを実践

課題に対する打ち手と本質的な課題への取り組み方

① ツールのカオス状況を可視化し、状況を視覚的に把握

- カテゴリ×組織単位で利用状況を可視化し、目的重複・情報分散・情報把握の困難さが生じやすい領域を整理し、コミュニケーション手段・情報保管 (ストレージ) ・情報共有を論点化
- 個別最適が積み上がりやすい構造を明確にし、全社最適に向けた検討材料を提示

① 課題の深掘りと短期・中長期の取り組み方針・打ち手の例示

- カオスマップから読み取れる課題や現場の困りごとを起点に、直接原因と本質的な課題を整理
- ガバナンス体制の構築を優先事項と位置づけ、短期・中長期の方針・具体的な打ち手を例示するとともに、グループウェア導入に向けた比較資料を作成

株式会社フォネット (情報通信業/サービス業) の取組み事例: Microsoft365を駆使した社員教育・営業支援DX計画の策定

参加者

企業	社名	株式会社フォネット
	業種	情報通信業/サービス業
	事業概要	携帯電話ショップ運営 法人向けソリューション営業 等
	所在地 (都道府県・ 市区町村)	山梨県甲府市
参加した 受講生 の概要	チーム名	マナビの庭
	チーム人数	5名
	スキル・PR	企業の業務効率化、DX支援に携わった経験
	進める中で 工夫したこと	企業担当との意見交換を通じて把握した企業ニーズに対し、課題解決に最適なツールを選定すること

実施概要

課題内容

営業担当の提案力の強化
- 取扱商材が多く、内容の把握が不十分なため、顧客の要望に応じた商材提案が課題

ベテラン営業のノウハウの横展開
- ベテラン営業のノウハウの横展開が不十分なため、新人営業の営業力強化に課題

実施した検討内容

課題解決に向けた最適なツール選定
- 機能、コスト、導入のハードルを総合的に判断してChat GPTのGPTsを採用

社員教育・営業支援向けの専門AIアシスタント (GPTs) の実装検討
- 顧客の要望に応じた最適な営業商材を提案するGPTsの検討
- 営業トークの改善提案を行う教育用のGPTsの検討
- 新人営業向けの営業トークロールプレイを行う教育用のGPTsの検討

検討の成果

社員教育・営業支援向けのGPTsを提供し、試用により有効性を確認
- GPTsを提供して下記点が特に有効であることを確認
  - 適切な商材提案に加えて商材のバージョンアップに対応した運用が可能
  - ベテラン営業を高い精度で分析し、営業トークの適切な改善提案が可能
  - ロールプレイ実施により営業トークの引き出しを増やすことが可能

株式会社フォネット (情報通信業/サービス業) の取組み事例: Microsoft365を駆使した社員教育・営業支援DX計画の策定

実施内容の詳細

課題解決に向けた最適なツール選定

- Microsoft365を含む様々ツールを機能、コスト、導入のハードルの観点で総合的に比較した結果、既に導入済みであるChat GPTのGPTsを採用することに決定

社員教育・営業支援向けのGPTsの実装検討

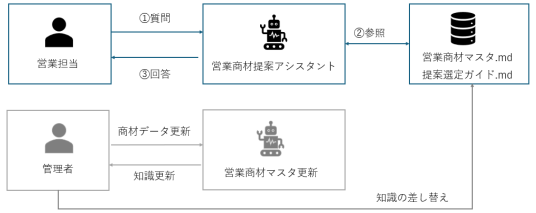
営業商材を提案するGPTsの検討
顧客の要望に応じた自社営業商材の提案及び競合製品との比較分析を行うGPTsの実装を検討した。営業商材データ更新時に、GPTsに読み込む知識を更新するためのGPTsもあわせて検討した

営業トークの改善提案を行う教育用のGPTsの検討
ベテラン営業のノウハウを新人営業に横展開するため、ベテラン営業と新人営業の商談トークを比較分析するGPTsの実装を検討した

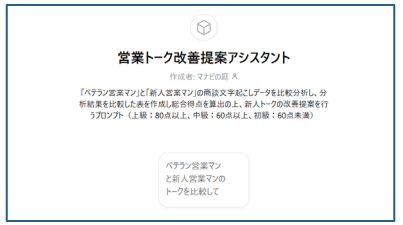
営業トークのロールプレイを行う教育用のGPTsの検討
新人営業の営業トークを訓練するためのGPTsの実装を検討した

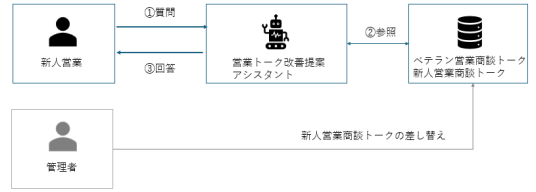
成果

営業商材提案アシスタントGPTを提供し、営業担当の商材提案力向上に寄与

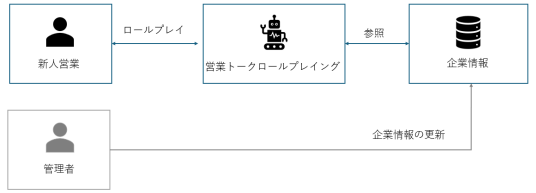


営業トーク改善提案アシスタントGPTを提供し、新人の営業トーク改善に寄与





営業トークロールプレイングGPTを提供し、営業トーク引き出し増加に寄与



株式会社ユニオンプレート (製造業) の取組み事例: AI-OCRを起点とした受注業務の検討

参加者

企業	社名	株式会社ユニオンプレート
	業種	製造業
	事業概要	金属プレート製造・販売 (受注生産、特殊注文書対応)
	所在地 (都道府県・市区町村)	長野県千曲市大字内川
参加した受講生の概要	チーム名	ちびまる Co-DX Lab
	チーム人数	5名
	スキル・PR	データ分析、コンサルティング、プログラミング、会計・バックオフィス
	進める中で工夫したこと	• 現場業務を深く理解することにより、信頼感の構築や実現可能性の高い施策立案を目指した • ミーティングの自動録画・文字起こしによる非同期な情報共有

実施概要

課題内容

- 受注、見積り依頼業務において1日あたり1,000枚以上の注文書をFAXで受け取っており、注文書の様式が非常に多様かつ特殊であるため、入力作業の負荷が大きい
- 既存のDX施策は多数導入されているが、注文書処理は依然として人手に依存していた
- AI-OCRを導入しても安定運用できるかの判断材料 (評価観点・測り方) が不足しており、意思決定が難しい状態だった。

実施した検討内容

- AI-OCRが適用出来る/出来ないを整理し、期待値のすり合わせを行った
- 現地訪問・ヒアリングにより、業務フローの実態とボトルネックを把握した
- OCR導入を前提とした事務業務DXロードマップの策定を目的に、現行業務フロー、注文書特性などを整理
- OCR適用可否の観点整理および段階的導入方針を検討した

検討の成果

- OCR導入に向け、現在の状況と必要条件を整理し可視化した
- 短期・中期のロードマップを整理し、PoC計画を作成した
- 予算承認の壁を越えるため、単なる効率化だけでなく「事業継続リスク (人手不足) 」の回避まで盛り込んだ計画書を作成した

株式会社ユニオンプレート (製造業) の取組み事例: AI-OCRを起点とした受注業務の検討

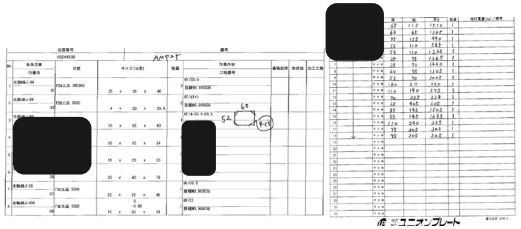
実施内容の詳細

注文書処理業務を整理し、導入方針、KPIの方向性など検討

【実施内容の詳細】

- 1,000枚以上発生する注文書処理業務を対象に現状業務を整理
- 注文書様式が多様・特殊である点を踏まえ、詳細な現状把握を行なった

図: 注文書例



- 注文書フォーマットの大部分は発注元によってもバラバラであり、また手書き文字や、欄外に記入されたコメントなどもあったためOCRの難易度は非常に高かった。そのため適切な期待値をもてるよう認識合わせを行なった
- PoC (小規模検証) を前提に、検証可能な実施計画を策定
- 処理時間だけでなく、エラー発生傾向 (品質) をKPIに設定。評価は「全体の認識率」ではなく「項目別×重要度 (重み付け) 」で実施する方針とした
- ROIは人件費削減だけでなく、人手不足リスクも含めて整理
- 現行フロー (手入力) とAI-OCRフローを並走させ、処理時間・修正負荷・品質を同一条件で比較できる設計とした

AI-OCRに加え、既存受注データの可視化・分析によるDX展開案を提示

成果

予算承認に向けたPoC計画書の策定

【成果】

現状と課題:
注文入力の人手不足対策としてAI-OCRが検討されていたが、製品選定や導入に迷う部分があった

知見の共有:
受講生チーム内のOCR導入経験者が知見を共有し、導入に関する認識合わせと現実的な到達目標の設定を行った

業務の形式知化:
実地調査と徹底したヒアリングにより、暗黙知となっていた業務フローを形式知化し、導入イメージを具体化した

PoC計画の策定:
本導入の前に導入効果を検証するため、小規模導入テスト (PoC) を提案した。予算承認に向けたPoC計画書 (原案) を作成し、導入判断に必要な論点と進め方を文書化した

株式会社アンサーノックス (人材派遣業) の取組み事例: SSW事業での営業活動のDX化

参加者

企業	社名	株式会社アンサーノックス
	業種	人材派遣業
	事業概要	外国人就労支援、家事代行、保育園運営
	所在地 (都道府県・市区町村)	山梨県甲府市
参加した受講生の概要	チーム名	XnumX
	チーム人数	3人
	スキル・PR	アプリ開発、データサイエンス、PM経験などバランス型の支援チーム
	進める中で工夫したこと	MTG、複数回の現地訪問、社員アンケートによる現状の把握および実現可能性の検討

実施概要

課題内容

外国人・顧客との信頼関係重視による、積極的な営業活動の形式化・可視化不足

- **営業戦略の未整理:** 案件別の慎重な営業活動に起因する、全体方針の未整理・未言語化
- **営業プロセスの属人化:** 信頼関係を重視した営業チャネルにおける、判断基準・背景の属人化
- **営業体制の不明確:** 少人数体制による役割分担・管理体制の不明確

DXの目的

営業活動の一律な効率化や拡大ではなく、外国人本人および受け入れ企業との信頼関係を損なわずに、これまでの慎重な判断やプロセスを適切に引き継げる状態をつくることにある

実施した検討内容

- **持続可能性を重視したロードマップの作成:**
  アンサーノックスが大切にしてきた価値観を守り、持続可能な全社DXロードマップを策定した
- **背景・意図の可視化と標準化の整理:**
  属人判断の背景を可視化し、DXにより継承可能な標準化を実現する計画資料を作成した
- **タスクリストの作成:**
  計画資料に基づき、現場が混乱なく移行できる具体的なタスクを整理計画資料を基にしたタスクリストの作成した

検討の成果・工夫

- **綿密な現状把握:** MTG、現地訪問、社員アンケートを通じ、単なる数値管理ではなく、現場での「判断の重み」を理解した上での実現可能性を検討した
- **価値観を反映したシステム:** アンサーノックスの価値観である「人中心」のビジネスモデルに適合させるように知見を形式化、生成AIやスクレイピングを活用した営業リスト作成の検討や業務プロセスの可視化システムを作成した

株式会社都築産業 (産業機械製造業) の取組み事例: 現場業務課題への対応を起点とした、"自走型DX企業" への変革基礎形成

参加者

企業	社名	株式会社　都築産業
	業種	産業機械製造業
	事業概要	マテハン機器や搬送機系 (FA機器) 等の生産設備製作
	所在地 (都道府県・市区町村)	岐阜県羽島市舟橋町
参加した受講生の概要	チーム名	GIFUSION
	チーム人数	5名
	スキル・PR	PBL優秀成績＆企業協働経験豊富なメンバーが、ビジネス・IT・データの総合力を結集
	進める中で工夫したこと	"DXの自走化" を上位テーマに掲げ、企業様に寄り添いながら一体感を持って伴走・推進

実施概要

課題内容

アナログ業務に対するデジタル活用の促進・意識醸成 (①を優先、②・③も並行実施)

① 資材調達業務における属人化ナレッジを分析・整理し、脱属人化の原型を構築する
② 機械設計業務で発生した過去の不具合情報を活用し、設計品質向上の道筋を作る
③ 生成AIの本格導入に向けてAI活用方針を整理し、社員の意識醸成を図る

実施した検討内容

将来的な "DXの自走化" を共通の上位テーマに掲げ、各課題の深掘り検討を実施

① 業務フローおよびブラックボックス化していた既存コードの解析・可視化により、見積先選定、図面形状・加工判断、定型作業を含む業務全体の自動化・効率化を検討
② 過去の設計不具合情報を有効活用した施策を検討のうえ、優先順位を整理
③ 生成AIの業務適用・定着に向けた道筋を整理し、直近の活動内容を具体化

検討の成果

企業側と受講生側が一体となって成果物を共同作成し、自走化に向けた目標を達成

① 既存コード活用による業務自動化および見積先選定の効率化を実現のうえ、併せてAI-OCRを用いた図面形状・加工判断PoCで自動判定精度89%を検証
② 生成AIとBIツールを用いてナレッジベースとダッシュボードのプロトタイプを実装
③ 社内のAI利用ルール検討、および現場社員を対象にした「AIお試し会」の企画を準備

株式会社都築産業 (産業機械製造業) の取組み事例: 現場業務課題への対応を起点とした、"自走型DX企業" への変革基礎形成

実施内容の詳細

地域企業協働活動の**基本方針**

最初の座談会で企業様の意向を確認し、以下の方針で活動

- 最終的には、“**社員のみで自走**していける状態“を目指す
- 企業側のメンバーが受講生と**一緒に手を動かしてスキル習得**を図る
- 課題①への取り組みを優先し、状況見合いで課題②・③にも取組む

課題取組みの**アプローチ**

現状把握・分析	課題整理・対策検討	計画・実施
• [課題①] **徹底的に業務把握・分析**を行い、後続工程の精度を向上 • [共通] QAを通して効率良く確認を行い、**関係部署キーマン**にも参加を要請して更に理解度を向上	• [課題①] **属人化ナレッジ**の対象選定と自動化を検討 • [課題②] 複雑な**課題の構図**整理と打ち手の優先度決めを協議 • [課題③] 社内意識醸成に向けた対応STEPを検討	• [課題①] 前半に全員で協議した施策内容を**WBS化**し、Aチームが実施 • [課題②・③] 中盤からBチーム中心に**スコープと計画**を定義し、後続作業を実施

コミュニケーション・推進体制

- 毎週1.5時間×11回の定例ミーティング(+個別で臨時3回)を開催
- QA管理表にて、現行業務と課題認識を**高頻度・高レスポンス**で確認
- 全員参加の**企業訪問**(半日打合せ＋懇親会)を開催して関係者全員の共通理解を深め、一体感を醸成
- 課題①の目途が立った中盤から、**2つのサブチーム体制**へシフト
- Aチームが課題①、Bチームが②と③、統括チームが全体管理を担当
- 今後の**自走化**を見据えて**企業メンバーから両チームのリーダーを擁立**し、受講生側がリーダーを支える形で後半戦を推進

成果

課題①: 資材調達業務における**属人化ナレッジを分析・整理し、脱属人化**の原型を構築

脱属人化

- 資材調達作業の動画撮影による業務の可視化
- ブラックボックスマクロの解析、および業務処理構造の可視化
- 既存コードを活かした定型作業自動化および見積先選定の新規マクロによる効率化実現

PoC

- 図面からの形状・加工判断に関する暗黙知をルール化し、AI-OCRによる自動判定の実現検証 (精度89%)

課題②: 生成AIとBIツールを用いて、設計不具合**ナレッジベース**と**ダッシュボード**のプロトタイプを実装

ナレッジベース

- 不具合情報活用に向けた課題と施策案を整理
- 生成AIを活用したナレッジ基盤ツールを提案
- 配信およびポップアップシステムを構築し、運用ガイドを提供

ダッシュボード

- 提供の生データを用いてPower BIにより可視化
- 最終的な運用イメージとして、今後の推奨事項とともに提供

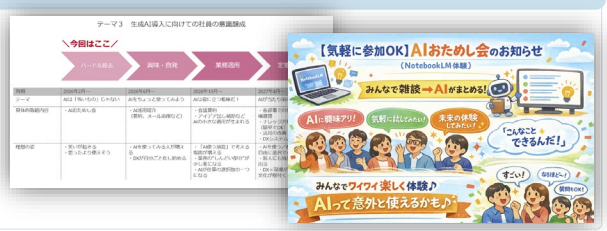
課題③: 生成AI本格導入に向けて、利用ルール検討と**社内意識醸成**の「**AIお試し会**」企画を準備

生成AI活用・導入支援

- 定例ミーティングにて生成AIのレクチャー実施
- 活用とガバナンスを両立するガイドライン作成支援

生成AIをお試し会の企画

- 社内向けお試し会の立上げ支援



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

東濃コアー株式会社 (紙製品製造業) の取組み事例: データに基づく「適正在庫」の可視化と、現場主導の生産管理モデルの構築

参加者

企業	社名	東濃コアー株式会社
	業種	紙製品製造業 (段ボール製構造用中芯材・包装用緩衝材等)
	事業概要	「強さ・軽さ・自由」を特徴とするハニカム構造製品等の製造・販売。多品種少量の受注生産に対応
	所在地 (都道府県・市区町村)	岐阜県恵那市武並町
参加した受講生の概要	チーム名	Project BALANCE CORE
	チーム人数	4名
	スキル・PR	データエンジニア、事業開発担当、営業、総務系の多様なバックグラウンドを持つメンバー構成。データ分析スキルと、現場の意向を汲み取る傾聴力を活かした提案を実施
	進める中で工夫したこと	現場の「肌感覚」と「データ」の乖離を埋めるボトムアップ型のアプローチ

実施概要

課題内容

最適な製品・原材料 (原反) 在庫量の不明確さ

- 第6工場 (入口) の生産計画と第3工場 (出口) の消費の連携が取れておらず、適正な在庫量が把握できていない

在庫によるスペースの圧迫

- 「欠品への不安」から過剰に在庫を持つ傾向があり、工場内で作業スペースまで在庫が塞ぐ状態

実施した検討内容

生産・消費データの統計分析

- 第6工場の生産実績と第3工場の使用量を紐付け、標準原反を中心に在庫推移をシミュレーション「MinMax管理」の導入検討
- 統計的手法 (95パーセンタイル) を用い、欠品リスクを抑えつつ在庫を最小化する基準値を算出

現場実態の調査

- データ上の計算と実在庫 (18mm原反など) の乖離調査、および不動在庫の特定

検討の成果

適正在庫基準 (MinMax) の策定と意識変革

- 「95%の確率で欠品しない」在庫量を数値化し、従来の「肌感覚」運用からの脱却を提案

具体的在庫削減の可能性を提示

- 18mm原反等の過剰在庫 (約1ヶ月分滞留) を可視化。確認頻度を上げることでさらに在庫圧縮が可能であることを提示
- 現場が納得して実行できるデータ活用 (データの作り方・考え方) の土台を構築

東濃コアー株式会社 (紙製品製造業) の取組み事例: データに基づく「適正在庫」の可視化と、現場主導の生産管理モデルの構築

実施内容の詳細

適正在庫の算出と生産と消費のバランス分析

統計的アプローチによる適正在庫の算出 (95パーセンタイル法)

- 過去2年間のデータから、生産頻度が週1回以上の製品を対象に分析を実施
- 100回中95回は在庫が足りるラインを「在庫基準」として設定し、最小 (Min) ~最大 (Max) の在庫を持つ管理手法をシミュレーションし、在庫確認サイクルを「1週間」から「3日」に短縮することで、必要在庫量をさらに圧縮できることを検証

「原反」生産と消費のバランス分析

- 第6工場 (生産) での「まとめ作り (大ロット生産) 」が在庫の山を作っている現状に対し、第3工場 (消費) に合わせた「少量多頻度生産」へのシフトを提案
- 特に在庫過多が懸念される「18mm原反」について、実在庫と理論値の比較を行い、現場の入力漏れやロス率の考慮が必要であることを特定した

成果

単なる在庫削減でなく「空間創出」や「安全性」という価値、そして将来のシステム化への道筋

「経験と勘」から「データ裏付け」への判断基準の転換

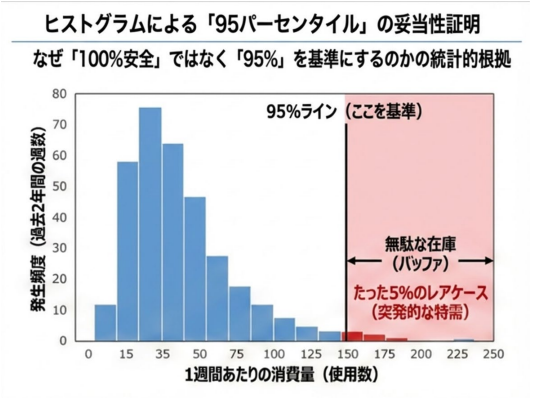
- これまで「不安だから持っていた」在庫に対し、統計的な安全在庫数を示したことで、経営層・現場 双方に「数値に基づいて判断する」という新しい気づきを提供できた
- 18mm原反において、約1ヶ月分 (約1,900枚) の在庫が滞留している事実を突き止め、具体的な削減ターゲットを明確にした

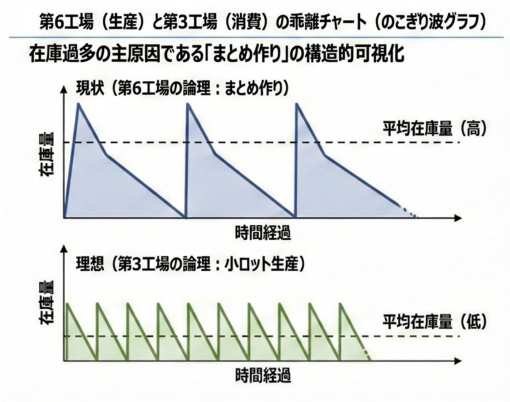
現場主導 (ボトムアップ) での改善文化への寄与

- トップダウンでの指示ではなく、現場リーダーへの「プラスの言葉がけ」や、現場の実感値とデータのすり合わせを重視したことで、自律的な改善活動の土壌を作った
- 今後の自社運用に向け、東濃コアー様より「データの作り方や考え方」の習得要望をいただく等、継続的なDX推進への意欲を喚起した

「段階的導入ロードマップ」の策定 (第1～第4段階)

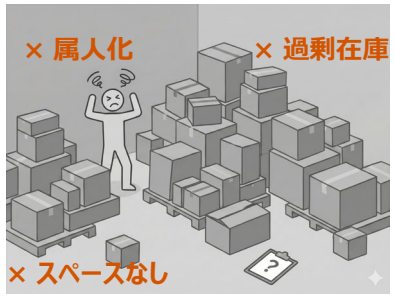
- いきなり全適用するのではなく、「見える化・整頓 (第1段階)」から始め、「18mmでの試行 (第2段階)」を経て、「全サイズ展開・システム化 (第3-4段階)」へと進む着実なステップを設計





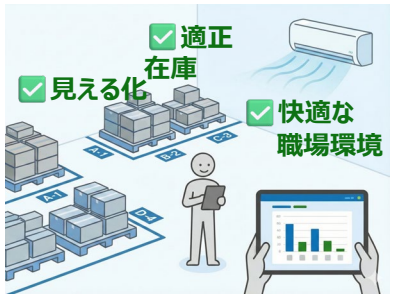
現場の見える化からスタートして、成功体験へ

BEFORE (現状)



× データと実態の乖離

AFTER (未来)



✅データドリブンな運用

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社スギヨ (食品製造業) の取組み事例: 海外事業部の業務効率化を目指したデジタル化推進ロードマップの検討

参加者

企業	社名	株式会社スギヨ
	業種	食品製造業
	事業概要	水産練製品・加工品製造販売 等
	所在地 (都道府県・市区町村)	石川県七尾市
参加した受講生の概要	チーム名	NOTO☆STARS
	チーム人数	4人
	スキル・PR	エンジニア、食品販促、事業企画/開発、社内DX推進といった個性あふれるメンバーが集結!
	進める中で工夫したこと	専門性の高い調査業務を支援するアプリケーションを開発、業務設計ワークショップを実施

実施概要

課題内容

業務効率化を目指したデジタル化推進ロードマップ検討

- 輸出に関するラベル・書類作成業務を効率化する
- 業務の属人化を解消する
- DXによる効率化で営業に注力する (営業力を高める)

実施した検討内容

最優先実務課題の効率化検討/DX計画策定のためのヒアリング

- 専門性が高く属人化している輸出規制の調査業務を詳細ヒアリングにて深掘り
- 顧客管理 (CRM)・営業支援 (SFA) などの役割を説明しながら方向性を議論
- DX投資を検討するためのポジショニングマップや評価軸などワークフレームをご紹介

検討の成果

輸出規制調査の業務支援アプリケーション開発/業務改善実行計画の作成

- 生成AIを活用し専門性の高い調査業務の負荷を軽減するアプリケーションを開発
- 業務プロセスの整理および可視化、併せて業務設計のためのワークショップを実施
- ワークショップから得られた情報をもとに、業務改善のための実行計画案を提供

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社スギヨ (食品製造業) の取組み事例: 海外事業部の業務効率化を目指したデジタル化推進ロードマップの検討

実施内容の詳細

業務支援アプリケーションの開発／業務プロセスの可視化

輸出規制調査の業務支援アプリケーションを開発

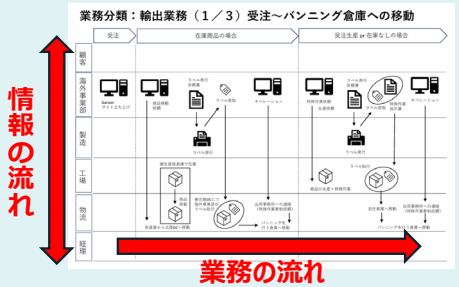
①生成AIを活用することで、専門性の高い業務を部分的に自動化

②デジタル活用による業務効率化の可能性を検証することができた

輸出業務プロセスの可視化

①企業側から提供された業務フロー図を読み取り、二次元の図表でわかりやすく表現

②業務設計のためのワークショップにて本資料を用いることによりヒアリング精度が向上

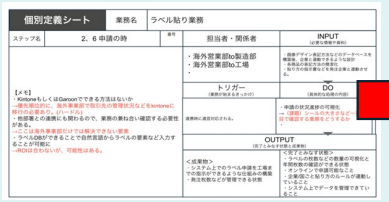


成果

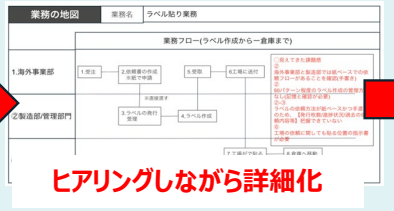
ワークショップから得られた情報をもとに、業務改善のための実行計画を作成

現場担当者とのワークショップを開催し、業務設計のインプット情報を収集

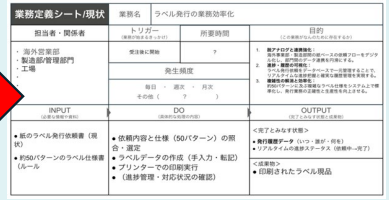
個別定義シート



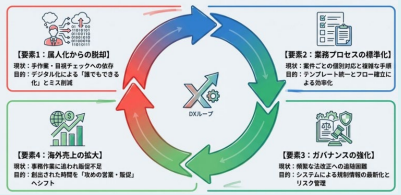
業務の地図

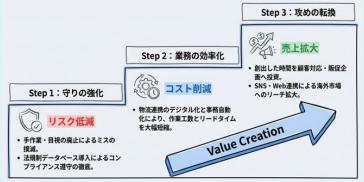


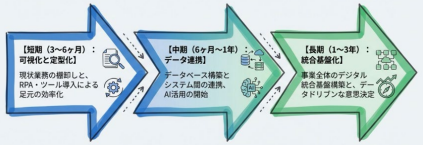
業務定義シート/現状



業務改善のための実行計画（案）を作成して提供







実行可否の判断、およびスケジュール作成は企業側に引継ぎを行った

有限会社モメンタムファクトリー・Orii (製造業 (銅器着色)) の取組み事例: 社内手続業務の効率化を目指したDX推進ロードマップの検討

参加者

企業	社名	有限会社モメンタム ファクトリー・Orii
	業種	製造業
	事業概要	美術銅器着色/メンテナンス 金属部材・インテリア建材・ エクステリア建材の着色・企画販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	富山県高岡市
参加した受講生の概要	チーム名	海王丸
	チーム人数	5人
	スキル・PR	課題整理/フロー可視化/ データ連携/データ集計
	進める中で工夫したこと	役割分担 認識の齟齬をなくしつつ進行

実施概要

課題内容

業務のDX化

- 業務の棚卸しができていない
- 転記作業の煩雑化
- 上記背景から、業務が特定の方に集中していて属人的

実施した検討内容

- 業務の棚卸し・業務フローの作成
- データ連携の可視化・整理
- 転記作業発生の原因探索

検討の成果

転記作業が煩雑化する原因の特定と解決の提案

- 参照するデータの統一
- Power Queryを使った転記の自動化
- 業務の属人性を軽減

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

有限会社モメンタムファクトリー・Orii (製造業 (銅器着色)) の取組み事例: 社内手続業務の効率化を目指したDX推進ロードマップの検討

実施内容の詳細

業務フローの作成と転記作業発生の原因探索

業務フローの作成
企業ご担当者様へ、業務内容に関するヒアリングシートに回答頂くことで特に業務負荷が高い箇所を特定。
その後、Miroを使い業務フローを作成し、ヒアリングシートで拾い切れていなかった業務や業務間の繋がりを可視化し、業務の解像度をより具体化。

転記作業発生の原因探索
業務フロー内で利用するデータについての役割、データの形式、保管場所についてヒアリングの上、データ間の連携を整理。

その結果、データの参照元が統一されておらず「 (手入力も含めた) 転記作業」が複数発生していることが判明。

成果

データの参照元を1つに統一し、自動転記を提案

データ参照元の統一と整備
自動転記に向けて、転記先に必要となるタグを入力データにも反映。
業務の初期段階で入力するデータをその後の業務でも活用することを提案。

また、製品の規格と価格をマスタデータとして整備し、入力の負荷を抑制することも併せて提案。

自動転記の実現
Power Queryを用いて、各業務で利用するデータを自動で作成し、
転記に要する工数の削減を提案した。
サンプルデータを作成し、入力からデータの作成までのデモを実演。

提案により期待できる効果
・転記に要する工数削減
・転記および手入力による入力ミスの低減
・業務に携わる従業員の負荷軽減及び属人化からの脱却

株式会社平成フード (製造業 (ペットフード製造)) の取組み事例: 生産基盤システムの運用方法の見直しによる生産管理機能の強化に挑戦

参加者

企業	社名	株式会社平成フード
	業種	製造業 (ペットフード)
	事業概要	ペットフードの製造
	所在地 (都道府県・市区町村)	富山県富山市
参加した受講生の概要	チーム名	平成ペットスマイル支援隊
	チーム人数	4名
	スキル・PR	コンサルティング 製造プロセス、生産管理 RPA、会計
	進める中で工夫したこと	週次の定例ミーティングの時間を大切にレスポンス良く対応することと、事業内容の把握に努めました

実施概要

課題内容

生産基盤システムの有効活用

- 3年前から運用を始めた「生産基盤システム」の前工程 (フード生産工程) の活用可能性を検討したい

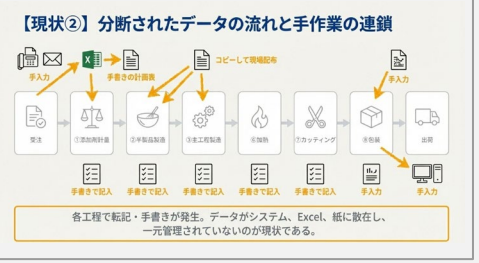
実施した検討内容

1.前工程内の情報取得・伝達方法の調査を実施

- 生産基盤システムの導入目的などをヒアリング

2.前工程における「DX化」の絵姿を検討

- システムがあっても計画・実績両データが入力されない原因は何かを調査



検討の成果

1.工程内 (特に上工程) の "情報伝達" の仕組み化

- 工程内の情報伝達のエラー率改善方法を提案する-> 作業手順書、工程加工物へのラベルなど提案

2.DX推進計画策定の前準備

- 生産に関係する情報をデジタルで取得する仕組みを考案

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

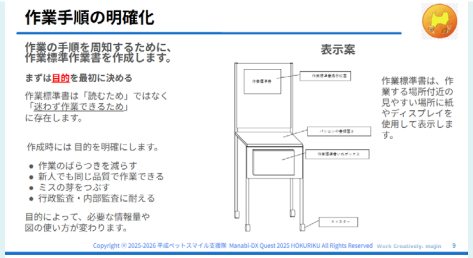
株式会社平成フード (製造業 (ペットフード製造)) の取組み事例: 生産基盤システムの運用方法の見直しによる生産管理機能の強化に挑戦

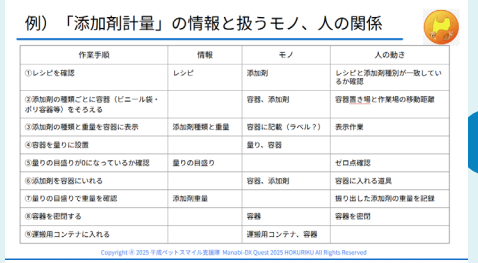
実施内容の詳細

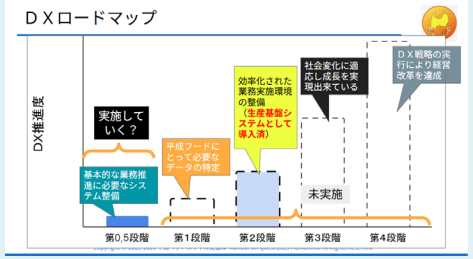
1. 前工程内の情報伝達改善方法を提案
2. DX推進計画策定の前準備

＜1に関して＞
- 作業工程内の人・モノの流れに加え、作業情報や作業時間の計測などの仕組みづくりが必要
- 作業工程内に流れる製作物に付帯する情報を取り違えないような仕組みを考案して提案

＜2に関して＞
- DXロードマップの提案
  - 平成フード様にとって必要なデータの定義と取得可能性について調査
  - 取り急ぎ「歩留まり率」と「作業効率」の改善に向けて指標データの継続的な記録が可能な体制を構築





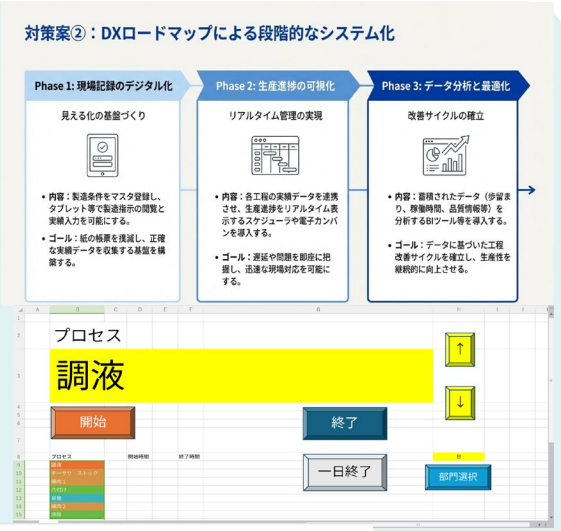


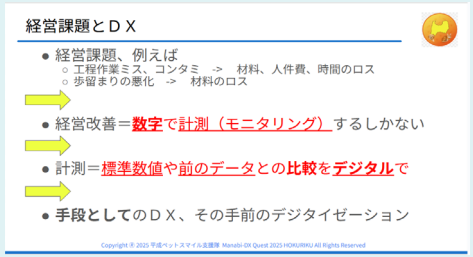
成果

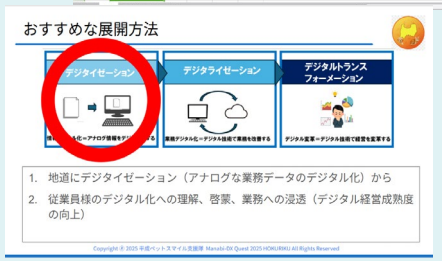
DX化を目指した「生産基盤システム」活用の前に、
データ駆動型経営推進への移行プロセスに着手することをご提案

- 作業手順を教えていただき、Excelにて計時システムを制作
- -> 蓄積した計時データを使用して、特に急なオーダーが入ったときのオーダー処理順の前後が全体工程に大きく影響しないような処理の仕方が出来ないか引き続き検討いただくこととした

- DXロードマップの確認、および始め方の手順としてデジタイゼーション (業務のIT化) を進めていただくこととした







日本海給食株式会社 (食品製造業、サービス業) の取組み事例: 受注から納品までのリードタイムを短縮するための業務フローの見直し

参加者

企業	社名	日本海給食株式会社
	業種	食品製造業、サービス業
	事業概要	受託集団給食 (コントラクト・フード・サービス)
	所在地 (都道府県・市区町村)	富山県富山市
参加した受講生の概要	チーム名	結人-Musubito-
	チーム人数	5名
	スキル・PR	現場業務を起点とした業務フロー整理と、段階的DX検討が強み
	進める中で工夫したこと	現場の納得感を重視し、無理のない改善案を段階的に検討

実施概要

課題内容

受注から納品までのリードタイム (8日) が長く、柔軟な対応が困難

- 転記・二重入力・シール準備など人手作業が多く、事務工程がリードタイム長期化の要因となっている
- 基幹システムの機能が十分に活用されておらず、業務効率化につながっていない

実施した検討内容

業務フローの可視化とデジタル化余地の整理を実施

- 受注～製造着手～納品までの業務を工程単位で整理し、ボトルネックとなる人手作業を特定
- Excel・紙・シール運用からの段階的なデジタル化の可能性を検討

検討の成果

リードタイム短縮に向けた現実的な方向性を整理

- リードタイム8日の主因が製造工程ではなく事務・準備工程にあることを構造的に整理できた
- 業務フロー見直しにより、受注締切を6日前に短縮できる可能性を確認

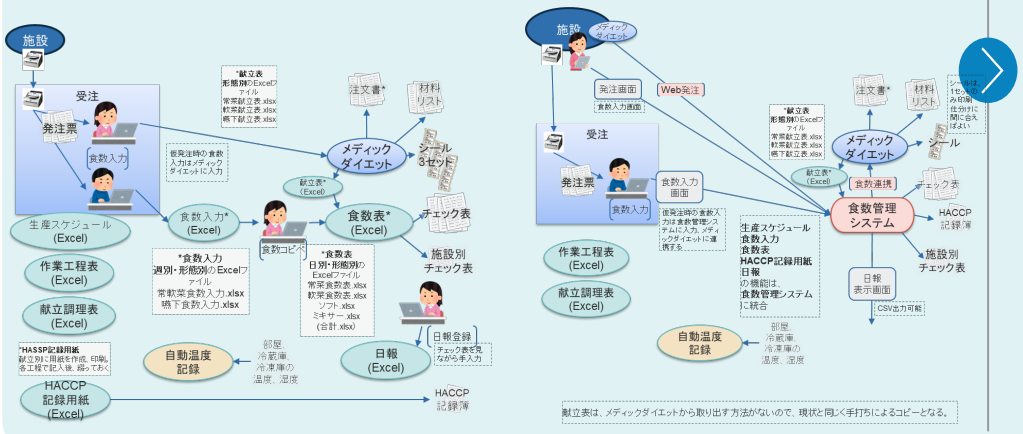
Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

日本海給食株式会社 (食品製造業、サービス業) の取組み事例: 受注から納品までのリードタイムを短縮するための業務フローの見直し

実施内容の詳細

業務フローの可視化とデジタル化余地の整理

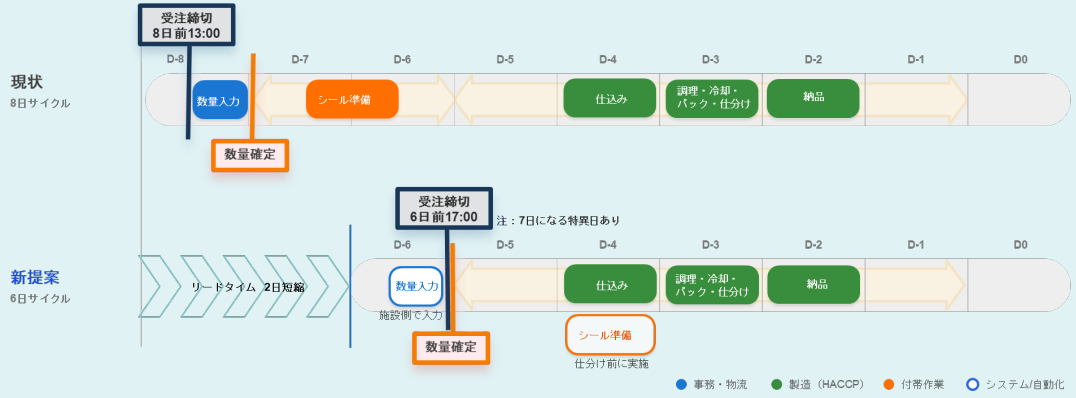
- 受注～製造着手～納品までの業務を工程単位で整理し、ボトルネックとなる人手作業を特定
  - メディックダイエット⇔Excel間の二重入力による非効率性の可視化
  - シール準備作業 (パック数/端数書き込み) の整理
- Excel・紙・シール運用からの段階的なデジタル化の可能性を検討
  - 複数Excelファイルの統合によるシステム化
  - 食数管理システムとメディックダイエットの連携構想



成果

リードタイム短縮に向けた現実的な方向性を整理

- リードタイム8日の主因が製造工程ではなく、事務・準備工程性 (受注確定～シール準備) にあることを構造的に整理できた
- 業務フロー見直しにより、受注締切を1日前倒しできる可能性を検証
  - 目標: 8日→6日への短縮
- 3段階アプローチの具体化
  - Phase 1：シール管理の廃止によるシール削減と準備作業の短縮 (準備時間50%削減)
  - Phase 2：Excelファイルのシステム化と施設からの直接入力の実施: 締め切り時間の繰り下げ
  - Phase 3 (長期)：調理のノウハウ蓄積と人材育成



神楽電力株式会社 (電力・エネルギー関連事業) の取組み事例: 浜田市を中心とした石見地区の地域DX推進

参加者

企業	社名	神楽電力株式会社
	業種	電力・エネルギー関連事業
	事業概要	再生可能エネルギーの発電・電力小売を行う地域密着型エネルギー企業
	所在地 (都道府県・市区町村)	島根県浜田市黒川町
参加した受講生の概要	チーム名	IWAMI再創ネット
	チーム人数	5名
	スキル・PR	一般企業、自治体に勤め、プロジェクトのマネージメント、企業支援、ICT教育支援に経験豊富なメンバーが参画し実現性を意識した提案を実施
	進める中で工夫したこと	定期ミーティング開催し、問題点の共有、提案の内容・方向性の検討確認を随時行った

実施概要

課題内容

1. 浜田市の抱える課題の洗い出しと地域DXによる解決策の提案
2. 地域DX推進ラボ実施計画書の作成支援

特記事項
神楽電力を中核企業とする地域の一般社団法人である、石見地域循環共生協議会の支援

実施した検討内容

1. に対して
各メンバーが浜田市のオープンデータ等を調査し、課題の抽出とDXによる解決策の検討を実施
2. に対して
提示された計画書に対して、内容の精査を実施

検討の成果

1. に対して
地域推進DX案件 (計24件) を作成 (内訳: DX関係で12件/産業GX関係で4件/教育DX・GX案件で8件)
2. に対して
提示された計画書に対して修正・追加案を提示

株式会社 八天堂ファーム (農業) の取組み事例: AIを活用した農福事業の礎となるデータの整備と記録の自動化

参加者

企業	社名	株式会社　八天堂ファーム
	業種	農業法人
	事業概要	農福連携による農作物生産、加工販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	広島県三原市宮浦
参加した受講生の概要	チーム名	HATTENDO_DX
	チーム人数	5名
	スキル・PR	様々な背景のメンバーで構成。IT知識だけではなく会計の知識を有するメンバーもおり、八天堂ファーム様を支えます!
	進める中で工夫したこと	八天堂ファーム様がわかりやすい表現やつまづいていることがないのか、定例会議だけではなくSlackでもフォローし、伴走できるようすすめていきました

実施概要

課題内容

- 加工品の在庫管理
- ノウフクJASの記録管理
- ブドウの出荷管理

👉当初は加工品の在庫管理について取り扱うことを予定していましたが、業務フローが複雑であり、ブドウ出荷管理についてはシーズンオフの為「ノウフクJASの記録管理」に決定

実施した検討内容

- ノウフクJASの煩雑な記録作成フローを整理し、ボトルネックを特定
- メール添付のExcelから提出書類への転記作業をツールによって自動化
- PJ終了後も『自走』出来るよう、マニュアル整備などで持続可能な運用体制の構築
- 将来のシステム化を見据え、表記ゆれのあるマスタデータの再定義と正規化
- 「ひろしまAIサンドボックス」への農園内完全自動化構想の申請案

検討の成果

- Power Queryによる転記ツールの作成 → ボタン1つに工数削減、転記ミスの解消
- マスターデータ整備の標準化 → 表記揺れのないデータ蓄積の体制構築
- ひろしまAIサンドボックス申請に「農園どこでもドア」の提案 → 実際にご申請いただく
- 事業規模に応じた3段階のDXロードマップの作製 → 無駄のない経営判断の支援

株式会社 八天堂ファーム (農業) の取組み事例: AIを活用した農福事業の礎となるデータの整備と記録の自動化

実施内容の詳細

ノウフクJASの記録管理に向けたデータ集計環境の整備

- 現状の整理と課題の共有
  - 現場担当者や外部委託先から届く複数のExcelファイルに**情報が散在**している。
  - データの確認や修正に手間がかかっており、**担当者の心理的・時間的な負担が大きく**なっている。
- 運用ルールの整備
  - 長期的な運用を見据え表記ゆれの統一など**データの入力形式を整備**した。
- Power Queryによる転記作業の自動化
  - 各ファイルに**散在していたデータを1つのファイルに集積**する仕組みを構築した。
  - さまざまな様式のファイルを**ボタン一つで統合**できるようになった。
- マスタデータ整備マニュアルの作成
  - 八天堂ファーム様とQ&Aを行い、『八天堂ファーム マスター整備マニュアル』を作成し、その過程で、マスター整備を進めることが可能となった (図1) 。

図1. マスター整備マニュアル

成果

データ転記の自動化とマスタデータ整備マニュアルの作成

- データ集計・確認作業の効率化見込み
  - 従来、散在する大量のファイルを個別に見ながら行っていた**データ抽出・統合作業が、ツールによる一括読み込みで迅速に完了**するようになった。
  - 月々の集計作業の精度が向上することで、年度末の報告書類作成に向けた再確認や遡及作業の**リードタイムも大幅な短縮が期待**される。
  - 実際に現場担当者からは、「本格稼働前ではあるものの、肌感覚として**3割以上の工数削減**が見込まれる」との高い評価をいただいた。
- データの正確性と透明性の向上
  - 手作業での転記プロセスを自動化したことで、入力ミスや計算ミスによる数字の不整合が軽減され、**蓄積されるデータの信頼性が向上**した。
- 現場担当者との連携と今後の展望
  - ツール稼働後は「複雑なExcel転記 (バケツリレー) が不要になり、**作業の苦痛**などの心理的ハードル**が解消した**。ミスや漏れの**確認も容易になった**」との具体的な導入効果のコメントが寄せられている。
  - 加工や再調査の必要がない「綺麗なデータ」が自動的に蓄積されることで、将来的にさらなる高度な分析や、経営判断の迅速化に繋げていくことができるようになった。
  - マスタデータ整備マニュアルにより、将来的に現場主導でデータを維持・管理できる『持続可能な運用体制』の礎を築いた

岡山技研工業 (製造業) の取組み事例: 製造工程における工程データ収集のデジタル化・見える化

参加者

企業	社名	岡山技研工業株式会社
	業種	製造業
	事業概要	鍛造品製造、鍛造金型製造 機械加工
	所在地 (都道府県・ 市区町村)	岡山県和気郡和気町
参加した 受講生 の概要	チーム名	TEAM IGNITE
	チーム人数	4名
	スキル・PR	製造業の知見を持つメンバー 自社のペーパーレス化、 デジタル化の経験のある メンバーなど幅広い経験・知見 を持つメンバーがいる点
	進める中で 工夫したこと	動くもの、イメージできるものを できるだけ提示することで、わか りやすく説明することを心がけた

実施概要

課題内容

以下の課題を提示いただいた。
①品質マニュアルの周知、社員教育 (改善、品質の意識付け)
②製造(鍛造業務、機械加工業務)に関わるデータ(稼働中、停止中、ワーク交換中など)
収集の手段や方法
③業務内のペーパーレス化

実施した検討内容

ヒアリングにより課題の裏にある「こうありたい」姿をイメージしていただいた。
- 従業員が「自主的に」業務改善出来る (社是である「磨く」につながる)

難易度などメリット、デメリットを説明しながら現実的な「解決策」を考えていった。
- IoT機器を用いた解決策では難易度が高く効果が早く得れないので作業者の方の負担は
- 残ってしまうが簡単に作れるFormsでの作業時間の報告を提案させていただいた。

検討の成果

Formsの入力方法や可視化について検討
- 現行の手書き日報を元にFormsのデータ入力について検討、実際のFormsの案を提案
- 過去に手書き日報からまとめたExcelデータを元にPower BIのダッシュボードを作成
他データとあわせることでの「拡張性」についても話ができた。
- Forms-Power Query-Power BI/Access でのデータパイプライン案を提案

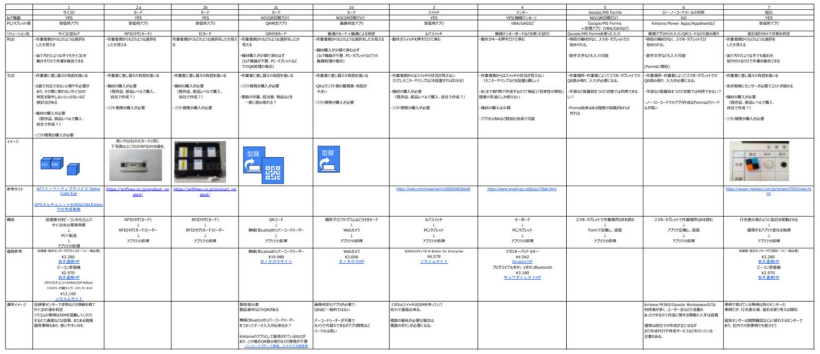
岡山技研工業 (製造業) の取組み事例: 製造工程における工程データ収集のデジタル化・見える化

実施内容の詳細

課題の整理

- 課題についてヒアリングにより
  最初のステップとして適切なステップを検討

企業側でイメージされていたIoTツールの利用を含め
複数案をリストで比較、メリット・デメリットの比較
を行った。
また簡易に作成したFormsなどのデータを提示、
参考としていただいた。



- またDXを進めた先の「こうありたい」姿に関して考えていただくことで、
  課題・解決先にとらわれないゴールを意識して頂いた。

成果

工程データ収集の適切なステップを提案

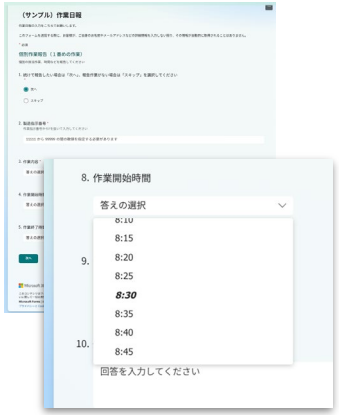
- ヒアリングの結果、適切なステップとして作成用意なMicrosoft Formsを用いた
  作業工程および作業開始、終了時間の報告を現行の手書き日報に替えることを提案

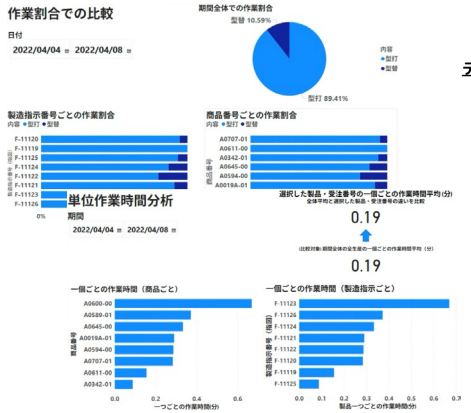
DXを進めた先にある「ゴール」を定義、ロードマップを作成

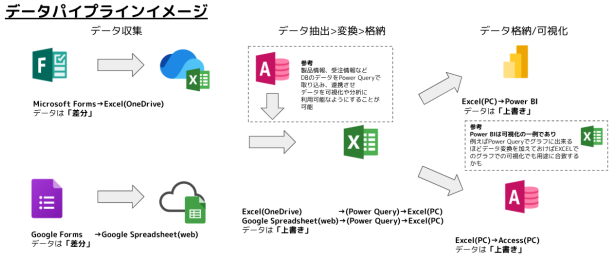
- ヒアリングにより、DXを進めた先の「こうありたい」姿を定義
  ＞従業員が「自主的に」業務改善出来る (社是である「磨く」につながる)
- 定義したゴール、現状、対応先などをロードマップとしてまとめた。

対策案の検討・試行

- 現行の手書き日報を元にFormsのデータを作成 (左図)
- 過去に企業側で試しにまとめられた日報データを元にBIダッシュボードを作成 (中央図)
  データを元にした業務検討や他データを用いた分析の拡張性などを協議
- Forms-Power Query-Power BI/Access でのデータパイプライン案を提案 (右図)



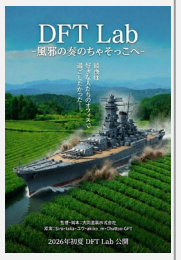




大同塗装株式会社 (製造業) の取組み事例: 船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化

参加者

企業	社名	大同塗装株式会社
	業種	製造業
	事業概要	造船関連工事 (塗装・鉄工・溶接・機装など)
	所在地 (都道府県・市区町村)	岡山県玉野市
参加した受講生の概要	チーム名	DFT Lab -風邪の奏のちゃそっこへ-
	チーム人数	5名
	スキル・PR	製造業およびAI、現場DXに知見のあるメンバーが参画し、課題解決に直結する提案を実施
	進める中で工夫したこと	経営課題から現場課題までを俯瞰し、ROIの観点から優先度が高いものから検討し、PoCを進めること



実施概要

課題内容

船舶塗装における塗装、検査工程の省人化、ベトナムブリッジ業務の効率化

- 塗装工程: 夏場の労働環境を改善、船舶への効率的な均一塗装を実現したい
- 検査工程: 機械化、自動化により将来的な人手不足を解消したい
- サプライヤー手配: エンジン製造需要の増加による部品手配業務を効率化したい

実施した検討内容

① ロボットやフィジカルAIによる自動化・省力化の国内外調査および導入検証
→ 船舶塗装等に関する国内外の事例調査、壁面走行ロボットの導入可能性の検証
② 塗装膜厚の非接触自動検査の検討および検証
→ 反射光スペクトル/サーモグラフィー等による非接触検査の調査、外部機関での実験
③ ベトナムブリッジ業務におけるシステムの効率化、造船業再生計画による需要予測
→ 新DB/LLM等の活用による手配業務の改善提案、政策に連動した事業内容の検討

検討の成果

チーム・企業による検討とシミュレーションおよび実験検証の結果は以下の通り

- 米Apellix、中国CSSC、韓国スマートドック、国内ナカタ・マック社等の先進事例把握
- 新の壁面走行ロボットの見学
- 非接触の膜厚測定の実験を通して、手法/問題点/進め方などの課題を把握
- 部品手配システム再構築、AIエージェントによる高度化を提案 (開発費 約9割減)
- 造船業再生計画需要と新規事業により2035年までに5倍超の売上増を見込む

※ 2026年1月時点で企業様からご提供頂いた情報を基に試験的に実施した内容となります。この時点での正確性や効果を保証するものではありません。松尾研LLM大規模言語モデル講座 (本文「松尾研LLM

大同塗装株式会社 (製造業) の取組み事例: 船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化

実施内容の詳細

① ロボットやフィジカルAIによる自動化・省力化の国内外調査および導入検証

■国内外の船舶関連ロボット等の調査を実施

- 夏場の労働環境の改善 → IoTデバイス、ロボット、グッズなどの調査
- 船舶への効率的な均一塗装 → 塗装ロボット、フィジカルAIを調査
- 圧膜検査の省人化/自動化 → 検査自動化の方法を検討

■収集した企業情報の傾向を分析

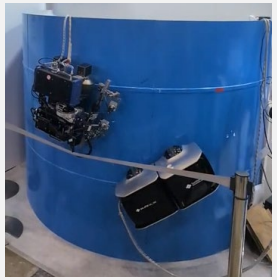
- 塗装が最激戦区 ― 中国5件、日本4件、韓国3件と競争激化
- 水中清掃は北欧・アジア ― ノルウェー、中国、韓国が強い
- 検査分野は「非造船大国からの参入」も存在 ― シンガポール、カナダ、NZなど1社ずつ

成果

米Apellix社、中国CSSC、韓国スマートドック、国内ナカタマック社などの先進事例把握 最新の壁面走行ロボットの見学

■労働安全衛生の向上

調査の過程で分かったロボットや、デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析デジタルデバイス・AIなどの最先端技術を活用することで、現場作業の省力化のみならず、労働安全衛生にも大きく寄与することがわかった。



■ 検査ロボットの見学

- 最新の壁面走行ロボットを見学
- 塗膜計測の自動化等に向けての可能性を確認
- 将来的な自立駆動に期待
- 取得した画像や膜厚検査等のデータをディープランニングに用いることで、将来的なAIロボット検査の高度化も期待できる

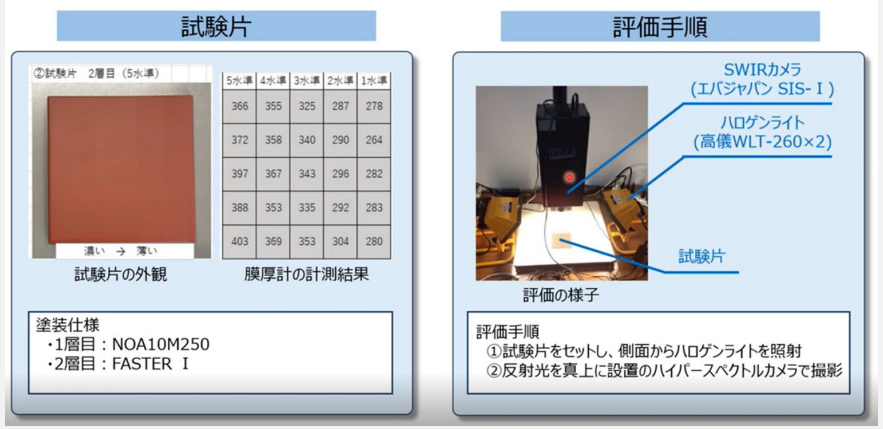
大同塗装株式会社 (製造業) の取組み事例: 船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化

実施内容の詳細

② 塗料の膜厚計測を自動化する方法を検討し、近赤外カメラを使った方法の実現可能性を実験で検証

- 船舶補修事業における船舶表面の塗装工程について、作業員の不足が見込まれており、デジタル化による必要人員の減少が将来的な課題となっている。
- 塗装工程には塗料の膜厚を検査する作業があるが、現在は作業員が全て手作業で検査している。
- 当該作業を対象に、下記案による省人化が可能かを検討した。

【検査方法】
- 塗装部分をハロゲンライトで照射、反射光を遠赤外カメラで撮影しスペクトル強度を解析することで表面の膜厚を計測する。



成果

2種類の試験片を用いた塗料表面の反射光スペクトルを分析し、現在の塗料厚さとスペクトル強度に相関は無く、自動化には別のアプローチが必要であることを明らかにした

- 大同塗装様作成のテストピース(2 種類)を熊本県の産総研に送付、実験を依頼した。実験の結果、今回用いた赤外光カメラでは膜厚の違いによる反射光のスペクトル強度の違いは確認できず、両者に相関関係がないことが判明した。

- 今回実施した赤外光カメラによる計測方法では、現状の塗装膜厚を計測することは難しい。
一方でライトの照射により塗装表面が温められ、膜厚が変わることで表面の冷却速度に違いが出ると予想される。

- 今後の代案として、サーモグラフィーにより塗料表面の熱が冷却する速さを計測し、膜厚を測る方法を提案した。

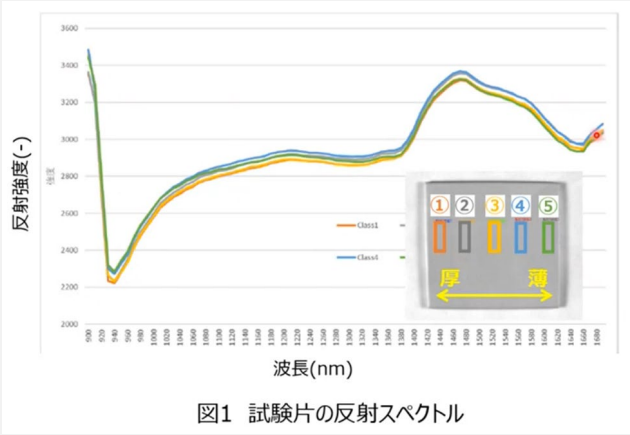
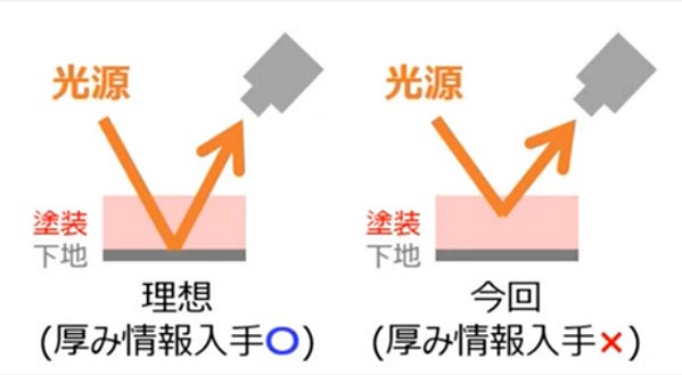


図1　試験片の反射スペクトル

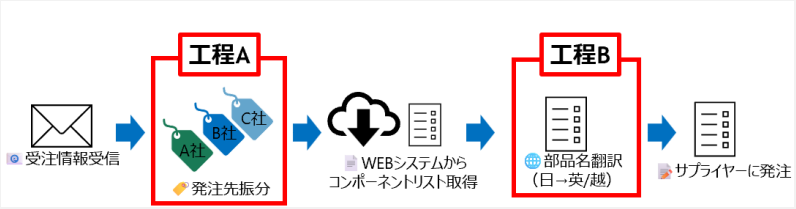


大同塗装株式会社 (製造業) の取組み事例: 船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化

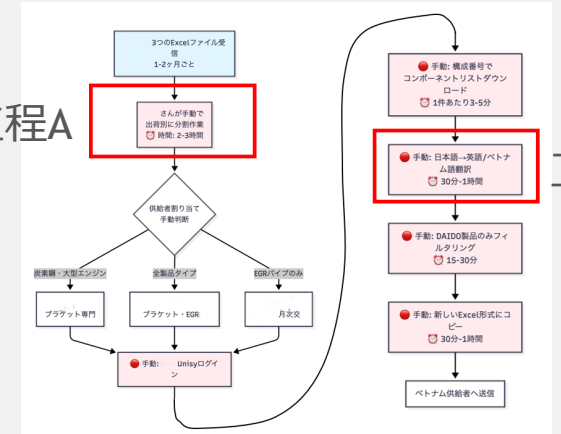
実施内容

ベトナム現地サプライヤー向け部品手配システムの効率化

- 発注者様からの受注部品について、ベトナムのサプライヤー宛に部品手配を依頼する。
- 作業は２名体制で担当されており、時間のかかる作業を効率化し、他の作業に時間を割り振りたい。



業務フロー図



成果

工数へのインパクトが大きい工程を対象に、ツールを作成、業務フローのDX化を提案

【工程A】発注元からの納期表を受信 → 発注先を選定し工事スケジュールを更新

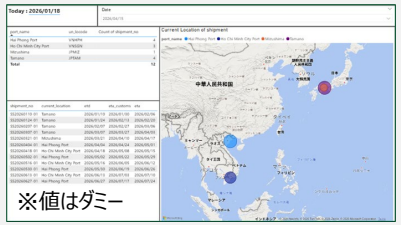
- 発注元から届く納期管理表(Excel)と大同塗装様での管理表(Excel)を比較し、納期更新と新規発注を確認するVBAツールを作成した。
- ダミーテーブルとテーブル定義書を作成し、複数の条件 (船便の搭載重量、納期など) を考慮した納期管理可視化ツールをPower BIで試作。将来的にはLovable等のAIエージェントでの高度化を提案

【工程A】納期更新と新規発注を確認するVBAツール

※値はダミー

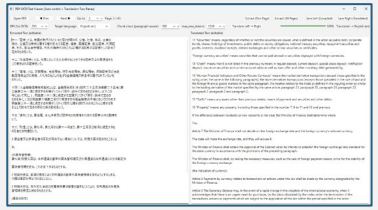
Job No.	Series	Delivery Date	EGRSchedule_Delivery Date	Updated
CUST001	60	2026/XX/XX	2026/XX/YY	Updated
ABC01	60	2026/XX/XX	2026/XX/YY	Updated
XYZVN	60	2026/XX/XX	2026/XX/YY	Updated
ABC01	60	2026/XX/XX	2026/XX/YY	Updated
XYZV1	60	2026/XX/XX	2026/XX/YY	Updated
XYZV2	60	2026/XX/XX	2026/XX/YY	Added
XYZV3	60	2026/XX/XX		Added
XYZV4	60	2026/XX/XX		Added
XYZV5	60	2026/XX/XX		Added

【工程A】Power BI　納期管理可視化ツール

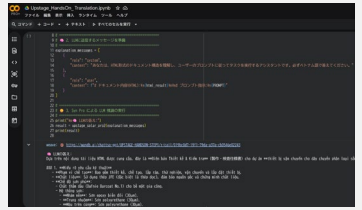


【工程B】発注にあたり、部品名 + 仕様書 (発注ごとに様式が異なる) を、日⇔英 or 越に翻訳

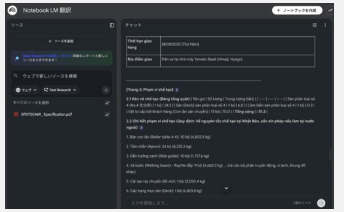
- Excelデータの部品リストについて、部品名の対訳リストを参照→置換するVBAを作成
- 不定期で発注される部品の発注仕様書について、大同塗装様との協議の結果、
  ① OCRツール+機械翻訳モデルで対応するデスクトップアプリを作成
- 日本語⇔ベトナム語翻訳タスクをローカルLLMと商用APIモデルで効率化することを検討
  ② Upstage Document Parse / LLM 、③Google Notebook LMを参考として提案



① デスクトップアプリ イメージ



② 韓国LLM「Solar Pro」使用イメージ



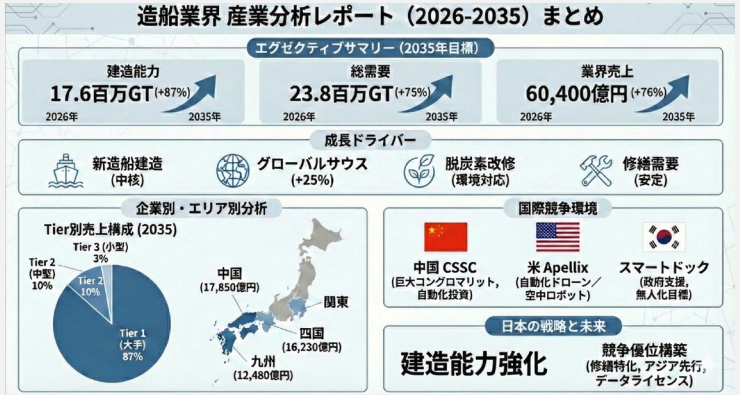
③ Notebool LM 使用イメージ

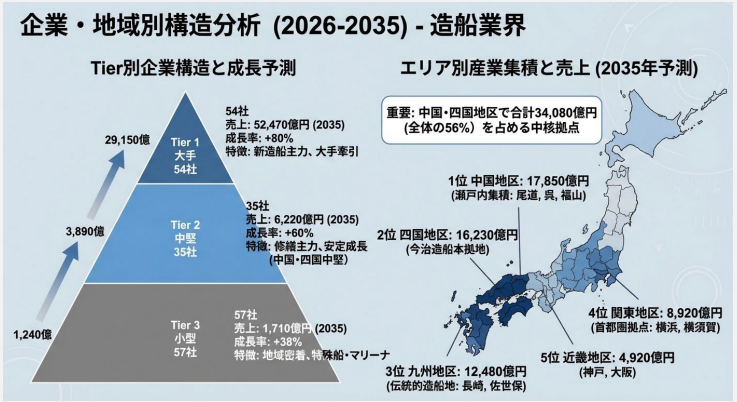
大同塗装株式会社 (製造業) の取組み事例: 船舶塗装における塗料膜厚の均一化および工程の自動化、システムの効率化

実施内容の詳細

③造船業再生計画による需要予測

国交省「造船業再生ロードマップ」を参考に、国内外の先進事例を調査。その後、造船業のプレイヤーを洗い出し、当該計画に紐づく、官民1兆円ファンドの業界インパクトを試算



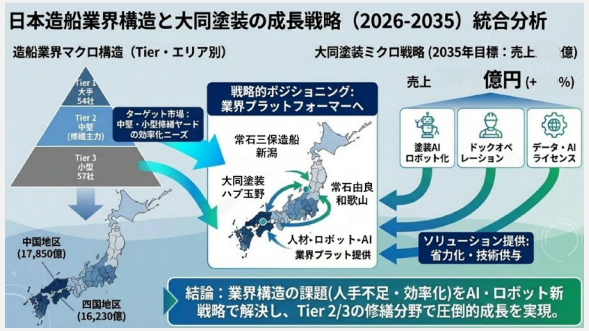


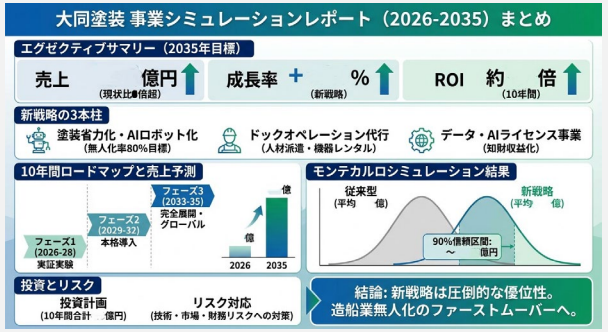
成果

造船業再生計画需要と新規事業により2035年までに数倍超の売上増を見込む

■事業シミュレーション

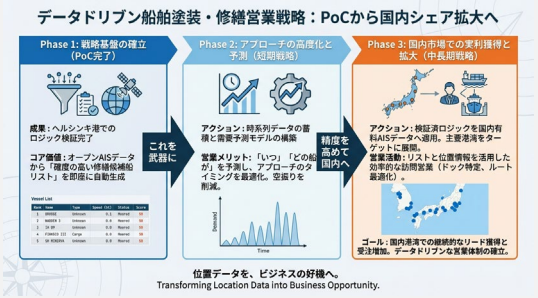
試算結果をもとに、既存事業への成長寄与や新規事業を加えた場合の成長を想定し、不確実性を確率的に再現し、結果の分布やリスク評価を可能とするモンテカルロ法でシミュレーション

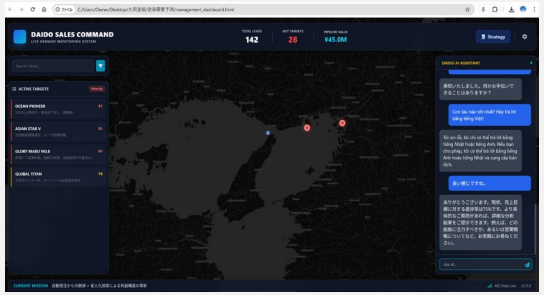




■船舶位置情報による需要予測PoC

船舶の位置情報や航行状況が分かるAISデータ。日本には公開データが殆どないため、フィンランド政府系機関のFintraffic運営のDigitraffic AIS API(商用可)を活用し、ヘルシンキ港周辺の状態から簡易需要予測





つるや旅館 (宿泊業) の取組み事例: データ活用基盤の構築と業務効率化

参加者

企業	社名	つるや旅館
	業種	宿泊業
	事業概要	約180年の歴史を持つ老舗旅館
	所在地 (都道府県・市区町村)	香川県仲多度郡琴平町
参加した受講生の概要	チーム名	大阪DXサポーターズ
	チーム人数	6
	スキル・PR	システムアーキテクト、Webプロデューサー、中小企業診断士、建設現場管理等、専門性を持つメンバーで構成
	進める中で工夫したこと	現地訪問による現場リテラシーへの配慮と今できることの明確化

実施概要

課題内容

分析作業の非効率性・若女将への業務集中の改善

- 宿泊管理システムからのデータの手動抽出と加工に多大な時間と労力がかかる
- シフト作成 (毎月20～25日に、1回3～4時間) など、若女将が把握・対応しており、経営業務に専念できていない
- DXを導入することで業務改善を図りたい

実施した検討内容

データ可視化ツールと業務フローのデジタル化による業務改善を検討

- Stayseeおよび各OTA (じゃらん 等) のデータを統合するダッシュボードを構築
- LINEや紙で収集していた従業員のシフト希望を、GoogleフォームとLINE公式アカウントを連携させた仕組みに改善

検討の成果

業務効率化により経営業務に集中できる時間を創出した

- 複数のデータソースを統合し可視化することで、異常や好調を判断できる環境を整備
- スマホから簡単に希望を提出し自動集計される仕組みにより、若女将の集計負担を大幅に軽減する基盤を構築

つるや旅館 (宿泊業) の取組み事例: データ活用基盤の構築と業務効率化

実施内容の詳細

データ可視化による経営判断の迅速化

宿泊管理システム (Staysee) と各予約サイト (じゃらん・楽天トラベル) のデータを統合し、経営指標をリアルタイムで可視化するWebダッシュボードを構築した。

- Stayseeから抽出したCSVファイルを指定フォルダに置くだけで、自動的にグラフへ反映される仕組みを実装した。
- 日々の売上推移、稼働率、ADR (平均客室単価) に加え、予約経路別の比率や、宿泊者の年代・居住地別の構成を可視化した。
- 政府の地域経済分析システム (RESAS) のデータと自館のデータを比較し、琴平町全体の傾向に対して自館が取りこぼしている「未開拓エリア」や「ターゲットのギャップ」を特定する手法を提案した。
- ダッシュボードのデータをPDF出力して読み込ませるだけで、AIが売上の要約や改善アクションを自動提案する「つるや旅館専用GPTs」を作成した。

成果

手作業でのExcel集計作業が不要になり、経営状況を瞬時に判断できる環境が整備

- 複数のサイトからデータを集めて転記する時間がゼロになり、若女将が経営戦略の立案に集中できる時間を創出した。
- 宿泊者属性をデータで裏付けることで、次に打つべき広告や宿泊プランの方向性が明確になった。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

つるや旅館 (宿泊業) の取組み事例: データ活用基盤の構築と業務効率化

実施内容の詳細

業務プロセスのデジタル化による負担軽減

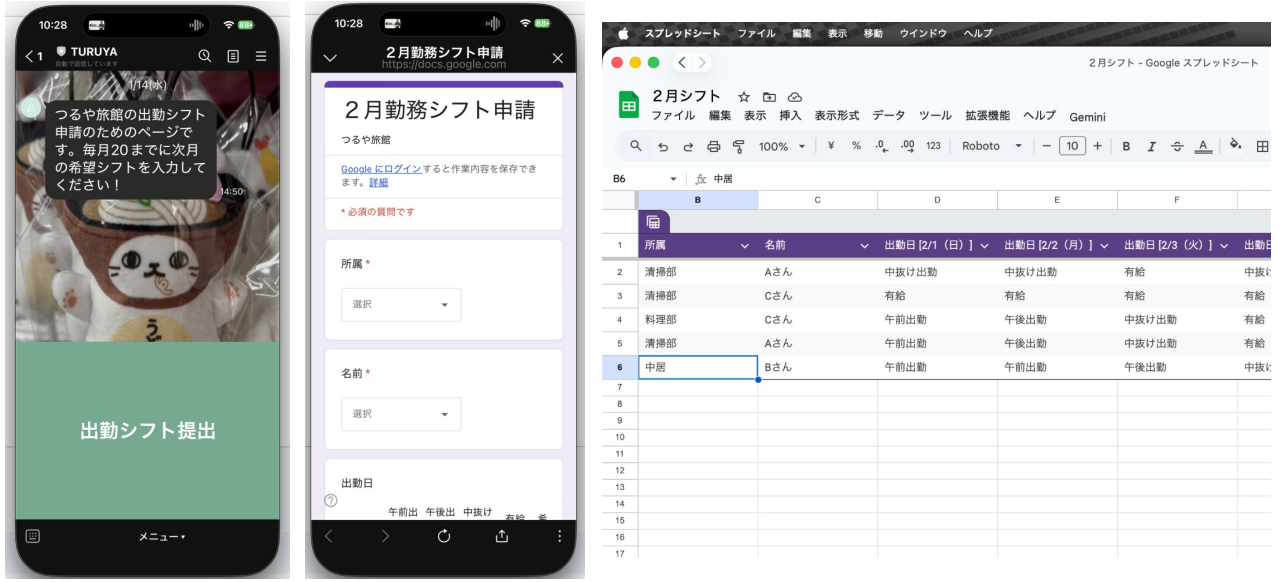
従業員とのコミュニケーションにLINEとGoogleフォームを活用し、アナログだったシフト管理業務をデジタルフローへ刷新した。

- 全従業員が使い慣れているLINEに新たに公式アカウントを作成し、リッチメニューに「シフト提出ボタン」を配置した。
- 従業員がスマホから入力した休み希望が、自動でGoogleスプレッドシートに一覧化される仕組みを構築した。
- 集計された希望データと予約状況 (稼働予定) をAIに読み込ませ、労働基準法や「中抜け」などの旅館特有の条件を考慮したシフト案を自動生成させる手順を提案した。

成果

月3~4時間かかっていた事務作業の省力化に向けた基盤づくりに着手

- LINE、紙、口頭、メールと分散していた休み希望の収集窓口が一つになり、管理の抜け漏れが防止された。
- 1回3～4時間かかっていたシフト作成業務において、データ収集と基礎案作成のプロセスが効率化された。



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

つるや旅館 (宿泊業) の取組み事例: データ活用基盤の構築と業務効率化

実施内容の詳細

中長期的なDX推進の道筋

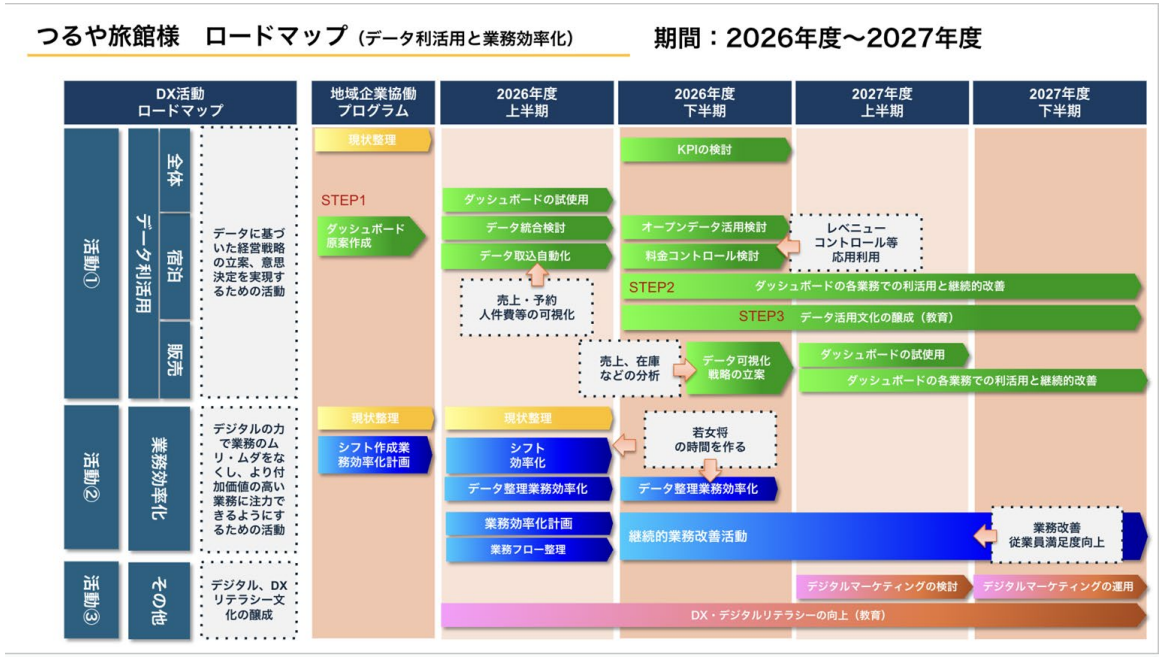
今回のプログラム終了後も自律的にデジタル化を継続できるよう、2027年までの「DXロードマップ」を策定した。

- 「データ利活用」「業務効率化」「教育・文化醸成」の3つの軸で、取り組むべき優先順位を整理した。
- 今回着手したシフト作成改善を皮切りに、将来的に「稼働率と適正人件費の相関分析」を行うためのデータ蓄積を提案した。
- 将来的な取り組みとして、ショート動画を用いたデジタルマーケティングについて提案した。

成果

単なるツール導入に留まらず、将来の旅館経営に向けたアクションプランを共有

- ITに抵抗感のある従業員も含め、デジタル活用による利便性を実感し、次なる改善 (マニュアルの電子化など) を共有することで意欲の向上につなげた。



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

オウライ株式会社 (宿泊業) の取組み事例: 宿泊運営の "現場オペレーション改革" に向けたDX推進

参加者

企業	社名	オウライ株式会社
	業種	宿泊業
	事業概要	徳島で空き家活用の宿泊施設を複数棟運営 香川でも飲食店を運営
	所在地 (都道府県・市区町村)	徳島県三好市
参加した受講生の概要	チーム名	よつばのDXパートナー
	チーム人数	5
	スキル・PR	Googleフォーム・スプレッドシート • Looker Studio連携、Dify x LINE連携、デジタルサイネージ構築
	進める中で工夫したこと	現場の運用負荷を抑える方法を提案したこと

実施概要

課題内容

宿泊運営の "現場オペレーション改革" に向けたDX推進

- 宿泊事業の清掃業務における業務チェックフロー (運用の仕組み化) を整備したい
- お客さんの些細な質問や困り事に、人がいなくても対応できるチャットボット機能がほしい
- 社内業務全般の業務棚卸し・省力化を図るDX検討を行いたい (デジタルサイネージ)

実施した検討内容

課題に対して、デジタル化可能性/省力化という方向から検討を実施

- Googleフォーム・スプレッドシート・Looker Studioを連携し、在庫入力～可視化までの業務フローを設計。清掃後写真をLINE経由で送信し、AIで判定するプロトタイプを構築
- FAQ対応を想定したチャットボット基盤を構築。中国語等の回答の実現性も確認
- 条件 (曜日・時間帯・天候 等) に応じて、異なる情報を表示するサイネージを試作

検討の成果

宿泊運営の現場DXを "仕組み化" し、省人化・標準化・品質安定の基盤を構築

- 消耗品在庫の「見える化」と発注判断の標準化
- 清掃品質チェックの省力化に向けたAI判定プロトタイプ構築
- 顧客問い合わせの一次対応自動化 (多言語含む) の基盤整
- 情報提示オペレーションの自動化 (条件に応じたスライド自動表示切替)

オウライ株式会社 (宿泊業) の取組み事例: 宿泊運営の "現場オペレーション改革" に向けたDX推進

実施内容の詳細: 問い合わせ業務を“人依存”から“仕組み運用”へ転換

背景

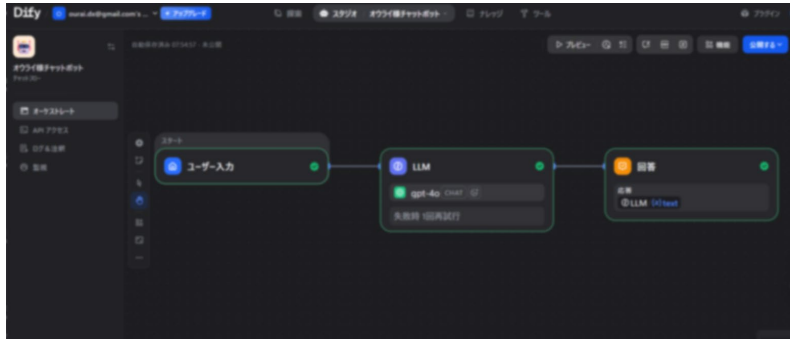
- 少人数運営で業務が人依存
- 問い合わせ対応に1日約2時間
- 外国人宿泊客対応の負荷増大

課題

- 定型業務なのに手作業
- 対応品質が属人化
- ログがなく改善不可

構築した仕組み

顧客
↓
LINE／URL
↓
Dify FAQボット (多言語)
↓
①回答成功 → 完結
②未回答　→ 有人誘導
↓
ログ蓄積 → 週次改善



成果

ビフォーアフター

Before	After
人が全件対応	AI一次対応
判断が属人	FAQで標準化
ログなし	ログ→改善ループ
日本語中心	多言語対応

仕組化の効果

標準化

自動化

多言語化

PoC成功指標

- 自己解決率: 50%以上
- 対応時間: 30%削減
- 満足度: 70%以上

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

オウライ株式会社 (宿泊業) の取組み事例: 宿泊運営の "現場オペレーション改革" に向けたDX推進

実施内容の詳細

1.デジタルサイネージ提案

- 部屋にあるディスプレイを活用し、宿泊施設近隣の推奨カフェ、居酒屋、観光地を投影する。Googleスライドを活用し、時間や天候によって表スライドに含める内容が変わる機能を搭載。 (Makeにて実現) 。

2.清掃業務の改善提案

- Googleフォーム・スプレッドシート・Looker Studioを連携し、在庫入力～可視化までの業務フローを設計。清掃後写真をLINE経由で送信し、AIで判定するプロトタイプを構築

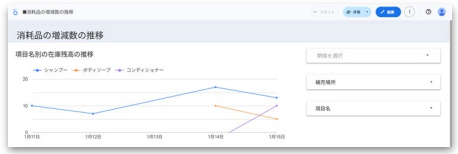
成果

1.デジタルサイネージ提案

- 時間や天候に合わせて変化する投影内容とすることにより、訴求効果の高いデジタルサイネージとした。またGoogleスライドにアクセスする事で実現しているため、複数の端末からアクセスが可能。さらに、Googleスライドは事業者での変更も簡易に実施できるため、表示内容の変更も簡易。

2.清掃業務の改善提案

- 消耗品の報告方法が定型化され報告内容の精度向上が見込まれる。消耗品の在庫状況が可視化でき、補充漏れがなくなる。



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

有限会社森清掃社 (浄化槽保守点検業) の取組み事例: 事務作業のデジタル化

参加者

企業	社名	有限会社　森清掃社
	業種	浄化槽保守点検業
	事業概要	浄化槽の点検・清掃・保守、および排水管の洗浄を請け負う
	所在地 (都道府県・市区町村)	香川県仲多度郡琴平町
参加した受講生の概要	チーム名	てくのすけ
	チーム人数	4
	スキル・PR	プログラミング、AI活用、データ分析、DX化実務経験、官公庁対応などのコンサル実務経験
	進める中で工夫したこと	丁寧なヒアリングに基づく、協働企業の実情に寄り添った改善の提案

実施概要

課題内容

- バックオフィス業務をデジタル化したい
- 新規開発した浄化槽内の測定センサーから得られたデータの分析

実施した検討内容

- 紙媒体である過去の契約書をデジタル化
- 今後の事務作業・記録媒体のデジタル化提案

検討の成果

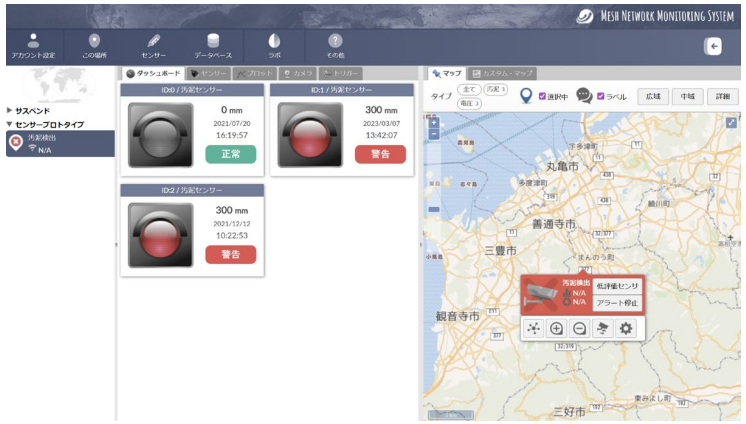
- 紙媒体の過去契約書約1000件をデジタル化 (構造化データ+PDF画像)
  →過去の契約が閲覧しやすく、さらにデータ分析が可能に
  (分析実例として、地域別の売上特性、処理件数の見える化を提示)
- Googleマイマップを活用した、点検・点検写真記録の"見える"共有データ化のフォーマットを作成
- 事務・作業担当者間の紙媒体の連絡手順に、デジタル電送による効率化を提案
- 特許のデータ活用した新たな顧客価値創出への導きを提示

有限会社森清掃社 (浄化槽保守点検業) の取組み事例: 事務作業のデジタル化

実施内容の詳細

手書き契約書のデジタル化とデジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析の未来

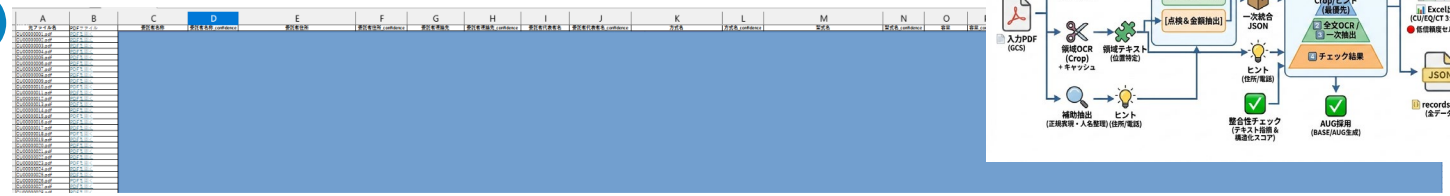
- 1,000件の手書きのお客様情報をデジタル化し、今後の業務の基盤としたいと要望を頂き、AI-OCRを実施し、データのデジタル化を行った。
- 特許をもつデータの活用を希望されていたので、その概要の紹介を行った。
- 特許データに合わせた浄化槽異常の整理を行った。
- お客様情報を地図とリンクさせて、格納する方法を提示した。

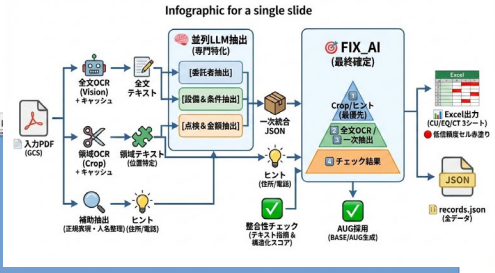


成果

お客様情報のデジタル化を行い、特許の活用案を提示した

- AI-OCR作業では、単純なプロンプトでの精度が望めず、プログラム作成し、実在住所との比較、２つのLLMの結果比較、選択肢からの選択などの工夫を行った。精度100%は望めなかったので、読み取り結果の自信度合いもデータとして出力した。業務のデジタル化の基礎ができたと喜んでいただけた。
  ①契約書のデジタル化(紙→PDF)、デジタル情報の構造化(PDF→Excel)、
  ②デジタル化後
    - PDFとして一元管理 → 原本紛失リスクの実質ゼロ化
    - 検索・複製が容易
    - 災害・人事異動時の事業継続性 (BCP) が向上





- 特許のセンサーからのデータで、
  浄化槽の異常予知を行うフローを
  提示し、今後の活用が見込まれる。
- 地図上で、点検結果の共有ができた。

株式会社総合技建コンサルタント (設計・測量/電気製造) の取組み事例: 在庫管理の効率化

参加者

企業	社名	株式会社総合技建コンサルタント
	業種	建設設計/電気機械器具製造
SoGo 株式会社総合技建コンサルタント	事業概要	電気製造業務 計画・設計 調査業務、測量業務
	所在地(都道府県・市区町村)	香川県仲多度郡琴平町
参加した受講生の概要	チーム名	SGC-DX
	チーム人数	3
	スキル・PR	• DX提案推進の経験者 • 作業効率化マニア • 業務可視化ファシリテーターの3人が生み出すシナジー
	進める中で工夫したこと	• 企業様に寄り添う • 現場指向 • 無理のない提案

実施概要

課題内容

業務効率の大幅な改善とヒューマンエラーの削減を目指す

①在庫管理の効率化
②棚卸の自動化
③注文書の自動作成
④見積書から関連書類の自動作成

実施した検討内容

課題の全体像を把握し、解決手法を提案

- 企業様を訪問し、現場の確認とヒアリングを実施
- 業務フローを提示いただき、課題を洗い出すことで解決手法を模索
- 検討システムを企業様と一緒に触ってみることで、認識と方向性のすり合わせを実施

検討の成果

業務効率システムの導入に向けたアプローチ

- 「在庫管理」が喫緊の課題と捉えつつ、棚卸や帳票作成の課題も対応できる、長期的なビジョンを見据えたシステムを提案
- 導入障壁を下げられるよう、600超の部品在庫データの登録をサポート

株式会社総合技建コンサルタント (設計・測量/電気製造) の取組み事例: 在庫管理の効率化

実施内容の詳細

企業様が抱える課題に適した解決手法を提案

① 現地訪問・ヒアリング

実際に現場を確認し、生の声を聴く

② 業務フロー・実データの確認

「お困りごと」を深掘りし、課題を明確化

③ 解決手法の検討・提案

ターゲットを絞り、最適解を模索

④ 効率化システムのトライアル検証

企業様と一緒に試し、直球で意見交換

⑤ 導入に向けた準備・今後のロードマップ

まずはスモールスタート・スモールサクセスを無理のない範囲で

成果

効率化システムの提案と導入に向けたサポート

現状	本プログラム	今後
入出庫がアナログ **在庫管理棚卸が負担** **帳票作成が手作業**	在庫管理システム • 課題解決に繋がるサービスの検索 • 企業様の負担にならない程度の提案 • 正規導入に向けたサポート • (取込データ加工) • ロードマップの提示	【ロードマップ】 • システム定着に向けた施策実施 • オプションサービスの追加検討 • 経理システム等との連携 • 効率化でできたリソースの活用 →事業拡大 →新規参入

オノケングループ (介護・福祉 (訪問看護・訪問介護)/製造 (FRP)) の取組み事例: アナログ管理からの脱却と「攻めのDX」への転換

参加者

企業	社名	オノケングループ
	業種	介護・福祉 (訪問看護・訪問介護) / 製造 (FRP)
	事業概要	訪問看護ステーションの運営、FRP製品の製造・修繕 等
	所在地 (都道府県・市区町村)	香川県丸亀市
参加した受講生の概要	チーム名	i-DAFY (アイ-ダフィー)
	チーム人数	4
	スキル・PR	「実行力 x 技術力 x 共創力」が強み。多様な専門性で現場課題の実装・改善まで行う共走型DXチーム
	進める中で工夫したこと	プロトタイプ主導: 早期に実稼働するツールを開発・提示し、具体的な利用イメージを共有しながら開発を進めた

実施概要

課題内容

「アナログ管理による業務負荷と属人化の解消」

- 請求業務: 目視による入金消込作業が月30～40時間発生。ミス誘発リスクと特定担当者への依存
- シフト管理: イレギュラー発生時の調整判断が困難: 急な変更が発生した際、ホワイトボードの写真確認だけでは「利用者との相性」等の複雑な条件を考慮した、最適な代替スタッフの選定・配置を行うことが非常に難しい

実施した検討内容

「現場負担を減らす即効性のあるツール開発と、中長期ロードマップの策定」

- 全体: 「守りのDX」から「攻めのDX」へ至るロードマップの策定
- 請求業務: Googleスプレッドシート(GAS)による「入金消込自動化ツール」の開発・実装
- シフト管理: ホワイトボードの写真をAI解析しデータ化する「シフト管理プロトタイプ」の構築

検討の成果

「手作業ゼロ化の実現と、データ経営への第一歩」

- 今後: 保守・運用プランを提示し、持続可能なDX体制を提案
- 請求業務: 入金消込の手作業・目視確認を「ゼロ化」(月40時間の削減見込)。ヒューマンエラーを根絶
- シフト管理: 1週間分のシフトをデータ化の可視化を実現。「データで語る」基盤を構築

オノケングループ (介護・福祉 (訪問看護・訪問介護)/製造 (FRP)) の取組み事例: アナログ管理からの脱却と「攻めのDX」への転換

実施内容の詳細

1. 請求業務: 入金消込の完全自動化

課題: 銀行入金データと請求データの突合を目視で行っており、心理的・時間的負担が甚大。
施策:

- **自動消込ツール:** CSVを取り込むだけで、顧客ID・金額をキーに自動照合するツールを開発。
- **UI/UX改善:** 現場フィードバックを基に、フォーマット固定やエラー検知機能を実装し、誰でも迷わず使える仕様へ。
- **履歴管理:** 「入金済み履歴」を自動蓄積する機能を実装。

2. シフト管理: 調整判断の高度化と可視化

課題: イレギュラー発生時の調整判断が困難。 ホワイトボードの写真確認だけでは、「利用者との相性」や「夜勤明けの休息」等の複雑な条件を考慮した、最適な代替スタッフの選定・配置を行うことが限界に近い。

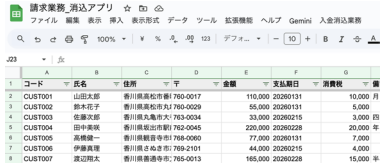
施策:

- **画像解析AI:** ホワイトボードの写真をAI (Gemini) で解析し、スプレッドシートへ構造化データとして保存。
- **ハイブリッド運用:** 変更理由 (イレギュラー) のみ人間がプルダウンで補完し、将来のAI提案に向けた「判断データ」を蓄積。

成果

定量的成果 (請求) :

- 月間約150件の手作業消込・目視確認を**0件**に。
- 月間**約30〜40時間の業務時間削減** (見込み) 。
- 照合ミス・ヒューマンエラーの根絶。



定性的成果 (シフト・全体) :

- **判断プロセスの脱属人化:** 記憶に頼っていた「相性」や「稼働状況」をデータとして可視化し、調整判断の根拠を明確化。
- **「データ経営」の体感:** 過去データから傾向分析が可能であることを実証し、経営者の意思決定を支援。
- **将来像の合意形成:** 単なるデジタル化に留まらず、蓄積データを活用してAIが最適配置を提案する「攻めのDX」へのロードマップを策定。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

成龍酒造株式会社 (酒類製造業) の取組み事例: バックオフィス業務効率化検討プロジェクト

参加者

企業	社名	成龍酒造株式会社
	業種	酒類製造業
	事業概要	日本酒の醸造・販売、食品の製造・販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	愛媛県西条市
参加した受講生の概要	チーム名	YES!KickWave
	チーム人数	5
	スキル・PR	「四国ならではの自然や歴史といった財産を活かしたDX」に貢献したいと思いチーム結成 初心者向けスキルアップ支援、データ分析・自動化ツールの開発、業務へのAI活用等のスキル保有
	進める中で工夫したこと	成龍酒造様にとことん寄り添うことを目標として、現場へのヒアリングおよびAIを使ってドメイン知識を取り入れた

Generated by AI

実施概要

課題内容

生産性の向上: 酒造りや経営の本質に集中できる環境の実現
アナログな業務をデジタル化することで、限られた人員の有効活用を行い、生産性向上を図りたい
経営基盤の強化: 150年の伝統を、次の100年へ繋ぐために
歴史と想いを、未来へ繋いでいくための不可欠な礎として持続可能な経営体制を構築したい

実施した検討内容

現状の業務分析・課題整理
PEST、クロスSWOT分析を実施。協働企業様の経営方針や方向性を理解した上でDX推進ロードマップを検討。
現場担当者へのヒアリングも並行して実施。効果・実現度から対象業務を検討。一般的なSaaSでカバーしにくい酒造業ならではの酒税業務をDX推進のファーストステップとした
酒税業務を対象としたPoC計画立案と実行、協働企業様の方向性にあったDX施策の検討や検証
酒税業務に特化したアプリ制作。担当者に利用してもらい予定通りの業務時間削減の効果を確認
2027年前半までに実施するDX施策を検討し、データ分析・生成AI活用などを含め具体的な技術調査を実施
継続的にDX推進を実現するモチベーションアップと必要なサポートを検討
担当者に寄り添い、取り組みやすいコンテンツをピックアップ

検討の成果

「前向きに挑戦する経営」をサポートするDX推進ロードマップ
クロスSWOT分析結果をもとにヒアリング。優先度Top10の内容を整理しDX施策の案だしを実施
その中で、イメージがつきにくい内容について具体化がイメージできる材料を提供した
バックオフィス業務効率化PoCの実施
販売管理システムから出力した売上明細から各種帳票の作成を自動化。作業時間を55%削減を達成した
ICTスキルと分析ノウハウの共有
協働先企業にフィットした、継続学習・実行できるICT・データ分析ノウハウ・Tipsの共有

成龍酒造株式会社 (酒類製造業) の取組み事例: バックオフィス業務効率化検討プロジェクト

実施内容の詳細

AIによるリサーチ×経営ヒアリングにより方向性の明確化

- 最新のDeepresearch技術を用い公開情報をもとにしたドラフトを作り、経営方針をヒアリング。短期間で日本酒巡る業界の課題や協働企業様の強みをとらえ、今後取り組みたいことを明確化した。
- DX推進に向け、今後どんな施策をどんなタイミングで実施していくことがいいのかをイメージできるよう、できるだけ具体的な材料を提供した。

作業時間を削減するため必要な方向性を検討

- 担当者に業務内容のヒアリングを実施した結果、作業が属人化していること、および心理的負荷が多い業務があることを把握。
- 酒造業務に特化した業務システムはあるが、導入コストに課題がある。
- 心理的負荷が多い業務を定量化し、優先順位付けに活用。
- コア事業へ集中できるよう課題を整理し、省力化・心理的負荷が多い業務を自動化することが重要と考え、PoCを実施。

デジタル活用を継続して取り組むための事例の共有

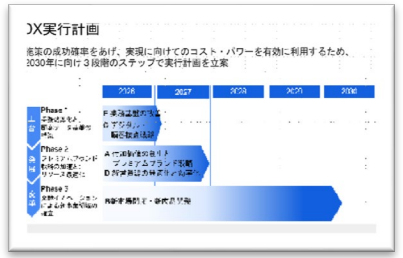
- ヒアリングを元に、業務に活用しやすいTips集を作成。
- オンライン会議など、利用したことがないツールの手引書作成。
- 独学で取り組みやすいICT学習書籍の紹介(EXCEL関数など)。
- オープンデータなど利用して、簡単に行えるマクロ分析のノウハウを共有。

成果

納得感があり、実効性のあるロードマップ

▲ヒアリングによる優先順位づけ

▼2030年までの実行計画～サマリー～



Founded in 1877, Seiryo Shuzo is a family-owned artisan sake brewery, rooted in Sai-jo—

▲TTSによる英語ナレーションの実現

ワークフローの見直し、自動化を行い作業時間の55%を削減

- 販売管理システムの受注情報を活用し、紙で管理していた帳票を自動的に計算するアプリを作成し、デジタル化した。
- 配送伝票に必須で記載する重量を、専用Webアプリを使い簡易に計算可能な状態にした。

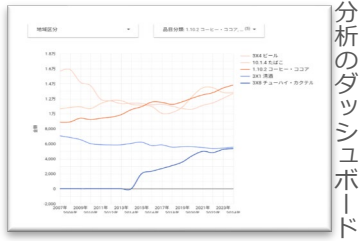
◀帳票作成アプリ

◀重量計算アプリ

ご紹介したデジタル活用・Tips集・オープンデータの利用事例

◀紹介したTipsや書籍

◀画面を共有しながら相談できるように手順を説明



◀お酒にまつわるマクロ分析のダッシュボード

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

中央地所株式会社 (不動産管理) の取組み事例: DX推進計画の策定

参加者

企業	社名	中央地所株式会社
	業種	不動産管理
中央地所	事業概要	自社所有の土地及び建物 (オフィスビル・マンション・駐車場) の賃貸管理
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
参加した受講生の概要	チーム名	FukuDX
FUKUDX DX SUPPORT TEAM	チーム人数	3人
	スキル・PR	不動産業界の業務知識、社内DX運用の実務、IT企業での開発・改善経験を持つ3名で構成されたチームです
	進める中で工夫したこと	当初のゴールであったロードマップ策定に加え、実行フェーズを見据えて業務データや利用ツールの整理まで行い、次のアクションにつながる形に落とし込みました

実施概要

課題内容

不動産管理業務における業務効率化およびDX推進

- 業務が複雑化・属人化しており全体像が見えにくい
- ツール乱立による非効率な運用が発生している
- DXを進めるための優先度や進め方を整理したい

実施した検討内容

業務整理およびDX推進ロードマップの検討

- 現行業務フローおよび利用ツールの整理・可視化
- 非効率な業務・重複作業の洗い出し
- DX推進に向けた優先度整理とロードマップ検討

検討の成果

業務・システムの整理とDX推進に向けたロードマップを作成・提案

- 現行業務・利用ツールを整理したシステム一覧を作成し、情報分断や重複管理の全体像を可視化した
- 現状と将来像を対比した**システム構成図 (As-Is / To-Be)** を整理し、DX推進の方向性を共通認識として揃えた
- 上記整理を踏まえ、短期～中長期で取り組むべき施策を整理したDX推進ロードマップを策定した

中央地所株式会社 (不動産管理) の取組み事例: DX推進計画の策定

実施内容の詳細

現行業務と利用システムを整理・可視化し、DX推進に向けたロードマップを検討

- キックオフおよびヒアリングを通じて、中央地所における主要業務 (営業・管理・経理等) の流れを整理
- 各業務で利用されているシステム・ツールを洗い出し、役割やデータの所在を一覧化
- 複数ツールに分散している情報や、手作業・二重管理が発生しているポイントを整理・可視化
- 現行システム構成 (As-Is) を整理し、将来的に目指すシステム構成 (To-Be) の考え方を構成図として整理
- 上記の整理結果を踏まえ、短期・中期・長期の視点でDX推進を進めるためのロードマップを作成
- ロードマップ上で、優先的に着手すべき取り組みや段階的な改善方針を整理

成果

業務とシステムの全体像を可視化し、DX推進に向けた具体的な検討と次のアクションにつながる整理ができた

- 業務フローおよび利用システムの整理により、情報の分断や非効率が発生している構造を関係者間で共有できる状態となった
- 現状と将来像を対比したシステム構成の整理により、DX推進の方向性について共通認識を形成できた
- 短期から中長期までのDX推進ロードマップを作成し、段階的に取り組むべき施策が明確になった
- これにより、DXを検討段階で終わらせず、実行に向けた議論を進められる土台を整備できた

株式会社七尾製菓 (製造業) の取組み事例: 生産管理システム構築に向けた検討

参加者

企業	社名	株式会社七尾製菓
	業種	製造業
七尾製菓	事業概要	菓子製造販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県北九州市
参加した受講生の概要	チーム名	響 (Hibiki)
	チーム人数	4人
HIBIKI	スキル・PR	現場理解とDX知見を融合させる多様性
	進める中で工夫したこと	単なる業務要件定義ではなく、「なぜ困っているのか」を深く掘り下げることで、本質的な課題を探索した

実施概要

課題内容

- **当初の要望:** データが分断され、アナログな運用が残っているため、「生産管理システム」を導入して整えたい。そのために、チームメンバーの知見をいかして、導入ロードマップを描きたい
- **企業の悩み:** 「うまくいく時もあれば、なぜかうまくいかない (在庫不足や納期遅れが発生する) 時もある」という漠然とした課題感があった

実施した検討内容

- **課題の再定義:** 「そもそもシステムで解決すべき問題なのか?」という問い直しから開始。
- **プロセス分析:** 営業と製造それぞれの業務フロー、判断ロジック、抱えている不満をヒアリングした
- **問題の選別:** 抽出された問題点に対し、「業務フローで解決できるもの」と、「構造的にどうにもならないもの」や「過去の事例で現在は発生しないもの」を切り分け

検討の成果

スムーズな連携を阻害していたのは、情報の断絶ではなく「判断基準の明文化」や「部署間の相互理解」が必要なフェーズに来ていることだと整理。システム化の前段として、大口注文時の調整フローや判断基準 (優先順位など) を整理・共有することで、属人性を解消するアプローチを提言

株式会社七尾製菓 (製造業) の取組み事例: 生産管理システム構築に向けた検討

実施内容の詳細

課題の再定義・プロセス分析・問題の選別を実施

■ 実施内容の詳細

ステップ1: 課題の真因探索 クライアントの「生産システムを入れたい」という要望に対し、その背景にある「在庫切れ・納期遅れ」の実態を調査。

ステップ2: ターゲットの絞り込み 全体を網羅するのではなく、生産計画へのインパクトが最も大きい「大口注文」のプロセスにフォーカス。営業 (受注側) と製造 (供給側) のそれぞれの言い分や行動原理を可視化した。

ステップ3: 問題の仕分け ヒアリングで出てきた不満や問題点をリスト化し、「解決可能な運用課題」と「不可避な外部要因 (文句を言っても仕方ないこと) 」に分類・整理した。

成果

スムーズな連携の阻害要因を整理し、属人性を解消するアプローチを提言

■ 成果のポイント

課題の明確化: インパクトの大きい「大口注文」のプロセスを精査することで、「定番注文」も少なからず、在庫不足や納期遅れに影響していることを営業と製造の共通認識として把握できた。この共通認識をベースに、今後の業務フローの改善に役立てたい。

暗黙知の形式知化: 長年の経験や阿吽の呼吸で行われていた調整業務を、「フロー」や「基準」として明文化するきっかけを作った。

協働の土台作り: 営業と製造が互いの事情 (受注の背景や生産の制約) を理解し合うことで、システム導入時に必要となる「要件定義」の前段階として、あるべき業務姿の共通認識を持つことができた。

株式会社バイオテックス (建設業) の取組み事例: 無料デジタルツールと生成AIを活用した業務改善の検討

参加者

企業	社名	株式会社バイオテックス
	業種	建設業
	事業概要	地中熱利用工事、管路施設の維持管理・耐震化、橋梁補修工事
	所在地 (都道府県・市区町村)	佐賀県佐賀市
参加した受講生の概要	チーム名	Harmony DX
	チーム人数	4名
	スキル・PR	DX企画、業務分析、生成AI活用、現場業務
	進める中で工夫したこと	専門用語を避け、ハンズオン重視で検討

実施概要

課題内容

- **紙・Excel・個別ソフトが混在し、情報が分散・属人化**
- **現場中心業務のためDXが定着しにくい**
- **大規模システム導入のハードルが高い**

実施した検討内容

- **Googleフォーム/スプレッドシートの業務試作**
- **生成AIによる日報、資料要約、動画作成の検証**
- **スモールスタート型DXの検討**

検討の成果

- **無料ツールでも業務改善が可能と確認**
- **参加者のDXへの心理的ハードルが低下**
- **自走型DXへの意識変化が生まれた**

株式会社バイオテックス (建設業) の取組み事例: 無料デジタルツールと生成AIを活用した業務改善の検討

実施内容の詳細

1.実施内容のポイント
・無料・既存環境で利用可能なデジタルツールを中心に検討
・生成AIを業務補助として位置づけ、実務想定で検証
・操作性と定着性を重視

2.実施内容の詳細
建設業特有の業務構造を踏まえ、大規模システム導入を前提としないDXを検討した。
紙・Excel・個別システムの混在による属人化を課題として整理。
Googleフォーム・スプレッドシートを用いた勤怠・申請・現場記録の試作を実施。
生成AIでは、日報作成、資料要約、マニュアル検索、動画生成の検証を行った。
検討はハンズオン形式で実施し、実務適合性を確認した。

成果

1.成果のポイント
・無料ツールでも業務改善が可能と確認
・生成AIによる作業時間削減の可能性を確認
・DXへの心理的ハードルが低下

2.成果の詳細
DXは高額投資から始める必要はなく、スモールスタートでも有効であると確認できた。
Googleツールにより情報共有と業務可視化が可能であることを確認。
NotebookLMによる社内資料活用や解説動画作成など、実務に近い成果物が生まれた。
『自分たちで試し、改善するDX』への意識変化が生まれた点が大きな成果である。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社仲宗根糀家 (食品製造・販売業) の取組み事例: アナログな受発注・在庫管理業務の効率化と、Webサイトリニューアルに向けた戦略策定

参加者

企業	社名	株式会社仲宗根糀家
	業種	食品製造・販売業
	事業概要	沖縄の黄麹製造パイオニア、麹関連製品を製造販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	沖縄県那覇市
参加した受講生の概要	チーム名	いちゃりばちょーでー
	チーム人数	6名
	スキル・PR	沖縄が好きな業務改善・EC・Webマーケのプロ集団が、現場目線で親身に伴走支援
	進める中で工夫したこと	「あるべき論」を押し付けず、企業様の現状とリスクに寄り添った合意形成

実施概要

課題内容

糀文化を未来へつなぐための「事業拡大」と「業務基盤」の両立

- 業務フローの属人化と分断
- EC売上の伸び悩み

実施した検討内容

1. 業務フローの可視化とシステム選定

- 受発注・在庫管理の業務フローを可視化。ツール調査し、理想形の業務フローを作成

2. Web/ECサイトの定量・定性分析

- SimilarWeb等を用い、ユーザー属性、滞在時間、離脱ポイントを解析。改善案を提案

検討の成果

1. 段階的な業務フロー改善のスタート

- 全ツール入れ替えは高リスクと判断し、まずは「freee会計」のトライアルをスタート

2. 1月のサイトリニューアルに向けた改善案のご提案

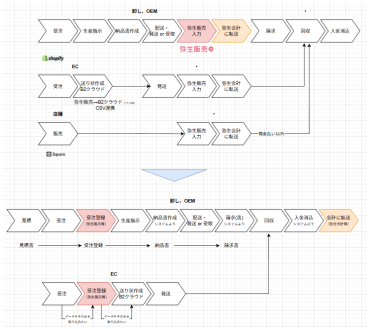
- サイトリニューアルおよび今後の継続的なWeb/ECサイトの改善における示唆を提示

株式会社仲宗根糀家 (食品製造・販売業) の取組み事例: アナログな受発注・在庫管理業務の効率化と、Webサイトリニューアルに向けた戦略策定

実施内容の詳細

1. 業務フローの可視化とシステム選定

- 現状業務フローのヒアリング
- 改善箇所の洗い出し
- システムの調査・選定



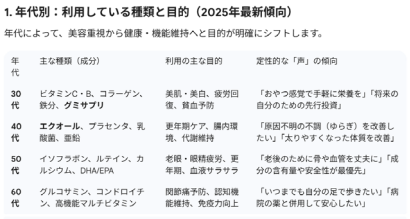
2. Web/ECサイト流入実態調調査・ユーザー意識調査 (定量/定性)

Web/ECサイト流入実態調調査・ユーザー意識調査 (定量/定性)

- 30歳～60歳女性に関する健康意識調査
- 30歳～60歳女性に関するサプリメント利用調査
- 解析ツールを使いECサイトへの流入経路、アクセス数の実態調査

ECサイト (Shopify・楽天)

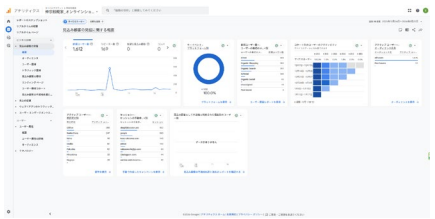
- 現状の管理画面や分析情報の活用状況をヒアリング



1. 年代別：利用している種類と目的（2025年最新傾向）

年代によって、美容重視から健康・機能維持へと目的が明確にシフトします。

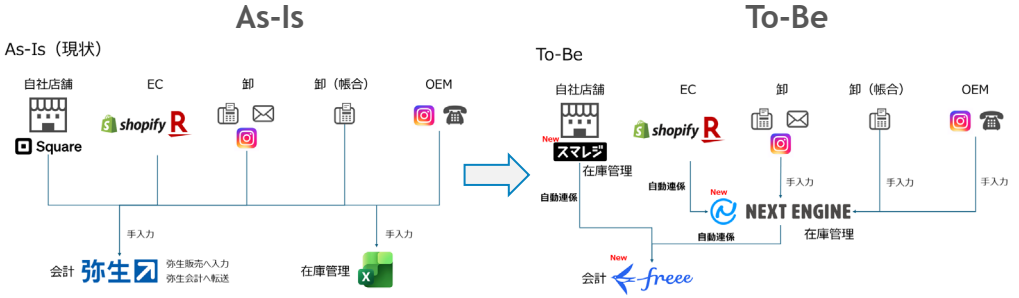
年代	主な種類（成分）	利用の主な目的	定性的な「声」の傾向
30代	ビタミンC・B、コラーゲン、鉄分、**グミサプリ**	美肌・美白、疲労回復、貧血予防	「おやつ感覚で手軽に栄養を」「将来の自分のための先行投資」
40代	**エクオール**、プラセンタ、乳酸菌、亜鉛	更年期ケア、腸内環境、代謝維持	「原因不明の不調（ゆらぎ）を改善したい」「太りやすくなった体質を改善」
50代	イソフラボン、ルテイン、カルシウム、DHA/EPA	老眼・眼精疲労、更年期、血液サラサラ	「老後のために骨や血管を丈夫に」「成分の含有量や安全性が最優先」
60代	グルコサミン、コンドロイチン、高機能マルチビタミン	関節痛予防、認知機能維持、免疫力向上	「いつまでも自分の足で歩きたい」「病院の薬と併用して安心したい」



成果

段階的な業務フロー改善のスタート

- 現状業務フローの可視化
- 理想フローの提示
- 新システムの提案
- 会計ソフトのトライアル開始



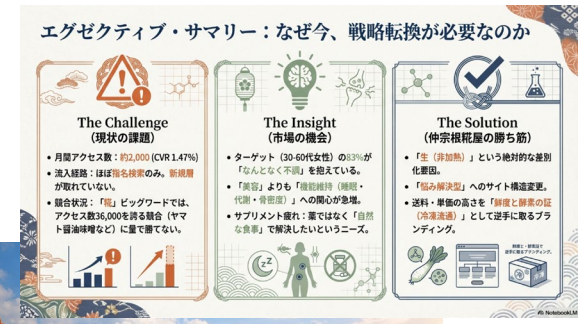
1月のサイトリニューアルに向けた改善案のご提案

サイトリニューアルに向けた改善案のご提案

- 「こちらが売りたい」から「ユーザーが欲しい」への変換
- 指名検索からユーザーニーズに応えるサイトへ
- 戦う主戦場を変える

ECサイト (Shopify・楽天)

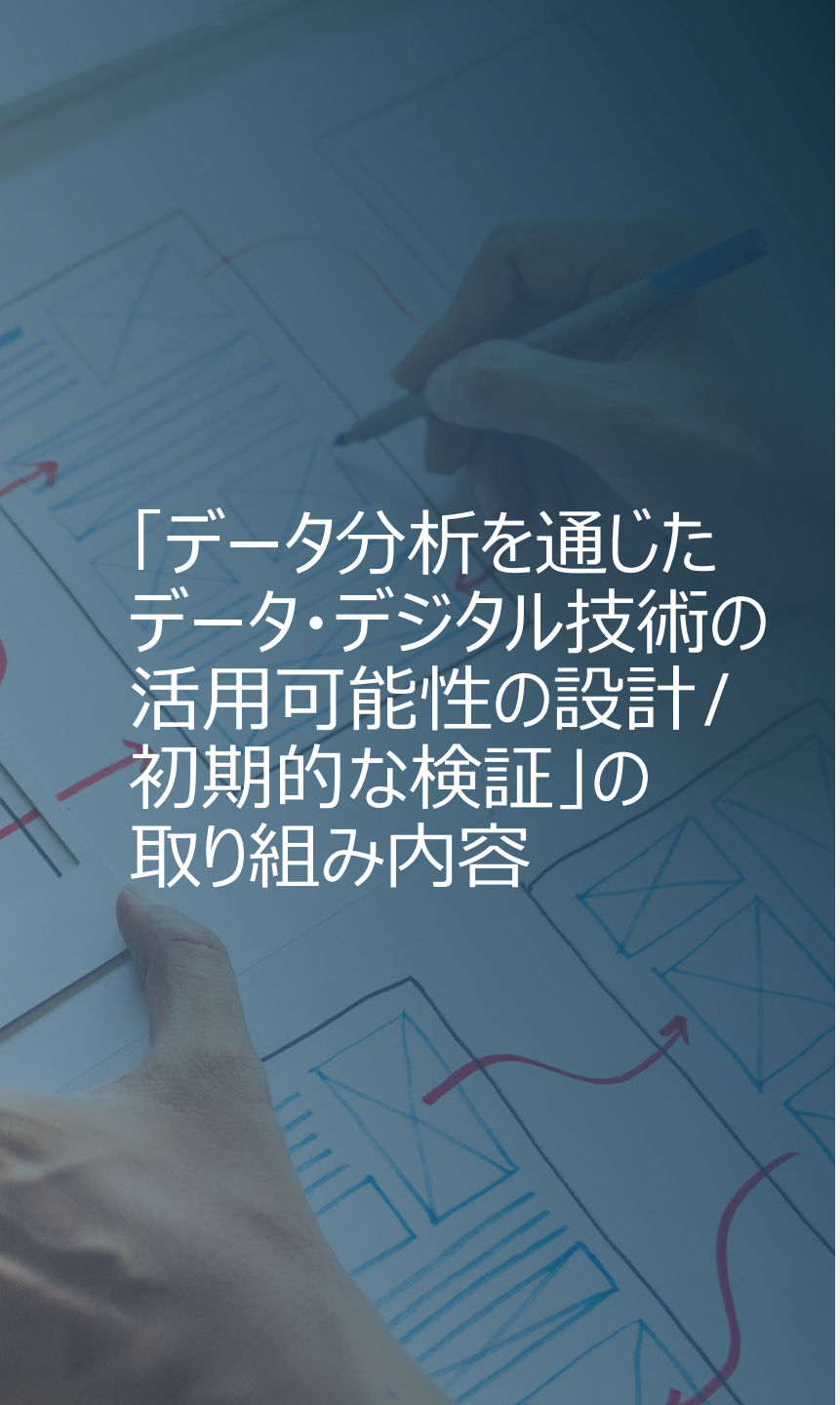
- RMSで確認すべき項目のレクチャー



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

パターン②

「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」の取り組み事例



「データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証」の取り組み内容

企業の状態

- 構想/テーマが決まっており、データがゼロではない
- 今後のプロジェクトの具体化(取組み判断含む)や初期的な検証(PoC) を実施したい

本段階で目指すゴール

- 構想/テーマ実現に向けた具体的な方向性が設計されている
- 上記に基づいて、モデリングや分析等を通じて、初期的な検証結果が得られている
- 上記構想の実現に向けた、今後のアクションが明確になっている

参加企業および実施内容の概要 -パターン② (1/2)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
29	一般社団法人東北風土マラソン&フェスティバル	サービス業	宮城県	株式会社ミヤックス	「日本で最もデジタルを有効活用したマラソン大会」を実現する
30	一般社団法人くるむ	卸売業・小売業	宮城県		DXによる業務効率化と社会的インパクトの可視化
31	株式会社Interund	卸売業・小売業	宮城県		LINE Botによる業務効率化とInstagram活用を通じた集客・運営強化
32	株式会社北洲	建設業	宮城県		既存営業データを活用した営業活動DX支援手法の検討
33	株式会社タイハク	製造業	宮城県		生成AIをフル活用して、バックオフィス業務の可能性を広げる！！
34	株式会社アングルクリエイト	複合サービス事業	東京都	株式会社SIGNATE	生成AIを活用したコンテンツ制作プロセスの効率化
35	株式会社EXIDEA	情報通信業	東京都		提案書資料生成AIエージェント
36	株式会社みんせつ	情報通信業	東京都		IR担当者業務代行向けAIエージェントPoC
37	株式会社みんせつ	情報通信業	東京都		AIによる自動応答のリアルタイム監視と品質補正
38	株式会社JIYU Laboratories	情報通信業	東京都		セマンティック検索システムの構築
39	株式会社JIYU Laboratories	情報通信業	東京都		実験情報の抽出モデル開発のPoC
40	株式会社NEWGREEN	農業・林業	東京都		AI, Notionを活用した農業支援サービスのUI/UXデザイン
41	日精サービス株式会社	運輸業・郵便業	新潟県	合同会社デロイト トーマツ	フードロス削減に向けた需要予測とメニュー最適化の取り組み
42	株式会社羽吹組	建設業	新潟県		出面 (でづら) 表の自動集計の検討
43	株式会社和井田製作所	製造業	岐阜県	株式会社十六総合研究所	来客対応のデジタル化とAI・自動化活用の推進
44	株式会社松田電機工業所	製造業	愛知県		原価計算・工数管理の業務改善検討
45	東栄管機株式会社	製造業	岐阜県		各支店・営業所における倉庫内オペレーションのDX
46	協和ダンボール株式会社	製造業	岐阜県	株式会社十六総合研究所	データのデジタル化・蓄積手段構築
47	レシップホールディングス株式会社	製造業	岐阜県		データ活用の見える化と業務効率向上に向けた対応
48	株式会社佐野塗工店	建設業	愛知県		施工管理業務の効率化について
49	高山赤十字病院	医療・福祉	岐阜県		データ活用による動線の可視化
50	株式会社フェイス	運輸業・郵便業	富山県	株式会社ジェック経営コンサルタント	灯油配送スケジュールの見直し
51	三陽陸運株式会社	運輸業・郵便業	富山県		不採算路線の受託停止判断指標情報の検討
52	株式会社平成フード	製造業	富山県		品質不具合データを基にした資料の設計
53	日本海給食株式会社	製造業	富山県		食数管理のデジタル化

参加企業および実施内容の概要 -パターン② (2/2)

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
54	株式会社ニッコー	製造業	北海道	株式会社SAMURAI	社内チャットボット開発及び活用ガイドライン整備
55	一般社団法人ファームサポート美郷	農業・林業	島根県		ミニトマト農家の栽培技術の再現化に向けてAIを活用した生産管理体制の構築
56	油谷湾温泉ホテル楊貴館	サービス業	山口県		旅館DX
57	石見銀山みらいコンソーシアム	サービス業	島根県		石見銀山エリアの関係人口可視化と経済圏最大化への検証
58	simasima	サービス業	香川県	株式会社パソナJOB HUB	バックオフィス業務効率化による戦略的時間の創出
59	株式会社サンエスライン	卸売業・小売業	佐賀県	公益財団法人 九州先端科学技術 研究所	機械学習を利用した需要予測モデル開発
60	林ホールディングズ株式会社	建設業	福岡県		生コンクリート輸送におけるAI配車計画システムの検証
61	ことのは税理士法人	サービス業	福岡県		AI×税理士による業務効率化
62	行政書士法人小金丸	サービス業	福岡県		知的資産を組織の競争力に変えるためのDX・AI活用
63	内浜化成 株式会社	製造業	愛知県	独立行政法人 国立高等専門学校機構	成形IoTによる成形条件最適化
64	オタライト 株式会社	製造業	福岡県		プラスチック射出成形工程の可視化及び成形品外観画像検査
65	新日本造機 株式会社	製造業	広島県		切削工具の劣化診断に向けた計測と分析の試みと提案
66	リーフ 株式会社	製造業	福岡県		在宅・介護領域におけるセンシングDXプラットフォーム開発
67	株式会社 是永商会	製造業	福岡県		Next Growth～自走できるシステム開発～「社長ランチごちします。」
68	ザ・ハーモニー 株式会社	医療・福祉	福岡県		認知症コミュニケーションロボットの開発
69	渡辺鉄工株式会社	製造業	福岡県	有限責任監査法人 トーマツ	購買データに基づく購買最適化
70	三和金属株式会社	製造業	福岡県		鉄鋼端材の「資産化」に向けた在庫管理モデルの構築と外販プラットフォームへのロードマップ
71	鹿児島ケース株式会社	製造業	鹿児島県		教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出
72	株式会社ア・トスフーズ	製造業	鹿児島県		AIとデータ活用による生産計画・営業管理の高度化および業務効率化の検討
73	株式会社別大興産	不動産業	大分県		デジタル技術を活用した社内マニュアルの高度化およびアメーバ経営の実現
74	一般社団法人日向市観光協会	サービス業	宮崎県		観光DXを通じた新たな顧客層の開拓

一般社団法人東北風土マラソン＆フェスティバル (サービス業) の取組み事例:「日本で最もデジタルを有効活用したマラソン大会」を実現する

参加者

企業

社名	一般社団法人東北風土マラソン&フェスティバル
業種	サービス業
事業概要	マラソン大会の企画、運営
所在地(都道府県・市区町村)	宮城県登米位置

参加した受講生の概要

チーム名	Runnovate
チーム人数	5人
進める中で工夫したこと	ざっくばらんなプロジェクトの土台作りとして、お互いを「様」付けではなく「さん」付けで呼ぶようにした。

実施概要

課題内容

運営の属人化解消と持続可能な基盤構築

- 運営ノウハウが特定個人に偏っているため、業務の標準化と効率化したい
- 運営リーダー人材が継続的に育成される仕組みを作りたい
- 大会運営の改善を行うための定量的情報を得たい

実施した検討内容

AI・デジタル技術を用いた解決策の検討

- 過去資料をベースに運営マニュアルとQ＆A対応資料を作成支援する仕組みの検討
- ボランティアを起点に運営人材の継続参加を促進する仕組みの検討
- インターネット上の口コミデータの収集、解析

検討の成果

AI・デジタル技術を用いた施策の提案

- マニュアル作成やQ＆A対応資料を生成AIで作成する手法の検証、共有
- ボランティア向け参加記録ウェブサイトをクラウド基盤上で作る仕組みの検証、提案
- 口コミデータを自動収集するスクレイピングツールの作成、共有

一般社団法人くるむ (小売業) の取組み事例：DXによる業務効率化と社会的インパクトの可視化

参加者

企業

社名	一般社団法人くるむ
業種	小売業
事業概要	小さく生まれた赤ちゃん向けの肌着を提供することでお母さんと赤ちゃんの愛情を育むきっかけづくりを進めています。
所在地(都道府県・市区町村)	宮城県仙台市

参加した受講生の概要

チーム名	Swaddle DX
チーム人数	5名
進める中で工夫したこと	ビジョンである「すべての赤ちゃんが祝福と応援に包まれる社会」を常に原点に据え、施策や議論の一つひとつがその実現にどう貢献するかを意識しながら、全員の想いを同じ方向へ束ねる工夫を重ねた。

実施概要

課題内容

活動実績やインパクトの可視化ができていない

- 代表1名での運営によるリソース不足とアナログ管理の限界
- 全国約400のNICU病院へのアプローチが手作業・属人的
- SNS発信が継続できず、支援者への報告が不十分
- 医療機関でのアンケート配布が難しく、フィードバックが得られない

実施した検討内容

データ可視化、発信自動化、アンケート

- Tableauによる活動実績・社会課題の可視化
- Obsidianと生成AIを活用した情報発信の半自動化
- QRコード活用による直接的フィードバック収集

検討の成果

「可視化されたデータ」と「半自動化された仕組み」により、経験や勘に頼らない意思決定と、持続可能な運営体制の土台を築くことができた。

- Tableauダッシュボード、発信運用フロー、アンケート設計書を2ヶ月で完遂
- NICU施設分布、低出生体重児割合の地域差、支援到達率の可視化マップ
- Obsidianによるナレッジ蓄積、生成AIによる草案作成

実施内容詳細・成果および今後の展望

一般社団法人くるむ DX推進プロジェクト

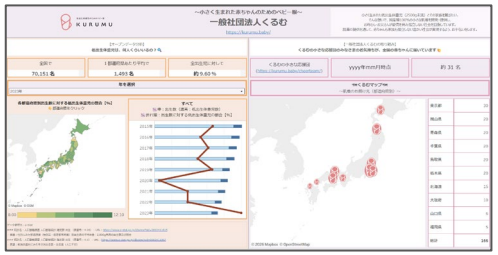
パターン②: データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/初期的な検証

1. 実施内容の詳細 (3つの柱)

① データ可視化　Tableauダッシュボード構築

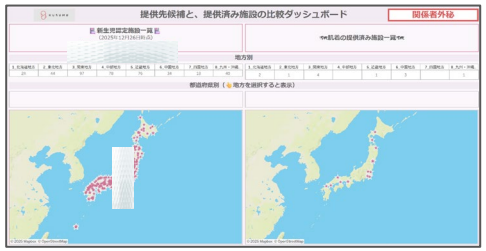
外部向け (啓発・提案用)

・低出生体重児の割合・出生数推移の可視化
・eStatオープンデータの統合分析



内部向け (戦略用)

・施設マスター×提供業績マップの可視化
・ギフト送付先の可視化と未提供エリアの特定



外部向けダッシュボード:
https://public.tableau.com/app/profile/rima.sato/viz/kurumu_sample_dashboard_17686308706980/dashboard?showOnboarding=true

② 発信自動化　発信プロセスの半自動化

Markdownファイルを基に、生成AIで記事を自動作成するアプリを作成
→記事作成の自動化の実現

③ アンケート　三者アンケートによる「声の可視化」と社会実装に向けた評価基盤の構築

背景・課題

- 支援の良さを具体的に伝えるデータの不足
- ご家族・病院・自治体のそれぞれの思いの整理
- これからの協力体制を築くための客観的な材料

「想い」を「データ」として可視化し、活動の価値をより具体的に伝えるための基盤を整える。

実施内容: 三つの視点で声をあつめる

① 当事者 (保護者) 向け調査
肌着に添えたQRコードから。気持ちの変化や、安心につながった点を確認

② 医療現場 (NICU等) 向け調査
現場での使いやすさや、スタッフが感じる必要性をヒアリング

③ 自治体 (行政) 向け調査
今後の協力の形や、地域の支援制度とのつなぎ方を相談

役割に合わせた内容　再利用可能な設問　答えやすさを優先

成果

活動の価値を「想い」だけでなく
「データと声」
で説明できる状態への第一歩

- 三者の声をあつめる基盤が完成
- 活動を客観的に振り返る仕組みを構築

これから

- 学びを深める: あつまった声から支援の形を磨き上げる
- 協力を広げる: 地域や病院へ、活動の意義を伝えていく

2. 具体的な成果と期待効果

定性・定量成果

- ダッシュボードプロトタイプ完成 (代表高評価)
- データ更新業務の標準化 (属人性の解消)
- 自治体提案用の根拠資料・エビデンス準備

期待される効果

→ 交渉力向上: 自治体・病院への説得力UP
→ 工数削減: 発信・管理業務の効率化
→ 品質向上: ユーザーの声に基づく改善

株式会社Interund (中古車販売) の取組み事例: LINE Botによる業務効率化とInstagram活用を通じた集客・運営強化

参加者

企業	社名	株式会社Interund
	業種	中古車販売業
	事業概要	国内外ブランド中古車販売と板金・塗装を行う
	所在地 (都道府県・市区町村)	宮城県名取市
参加した受講生の概要	チーム名	Next IWATE
	チーム人数	4名
	進める中で工夫したこと	企業と密に連携し、LINE Botの機能を現場でも活用できる形で設計した。また、Instagram投稿マニュアルを作成し、誰でも簡単に運用できるようにサポートした。

実施概要

課題内容

- ITの知識が低く、あまり公式LINEもInstagramも活用できていない
- 公式LINEの問い合わせ滞留や時間外の対応の負担
- Instagramの投稿内容に統一性がなく内容も多岐に渡りに閲覧性が低い

➡ **LINE対応の俗人化と業務負担の改善とSNS戦略の再構築**

実施した検討内容

公式LINEの改良/Instagram運用支援

- 自動応答機能、リッチメニュー作成、予約カレンダー導入の検討
- 投稿テンプレートを作成し、グリッド投稿やサービス案内を行うための戦略検討

検討の成果

1. 公式LINEの導入と運用改善:

- LINEの問い合わせに対する自動応答を導入したことで、これまで担当者が休日にしていた返信対応が減少し業務負担を軽減した
- リッチメニューなどの機能を活用し、各種SNSなどへの導線を改善した

2. Instagram運用の改善:

- グリッド投稿のマニュアルや投稿テンプレートにより販売車両情報の発信を行えるようになった

株式会社Interund (中古車販売) の取組み事例: LINE Botによる業務効率化とInstagram活用を通じた集客・運営強化

実施内容の詳細

公式LINEの改修

- リッチメニューの設計・作成
- 営業時間外・定休日・長期休業に対応する自動応答を整備
- 予約対応を効率化するため、予約カレンダー運用 (仮予約→確認→確定) を業務フローとして提案・作成
- 運用中の変則対応 (営業時間変更など) も想定し、設定変更ができる状態に整備

Instagram運用を「やれる形」に落としこみ

- 事業特性 (県外客・現車確認なし購入) を踏まえ、写真・動画で状態が伝わる発信方針を整理
- Canva等を前提に、投稿テンプレートを作成
- 投稿テーマ (在庫紹介／SOLD OUT／サービス紹介など) と運用ルールを整理

各種マニュアル整備による自走化

- LINE Botの運用 (自動応答・応答時間切替など) を手順書・動画でマニュアル化
- 予約カレンダーの「確認→確定」運用を手順書・動画でマニュアル化
- Instagramの投稿手順・テンプレ活用方法をマニュアル化
- 運用全体を「担当が変わっても回る形」に整理

成果

公式LINEの機能の活用と実装

- 作成したリッチメニューの一例

各種マニュアルによる自走の支援

Canvaの投稿テンプレートによりInstagramでの車両情報発信

- テンプレートにより継続した情報発信を行える状態まで支援
- テンプレートから着想を得て、Interund様自身で画像作成・投稿ができるまでに成長

株式会社北洲 (住宅事業) の取組み事例: 既存営業データを活用した営業活動DX支援手法の検討

参加者

企業	社名	株式会社北洲
	業種	住宅事業
	事業概要	建設業・建材流通業、新築戸建事業(本プロジェクト対象)、リフォーム・リノベ事業を東北・関東圏に展開。
	所在地 (都道府県・市区町村)	宮城県富谷市成田
参加した受講生の概要	チーム名	LIVIENCE CONSULTING
	チーム人数	4人
	進める中で工夫したこと	DXの実現に向けて着実に進んでいるが、企業の掲げるミッション (次世代のスタンダードを切り拓く) の特性上、お客様への価値伝達の難易度が高く、ミッション達成により近づくための体制づくりに向けて、受講生の客観的立場から新たな気づきを提案すること。

実施概要

課題内容

営業情報が各種システムやドキュメントファイルに分散し、活動戦略に活用されていない

- 顧客・営業情報は営業社員によるCRMシステムへ入力にて管理を行っているが、単なる入力のみに留まり、日々の探客・追客活動、商談戦略には十分に活用されていない
- 顧客管理、進捗管理、会議データがCRMシステム、スプレッドシート、会議資料に分散しており、紐づけた分析・活用が困難な状態となっている

実施した検討内容

既存データを前提とした活用可能性の整理

- 営業関係部門へヒアリングを実施し、顧客・営業活動管理における現状・課題を整理
- 既に保有しているデータから実現可能な営業活動支援のAIツールサンプルを作成

検討の成果

現場社員の声から課題を可視化し、AIツール案を提示

- ヒアリング結果をもとに、営業活動現場での課題のまとめを実施
- 営業活動支援を目的としたAIツールサンプルをNotebookLMを用いて提案 (過去類似事例を基に "AI営業コーチ"・商談練習可能な "AI商談シミュレーション")

株式会社北洲 (住宅事業) の取組み事例: 既存営業データを活用した営業活動DX支援手法の検討

実施内容の詳細

営業DXに向けた課題を整理し、AIツールサンプルを作成

- 経験値の異なる現場社員を対象にしたインタビューを通じて、探客・追客活動、商談戦略策定、顧客・営業情報管理に関する現状と営業経験別の課題を整理した。
- 追加投資不要で、共通課題を解決するための営業活動AI支援ツール(NotebookLM)の検討を実施した。

インタビュー対象者とインタビュー内容

営業 企画	現状の顧客・営業活動の管理手法 (社内会議内容) の把握 営業活動の今後の方向性・期待感	1人
営業 ベテラン 層	営業活動を通じて認識している自社のポジショニング・強みの把握 営業活動の取り組み内容及び課題感の把握	2人
営業 若手層	営業活動 (特に戦略策定時) における 課題感・欲しい情報の把握	1人

成果

営業現場における課題の整理

以下のような課題を抽出し、1, 2, 3について、データ利活用による改善が可能な課題であると判断し、AIツールサンプルを提示した。

1. **商談時にお客様の状況に応じた情報を出し切れないことによる機会損失**
2. **商談計画に対して、商談後の振り返り不足によるノウハウ蓄積の停滞**
3. **顧客・営業情報の蓄積先の散在により活用性・アクセス性が低い**
4. オーナー様のライフタイムバリューや紹介ポテンシャルを十分に活かし切れていない
5. 顧客との早期接点において、自社の価値・強みである「暮らし提案型」設計の価値を伝えきれていない

営業DX支援のAIツールサンプルの提示

AI営業コーチ(商談前・後)

過去の商談の成功・失敗事例から
商談の”勝ち筋”を体系的に可視化できる

商談シミュレーションAI(商談前)

商談前に想定顧客の興味・関心に応じた
伝え方のロールプレイができる

株式会社タイハク (建設業) の取組み事例：生成AIをフル活用して、バックオフィス業務の可能性を広げる!!

参加者

企業	社名	株式会社タイハク
	業種	製造業
	事業概要	生コンクリートの製造販売及び資材販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	宮城県名取市
参加した受講生の概要	チーム名	ゆとりクリエイターズ
	チーム人数	5名
	進める中で工夫したこと	支援候補選定時、タイハク様のゆとり創出の為に、各メンバーの「できること」「トライしたいこと」を話し合い、担当決めを行ったこと。

実施概要

課題内容

業務効率化やDX推進には改善の余地が数多く、生成AIを活用してこれらを進めたい

- 人材確保と企業ブランドの向上
- 総務課を起点とした属人化の解消
- 多忙な現場に定着する簡易な運用
- 生成AI活用による実務負荷の軽減

実施した検討内容

支援候補仮説について、現地にて現場の方々との会話し、対象の絞り込みを行った

- 組織難易度・ゆとり創出度などで評価を行い、支援対象を「新人戦力化」「受注業務効率化」「請求書発行効率化 (価格計算の自動化) 」に絞り込み
- 実際に動くモノを作成し、現場で触ってみていただくことで、効果を測る実証実験を行った

検討の成果

すべての取り込みで「ゆとり創出」の可能性を確認することができた

- 「新人戦力化」においては、現場より「使用感がとても良い」との評価をいただいた
- 「受注業務効率化」においては、経営層の意向と合致しているとの評価をいただいた
- 「請求書発行効率化」においては、システム担当より「将来的な工数削減の可能性」「取り組みを前に進めるきっかけとなる」との評価をいただいた

株式会社タイハク (建設業) の取組み事例: 生成AIをフル活用して、バックオフィス業務の可能性を広げる!!

実施内容の詳細

コールセンター新人戦力化

- 【課題】お客様特有の現場略称や専門用語で受注を受けると、新人が正確な受注情報の理解が難しい状況
- 【アプローチ】AIによる音声解析により、重要単語をデータドリブンに抽出。新人研修の効率化と社内ノウハウの共有を促進する。

コールセンター受注業務効率化

- 【課題】電話対応時の手書きメモを受注システムに転記入力しているが、入力ミスや時間のロスを削減したい。
- 【アプローチ】AIによる音声認識からのテキスト化や要件自動抽出で、受注業務の迅速化とミス削減を目指す。

請求書発行効率化

- 【課題】請求書の明細情報は様々なソースから多くの転記入力により行われているため、入力やそのチェックに時間がかかっている。
- 【アプローチ】AI-OCRを含む経理業務の自動化 (転記作業の軽減とオプション価格計算の自動化) で、業務負荷軽減とミス削減を図る。

成果

すべての取り込みで「ゆとり創出」の可能性を確認することができた。

- 【コールセンター新人戦力化】
  - 実際の受注録音データ (100通話分) をご提供いただき、AIによる音声・テキスト変換により、重要単語を抽出。
  - AIで抽出した重要単語に関する辞書形式のデジタルアプリを開発。
  - 現場にて、「アプリの使用感がとても良い！」「社内の資格試験勉強への活用等、多分野への展開もイメージできた！」などの評価をいただいた。
- 【コールセンター受注業務効率化】
  - 通話音声をリアルタイムにテキスト化し、同時に注文に必要な情報を抽出・整理して表示できる機能を持ったWEBアプリを開発。
  - 提供いただいているデータより、特殊な単語や固有名詞を登録することで変換の精度をあげることができた。
  - 経営層より、こういうことがやりたかったと評価をいただき、DX推進に弾みをつけることができた。
- 【請求書発行業務効率化】
  - 最終的な請求書作成用のデータと請求書発行業務で用いられるインプット情報をご提供いただき、請求額計算ロジックを解析。
  - 紙帳票のPDF画像を生成AIで読み取りするスクリプトの開発とインプットデータから請求額を自動計算するプログラムを開発。
  - PDF画像の読み取りスクリプトは、精度が上がらず代替案の提案を行った。
  - 自動計算プログラムは、情報システム担当より「将来的な工数削減の可能性」「取り組みを前に進めるきっかけとなる」との評価をいただいた。

株式会社アングルクリエイト (複合サービス事業) の取組み事例: 生成AIを活用したコンテンツ制作プロセスの効率化

参加者

企業

社名	株式会社アングルクリエイト
業種	複合サービス事業
事業概要	BtoBマーケティングの支援
所在地 (都道府県・市区町村)	東京都港区

参加した受講生の概要

チーム名	ブリッジ同盟
チーム人数	6名
スキル・PR	マーケティング x テック融合チーム
進める中で工夫したこと	記事制作プロセスを機能単位でモジュール化し、並行開発と段階的な検証を実現

実施概要

課題内容

記事制作における属人化の解消と工数削減

- 記事制作の取材・執筆・校正・チェック工程に時間がかかっている
- 経験則に頼る作業が多く標準化ができていない
- 生成AIを活用して制作プロセスを効率化し、工数を削減したい

実施した検討内容

記事制作の現状プロセスを分析しAI活用による効率化ポイントを特定

- 記事制作ワークフロー全体を可視化し、各工程の工数と課題を整理
- インタビュー文字起こしデータと過去記事を学習データとして活用
- 記事制作ワークフローを分析し、AI代替可能な工程を検討

検討の成果

プロトタイプを作成し、記事制作プロセス効率化の実用可能性を提示

- Difyを活用した6つの業務支援ワークフローのプロトタイプを開発
- 自走のためのDify環境引き継ぎ

株式会社アングルクリエイト (複合サービス事業) の取組み事例: 生成AIを活用したコンテンツ制作プロセスの効率化

実施内容の詳細

AI×人間の役割分担による記事制作ハイブリッドワークフローの設計

- 記事制作プロセス全体を「企画・調査」「執筆・構成」「確認・校正」の3フェーズに整理し、各フェーズでのAI/人間の役割を定義
  - 【AI】競合記事リサーチ、タイトル案提示、粗稿作成、ファクトチェック
  - 【人間】切り口の決定、取材実施、独自情報追加、最終判断
- 「AIは決定しない。提案と指摘を行い、人間が判断する」を設計思想として6つのワークフローを開発
- 週次フィードバックサイクルにより、現場ニーズを即座に反映

6つのワークフロー一覧

No.	ワークフロー名	フェーズ	役割
1	タイトル提案	企画・調査	競合記事リスト＋タイトル案で企画を支援
2	インタビュー記事作成	執筆・構成	インタビュー記事の初稿を自動生成する（下書き）
3	ファクトチェック	確認・校正	事実確認をチェック
4	記事生成統合ワークフロー	執筆・構成	対話を通じた記事作成・品質スコアリング
5	コンプライアンスチェック	確認・校正	法的・表現リスクをチェック
6	執筆原稿の評価	確認・校正	自社記事と競合を比較し、強み・弱みを可視化

成果

「作業」をAIに、「創造」を人間に——協働モデルの実証

- Difyを活用した6つの業務支援ワークフローを開発
  - ①タイトル提案
  - ②企業インタビュー原稿作成
  - ③ファクトチェック
  - ④統合ワークフロー
  - ⑤コンプラチェック
  - ⑥執筆原稿評価
- 企業からの高い評価: 業務変革への手応え
  - 探索コストの最小化 (クローリング不要のリサーチ体制)
  - 意思決定の迅速化 (AIによる多角的なオプション提示)
  - 組織的な業務遂行 (ワークフロー化によるタスク委譲の実現)
  - 品質管理の高度化 (自動検証による正確性の徹底担保)
- 企業環境へのDify環境引き継ぎを完了し、自走可能な状態を構築

「作業」をAIに、「創造」を人間に

AIを”作業パートナー”にすることで、編集者が”企画・取材・独自視点”に
より多くの時間を使える未来を目指しました。

工数（試算）	ワークフロー	品質	チェック
120-140h→約65h (▲約50%)	6ワークフローを設計・実装	品質スコアリング機能を実装	ファクト/コンプラチェックを実装

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社EXIDEA (Webメディア) の取組み事例：提案書資料生成AIエージェント

参加者

企業	社名	株式会社EXIDEA
	業種	情報通信業
	事業概要	10超の自社メディア運営 マーケ支援等を提供
	所在地 (都道府県・ 市区町村)	東京都中央区
参加した 受講生 の概要	チーム名	えんどん
	チーム人数	6人
	スキル・PR	DX・経営支援・IT講師、 エンジニア、情シスなど 幅広いメンバーです！
	進める中で 工夫したこと	複雑な設計は除外し、調査・ 分析に特化。入力の簡便さと 実用的な品質を両立させた

実施概要

課題内容

- **営業の工数負荷** 事前調査や資料作成における手作業の繰り返しが多く、担当者の負担
- **売上拡大に向けた生産性向上** 限られたリソースで成果を最大化するため、作業工数を削減し、高付加価値業務への集中が必要
- **自動化によるプロセス刷新** 人力依存を見直し、生成AI等の活用で業務の標準化と効率化を図る

実施した検討内容

- **対象業務の選定** 実現性と効果から、自動化対象を「初回訪問資料」と「提案書」作成に特定
- **自動化フローの設計** 顧客名等の入力で、Web調査から資料化まで行うAIフローを構築
- **要件の最適化** ヒアリングに基づき、複雑な設計は除外。効果の高い課題整理等に機能を絞り込み

検討の成果

- **初回訪問資料の完全自動化** 企業名入力のみで、Web調査から方針立案、資料化する仕組みを確立
- **提案書作成の効率化** 議事録等を基に、顧客課題、対応方針、競合調査の自動生成に成功
- **品質標準化と工数削減** 調査/仮説構築をAIが代替。準備工数の削減と品質均一化を実現

株式会社みんせつ (IT) の取組み事例: IR担当者業務代行向けAIエージェントPoC

参加者

企業

社名	株式会社みんせつ
業種	IT
事業概要	企業のIR部門と機関投資家・証券会社をつなぐプラットフォームを運営
所在地 (都道府県・市区町村)	東京都中央区 日本のウォール街「兜町」

参加した受講生の概要

チーム名	AIキッカーズ
チーム人数	6名
スキル・PR	システムエンジニア、データサイエンティスト、コンサル、事業企画などバラエティに富んだメンバー構成
進める中で工夫したこと	①使えるものを残す現場主義 ②それぞれのやりたいことを重視した役割分担

実施概要

課題内容

企業IR担当者が行う業務 (投資家や証券会社との日程調整など) を代行するBPO事業担当者の業務を補助する「AIエージェント」の試験を行うこと

- 投資家ごとに存在する様々なルールやコンテキストを考慮したサポートが必要である
- 大資本のクライアントが増加するフェーズであり、その実用に堪えられるものにすること
- ビジネス上の中期目標は、この事業において、同じ担当人数で顧客数を5~6倍に増やすこと

実施した検討内容

企業と投資家との面談調整業務の初動メール返信の自動作成エージェントの作成及びその精度検証を実施した

- 本プロジェクトの期間も考慮した実現難易度とビジネス上のインパクトより、総合的にスコープを判断、協働企業様と合意
- 複数ツールを同時並行で検証し、最終的にn8nにて実装した

検討の成果

対応工数約80%削減の見込み (1件あたり5分→1分以内へ短縮)

- 情報抽出精度: LLM処理項目95%以上、システム取得項目100%を目標として設定
- ステージング環境での実証を経て本番移行準備が完了。対応可能企業数を5〜6倍 (4社→20〜30社) に増やす基盤を構築し、ビジネス目標達成に大きく寄与

株式会社みんせつ (サービス業) の取組み事例: AIによる自動応答のリアルタイム監視と品質補正

参加者

企業

社名	株式会社みんせつ
業種	サービス業
事業概要	企業のIR部門・機関投資家・証券会社がつながるプラットフォームの運営
所在地 (都道府県・市区町村)	東京都・中央区

参加した受講生の概要

チーム名	セーフティーズ
チーム人数	4名
スキル・PR	生成AIのPoCプロジェクト経験あり・証券業界のドメイン知識あり
進める中で工夫したこと	「生成AI案件」であることを重視した異次元のスピード感

実施概要

課題内容

「照会応答業務のAI化」の概念実証

- 特定用件の問い合わせに対して、情報受領や追加の確認などの定型的な返信文面を作成する。その際に、裁量を逸脱したり文脈に沿わなかったりする不適切な回答を事前に検出し、ブロックしたい。

実施した検討内容

モダンな生成AI事例・トレンドを分析し、「多層的」な防御策を検討

- 外部的なガードレールよりも先に、**モデル内部で内省・熟考し、業務要件に沿った回答を生成するための自律的 (Agentic) な仕組み**を検討
- 生成文面を**外部的に評価・監督する別のモデル**を検討 (LLM-as-a-judge)

検討の成果

業務内容を分析・反映した自律的AIを作成し、マルチエージェント化

- 業務データを分析し、担当者の**ルーブリック** (判断基準) を抽出。構造化されたプロンプトによって、回答品質が大幅に向上した
- 作業者と監督者を分担した**マルチエージェント**のプロトタイプを作成

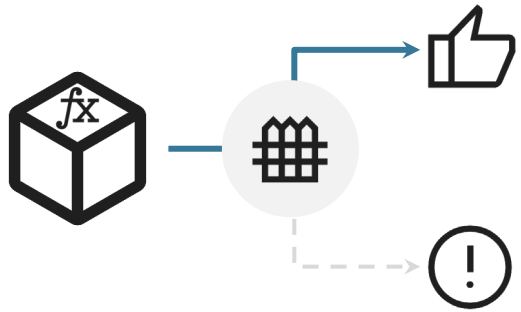
株式会社みんせつ (サービス業) の取組み事例: AIによる自動応答のリアルタイム監視と品質補正

実施内容の詳細

「照会応答業務のAI化」をPoC

- 特定用件の問い合わせに対して定型的に返信する業務をAIによって置き換えられないかを実証実験した。

- その際、**不適切な応答をあらかじめ検知し、ブロックする仕組み**を重点的に検討した。



成果

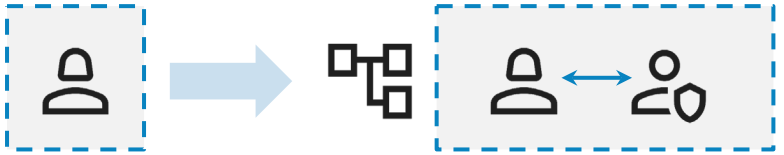
構造化プロンプトによるエージェンティック・マルチエージェントを構築

- 最初に、業務データを安全に取り扱うためのセキュアな開発環境を設計・構築。
  (Amazon VPC上で完結する、データの外部持出不可のワークスペース)

- 次に、開発環境内で業務データを分析し、照会応答業務履歴から**ルーブリック** (人間による判断基準) を抽出。
  RISENフレームワークをベースとしてプロンプトを構造化することで、
  回答品質の向上 と **思考 (Reasoning) 経路の透明化** を同時に実現した。

R: Role (役割)
I: Instructions (指示)
S: Steps (手順)
E: End Goal (目的・期待する成果)
N: Narrowing (制約・絞り込み)

- 品質監査を行う**監督者** (Supervisor) と**作業者** (Worker) を明示的に分担するために**マルチエージェント**構成に改編し、プロトタイプアプリ・仕様書を連携した。



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社JIYU Laboratories (情報通信業) の取組み事例: セマンティック検索システムの構築

参加者

企業	社名	JIYU Laboratories, Inc.
	業種	情報通信業
	事業概要	研究DX (電子実験ノートなど)「Jikken Note」(jikken-note.com)
	所在地 (都道府県・市区町村)	東京都港区
参加した受講生の概要	チーム名	SakuSaku
	チーム人数	5名
	スキル・PR	地域協働初参加 1名、経験者4名 ソフトウェアエンジニア、機械系技術者、マーケティングなど、さまざまな専門性を持ったメンバー
	進める中で工夫したこと	機密保持の観点でデータセットの入手が難しかったため、さまざまなFakeデータセットの作成、RAGシステムの構築と評価を行い、チームで役割分担しながら、精度向上施策を検討した

実施概要

課題内容

既存検索手法の限界による研究効率の低下

- キーワード検索では表記ゆれや同義語による検索漏れが起きやすく、過去の重要な知見を十分活用できていなかった。
- セマンティック検索etc. 検索性能の向上を図りたい。

実施した検討内容

多角的な検索手法を組み合わせたRAG構築

- 生成AIを活用した高品質Fakeデータの作成
- プロトタイプを用いたUI/UXの早期検証
- 定量的な精度評価の実施

検討の成果

高精度なセマンティック検索を実現する技術要素の特定

- 検索意図に応じた最適なパイプラインの確立
- 精度、速度、コストのバランスを考慮したアーキテクチャの導出

株式会社JIYU Laboratories (情報通信業) の取組み事例: セマンティック検索システムの構築

実施内容の詳細

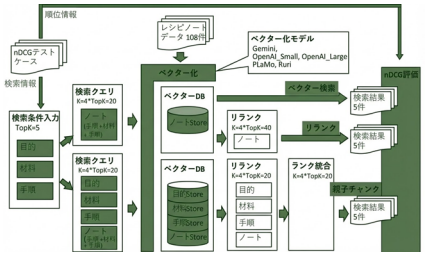
実データの代替となるFakeデータを生成AIで整備
多角的な検索手法を用いたRAG基盤を構築・検証

- **生成AIを活用した高品質Fakeデータの作成と正規化処理の実装**
  実データの代替として、生成AIを活用して「表記ゆれ」を含む高品質なFakeデータセットを構築。併せて用語の正規化辞書を作成し、データ前処理工程に実装した。
- **多角的な検索手法を組み合わせたRAG構築**
  キーワード検索 (完全一致) とベクトル検索 (意味検索) を併用するハイブリッド検索パイプラインを構築。加えて、文書構造を保持する「親子チャンク」方式で文脈理解精度を高めた。
- **プロトタイプによるUI/UX検証、定量的な精度評価**
  操作性を考慮したプロトタイプを早期開発し、検索順位の妥当性指標 (nDCG) を用いた定量評価を実施。ユーザー視点での改善サイクルを回した。

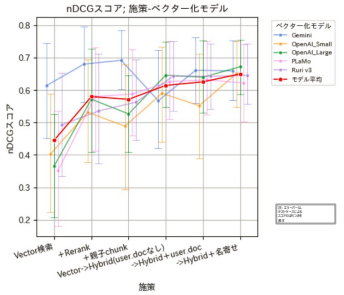
成果

「複合的な技術要素の統合により高精度な検索を実現し、実用化に向けた最適解 (アーキテクチャ) を導出」

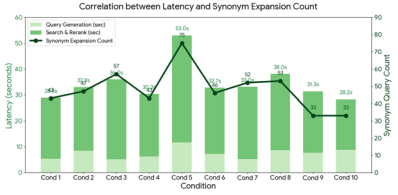
- **高精度なセマンティック検索を実現する技術要素の特定**
  正規化、ハイブリッド検索、親子チャンク、Re-ranking等の技術を統合的に検証。単一技術では困難な「専門用語」と「文脈」の双方を捉える高精度な検索構成を特定した。



- **検索意図に応じた最適なパイプラインの確立**
  検索者の「意図」との合致度を測る指標としてnDCGを導入し、客観的な性能評価体系を確立し、AIを活用して生成した正解パターンをもとに性能評価を実施した。



- **精度、速度、コストのバランスを考慮したアーキテクチャの導出**
  精度と応答速度・コストのトレードオフを定量的に検証。実運用に即した階層的アーキテクチャを策定した。



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社JIYU Laboratories (情報通信業) の取組み事例: 実験情報の抽出モデル開発のPoC

参加者

企業	社名	株式会社JIYU Laboratories
	業種	情報通信業
	事業概要	研究DX (電子実験ノートなど)「Jikken Note」(jikken-note.com)
	所在地 (都道府県・市区町村)	東京都 港区
参加した受講生の概要	チーム名	JIYU-JIZAI
	チーム人数	6名
	スキル・PR	多種多様な業界経験者と現役研究生が所属。現場の知識・スキルをフル活用
	進める中で工夫したこと	個人ワークの中でも試行アイデアを共有し、多角的な視点を引き出した

実施概要

課題内容

実験ノート作成の負担軽減

- 過去の関連論文を長時間読み込んで実験手順を作成
- 構造化されていない実験記録から、電子実験ノートに手作業でデータ入力

実施した検討内容

実験手順の自動生成モデルと実験情報の抽出モデルの検討

- LA-Bench 2025に参加し、高精度な実験手順生成の方法を模索
- 非構造実験記録からの実験情報の抽出手法を検討
- 活用現場に即した両モデルのUI化

検討の成果

実験手順自動生成モデルの開発

- 実験手順に必要な、より具体的な条件抽出を「プロンプト」、「有効な参考情報」、「推考プロセス」の3面からアプローチ (RAGを活用した推考モデルを実装)

実験情報の抽出モデルの開発

- 実験手順生成モデルの技術を応用し、WordやPDFデータから実験ノートの項目を抽出するモデルを開発

株式会社JIYU Laboratories (情報通信業) の取組み事例: 実験情報の抽出モデル開発のPoC

実施内容の詳細

実験手順生成の精度向上に向けた数多の試行

- プロンプトエンジニアリング
- ウェブスクレイピング
- データ品質の確保
- 推考プロセスの模索
  (反復推論、自己改善 等)

実験情報抽出モデルへの応用

- **非構造テキスト**から情報項目を抽出
- 実験ノートに合わせて**再構造化**
- **使い勝手**を考えるUIの設計

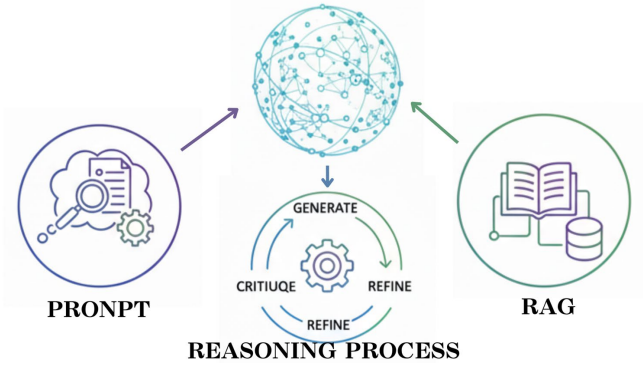
恵まれたベース環境

- 各メンバーが個別に試行し、**生成実験を大量に実施**
- 週次MTGで「**良かった点**」・「**課題**」を全員で共有
- **研究分野へのドメイン知識**をメンバー間で補完

成果

実験手順自動生成モデルの開発とUI実装

「試行と改善を重ね、プロンプト・推考プロセス・データ品質を磨き上げた」



目的・制約・領域知識を明示したプロンプト

推考プロセスの確立 **(生成→批評→修正)**

RAGによる参照プロトコル検索

実験情報の抽出モデルの開発とUI実装

- ❑ PDF・Wordなど多様な形式から重要項目を**自動抽出**できるように
- ❑ **機密情報**への不安を**ローカル実行**モデルの採用により払拭
- ❑ 研究者が**コア業務に集中**できる環境づくりに寄与

多様な背景をもつメンバーの知見を統合

データ解析・研究現場・UI開発・LLM応用のノウハウを持ち寄り
チーム知を活かしたモデル改善が実現

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社NEWGREEN (農業 x TEC) の取組み事例: AI, Notionを活用した農業支援サービスのUI/UXデザイン

参加者

企業	社名	株式会社NEWGREEN
	業種	農業 x テクノロジー
	事業概要	生産性向上と環境負荷低減を軸に農業者に必要なサービスを創造・提供
	所在地(都道府県・市区町村)	東京都港区
参加した受講生の概要	チーム名	未来種
	チーム人数	6名
	スキル・PR	マネジメント、エンジニアリング、デザインに強いメンバーが集まったチーム
	進める中で工夫したこと	Slack・オンラインMTGを中心としつつ、対面でのワークショップを行い、丁寧な要望のヒアリングを行った

実施概要

課題内容

契約農業者との効果的なコミュニケーションの確立

- 農作業タスクを適切なタイミングで実行する為の仕掛けの構築
- 異常を検知し適切な対応を農業者に要請するための効果的な方法の確率
- Q&Aを含むやりとりの履歴管理 (LINEを使っていたが課題ありだった)

実施した検討内容

農業者とのコミュニケーションツールの検討

- 既存の農業支援サービスで扱うデータ、農業者とのやりとりの調査
- コミュニケーションツールと既存システムとの役割分担の検討
- 情報をコンパクトに表すUIの検討 (信号機、集約表示、ドリルダウン 等)

検討の成果を実装したコミュニケーションツールを制作

Notionを活用した農業者とのコミュニケーションツールの制作

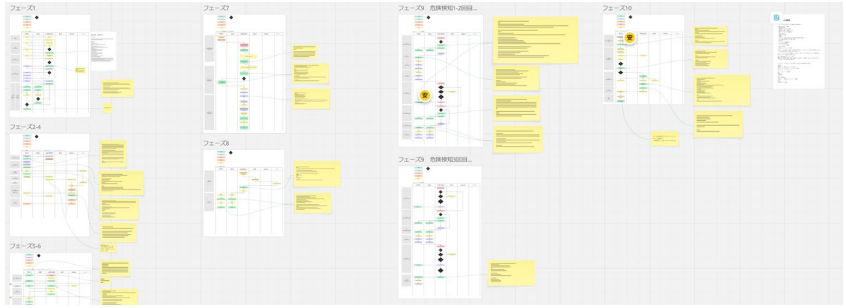
- 多くの情報をコンパクトに提示し煩雑に見えないUI/UXの実装
  - Notion画面を制作しながらやりたいこととの整合を試行錯誤
  - 既存サービスからNotionに情報を流すAPI連携の試行
  - Notionでトリガーを生成しLINEに通知する仕組みの検証

株式会社NEWGREEN (農業 x TEC) の取組み事例: AI, Notionを活用した農業支援サービスのUI/UXデザイン

実施内容の詳細

作業や情報の流れをフロー図に可視化し整理

- 農業者とのやりとりがどのように発生しているのか、今後どうしたいのかをオペレーションフローとして整理



Notionを用いたコミュニケーションツールの制作

- 企業側は実現したいことを具体化しチームに伝え、
  チーム側はそれを実装イメージに落とし込み提示、
  それを見て企業側はさらに解像度を上げて要求を整理、
  というサイクルを回しながらツールを段階的に制作

関係者一同を集めた対面ワークショップ開催

- 企業側関係者・チームメンバーがリアルに集まり、1日集中して議論するワークショップを開催し仕様を最終化

成果

コミュニケーションのAsISとToBeからコミュニケーションツールを具体化

1. **農業者にとって分かりやすいUI/UX設計**
   - ➔ ステータス信号を用いた「タスク進捗」および「圃場の異常検知」の直感的な可視化
   - ➔ 日毎の作業負荷を把握できる仕組みなど、農業者に寄り添うUIとなるよう設計

2. **外部システムとの技術検証・連携**
   - ➔ 既存の農業支援サービスとのAPI連携によるデータ取得とNotionへのデータ反映の検証
   - ➔ Notionに登録されている予定タスクのリマインドをLINEに通知する技術検証

3. **オペレーションフローに沿ったツール画面の具体化**
   - ➔ 農業者からの変更申請や問い合わせ用ページ、およびサポート側の管理画面の設計
   - ➔ 圃場や農業者情報、タスク情報を管理するためのデータベース構造の設計

PC画面

スマホ画面

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

日精サービス株式会社 (飲食サービス業) の取組み事例: フードロス削減に向けた需要予測とメニュー最適化の取り組み

参加者

企業	社名	日精サービス株式会社
	業種	運輸業・飲食サービス業 複合サービス業
	事業概要	企業内食堂や企業配達弁当を行う飲食サービス業
	所在地 (都道府県・市区町村)	新潟県長岡市
参加した受講生の概要	チーム名	フードロス研究会
	チーム人数	5名
	スキル・PR	データサイエンティスト、エンジニア、長岡市と縁のあるメンバーなど多岐に渡るメンバー構成
	進める中で工夫したこと	定例会やWEB懇談会、企業訪問などで問題点の考察・ヒアリングを重視した

実施概要

課題内容

企業食堂における食品ロスを最小化

販売実績データを元にAIで食品ロスと売切れ損失を最小化する

実施した検討内容

企業食堂における食品ロス削減という課題を以下のステップに分解し検証

Step1: 利用者数予測 (その日に、何人が利用するかを予測)
Step2: 最適分類食数予測 (利用者数予測結果に対し、定食・麺・丼などカテゴリ別の食数を予測)
Step3: 最適メニュー組立 (具体的なメニューの組み合わせを決定)

検討の成果

精度の高い利用者数予測モデルを作成

Step1 (利用者数予測) において
既存の方法より高い予測精度のモデルを作成し、活用を議論できる段階に到達

日精サービス株式会社 (飲食サービス業) の取組み事例: フードロス削減に向けた需要予測とメニュー最適化の取り組み

実施内容の詳細

利用者の需要分析、モデルの構築と比較

フードロス削減の前提として、まず利用者数を正確に把握することが重要と考え、現実的に検証可能な Step1 (利用者数予測) を本流として検討した。また過去の実績データを用いて、以下の分析および比較を実施した。

需要分析

- 予定数と実績の乖離分析
- 時系列トレンド分析
- 天候と需要の相関分析
- 曜日別需要パターン
- 稼働日別需要パターン

モデルの性能比較

上記分析結果を前提に
本社実績を予測対象とし、
5つの機械学習アルゴリズムを構築・比較した。

モデル	MAE(食)	RMSE(食)	R^2
従来手法	19.4	25.1	0.844
LightGBM	13.1	18.0	0.893
ランダムフォレスト	14.2	22.0	0.841
リッジ回帰	18.4	24.2	0.808
線形回帰	19.4	25.4	0.788
Prophet (時系列予測)	20.3	25.6	0.786

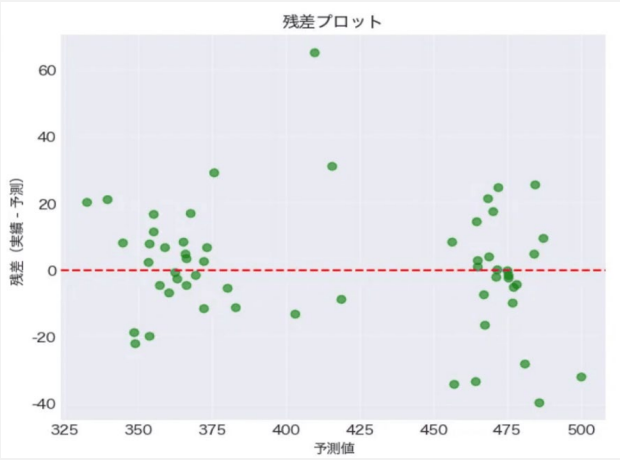
成果

高精度の利用者予測モデル構築と検証

テストデータにおけるモデル性能比較の結果

従来手法と比較しLightGBMは予測誤差を約3割低減し、食数決定に活用可能な精度水準に到達したことが確認できた。

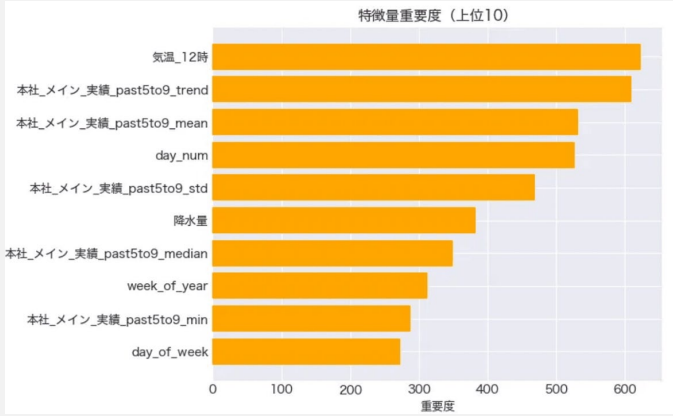
残差プロットを用いて、予測結果に大きな偏りがないことを確認した。
また、特徴量重要度にてモデルの妥当性と解釈性を確認した。



PoCの実施

モデルを動作させ、
一週間分の喫食数を予測
活用可能性を立証した。

モデルのマニュアル作成、
研修を実施した。



株式会社羽吹組 (建設業) の取組み事例: 出面 (でづら) 表の自動集計の検討

参加者

企業	社名	株式会社羽吹組
	業種	建設業
	事業概要	公共土木工事が主体、道路改良、河川護岸、堰堤、山岳などが多い
	所在地 (都道府県・市区町村)	新潟県南魚沼市
参加した受講生の概要	チーム名	エニグマDX
	チーム人数	1人
	スキル・PR	デジタル化・DX推進の上流工程とデータ分析に強み
	進める中で工夫したこと	企業の方と共にアジャイル開発を行う意識で進めた 生成AIを活用することで、効率的にプロジェクトを進めた

実施概要

課題内容

出面 (でづら) 表の自動集計

- 羽吹組様はDXへの取組みを開始したフェーズ (2025/6月にDX認定取得) 。この中で、工事作業日報など、紙で記入する書類が多い状況に課題意識があり、この部分のデジタル化に取り組んで欲しい、との要望を頂いた

実施した検討内容

業務と課題の整理を行い、現場用アプリとバック事務を処理するExcelの開発を提案

- 建設業デジタル化の実態調査や現地訪問を含めたヒアリングなどを通じ、状況を確認
- ヒアリングと提供データなどを基に、業務と課題を整理
- 現場用アプリとバック事務を処理するExcelの開発によりデジタル化を進めることを提案

検討の成果

上記デジタル化提案のPoCを実施し、提案の実現性を確認

- 現場 (オフライン環境) で利用できる、工事作業日報の入力用アプリを開発
- 上記アプリの入力データを起点に、バック事務 (出面表、有給休暇、工事別人件費、建退協掛金などの集計) を自動化する仕組みをExcelで構築
- 実際に利用される方に見て頂き、実用性について高い評価を頂いた
- 今後、休暇届を起点とした有給休暇管理等、対象範囲を拡張するプランを提案

株式会社羽吹組 (建設業) の取組み事例: 出面 (でづら) 表の自動集計の検討

実施内容の詳細

【1】業務実態調査と課題の可視化

- 業務実態の調査
  - はじめに、ヒアリングと現地訪問を行い、業務の実態把握に取り組んだ (現場も拝見することで、紙に優位性がある業務 <例: KY日報> の存在に気付けた)
  - 並行してデータ (工事作業日報、バック事務データ) を確認
- 課題の可視化
  - 調査結果を踏まえ、現場用アプリとバック事務を処理するExcelの開発を通じたデジタル化に取り組むのが良いと判断。羽吹組様と課題と取組方針を共有

【2】現場用アプリとバック事務処理Excelの開発 (PoC)

- 現場用アプリの開発
  - 開発基盤は、オフライン環境への対応、ノーコード開発、無料で試せる、といった利点からGoogle AppSheetを選択
  - 「今より便利に」を意識し、入力の効率性などインターフェース向上に配慮
- バック事務処理Excelの開発
  - 現在の業務処理との連続性、羽吹組様のIT環境を踏まえ、Excelでの開発を選択。現場用アプリからのデータを起点に、出力帳票作成まで自動処理できる仕組みを開発した
  - 工事別人件費は複雑な計算処理だったが、生成AIを活用し、効率的に解析と実装を進めた

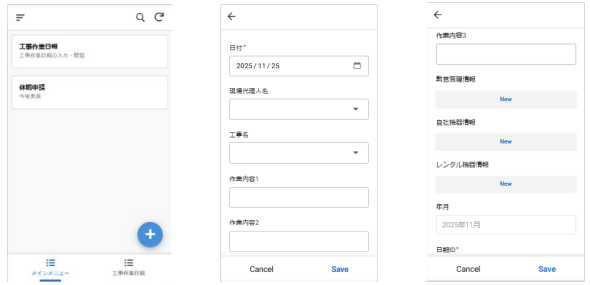
成果

【1】PoCによるデジタル化提案の実現性の確認

現場用アプリのプロトタイプ完成

- 本アプリが、実装され定着が進むことで以下の効果を期待できる
  - ✓工事作業日報の紙管理からの解放
  - ✓記入作業の負担軽減
  - ✓紙からPCへの入力作業の解消
- 現場責任者にプロトタイプを見て頂いたところ、**「これはすごくいい! (今からでも) この方式でやりたい」**との反応を頂いた

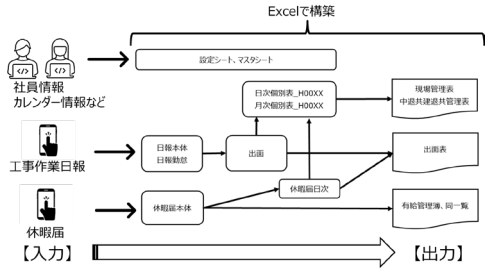
【現場用アプリの画面例】



バック事務処理Excelのテスト版完成

- 本Excelが本番で運用され、業務処理の改善が進むことで、以下の効果を期待できる
  - ✓現場用アプリとの連携や同一データの複数回入力解消を通じた業務量軽減
  - ✓Excel構造の簡明化を通じたメンテ負担軽減
  - ✓可視化による業務の属人化解消
- バック事務を一手に担う部長に見て頂いたところ、**「なんでこんなすごいことができるの?!」**との声を頂いた

【バック事務処理のフロー図】



【2】継続的なDX推進の道すじ構築

- 本取組みの本番運用に向けた準備とその後の展開 (協働の継続)
  - 実データでのテストなどを通じブラッシュアップし、本番運用を目指す
  - アプリ名称を投票で決めてもらうなど、みんなで進めるDXを体現する取り組みを進める
  - 休暇届のアプリ対応や出勤簿の作成自動化など、さらなる展開も検討する

株式会社和井田製作所 (精密工作機械製造業) の取組み事例: 来客対応のデジタル化とAI・自動化活用の推進

参加者

企業	社名	株式会社　和井田製作所
	業種	精密工作機械製造業
	事業概要	精密工作機械 (特殊研削盤) の開発・製造・販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	岐阜県高山市片野町
参加した受講生の概要	チーム名	Re:frame
	チーム人数	6人
	スキル・PR	ITコンサル、システム開発、PM、WEBマーケ、メーカー技術者等の多才な経歴が集まったチーム
	進める中で工夫したこと	企業様とのMTG直後にチームMTGを設定し即座に対応策を検討することでスピード感をもって活動に取り組んだ

実施概要

課題内容

慢性的なアナログ業務を解消し注力すべき付加価値業務へのリソースを創出したい

- 来客対応業務の負荷大、管理の仕組み不足
- 採用業務の調査・分析が手作業で属人化されている
- 煩雑な申請・承認・管理業務に追われ、付加価値業務への時間が不足している

実施した検討内容

ヒアリングを通じて課題整理し、コスト・効果に基づき４テーマに取り組んだ

① 来客対応の一元化 (アプリ開発)
② DX勉強会
③ 転記の自動化
④ 既存ツールの活用検討

検討の成果

デジタル化への土台を構築し、AI・自動化の活用を促進

① 情報一元化のためアプリ化を提案。画面イメージを共有しながら仕様を策定
② デジタルツール活用促進へDX勉強会を開催。実務に即したAI活用マニュアルを提供
③ 簡易的ソフト (Python) によるデータ転記を実演
④ 導入済みのdesknet's NEOの機能を調査して更なる活用案を提示

株式会社和井田製作所 (精密工作機械製造業) の取組み事例: 来客対応のデジタル化とAI・自動化活用の推進

実施内容の詳細

ヒアリングを通じた課題の整理と解決策の実行

現状把握

課題の整理
- 業務フローの理解
- 総務部長、総務実務担当にヒアリング
- 業務フローの分析により課題の整理、設定

打ち手の検討

整理した課題に対して打ち手を検討
- アプリ化
- 生成AI
- Python
- 既存ツール活用
- チャットボット

解決策の実行

コスト、効果に基づき４テーマに絞り込み、実行
① 来客対応業務のデジタル化
② DX教育
③ 転記の自動化
④ 既存ツールの活用検討

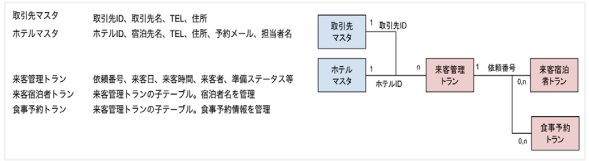
成果

アプリ化への仕様策定、DX勉強会の開催、転記の自動化デモなどを通じて **デジタル化への土台を構築し、AI・自動化の活用を促進**

テーマ	現状の課題・問題	解決案・実施内容	使用ツール	コスト/難易度	期待効果
① **来客対応業のデジタル化**	・手配状況の管理が属人化。 ・内容変更が電話やメールの伝達で手配ミスのリスク。	**・アプリ化による一元管理 (実運用への仕様策定)**	・Power Apps ・Power Automate	**低 / 高 (継続学習が必要)**	手配ミスを抑制。 情報一元化により属人化を解消。
② **DX勉強会**	・最新技術の知識不足。 ・採用情報調査に工数大。	**・DX勉強会の開催** **・実務AI活用マニュアルの提供**	・生成AI ・Python ・Power BI	**低 / 中 (継続学習が必要)**	工数削減。 デジタル障壁の払拭。
③ **転記の自動化**	・各帳票受付時のリスト化が手作業。作業ミスのリスク。	**・Pythonによるデータ転記 (簡易ソフト提供、デモ実演)**	・Python	**低 / 低 (一部ひな形の見直しが必要)**	転記ミスをゼロにし、工数を削減。付加価値業務へ時間を創出。
④ **既存ツールの活用検討**	・一部帳票が紙で運用。 ・既存ツールが一部機能に留まり拡張性が限定的。	**・既存ツールによるペーパーレス化 (活用案の提示)**	・desknet's NEO	**中 / 低 (初期投資が必要)**	社内DXを推進。既存ツールのため社員の心理的抵抗が少ない。

① 来客対応業務のデジタル化
<画面イメージ>

内製化に向けた第一歩として、デジタル化検討結果に基づく具体的な設計図を提供
<データ定義>



② DX勉強会
岐阜大学様、十六総研様と共催で勉強会を開催(約40名が参加)
<配布チラシ>

③転記の自動化
簡易ソフト作成のうえ複数帳票のリスト化をデモ実演

④既存ツールの活用検討
既存帳票 (Excel) を再現して実際に申請～承認までのプロセスを検証

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社松田電機工業所 (製造業) の取組み事例: 原価計算・工数管理の業務改善検討

参加者

企業

社名	株式会社松田電機工業所
業種	製造業 (自動車関連)

事業概要	自動車のスイッチ部品製造
所在地 (都道府県・市区町村)	愛知県春日井市

参加した受講生の概要

チーム名	あしたの松田ラボ
チーム人数	3名
スキル・PR	製造業に知見のあるメンバー、業務分析やデータ分析に知見のあるメンバーが各自の専門性を活かして活動に取り組みました
進める中で工夫したこと	当初ご提示いただいた課題に限らず、幅広く課題を掘り出すことに注力しました

実施概要

課題内容

設備製造部門の工数管理・費用算出の自動化・正確性向上

- 工数入力の手間がかかり精度も低い。省力化、精度向上したい
- 原価算出は手作業でのコピペで計算間違いもある。正確性向上、省力化したい
- またこのテーマに限らず、業務のやり方を根本から変えるような提案もいただきたい

実施した検討内容

実態調査に基づいた改良フォーマットの提示及びプロトタイプアプリの開発

- 工数取得、原価算出の現状を調査し工数取得、原価算出のフォーマットを改良
- 入力負荷を最小化するためRFID含めた技術調査の実施
- 提供頂いたデータの連携を示すためのプロトタイプアプリの開発を実施

検討の成果

改良ツールに対する運用実績及びデータ連携の方向性の擦り合わせ

- 入力項目を集約することで入力の手間が削減された
- 原価算出式も整理し、より精度の高い原価算出が可能となった
- 提供頂いたデータ(スケジュール管理、不具合指摘データ含む)を一つのDBで連携させたことでデータ分析アーキテクチャのデータレイク層 (*) を実現した

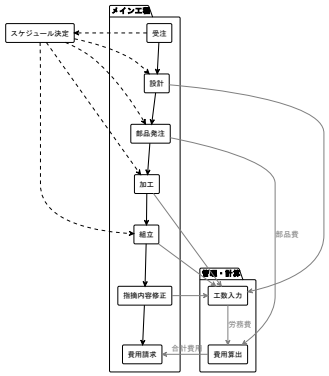
(*) データ連携するための大本になるデータベース

株式会社松田電機工業所 (製造業) の取組み事例: 原価計算・工数管理の業務改善検討

実施内容の詳細

業務の簡素化及びツールの改良を実施し、DX促進に向けた方向性を提示

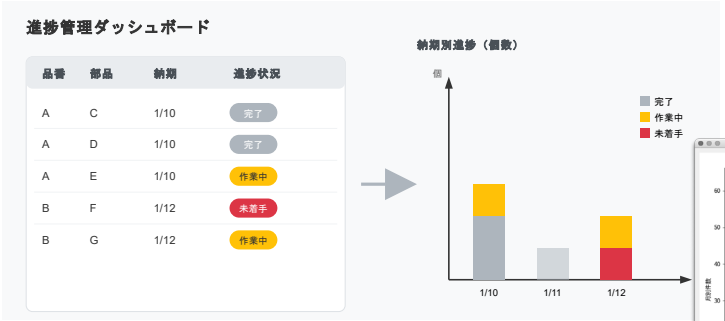
- 工数入力について、必要以上に詳細化された項目を整理し、入力負荷の下がるエクセルフォーマットを提案した。
- 原価計算の算出方法を整理する上で、未使用項目は削除し、未計上だった項目の利用可能な状況に改善した
- 工数入力の負荷を削減するため、RFIDを用いた自動入力に関する技術調査を実施した
- 工数計上以外の業務の課題解決についても、データの流れをフローとして可視化し、周辺データも含めた流れを把握した
- フローを整理する過程でPlantUML等を活用し、生成AIとツールを組合わせた方法を共有した
- プロトタイプアプリを実装し、データ連携のイメージを共有した

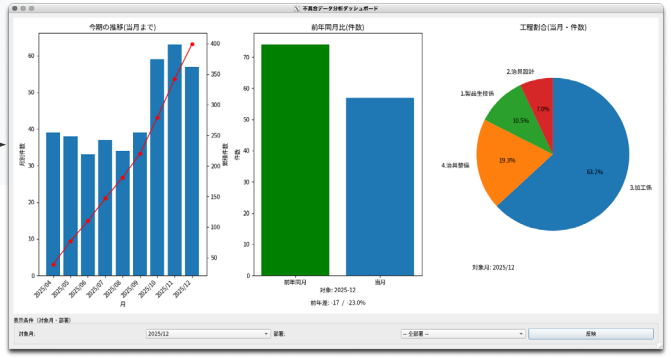


成果

新ツールについて高評価を頂いた。更なる改善に向けてのアイデアも提供した

- 工数入力にかかる新エクセルフォーマットを試用頂き、運用性が向上したと高評価頂いた。
- 原価算出については、既存より精度の高い費用が算出できるようになった
- スケジュール管理、不具合指摘についても改良の余地があることが見えてきた
- 今後のデータ活用に向けたアイデア集や、プロトタイプアプリを作成し提供した。
- プロトタイプアプリにてデータ分析アーキテクチャのデータレイク層を実現したことで、データウェアハウス層及びデータマート層に繋がる導線を提示できた
- PlantUMLを用いたテキストからの図表作成手法を企業内の別のプロジェクトでもご活用頂いた





Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

東栄管機株式会社 (製造業) の取組み事例: 各支店・営業所における倉庫内オペレーションのDX

参加者

企業

社名	東栄管機株式会社
業種	製造業
事業概要	硬質塩化ビニル管継手を中心に、上下水道資材ならびに配管設備、建築資材の製造販売
所在地 (都道府県・市区町村)	岐阜県岐阜市

参加した受講生の概要

チーム名	Five_Stars
チーム人数	4名
スキル・PR	製造業でロジに関するドメイン知識があるメンバーや、ローカルLLMを構築、利用可能であるメンバーがいること
進める中で工夫したこと	現場を実際に見て、担当者の方と直接顔合わせる機会をできるだけ早期にもうけること

実施概要

課題内容

「在庫の適正化」と「受注業務支援」

- 長期滞留在庫を減らしたい。
- 受注入力業務 (FAXや電話による受注、手作業によるシステム入力) の効率化
- 担当者のスキルに依存し、属人化した業務の標準化

実施した検討内容

AI、デジタル技術を用いた需要予測、在庫シミュレーションと受注自動化システムの検討

- 販売実績データを用いた需要予測モデルの検討と在庫シミュレーションによる在庫、欠品増減の確認
- 注文FAXの読み取り～システム入力の自動化方法の検討

検討の成果

需要予測は精度未達、受注自動化システムの一部要素の実現性を確認

- 需要予測は精度に課題があり、導入は時期尚早。一方、企業様で導入検討中の過去販売平均に基づく在庫管理方法では、欠品の増加を抑えつつ在庫を削減する可能性をシミュレーションにより確認した
- FAXの読み取り～システム入力自動化フローについて、一部の要素技術 (AI-OCR、データ確認用UI、RPAによるシステム入力) の実現性を示した

協和ダンボール 株式会社 (製造業) の取組み事例: データのデジタル化・蓄積手段構築

参加者

企業	社名	協和ダンボール 株式会社
	業種	製造業
	事業概要	段ボールケース、シート製造 高付加価値 段ボールの商品化
	所在地 (都道府県・ 市区町村)	岐阜県恵那市
参加した 受講生 の概要	チーム名	ひくひよこ団
	チーム人数	4名
	スキル・PR	DX推進、エンジニア、最適化 手法の専門家とビジネスと 理論がバランスとれたチーム
	進める中で 工夫したこと	表面上の課題・困りごとだけで なく、その裏側にある真の課題 を追求するように実施

実施概要

課題内容

各部門でデジタル活用でやりたいことはあるものの、第一歩の進め方が不明瞭

①設計部門: 過去の設計データを用いた設計の自動化
②製造部門: 製造ラインにおいて、誰もが同じ作業品質となるような仕組み
③総務部門: 物品在庫管理の省人化、自動発注

実施した検討内容

真の困りごとの探索とデータを用いた分析

- 各部門の現状の業務フロー、情報流れを明確化 → 困りごとのポイントを見える化
- 紙での記録データから分析用データの生成 → ヒアリングした内容との整合性確認
- データ蓄積のための手順、作業標準化のための動画マニュアル提案

検討の成果

既存データからのデータ分析の流れ、データを今後蓄積するべきフォーマット例の提示

- 生産計画、実績データの分析から段替え作業低減の正当性を提示
  →既存データからの分析手法、データドリブンの第一歩目を実践
- 設計部門、総務部門におけるデータ蓄積のフォーマット例示 (データ蓄積の重要性)

レシップホールディングス株式会社 (電気機械器具製品製造業) の取組み事例: データ活用の見える化と業務効率向上に向けた対応

参加者

企業	社名	レシップホールディングス株式会社
	業種	電気機械器具製造製造業
	事業概要	バス・鉄道用電装機器等の製造および販売・サービス、各種産業機器および自動車部品等の製造・販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	岐阜県本巣市
参加した受講生の概要	チーム名	MOBILiNK
	チーム人数	4名
	スキル・PR	社内外での生成AI研修の実施経験を活かし、現場視点とデータ視点の両面からAI活用による業務改善に貢献していきます
	進める中で工夫したこと	深堀り範囲の明確化、段階的アプローチ (違算の早期発見→原因特定) による実現可能性の重視

実施概要

課題内容

Excelによる決済データの照合作業に時間と労力を要し業務が煩雑化していた

- 毎月月初に実施している照合作業に約5時間を要しており、時間短縮が求められていた
- ID体系やマスターデータの不整合により、違算発生時の原因特定が属人的になっていた
- 今後のデータ量増加を見据え、現行のExcel運用の見直しが要な状況であった

実施した検討内容

照合作業の時間短縮を検討 (前処理、照合Excel、違算チェック改善)

- 前処理の自動化検討を実施 (RPAツール稼働検証)
- 照合Excelの改善を実施 (関数の解析、マスター化検討)
- 違算チェック・原因特定方法の改善を実施 (照合キーの検討、明細レベルの照合)

検討の成果

照合作業自動化のPoCにより作業工数を60%削減の見込み、継続的な改善のため生成AI活用研修の提案

- 決済サイトの明細取得を自動化 (UiPathにて試行・検証済)
- 照合Excelの関数・参照構造を解析し、データ構造を可視化
- 関数からVBAを使用した照合処理の自動実行、違算明細の可視化
- 自社で課題解決できるように生成AI活用研修のご提案

レシップホールディングス株式会社 (電気機械器具製品製造業) の取組み事例: データ活用の見える化と業務効率向上に向けた対応

実施内容の詳細

課題のヒアリング、改善方針の明確化

- 定例会議を設定しご担当者様より、課題、照合作業方法をヒアリング
  - 毎月月初の照合作業に約5時間を要している
  - 照合Excelの関数、数式の複雑化により修正作業が煩雑化している
  - 照合作業後の違算チェックに時間を要している
- 課題から改善の方針を明確化して、段階的に改善案を策定し、アプローチした

照合処理の改善

- 手作業で取得している決済サイトの明細をRPAにて自動化を検証した (UiPathにて試行・検証済み)
- 照合Excelの関数・数式を解析し、構造解析を実施した
- 照合Excelを関数からVBAに変更し、ワンアクションで、明細の取り込み、違算チェックを自動化した

PoCにて5時間を2時間に削減見込み

生成AI活用研修の提案

- 今後、自社で課題解決できるようになることが真の課題解決と考え、生成AI活用研修の提案を実施した

成果

照合Excelの技術的改善 (係数と数式の分離)

- 係数が数式にハードコーティングされていたため、マスターテーブルに分離 (構造化参照)
- 関数の変更により、計算速度と柔軟性の向上 (VLOOKUP→XLOOKUP)
- 配列数式の削減・テーブル参照の活用 (メモリ消費の抑制と安定化)
- 前処理はPower Queryを検討 (複雑な前処理を数式から分離)

照合Excelの改修 (関数・数式→VBA化)

- Menuページを追加 (操作集約・ガイド化)
- 分析売上明細インポート
- 照合処理の自動実行
- 違算詳細の可視化

■ご担当者様のお声

評価項目	点数	評価内容
作業効率向上	5/5点	毎月午前中いっぱい掛かっていた作業が午前中に完了できる見込み
属人性の解消	4/5点	Excelファイルを見れば開発者・経理担当ともに作業可能 データ抽出後は、メニューに沿って誰でも作業可能
自社での保守性	3/5点	マスタ管理や計算式の可視化により保守性が向上 ただし、新規決済ブランドの追加等の保守箇所は未確定

生成AI活用研修の提案

- 課題解決を自社で自走できるようにするため、生成AI活用に関する研修の受講を提案

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社佐野塗工店 (塗装工事業) の取組み事例: 施工管理業務の効率化について

参加者

企業	社名	株式会社佐野塗工店
	業種	塗装工事業
	事業概要	橋梁工事を始めとした公共・民間の各種塗装業
	所在地 (都道府県・市区町村)	愛知県名古屋市
参加した受講生の概要	チーム名	Team 塗装Next
	チーム人数	5名
	スキル・PR	ITを経験豊富なメンバーから利用者目線を持っているメンバーまでの幅の広さが自慢です
	進める中で工夫したこと	事業者様が最終的には自立して使える成果物を目指しました

実施概要

課題内容

施工管理の改善

- DXを進めていきたいが何から手を付けてよいかわからない
- だが、今回の佐野塗工店殿のメンバーが施工管理の担当なので施工管理の改善を行っていきたい。同じ内容の報告を複数対応しているので手間がかかっている

実施した検討内容

施工管理・日報入力の改善

- 現状利用しているシステムの調査を実施
- 施工管理の日報の内容を精査し、重複内容の洗い出しを実施した
- MicroSoftFormsを一度入力すれば該当するEXCELへの反映が一括で可能とした

検討の成果

施工管理・日報入力の改善

- MicroSoftFormsを入力して日報と施工管理EXCELに展開する機能を提供した
- 転記工数の削減、二重入力の工数削減効果があった

株式会社佐野塗工店 (塗装工事業) の取組み事例: 施工管理業務の効率化について

実施内容の詳細

日報の二重入力の廃止と今後の改善計画の提言

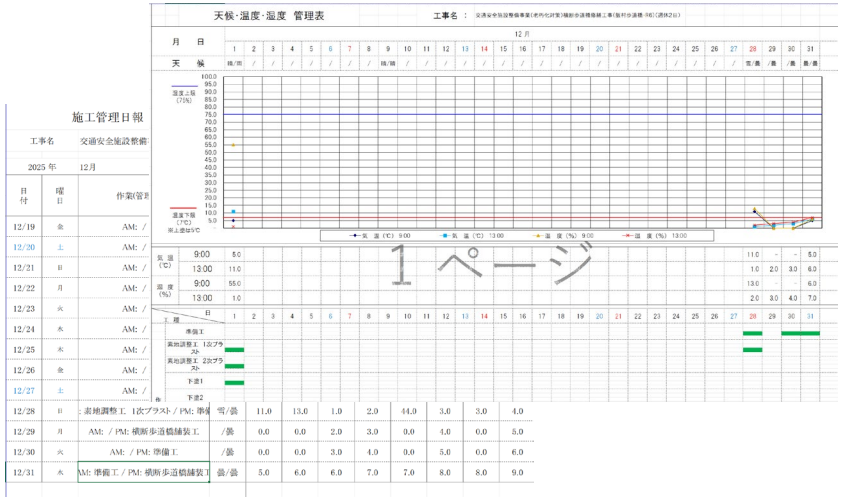
- 会社概要など
  佐野塗工店殿は橋梁の塗装工事を始めとした公共団体、民間企業の塗装業を広く営む企業である。
  近年のDX化の進展に伴い、自社でもできることがないか検討していたが、専門人材の不足などによる知見不足などに悩まされてきた。今回、DXクエストに参画することで外部の知見を活かしたDX化を検討することとした。
- 課題
  塗装業を営む建築業という業種のため、施工主に対し、工事の進捗を報告する日報の入力は必須である。ただ、同じ情報を別の個所に入力するなど手間がかかっていた。また、同じ情報を複数個所に入力する転記ミスも発生していた。
- 対策
  日報の入力内容を一括して入れることで日報の必要箇所に入力内容を転記する仕組みを開発して改善を行った。
  また、今回の改善を契機とした今後3年間の改善ロードマップ (別添資料参照) も提示した。

成果

MicoroSoftFormsを活用して日報の二重入力を改善した。

＜現状＞
日報・出来高管理表の2つのEXCELに対し、重複する内容 (温度、湿度、作業内容など) を入力している。
＜改善後＞
MicroSoftFormsに必要情報を入力し、日報・出来高管理表EXCELにFormsの内容を展開し、二重入力を廃止する。

1． MicoroSoft Forms で情報入力



2． MicoroSoft Formsの内容をEXCELに転記

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

高山赤十字病院 (総合病院) の取組み事例: データ活用による動線の可視化

参加者

企業

社名	高山赤十字病院
業種	総合病院
事業概要	2022 (令和4) 年に創立 100周年を迎えた総合病院
所在地 (都道府県・ 市区町村)	岐阜県高山市

参加した受講生の概要

チーム名	チームマウントレッドクロス
チーム人数	6人
スキル・PR	ドメイン知識 (医療) と IT知識の専門家混成チーム
進める中で工夫したこと	週1定例会議、チャット、現地見学による密な コミュニケーションアイスブレイクのための作曲をお互いに共有

実施概要

課題内容

外来機能に関する課題抽出

- 【財務面】コスト増 (光熱費・補修費) 、建物の老朽化と機器更新が負担
- 【運営面】24時間体制における稼働管理の難しさ、外来待ち時間が長い
- 【人事面】深刻な人材不足に加え、職員の定着率向上

実施した検討内容

取り組む課題の選定と可視化の検討

- 現在の業務フロー整理
- 現地見学
- 対象範囲の明確化

検討の成果

データの可視化

- BIツールを用いたデータの可視化
- AI活用時の注意点を整頓
- プログラム終了後のDX推進体制の提案

高山赤十字病院 (総合病院) の取組み事例: データ活用による動線の可視化

実施内容の詳細

業務フロー整理・BIツールによる可視化の試行

① 現地調査・課題抽出
外来患者の動きをパターン整理し、実際の患者動線と現場オペレーションを確認

② データ前処理
BIツールで可視化・条件抽出しやすいように、データをPythonで前処理を実施

③ ダッシュボード構築
BIツールでダッシュボードを構築、患者が到着から会計終了までどのような時間経過をたどったかを可視化

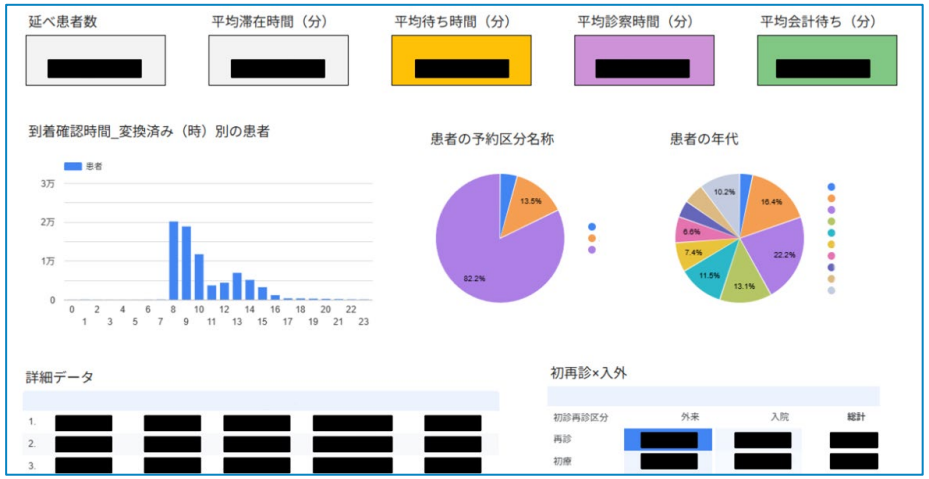
④ 分析機能実装
診療科・期間・時間帯・滞在時間でのフィルタリング機能を実装し、直感的に操作し分析できる環境を整備

⑤ 自走化体制提案
DX推進体制 (管理・業務・ITの役割分担によるPDCAサイクル) の提案、AI活用ガイドラインを共有

成果

待ち時間の可視化による現場理解の深化と自走化体制への合意

- 患者が到着→受付→検査→診察→会計とどのような時間経過をたどったかが可視化され、待ち時間の特定が手軽にできるようになった
- ダッシュボードを病院側に共有したところ、「朝から服薬して準備をしている」などの想定外の現場の実態が可視化できた
- 検査目的の長時間滞在を「通常の待ち時間」として平均に含めると待ち時間の評価を誤る可能性があることから、「外れ値」として除外処理する手法を確立した
- プログラム終了後病院側がダッシュボードを自ら操作・更新できるよう、引継ぎ資料とDX推進体制を提案した



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社フェイス (生活支援業 (個配事業)) の取組み事例: 灯油配送スケジュールの見直し

参加者

企業

社名	株式会社フェイス
業種	生活支援業 (個配事業)
事業概要	一般貨物自動車運送事業、建設業、宅地建物取引業、労働者派遣事業、食品製造業、食品等販売業
所在地 (都道府県・市区町村)	富山県射水市

参加した受講生の概要

チーム名	油を注せ!
チーム人数	5名
スキル・PR	ITフリーランス,金融リスクコンサルタント、システムエンジニア、ファイナンシャルプランナーなどを有する多職種連携チーム
進める中で工夫したこと	チームリーダが全体を牽引しつつも、個性を尊重したスムーズなプロジェクト進行

実施概要

課題内容

ヒアリングで課題の抽出

- 灯油配送に関する非効率的な配送周期と給油量の見直しが一番の課題
- 顧客によって配送頻度と給油量に大きな差があり、特に冬季の需要変動が顕著
- 取引先からの発注は顧客の希望に基づいており、必ずしも最適な配送計画になっていない

実施した検討内容

灯油配送の過去データからの効率化方法の検討

- 過去データから灯油タンクや気温等による使用量予測モデルを作成
- 予測結果での配送見直しの提案。見直し時の過去データとのギャップを計算
- 別角度の提案として、スマートメータによる灯油量管理方法の提案

検討の成果

経費も含めたより現実的・効率的な新配送スケジュールの提案

- 消費量予測に加えて、人件費・運搬費などの経費まで考慮して、損益分岐点を推定し、目標にむけたより現実的かつ効率的な配送スケジュールを提案
- 予想される効果として、具体的な配送回数の削減可能性を報告し、分析ツールとして需要予想・損益計算用エクセルを提出

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社フェイス (生活支援業 (個配事業)) の取組み事例: 灯油配送スケジュールの見直し

実施内容の詳細

過去の灯油配送スケジュール・諸経費の分析と、配送における利益向上のためのポイントの検討

【現状の課題の分析】
ヒアリング⇒ **配送スケジュールの見直しが重要テーマ**
・灯油配送は、複数のタンクローリーで自宅等に運搬し補給するが、それぞれのタンク容量に対して、少ない割合での補給しかしないという、非効率的な配送が課題。
・灯油配送は、季節によって差が大きく、使用量に関してはその時の灯油価格や気温にも大きく影響され、適切な補給タイミングの予測が難しい。
・１回毎の配送利益の他に、豪雪での配送困難な場合に備えて、灯油切れをおこなさい安全在庫を確保するもの重要

【過去データ分析と消費量の予測】
・2023-2025年分の灯油の供給実績データの分析 (約13000件のID化された顧客ごとの配送と年間配送実績)
- 過去データから非効率配送の割合や傾向を分析
- 消費量予測を行うAIモデルを作成
・人件費・車両走行距離・燃料費・車両燃費や維持費、取引手数用などの配送収入に関する経費概要
・安全マージンの設定や配送期間見直しのため、損益分岐点の推定と考察

成果

分析結果の共有と、具体的な配送スケジュールの見直しなどの改善案を提案し、さらなる効率化のための戦略の提案。

- 作成した消費量予測モデルをもちいて、過去データにおける配送スケジュール変更時のシミュレーションを実施し、現状との比較分析。
  - 気温データをもちいて、高精度の需要予測を達成
  - 季節での消費量の違いで、効率的な配送のため戦略が異なる
  - 主に閑散期からは、適切な安全在庫を確保しつつ配送を伸ばしても問題ないことが判明
- 損益分岐点の推定
  - 配送１件あたりのコストを算出し、損益分岐点となる給油量を新たに設定
  - タンク容量別に、収益改善の可能性のあるタンク容量顧客を示唆
- 配送周期最適化の提案
  「安全在庫を維持しつつも、配送回数をへらすよう効率配送を提案」
  - 年間68件の削減が可能 (提供されたサンプル10 顧客)
    浮いたドライバーやコストで、顧客対応など他の業務へシフトが可能
  - 顧客によっては最大72% (18⇒5件)の削減
  - 200L以上のタンクでは、大幅に効率が改善する
  - 90L未満は、効率配送でも改善が困難であり、値上げ等の他の戦略が必要
- デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析の検討事項の整理
  - 安全在庫設定日数の再検討
  - スマートメーター導入による在庫の見える化と、さらなる効率化をめざすか。
  - BIツール導入の提案と、提供データセットでの使用デモ

三陽陸運株式会社 (運送・製造業) の取組み事例: 不採算路線の受託停止判断指標情報の検討

参加者

企業

社名	三陽陸運株式会社
業種	運送・製造業
事業概要	運送事業 リサイクル事業
所在地 (都道府県・市区町村)	本社: 富山県射水市 営業所: 富山県、埼玉県 等

参加した受講生の概要

チーム名	Dice & Data
チーム人数	4名
スキル・PR	• わかりやすい説明力 • データサイエンス力 • AI設計力
進める中で工夫したこと	• わかりやすい資料 • 詳細な現場把握箇所の設計 • 分析データの綿密な検討

実施概要

課題内容

不採算路線の受託停止判断指標情報の検討

- 課題はドライバー業務時間の削減 (むやみに遠距離輸送を削減するわけではない)

→不採算 (売上の割に運送時間が長すぎる) 路線を停止する判断指標や交渉材料の検討

- デジタルタコグラフ上の運転情報の分析による傾向把握した上で指標を検討

実施した検討内容

運送事業に係る以下のデータの調査及び分析を行った

- 運行日誌のデータ (PDF、紙データベース)
- デジタルタコグラフデータ (PDF)
- 今後のアクションプランと期待効果

検討の成果

検討ロードマップ資料の作成

- 紙ベースの運行日報データ分析で車種によってコスパ傾向が読み取れることを示した
- 現状入手可能なデジタルタコグラフデータを活用した分析の限界が判明した
- システム更改に伴い、追加データの入手と精緻な分析により想定と異なる結論を導く可能性が判明した

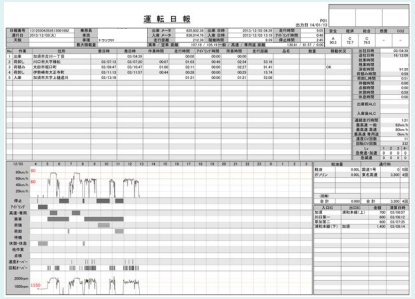
Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

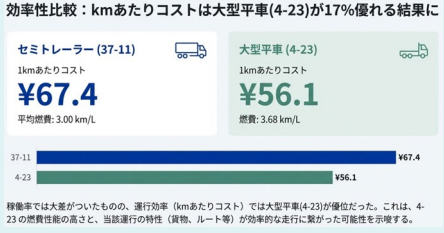
三陽陸運株式会社 (運送・製造業) の取組み事例: 不採算路線の受託停止判断指標情報の検討

実施内容の詳細

代表的な車7台の運行日誌とデジタルタコグラフのデータからデータの傾向を読み取り、それらを可視化

- セミトレーラー車が運行の大半を占めるも、大型平車の方がコスパに優れる結果に

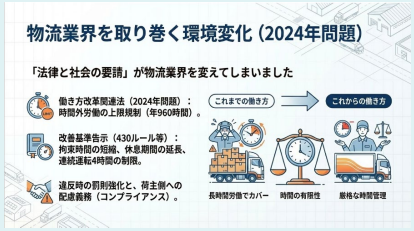


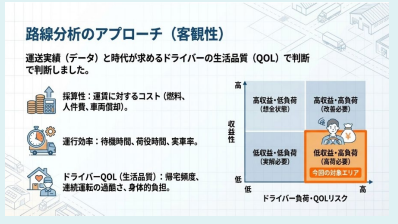


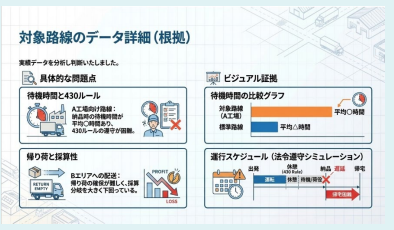
成果

現状で入手できるデータを活用した分析の限界が判明したが、一方で追加データの入手活用でより精緻な分析ができ、想定以上の結論を導く可能性があることが判明した。

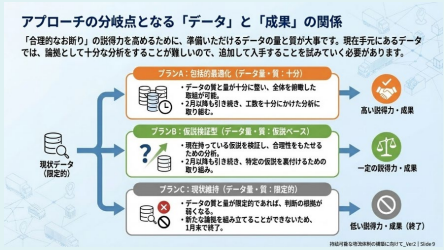
- 2024年問題をきっかけに以前と同じように物流業務を受託できなくなったことに対し、データを活用した交渉によって荷主と前向きな合意に至ることを模索

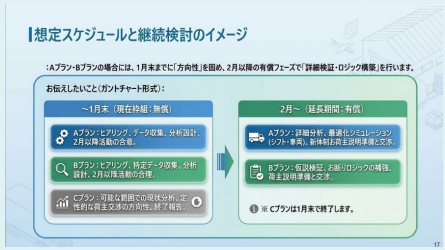






- 解決の方向性は見出せたものの、分析に適した形でデータ入手することが難しいことで分析が停滞した。一方で、システム更改に伴い新フォーマットでデジタコデータを入手できる可能性があり分析促進の期待が持てる。また、データが増えることで解決策の選択肢が増えることが想定されることも新たな期待といえる。





株式会社平成フード (製造業) の取組み事例: 品質不具合データを基にした資料の設計

参加者

企業	社名	株式会社平成フード
	業種	製造業
	事業概要	ペットフードの製造
	所在地 (都道府県・市区町村)	富山県富山市
参加した受講生の概要	チーム名	Aim for IS ワン
	チーム人数	5人
	スキル・PR	ISO9001経験者、製造業エンジニア、ITエンジニアが所属
	進める中で工夫したこと	現場負担も考慮した実務実装前向きに取り組むための段階的なロードマップを提案

実施概要

課題内容

紙媒体で管理している不具合データをデジタル化し、月次報告資料作成やデータ解析・モニタリングの仕組みを検討したい

- 不具合データ、報告書類は紙媒体
- 過去事例の検索や傾向分析が困難

実施した検討内容

品質不具合・クレーム対応業務を起点として、現行業務フローの整理とデジタル化の検討を行った

- データを一元管理するトラブルデータ一覧の設計
- 中長期的なDXロードマップの策定

検討の成果

現場負荷を最小限に抑えつつ、確実に定着させるための入力・管理一覧表を設計、将来的な傾向モニタリング、解析手法イメージを提案にした

- 品質データを一元管理できるトラブルデータ一覧を設計した
- 将来的な営業活用まで見据えたロードマップを提案した

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社平成フード (製造業) の取組み事例：品質不具合データを基にした資料の設計

実施内容の詳細

既存業務を大きく変えず、現場で継続可能、
かつ将来的な展開を見据えたDX実装を重視して検討

Step Ⅰ **データデジタル化**
紙のクレーム・トラブル報告をExcelへ入力し電子化。
報告書様式を見直して報告一覧へ転記する運用を導入し、
手書きを削減して検索性を向上させた。

Step Ⅰ **運用フロー見直し**
現行の紙中心フローを段階的に改定し、
品質保証課や関係部門での報告一覧入力を追加。
月次報告様式の変更案を作成し、紙運用からの移行計画を策定した。

Step Ⅱ **データ一元管理**
社内発見不良やトラブル報告を統合管理するExcelマスタを設計し、
JANコードや製品マスタと紐付けて商品別のリスク把握が可能な構造を構築した。

StepⅢ 可視化と自動化
ExcelとTableauを連携させ自動更新レポートを実装。入力Excelを接続することで
リアルタイムにダッシュボード更新が可能となり、会議での事実ベース議論を支援した。

StepⅣ 現場DX化計画
iPadによるバーコード読み取りとフォーム入力の導入案を提示。
自動照合と不一致時の警告で誤投入を防止し、現場入力負荷の削減を目指す設計を行った。

Step Ⅴ ロードマップ作成
2026年4月から2027年4月までの段階的導入スケジュールを策定し、
各段階の導入ツールと期待効果を明示した。

成果

業務整理とデジタル化検討により、業務効率化および品質改善に向け
データ管理を実装し、将来的なDX化イメージの段階的構築実施

報告の電子化基盤確立：
紙ベースの報告をExcelで一元管理する仕組みを設計・導入案化し、
検索性向上と転記ミス削減の基盤を整備した。

可視化による会議品質向上：
Tableau連携で自動更新ダッシュボードを実現し、
会議が「集計作業」から「改善検討」へシフトするための環境を整えた。

経営損失の可視化：
焦りに起因する誤投入などの損害額や集計工数を数値化し、改善投資の根拠を提示した。

現場ミス削減の見込み：
iPad＋バーコード照合導入により重大ミス発生率を大幅に低減し、
集計工数削減の試算を提示した。

新人教育の効率化：
暗黙知をデータ化することで教育負荷を低減し、新人の習熟期間短縮を見込める設計を示した。

実行可能な導入計画：
短期～中期の具体的スケジュールとツール選定を提示し、
段階的に運用DXへ移行する実行ロードマップを確立した。

日本海給食株式会社 (製造業) の取組み事例: 食数管理のデジタル化

参加者

企業	社名	日本海給食株式会社
	業種	製造業・サービス業
	事業概要	受託集団給食
	所在地 (都道府県・市区町村)	富山県富山市
参加した受講生の概要	チーム名	Sun-STORE
	チーム人数	5名
	スキル・PR	SE・PM・公務員・学生の多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成
	進める中で工夫したこと	ITに不慣れな現場栄養士が使いやすいよう視認性が高いUIを意識しました

実施概要

課題内容

アナログ依存の業務から脱却したい

- 現場栄養士への事務負担とFAXや手書きなどアナログ業務によるミス
- 属人的な経験に基づいた食数管理が行われており、組織的な知見の蓄積が困難

実施した検討内容

デジタル発注基盤の構築検討

- 発注データ蓄積の仕組み化
- ユーザーインターフェースの最適化
- 自動化ロジックの実装

検討の成果

プロトタイプの完成

- 現場の負担軽減と管理精度の向上を両立させるツールを開発した
- 担当役員から実用性が高いという評価をいただきました

Copyright © 2022 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

日本海給食株式会社 (製造業) の取組み事例: 食数管理のデジタル化

実施内容の詳細

デジタル発注基盤の構築を検討

- 発注データ蓄積の仕組み化
  全施設の発注内容をクラウド (Googleスプレッドシート) 上で共通のデータ形式として集約し、検索・分析可能な状態で蓄積する仕組みを検討しました。
- Googleフォームの活用
  現場の栄養士がスマートフォンから数分で入力できるよう、施設ごとの食事形態 (常食、軟菜、ソフト食など) に応じて入力項目が切り替わる条件分岐型フォームを開発しました。
- 自動化ロジックの実装
  Google Apps Script (GAS) を用い、送信ボタンによるデータの自動集約、重複送信のチェック、データのバージョン管理などの機能を実装しました。

成果

効果が見込めるプロトタイプが完成

- プロトタイプ
  担当役員から実用性が高いという評価をいただきました。

  ポイント
  ・転記作業の解消
  ・作業時間の削減
  ・過去データの利活用

- 今後の方針
  急激な変化を嫌う現場の心理的ハードルを考慮し、まずは一部の施設でのパイロット導入を通じて、事務作業の短縮ができるか試行していきます。

株式会社ニッコー (製造業) の取組み事例: 社内チャットボット開発及び活用ガイドライン整備

参加者

企業

社名	株式会社ニッコー
業種	製造業
事業概要	食品・水産・食肉・農産の省人省力化 機械設備の企画、開発、製造、販売
所在地 (都道府県・市区町村)	北海道釧路市

参加した受講生の概要

チーム名	にっこにこプロジェクト
チーム人数	4人
スキル・PR	多種多様な職種・業界から集まった、全員がマナビDX Questでの入賞実績を持つチーム
進める中で工夫したこと	チームのコミュニケーションを重視し、毎週定例MTGだけでなく、定期的にチーム内勉強会を開催

実施概要

課題内容

生成AI活用が一部に留まる現状を打破し、生産性・競争力を高めたい

- 生産性と競争力の向上を目的に生成AI活用を推進しているが、現状は一部の従業員の利用に留まっている
- まずは全従業員が効果を実感しやすい「共通業務」で定着を図り、将来的に設計・開発などのコア領域へ活用を拡大していきたい

実施した検討内容

生成AIの社内導入推進と活用リテラシーの向上

- RAG (検索拡張生成) を活用した、全従業員共通の社内ツールを検討・開発
- 従業員自身が生成AIサービスを構築できるよう、導入障壁の低いツールを選定
- 生成AIのメリット周知に向け、先進事例、製造業での適用領域、最新技術を調査

検討の成果

社内規約回答チャットボットの開発、及び生成AI技術導入の成功要因分析報告

- 出張旅費規定などの社内規約に関する問い合わせに回答できるチャットボットを開発
- 生成AIアプリ開発プラットフォーム「Dify」の勉強会の開催、及びテンプレートを作成
- 他社の生成AI技術導入の成功要因を分析し報告
- 社内の生成AI活用定着に向け、活用ガイドラインを製作し、提出

株式会社ニッコー (製造業) の取組み事例: 社内チャットボット開発及び活用ガイドライン整備

実施内容の詳細

社員向けAI活用ワークショップ (Dify活用)

- 社員有志にDifyの基本機能とAI活用の基礎をレクチャー
- ワークフロー作成とナレッジ登録を含むハンズオンを実施
- メール生成など業務応用の具体例を紹介
- 社内会議室とオンラインで接続し、参加しやすい環境を整備
- 参加者がAIの仕組みを理解しやすいよう、対話形式で進行

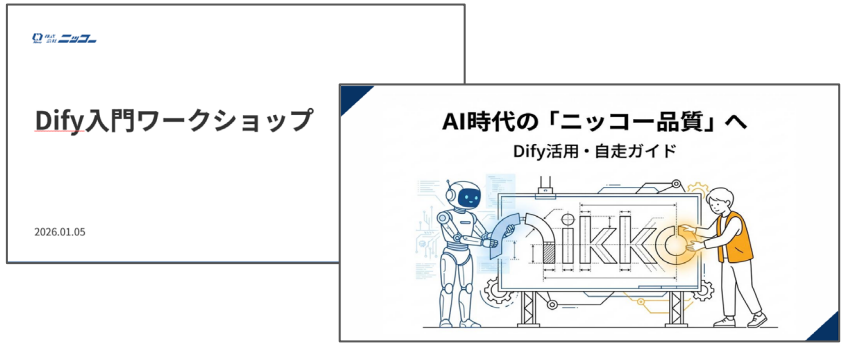
生成AI技術導入の成功要因分析

- DX推進における技術導入フェースの位置付けを確認
- Difyを導入した国内の先進企業の活用事例を調査
- 事例から、Dify導入の共通する成功要因を洗い出して分析
- 海外レポートで、生成AIやエージェント導入の課題を調査
- 調査・分析結果を78枚のレポートにまとめ提出

① 現状分析 ・・・ 自社の事業課題や業務課題の分析
② 目標設定 ・・・ DXによって達成する戦略目標の設定
③ 技術導入 ・・・ 目標に応じたデジタル技術の導入
④ 従業員教育 ・・・ 定期的な研修やワークショップの開催
⑤ 業務プロセスの再設計 ・・・ 効率化や売上拡大の業務プロセス設計
⑥ データの活用 ・・・ データを活用し意思決定する仕組みの構築
⑦ 進捗の評価と改善 ・・・ 定期的に進捗を評価して改善を実施

成果

社内ルールをナレッジとしたモデル事例の開発、及び社員有志向向け勉強会の開催



- ハイブリッド形式でワークショップを実施
- 参加者がAIの基本概念を理解し、活用への興味が高まったことを確認

他社動向をまとめ、生成AI活用ガイドラインを製作

現場開発の推進
現場社員が自ら開発できる環境を整備。ノーコード活用とオンボーディングにより、現場主体で課題解決する文化を醸成。

コミュニティと伴走支援
勉強会やハンズオンで横の連携を促進。DX推進部門・IT部門が「伴走者」として支援し、安心して試行錯誤できる土壌を作る。

ガバナンスとセキュリティ
生成AI活用ガイドラインやセキュリティ基準を整備。安全な公式ツールの提供により、現場の自由度と企業の安全性を両立させる。

小さな成功体験の積み重ね
短期的な成果や身近な改善事例を共有。「自分にも使える」という効力感を高め、組織全体への普及を加速させる。

生成AI活用ガイドライン

はじめに
第1章 生成AIの概要と基礎知識
第2章 利用環境
第3章 利用時のルール
第4章 世の中の動向(他社の取り組み事例)
第5章 生成AIがもたらす、ものづくりの未来
まずは日常業務での活用から

- Difyを導入し、生成AIの社内導入・展開に戦略的に取り組んだ企業の事例から成功要因を整理
- ガバナンス構築の一環として、推進状況に合わせた生成AI活用ガイドラインを作成し提案

一般社団法人ファームサポート美郷 (農業) の取組み事例: ミニトマト農家の栽培技術の再現化に向けてAIを活用した生産管理体制の構築

参加者

企業

社名	一般社団法人ファームサポート美郷
業種	農業
事業概要	ミニトマトやキャベツの栽培を中心とした農業事業を展開。地域の特性を活かした独自の栽培手法と品質管理により高品質な農産物を提供
所在地 (都道府県・市区町村)	島根県美郷町

参加した受講生の概要

チーム名	みらい農創隊
チーム人数	5人
スキル・PR	前向きで農業に関心が高い、教育業DX推進担当、製造業 研究開発、システムエンジニア、団体企画職
進める中で工夫したこと	丁寧なヒアリングに基づいた提案を行うとともに、協働終了後の自走に向けたサポートを目指した

実施概要

課題内容

施設型ミニトマト栽培のDX

- 取得済み農業データはあるが一元管理と効率化への活用が不十分
- 農業普及指導員の高度な知識やスキルに依存しており、それらがデジタル化されていないため、再現性のある生産管理体制の構築に課題がある

実施した検討内容

美郷型作付体系2.0のフォーマット化

① データ集約・見える化 (ダッシュボード)
② 栽培マニュアルのデジタル化
③ 中級者向けアプリのUI構築

検討の成果

美郷型作付体系2.0のフォーマット化 プロトタイプの構築

- ミニトマトポータル (ダッシュボード)
  ー作業ログ ーリンク集 ー動画保管
- 栽培マニュアルのデジタル化
- データ分析

一般社団法人ファームサポート美郷 (農業) の取組み事例: ミニトマト農家の栽培技術の再現化に向けてAIを活用した生産管理体制の構築

実施内容の詳細

データ活用に向けたポータルサイト構築

データの所在を確認、整理し、研修生及び町内ミニトマト生産者の活用状況や今後の導入意向などを把握した。11月から1月で定例会12回、チームミーティング25回を開催し、細やかな情報共有と対応を行った。

- **「美郷ミニトマトポータル」の構築 (Notion活用)**
  気象情報、病害虫、作業実績、マニュアルをワンクリックで参照できる一元化サイトを構築 。
- **多角的なデータ分析と可視化ツールの開発**
  環境データと収穫量の相関分析、および作業ログのPython解析 。CSVデータをNotionに自動反映する機能や、年度比較が可能なグラフ表示アプリ (Streamlit) の実装 。
- **AIを活用した栽培マニュアルのデジタル化**
  マニュアル類を分類整理し、格納。検索や要約のためのNotebookLM利用を検証、類似機能も検討した。
- **運用の自走化支援**
  美郷町側での運用継続を前提とした、有料アカウント取得の合意と勉強会の実施

ポータルサイト 「美郷ミニトマトポータル」

成果

1. 情報の集約とアクセスの改善

散在していた気象データや栽培ノウハウがポータルに統合され、新規就農者が即座に情報を得られる環境を整備 。

2. データに基づく栽培管理の高度化

繁忙期の時期や、工数が集中する作業を可視化。
次年度計画時や栽培期間中のデータに基づいた人員配置や指導が可能になった。
センサーの絶対値ではなく「トレンド (変動率) 」を重視する分析手法を確立。

3. 技術承継に向けた基盤構築

ベテラン農業普及指導員の将来的なリタイアを踏まえ、個人の知識と技術に頼る体制から脱却し、永続的に活用可能なデジタル資産へ変換する環境が整備された。

4. 組織的な自走体制の確立へ

美郷町によるNotion有料アカウントの次年度予算確保・取得が決定し、プロジェクト終了後もツールを継続運用する体制が整った。
勉強会を通して、デジタル活用への理解が深まり、継続してデジタルツールでのデータ化を推進する意欲が高まった

取り組みの概要図

’ミニトマト栽培で美郷町のみらいを拓く農業DX’

～ 中山間地から生まれる日本型スマート農業 ～

みらい農創隊

VISION
誇れる未来

誇れる町へ、農家所得700万円への挑戦

ミニトマトの産地化で、稼げる農業・地域活性化

目標共有で動機付け

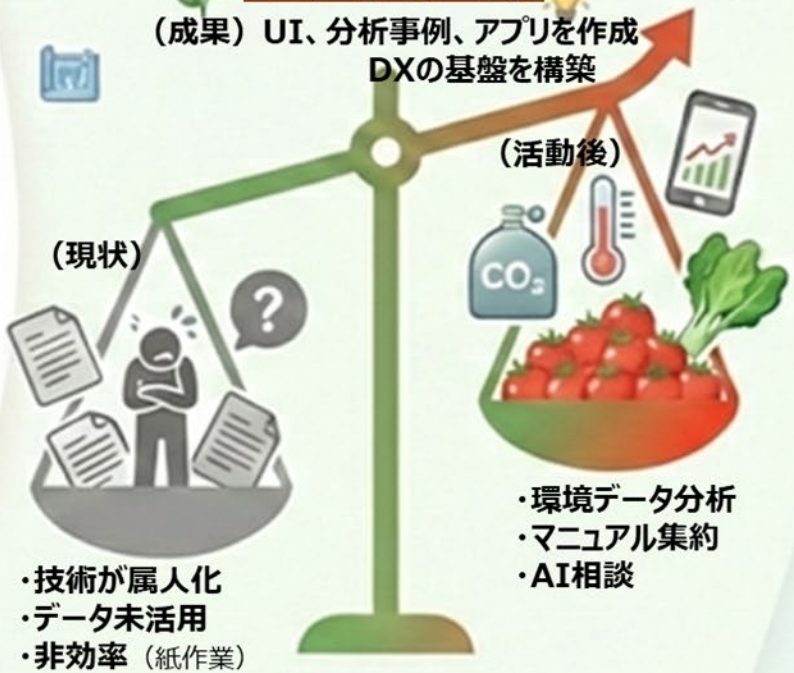
BRIDGE（活動成果）
DXで収量アップへ

経験を仕組みに、農業を産業に

デジタルマニュアルとデータ駆動環境栽培

ミニトマトポータル

（成果）UI、分析事例、アプリを作成
DXの基盤を構築



・技術が属人化
・データ未活用
・非効率（紙作業）

・環境データ分析
・マニュアル集約
・AI相談

再現性: 巧の技をデータ化し、皆が高収量の実現へ

効率性: 悩む時間を減らし、最短ルートで支援

できる楽しさ、やる気を醸成

ACTION & ROADMAP
共に創る、持続可能な成長プロセス

次は自治体主導で本格実装へ

STEP1
アプリ活用で負担のない記録
↓
新規データ分析
↓
マニュアル更新

見える化で効果を実感

STEP2
成功体験を自発活動へ

・データに基づく栽培
・経験とデータを融合させたアドバイザー

PDCAと相互刺激で成果が加速

STEP3
美郷型作付け体系2.0

・システムのスパイラルアップ
・データ駆動の仕組み確立
・新たな移住者にやさしいAI農業

ミニトマト日本有数の中山間地産地へ。若手が集まる就農拠点に！

仕組みでサポート、スマート農業

研修制度連携
実証農家募集

Copyright © 2026 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

油谷湾温泉ホテル楊貴館 (宿泊・観光業) の取組み事例: 旅館DX

参加者

企業	社名	油谷湾温泉ホテル楊貴館
	業種	宿泊・観光業
	事業概要	伝統的なおもてなしとともに地域資源を活用した宿泊事業
	所在地 (都道府県・市区町村)	山口県長門市
参加した受講生の概要	チーム名	そら宿DXラボ
	チーム人数	5名
	スキル・PR	証券、製造業 (エンジニア) 、電力・AI教育、コンサルティング、航空業界 (空港DX) といった、異業種で活躍する5名の混成チーム
	進める中で工夫したこと	情緒的AI、データ構造化、経営・現場用ツール、目的起点分析で収益向上とDX浸透を工夫

実施概要: 顧客満足度を維持し、業務効率と収益を高める仕組み作り

課題内容

運営の質を保ちながら集客と収益性を伸ばすには、顧客の声と外部環境の変化を踏まえて、打ち手を素早く検討し実行できる状態が必要。一方で、社内外のデータが意思決定に使える形で整っておらず、生成AIなど新しい手段も含めた活用方針が定まりにくい。その結果、改善や施策が属人的になり、判断根拠の見える化や運用の標準化、継続的に回せる意思決定プロセスが不足している

実施した検討内容

顧客理解と意思決定のデジタル化を目標に、顧客の声と外部環境データを意思決定に使える形に整理し、施策検討に直結する材料を作成した。あわせて、生成AIも活用可能性を検証し、情報提供や顧客接点を支える仕組み案としてまとめた。

検討の成果

口コミやアンケート、外部データを意思決定に使える材料として整備し、ターゲット選定や訴求軸の検討をデータで行える状態に近づけた。さらに、人的負担が大きい業務にデジタルをどう効かせるかの方向性と、次に深掘りすべき論点の優先度を明確化し、運営改善と集客強化を回す土台を作った。

油谷湾温泉ホテル楊貴館 (宿泊・観光業) の取組み事例: 旅館DX

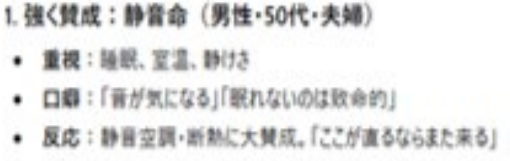
実施内容の詳細　前項を踏まえたDX活用

- AIコンシェルジュ
  ノーコード開発基盤「Dify」と生成AIを連携させたチャットボットのプロトタイプを構築。RAG (検索拡張生成) を用い、ネット上の公開情報だけではなく、楊貴館独自情報や口コミ情報を取り込んだ。
- アンケートデータ活用
  楊貴館様にて取得されているお客様アンケートの自由記述項目を用いて、生成AIにて「仮想顧客」のエージェントを作成
- 旅行予約サイト 口コミ分析
  じゃらんの口コミ約2,000件を収集し、年代・旅行タイプ等の属性付きデータに整形。推移・構成比を可視化し、条件別に傾向を比較できる形にした。
- オープンデータ分析
  デジタル観光統計オープンデータ、e-Stat　宿泊旅行統計調査を用いて旅行者を分析、類似性のある観光地の調査も実施。

成果　データ起点で施策判断を回せるDXの基盤化

- AIコンシェルジュ
  情緒的価値と信頼性の両立: 口コミ由来の「温かみある回答」により、AIとの対話自体を楽しんでもらうエンタメ性を創出。単なる情報提供を超え、来館前からファンになってもらえるようなエンゲージメント構築の可能性を確認できた。

「仮想顧客」の回答イメージ



- アンケートデータ活用
  「仮想顧客」のエージェントを活用することで、実際のお客様へのヒアリングなくお客様の反応を確認できる。これにより、施策実施時のお客様の反応を事前に察知でき、顧客満足度の向上につなげられる。
- 旅行予約サイト 口コミ分析
  口コミを「感想」ではなく意思決定に使えるデータとして整備し、ターゲット選定や訴求軸の検討に直結する示唆を抽出。以後も継続的に分析・判断できる“口コミDX活用”の土台を作った。
- オープンデータ分析
  宿泊者数の推移が類似している観光地として、鳥取県三朝町と徳島県三好市を抽出した。オープンデータの分析を通じて、観光者数が相対的に上回っている地域の特徴を把握することで、観光施策を強化できる可能性が示唆された。

石見銀山みらいコンソーシアム (観光及びサービス業) の取組み事例: 石見銀山エリアの関係人口可視化と経済圏最大化への検証

参加者

企業	社名	石見銀山みらいコンソーシアム
	業種	観光及びサービス業
	事業概要	石見銀山地域の持続可能な社会づくりに貢献するため、まちづくり関連に関する事業、移住定住に関する事業等を行う
	所在地 (都道府県・市区町村)	島根県大田市
参加した受講生の概要	チーム名	マナビDXMiners
	チーム人数	5名
	スキル・PR	IT開発・DX推進プロジェクトの実務経験の知見を活かしたデータ利活用方法をサポート実施
	進める中で工夫したこと	企業側との複数回の対話を通して行った要件整理とアジャイル的なPoC開発を実施

実施概要

課題内容

NFTを活用したデジタルスタンプラリーシステムを通じて観光客の行動データ (トークングラフ) を収集・分析し、「関係人口の創出による域内経済の向上」を実現したい

- 観光体験の把握「漏れ」を解消したい
- データ分析の遅延と非効率性を解消したい

実施した検討内容

課題の詳細分析とニーズを踏まえた打ちての検討

- ヒアリングを通じて現状の課題の深堀り分析を行い、データ設計を行った
- プロジェクトの初期段階から受講生側より各種の分析グラフの可視化やデータ把握の効率化提案を行っていき企業側のニーズとのすり合わせを行った

検討の成果

行動データの分析アプリの開発及び今後の発展的なデータ利活用設計の提案を実施

- データ分析に時間がかかっていた部分を解消し、行動データから複数の分析グラフを出力できるダッシュボードアプリを提供
- 今後の施策実施に活かせるよう拡張データの初期設計と分析案の策定

石見銀山みらいコンソーシアム (観光及びサービス業) の取組み事例: 石見銀山エリアの関係人口可視化と経済圏最大化への検証

実施内容の詳細

課題と要望のヒアリング

- **課題**
  - 観光体験の把握「漏れ」を解消したい
  - データ分析の遅延と非効率性を解消したい
- **要望**
  - 分析用ダッシュボード作成 (分析視点提供を含む)
  - 旅アトCRM実現に向けたID連携戦略の初期設計

①ダッシュボード作成に向けた分析

- 集計方法やグラフ化のパターンを検討
- 人流データの地図への落とし込みを検討
- ログイン機能の実装を検討
- データ構造からIDの振り方を検討

②分析視点の提供に向けた分析

- 今後に向けて取得できると良いデータ項目についての検討
- 疑似データを用いて追加データにより可能になる分析案を検討

成果

1

地図上へのプロット(図1)、周遊パターンの可視化(図2)、各種集計やフィルタリングを実装したダッシュボードを提供した
これにより、**分析時間の実質ゼロ化を実現**できる

人流データを複数の可視化方法で実装したことで、地図上での直感的な理解に加えて訪問経路が視覚的に把握できるようになった

NFTへのID設定により、スタンプラリーの実施回や実施場所によらないシームレスな分析環境を提供

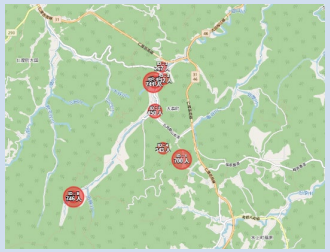


図1. 地図上へのプロット
訪問者数とスタンプラリー実施施設

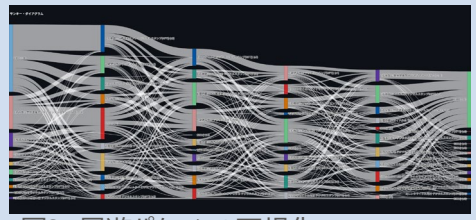


図2. 周遊パターンの可視化
縦軸が参加人数、左端がスタート地点を表す。訪問順と離脱位置を示している。

2

現在取得していない消費額の取得を提案した
滞在時間を延ばすことが与える経済的影響を簡易的にモデル化し、可視化した(図3)
可視化に使用したシミュレーション用notebookを提供した

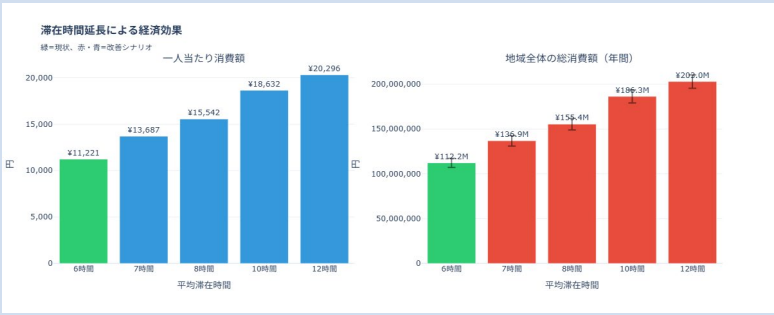


図3. 滞在時間延長による経済効果
消費額の取得が滞在時間の長さをKPI利用できるかの判断を与え、観光体験の漏れが地域経済に与える影響を試算できる可能性を示した。

simasima (民泊事業) の取組み事例: バックオフィス業務効率化による戦略的時間の創出

参加者

企業

社名	simasima
業種	民泊事業
事業概要	直営民泊施設の運営 • 民泊開業・運営代行サポート • 委託管理事業/講師業
所在地 (都道府県・市区町村)	香川県高松市

参加した受講生の概要

チーム名	HACHI-HACHI
チーム人数	5
スキル・PR	製造業のデジタル担当 ITインフラ / ITコンサルタントといった構成で課題分析に強みがあり 全方位対応できるバランスの取れたチーム
進める中で工夫したこと	実際の民泊売上/経費からヒアリングして課題分析 ざっくばらんな打ち合わせから実務に使えるシステムを提案

実施概要

課題内容

民泊事業の売り上げや経費管理に時間がかかっており効率的に処理したい

- 民泊事業の売上や経費をエクセルで一元管理しているが煩雑さから時間を要している
- 売上、リネン費、光熱費等の経費を都度手入力しているため手間がかかっている
- 経営指標となるデータ活用が不十分 売上/RevPAR (客室1室あたりの収益) 等

実施した検討内容

売上/経費の一元管理帳票をカイゼンし、手入力の自動化を推進

- 実際に管理している売上や経費データを企業から提供してもらい課題を分析
- 売り上げや経費データはCSVやPDFで様々な形式で入ってくるが、DX可能な項目を切り分け、自動化させた。また、データの活用方法も提案

検討の成果

【導入効果】 **「年間14.4時間 (30%) の余力を創出」※改善前工数:4時間/月**
2026年1月の実務にて本チームが作成したシステムで検証実施。

【提案】 **PDF自動取込・一括管理システムの導入で、年間24時間削減**
効率化は約50%に向上

【展望】 事務作業削減により戦略時間の創出/データ活用により攻める経営に活用

simasima (民泊事業) の取組み事例: バックオフィス業務効率化による戦略的時間の創出

実施内容: 客室別の売り上げと各種経費をDXで効率化／余力を戦略業務に活用

業務フローのBefore/After比較

【Before】カイゼン前

①データ取得

Airbnbやサイトコントローラー等から売上データを取得したり、各物件の光熱費や清掃費を１つ１つ確認非常に手間がかかっていた

②入力作業

物件ごとに売上データや光熱費や清掃代を複雑なエクセル帳票に手入力。「ぬけ」や計算ミスのリスクがあった。

ミス発生リスク

③集計・計算

変動費を都度入力・計算。ミス（ぬけ）が発生しやすい。

④活用・分析

月次の損益（いくら儲かったか）を確認して終了。分析の余裕なし。

DXによるカイゼン

【After】カイゼン後

①データ取得

各プラットフォームからCSV/PDFをダウンロードするのみ。

②入力作業

データを管理シートに取り込む（コピペ/インポート）だけで、自動計算ロジックが数値を整理。

自動化・効率化

③集計・計算

シート内の関数が経費計、利益、利益率を自動算出。入力ミスを防止。

④活用・分析（途中）

客室別の売上やRevPAR等が表示され「どの物件をカイゼンすべき」か経営判断に直結

成果:システム導入の効果

導入による主な成果

定量的な成果：工数とミスの大幅削減

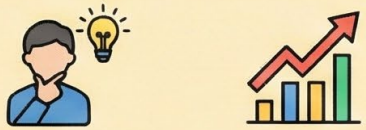
手作業時間の大幅短縮と、人的ミスの削減を実現。

年間30%
(14.4時間)
余力創出

定性的な成果①：迅速な経営判断

分かりやすく使いやすいデータに基づき、スピーディーな意思決定が可能に。

定性的な成果②：戦略業務への時間創出



単純作業から解放され、分析や戦略立案などの付加価値の高い業務に時間を割けるように。

株式会社サンエスライン (卸売業・小売業) の取組み事例: 機械学習を利用した需要予測モデル開発

参加者

企業	社名	株式会社サンエスライン
	業種	卸売業・小売業
	事業概要	EC事業、貿易・国内物流事業、AI・DX支援
	所在地 (都道府県・市区町村)	佐賀県唐津市
参加した受講生の概要	チーム名	価値創造ラボ
	チーム人数	3名
	スキル・PR	営業、データエンジニア 開発エンジニア 労働安全基準
	進める中で工夫したこと	相手が普段業務に使う場合、どの様に利用すると使えるようになるか考えたこと

実施概要

解決したい内容

在庫問題

- 在庫不足・在庫余りの軽減をしたい
- 売れた実績の可視化をしたい
- 仕入れの数の決定が属人化になっている

実施した検討内容

販売需要予測するための数理モデル、予測するためのデータの選択

- 販売数を予測するためのモデルのリサーチ
- 予測するための特徴量の選択
- 販売数の可視化

検討の成果

販売実績データの可視化、機械学習による予測手法の提案と検証

- 販売実績データの推移を可視化 (グラフ化) することで、商品別・月別の販売傾向を把握しやすくなった
- 機械学習による需要予測モデルの概念検証を通じて、従来の経験則に基づく仕入判断に比べ、データに基づいた予測の有効性を確認した

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社サンエスライン (卸売業・小売業) の取組み事例: 機械学習を利用した需要予測モデル開発

実施内容の詳細

販売実績データから仕入れの数を決定する方法を決定する。

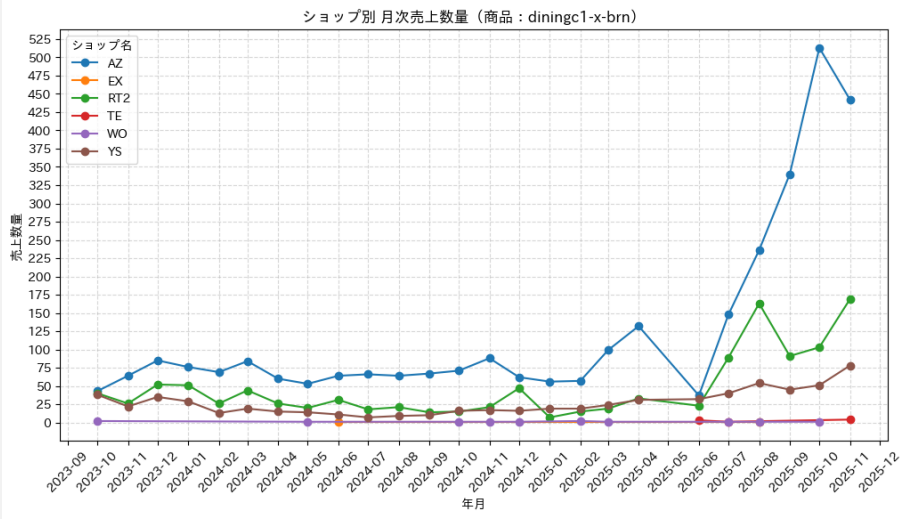
- 日々の販売実績データから月ごとの数字を出し、翌月の販売数を予測する
- 属人化による仕入れの数の決定を可視化、機械学習による予測により、意思決定の属人によるブレを減らす。

成果

販売実績データを可視化して、機械学習による予測手法を提案した。

- 商品IDごとの販売数の可視化を行うことにより、数字だけを見て判断するより翌月の販売数を決定しやすくなった。
- 機械学習による需要予測を用いることで、仕入数量の決定を属人による判断のばらつきを抑えられる可能性がでてきた。

イメージ例



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

林ホールディングズ株式会社 (土木・生コン・物流) の取組み事例

参加者: みと、T.Tana、1129eat

企業	社名	林ホールディングズ株式会社
	業種	土木・生コン・物流
	事業概要	土木、生コン、物流など多岐に渡る事業を13のグループ企業で展開
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
参加した受講生の概要	チーム名	林システムズ (株)
	チーム人数	3名
	スキル・PR	製造業に従事し、DXを推進しているメンバー
	進める中で工夫したこと	実際に現場の担当者と対面で打ち合わせを実施し、現場の温度感を感じて優先度付けを行なった

実施概要

課題内容

- 生コン輸送におけるAI配車計画システムの検証
- 生コンの品質管理と製造工程の新技術の検証
- 生コン原材料の「見える化」で賢い工場運営の検証
- AIで安全な職場環境の実現

実施した検討内容

- 生コン輸送の現状把握、課題の明確化、電子データ化
- 品質管理と製造工程の現場視察による現場要員の課題感の把握
- 職場の災害リストを解析し、傾向分析を実施

検討の成果

- 品質管理、製造工程、原材料管理については課題感を明確にできず、ステイ
- 生コン輸送のAI配車計画について、PoC作成を進めている状態
  - 過去の生コン配車計画から、計画に必要な変数を洗い出し
    変数を入力することで配車計画を自動算出するExcelの作成を実施
    AIによる配車計画を実行できるアプリケーション案を作成した

林ホールディングズ株式会社 (土木・生コン・物流) の取組み事例

実施内容の詳細

生コン輸送におけるAI配車計画システムの検証

＝現状＝

- 生コン輸送の配車計画について、現状では担当者が毎日１～２時間を費やして作成している。
- 各営業所から配送先の工場や現場までの時間 (8:00に間に合うには○分前に出る) を一覧表にして定めている。

＝課題感＝

- 担当者が作成した配車計画に対し、一部のドライバーからの声 (一部のドライバーへの優遇疑い、距離 (残業) の要望) が上がることがあり、担当者が困っている。
- ドライバーの時間外労働が80時間を超えないように配車計画を作成する必要がある。

AIが配車したら全部解決じゃね？？
by担当者

成果

生コン輸送のAI配車計画のPoC作成

- 配車計画の対象エリアが広いため、一部地域に限定した検証を実施。
- 過去の配車計画データを参考に、配車計画に必要な変数を洗い出した。
- Excelのソルバー機能を活用し、変数を入力することで自動的に配車計画の作成を支援するツールを作成。
- 変数を入力することで配車計画をAIが自動的に作成するアプリケーション案を作成。
- 現場訪問やPoC作成の結果から、先方の社内でDXに興味を持っていただくきっかけとなり、DXを積極的に活用する会社方針に変わっている。

Excel　ソルバーによる配車計画

WEBアプリケーション案

ことのは税理士法人 (士業) の取組み事例: AI x 税理士による業務効率化

参加者

企業	社名	ことのは税理士法人
	業種	士業
	事業概要	ITを駆使して中小企業の経営を支える税理士法人
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
参加した受講生の概要	チーム名	チームことのは
	チーム人数	3名
	スキル・PR	多様な人材
	進める中で工夫したこと	毎週水曜日夜にオンライン会議を実施

実施概要

課題内容

紙情報のAI-OCRは高コストで導入が難しく、どの会計ソフトでも自動仕訳できるようにしたい。従業員の仕訳確認作業を削減し、経営コンサルに時間を割きたい。システム会社との会話は会計語とIT語が交錯し実現性が不透明。アプリにこだわらず、実現可能なアイデアを共に探したい

実施した検討内容

実現可能なアイデアを検討した

- Google GeminiでOCRとデータ抽出、自動仕訳
- インボイス番号検索機能への対応
- GoogleスプレッドシートでCSV化、主要会計ソフトとの連携

検討の成果

Googleスプレッドシートを用いた自動仕訳プロトタイプを構築した

- Google GeminiでOCRとデータ抽出、自動仕訳結果と画像の確認画面
- インボイス番号検索機能
- ミロク会計システム用CSVファイル出力

ことのは税理士法人 (士業) の取組み事例: AI x 税理士による業務効率化

実施内容の詳細

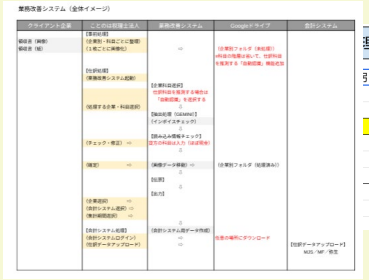
画像化した領収書データをテキスト抽出化し、会計ソフトに取り込むデータ形式に出力するシステムを提案

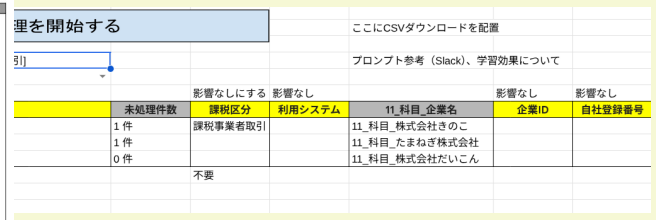
・最新モデル (Gemini 3 Flash等) を駆使し、複雑な証憑から「複数税率」「複数科目」を判別する**マルチ行解析エンジンを独自設計**。
・国税庁「法人番号公表サイトAPI」を完全統合し、AIの抽出結果を公的データで**自動検証・補正するデータクレンジング機能**を実装。
・プロンプトを極限まで軽量化し、解析精度を維持したまま**API利用コストの劇的な低減と処理速度の高速化**を両立。
・監査担当者が画像と解析結果を1画面で完結して突合できる、**実務特化型の監査インターフェースをスクラッチ開発**。
・会計ソフト「ミロク」のインポート仕様に完全準拠し、文字化けを排除する**BOM付きCSVエクスポートエンジンを実装**。
・「科目名×補助科目名」のペアリングによる**高度なマスタコード変換ロジック**を構築し、手入力を徹底排除。
・企業選択からCSV出力までを最短動線で繋ぐ**ワンストップ・ナビゲーションUI**を設計し、オペレーションミスを構造的に防止。

成果

生成AIと公的APIの高度な融合による、証憑仕訳の完全自動化ワークフローの確立と実用プロトタイプの開発

・OCRの限界を超え、会計仕訳に即時転用可能な**1枚の画像からの税率ごとの多行仕訳データ生成**を達成。
・取引先名の誤認識をゼロ化する「公的データ照合基盤」を確立し、実務における信頼性を担保。
・運用コストを最小化しつつ、大量の証憑を短時間で処理できる**商用利用可能な解析モデルを完成**。
・証憑確認から会計データ生成までの工程を、**従来の数分の一の時間で完結させる圧倒的な業務効率化**を実現。
・専門知識を必要とせず、誰でもボタン一つで**ミロク会計ソフト直結の高品質なデータ生成**を可能にした。
・「現場が迷わない操作性」を極めたUIにより、導入初日からの即戦力運用を可能にする実用性を証明。





行政書士法人小金丸 (士業) の取組み事例: 知的資産を組織の競争力に変えるためのDX・AI活用

参加者

企業

社名	行政書士法人小金丸
業種	士業
事業概要	自動車登録・車庫証明・出張封印を専門とする行政書士事務所
所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市

参加した受講生の概要

チーム名	Petit Bateau (プチバト)
チーム人数	4人
スキル・PR	業務課題の理解力と要件定義能力 AIなど最新技術を迅速にプロトタイピングし実用性を検証する技術力
進める中で工夫したこと	ツール開発に留まらず知的資産を組織の力に変えるという本質的な問いを追求した。 セキュリティリスクを最優先しつつ開発を進めた

実施概要

課題内容

1. 属人化した「暗黙知」への依存
- 「配置図作成」はベテランの経験と勘に依存し、新人教育が長期化。品質も不安定であった
- 複雑な判断基準が言語化されておらず、組織の資産として蓄積されていなかった

2. 情報分析による非効率な業務
- 1日100-150件の電話の多くが進捗確認であり、コア業務を圧迫
- kintone、スプレッドシート等のシステムが分断され、二重入力や分断が発生

実施した検討内容

1. 業務プロセスの徹底的な可視化
- 複数回のヒアリングと現場観察を通じ、電子申請 (OSS) と書面申請の業務フローを分析
- 課題の根本原因が「暗黙知の属人化」と「情報の分断」にあると特定

2. 実用性を重視した3施策に集中
- AI (画像生成、OCR) 、API連携 (Google Maps、LINE) を検証
- 配置図作成支援/進捗ステータス共有/手書き書類OCRを迅速にプロトタイプ化

検討の成果

1. 業務効率化を実現する3つの解決策
- 配置図作成支援ツール: 作成時間を10-15分 → 3-5分へ短縮
- LINE Bot x AI-OCRによる書類自動処理: 事務員のデータ入力作業をゼロへ

2. 提言: 「正のサイクル」の創出
- ツール群を統合業務プラットフォームとして導入し、知的資産の蓄積・活用による持続的成長基盤を構築

内浜化成株式会社 (製造業) の取組み事例: 成形IoTによる成形条件最適化

参加者

企業

社名	内浜化成株式会社
業種	製造業
事業概要	自動車外装樹脂部品を中心に、成形・塗装・組付まで一貫生産を行う製造企業
所在地 (都道府県・市区町村)	愛知県豊田市

参加した受講生の概要

チーム名	はんなり大福
チーム人数	5人
スキル・PR	プログラム経験の有無、製造業/他業種など様々な背景のメンバーで協力しました
進める中で工夫したこと	メンバーそれぞれの強みを活かして、企業の皆様の声を形にするよう努めたこと

実施概要

課題内容

射出成型機の機器データを、活用可能な状態にしたい

- 機器からのデータ抽出とグラフ化まではできているが、活用できていない
- Shotごとのデータ分割をして、Lot内や日ごとの生産条件比較ができる状態にしたい
- Grafana (BIツール) でデータを加工し見える化して、今後の活用の足掛かりとしたい

実施した検討内容

Grafanaの活用とデータ分析で手分けして検討を実施

- 製造フローとデータの取得・出力の流れの提示、サンプルデータの提供を受け、ヒアリングを通じて現場のありたい姿を共有した
- 電流の閾値設定に応じたShotごとのデータ分割試行、Grafanaによる見える化例の作成の結果を報告・共有した

検討の成果

Shotごとのデータ分割ロジックを活用し、Grafanaで見える化することができた

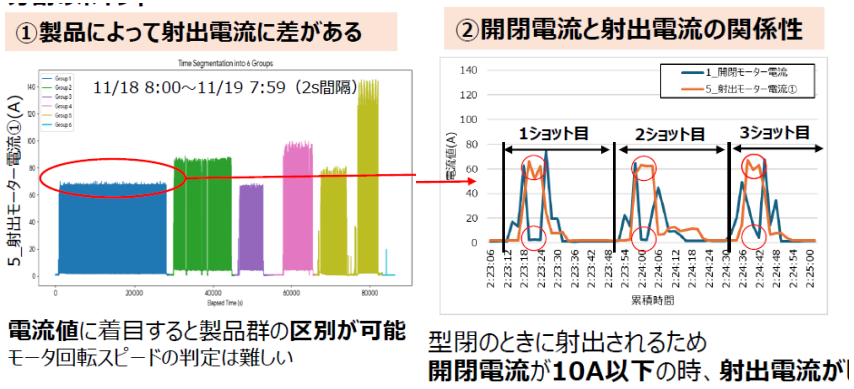
- ある程度の制度でShotごとの分割ができるアプリケーションができた
- GrafanaのSandoBox環境を用意し、その中でデータの見える化例を作成し提示することができた

内浜化成株式会社 (製造業) の取組み事例: 成形IoTによる成形条件最適化

実施内容の詳細

各モーターの電力値をShot単位に分割する

- 生産データとIoT-BOXから得られたデータの紐づけを行う



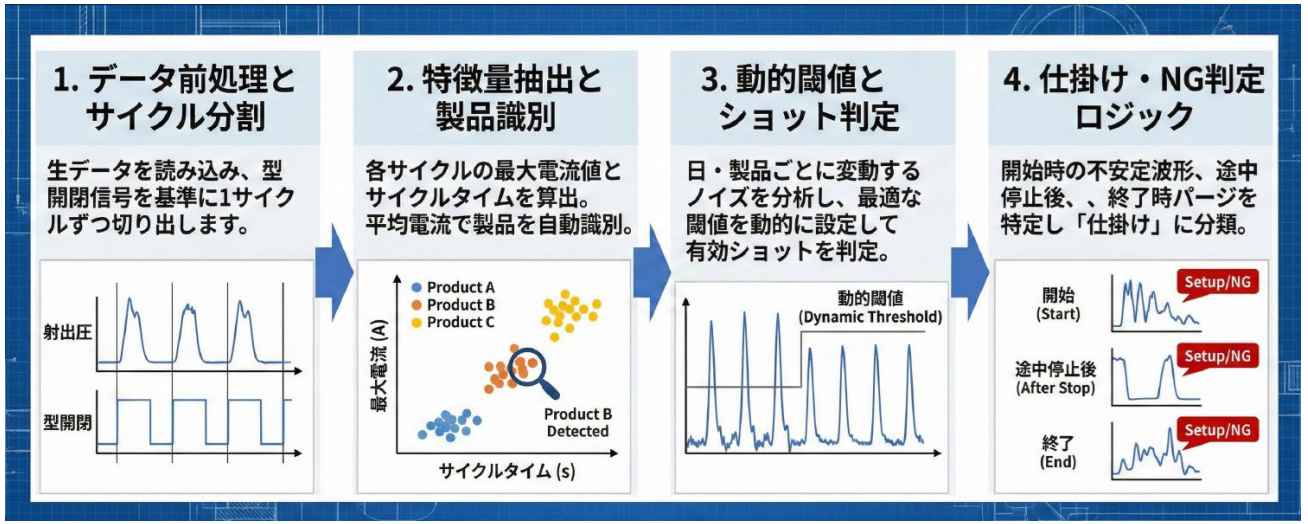
電流値に着目すると製品群の**区別が可能**
モータ回転スピードの判定は難しい

型閉のときに射出されるため
開閉電流が**10A以下**の時、**射出電流が**

成果

生成AIを活用して測定値からショット分割できるロジックを発見

- 教師データとして生産実績データを用い、測定値を分割できるロジックを生成AIを活用して構築。
- 今後の課題: 実データのみでどこまで精度が出せるか。



内浜化成株式会社 (製造業) の取組み事例: 成形IoTによる成形条件最適化

実施内容の詳細

Grafanaを用いた任意の閾値に対する挙動を見える化

- Grafanaで任意の閾値を設定し、その閾値を超えた回数をカウントして表示させるダッシュボードを作成。
- InfluxDB→Python→InfluxDB→Grafanaとデータを受け渡し、ショット始期可視化の可能性を提案。

成果

Grafanaで「任意の閾値を超えた回数」等を表示できるダッシュボード案を提案。

- 単位時間内で閾値を超えた回数をカウントして表示するダッシュボード画面を作成。
- 様々な指標で設定することで、複合的な要因から事象を説明できる可能性について示唆した。

オタライト 株式会社 (製造業) の取組み事例：プラスチック射出成形工程の可視化

参加者

企業	社名	オタライト株式会社
	業種	製造業
	事業概要	プラスチック製品の材料・部品製造
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県春日市
参加した受講生の概要	チーム名	オタライト様受講生チーム
	チーム人数	6名
	スキル・PR	現場の熱量とデジタル専門性が共鳴する「課題解決型ハイブリッドチーム」
	進める中で工夫したこと	現場作業者に興味を持ってもらえる分析、可視化例を共有し、現場を巻き込んでいったこと

実施概要

課題内容

射出成形機のセンサーデータから、成形不良の異常要因を検知したい

- 毎月製造する製品で、不良率が高い製品があり、改善をしていきたい
- 社内全体がDX推進についてきていない現状から、まずは、段替者、作業者が知りたい情報をダッシュボードで可視化し、データに触れる環境を作りたい

実施した検討内容

成形動作波形の重ね合わせ表示や拡大分析を行い、異常要因の仮説を共有

- 仮説をDX推進者と現場担当者に共有し、仮説の検証を依頼

提供 データから、成形動作の切り出しを行い、BI ツールで可視化

- Python処理で、成形動作のIDと開始終了時間を付与し、ショット単位で可視化

学習教材、ツールの操作手順書、プログラムの提供とロードマップ・システム構成を提案

- 将来のリアルタイム異常検知導入に向けた内製支援

検討の成果

射出の異常電流がショート不良に相関することが分かった

- 将来のリアルタイム異常検知への可能性を示唆

現場作業者がデータ活用に興味を持ち、社内展開を広げることができた

- 現場からデータ活用案が出るようになり、品質改善の取り組みを強化

オタライト 株式会社 (製造業) の取組み事例: プラスチック射出成形工程の可視化

実施内容の詳細

異常要因の仮説共有と成形動作の切り出し、可視化、内製支援

- 異常要因の仮説共有

ヒアリングで、センサーを使ってデータ収集して活用するのが初めてで、データを考慮した取り組みに馴染みがないという状況が分かった。
受講生側は、データを活用することで、何が分かるのかを仮説を立てて、提示した。

仮説共有例 (ショート不良が起きた時間帯のデータに着目)
・計量モータの回転位置の収束が10秒ほど遅れる
・射出電流の保圧区間の電流低下時間にばらつきがある

- 成形動作の切り出し、可視化

収集しているデータは、10ms単位で電流値などが記載されているが、データの読み取りは有識者しかできない状況。Pythonで成形動作の切り出しを行い、PowerBIでショット単位の比較ができるようにした。

- 内製支援

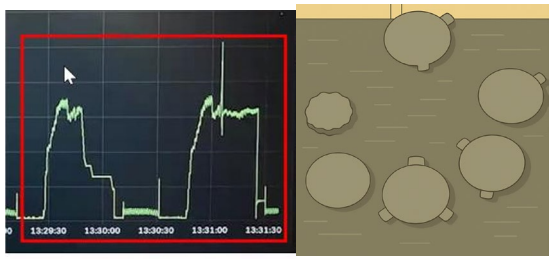
将来、リアルタイム異常検知を生産ライン導入したいが、何をやっていけばよいのか分からない状況。今後の内製支援に、学習用ノートブック (成形動作切り出し・AIモデル構築) やBIツールなどの操作手順書、ショット検出プログラムの提供、ロードマップとシステム構成 (環境構築、DB環境など) を提案。

成果

射出異常電流とショート不良の相関発見とプロジェクトの社内展開成功

- 射出異常電流とショート不良の相関発見

受講生側の仮説検証のため、DX担当者がショート不良がでやすい品番と類似形状の品番で立ち合いを行ったところ、射出波形データをみているだけで、製品を取り出す前に不良かどうかが判別できるレベルで、ショート不良との相関が確認できた。将来のリアルタイム異常検知への可能性を示唆。



- プロジェクトの社内展開成功

DXの取り組みに、社内全体がついてきていない状況で、本プロジェクトの社内展開が一部に留まっていた。
受講生側の取り組みを通じて、データを見ることで品質改善に繋がることが、社内に広まり、データを見ることへの興味を引き出すことができた。
社内の変化もあり、今までデータを使って判断することがなかった現場作業者から、DX担当者に成形立ち合いしてもらい、データを一緒に見てもらいたいと要望が出るようになった。

新日本造機 株式会社 (製造業) の取組み事例: 金属加工機の可観測化: 切削工具の劣化診断に向けた計測と分析の試みと提案

参加者

企業	社名	新日本造機 株式会社
	業種	製造業
	事業概要	タービンとポンプの製造販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	本社:東京都 品川区 工場:広島県 呉市
参加した受講生の概要	チーム名	チームF4
	チーム人数	8名
	スキル・PR	学生、学校技術職員、社会人からなる混成チーム
	進める中で工夫したこと	• コミュニケーションをとり、相互理解を促進することを重視した • プログラムの学習と作成に、AIを積極的に活用した

実施概要

課題内容

金属加工機の稼働や加工の状態把握を人に頼っている。工具は使用量保全としている

- 現場改善のため、稼動や加工の状態を自動的に計測し、分析できる環境を整えたい加工不良を防止するため工具を高頻度で交換しているが、このコストを抑えたい
- センサを使った計測環境を作っているが、"動作計測データ" の分析環境が組めていない

実施した検討内容

"動作計測データ" に対する分析処理、利用環境試作、加工状況の可視化、活用提案を実施

①使用する計測システムの理解とデータ利用環境の整備
②計測データを基にした、加工動作の区分け
③計測データを基にした、加工種類・回数のラベル付け
④切削工具の状態変化を見える化する環境の構築
⑤NC工作機などへのAI適用事例の調査と活用提言
⑥切削工具の耐久試験 (模擬加工) による交換時期推定の提案

検討の成果

加工機の稼働状態の自動判定と加工動作結果の可視化/更なる情報活用への提言

- 計測データから金属加工機の切削区間を抽出し、特徴量を算出できることを確認した
- 既存の生産実行システムとの連携を想定した計測結果の整理
- 同様な課題に取り組んだ事例を調査し、今後の実用化・拡張提案を作成した
- 上記の計測データより切削工具の劣化診断の基本的な分析環境を構築し、メンテナンスコスト削減への道筋をつけるため、切削工具の耐久試験の提案を行った

新日本造機 株式会社 (製造業) の取組み事例: 金属加工機の可観測化: 切削工具の劣化診断に向けた計測と分析の試みと提案

実施内容の詳細

"動作計測データ" に対する分析処理、データ利用環境試作、加工状況・動作の可視化、活用提案

①使用する計測システムの理解とデータ利用環境の整備
パソコン上に時系列データベースを作り、机上でのデータ処理環境を試作。AIでPythonプログラムを作り、データ分析の環境を構築した

②計測データを基にした、加工動作の区分け
加工機から取得した主軸および各軸の電流・周波数データに基づく加工状態のラベリング

③計測データを基にした、加工種類・回数のラベル付け
加工機から取得した主軸の周波数データに基づく加工状態のラベリングを生成AIを活用して実施

④切削工具の状態変化を見える化する環境の構築
切削動作中における、電流値を抽出し特徴量に変換し、切削工具の状態を見える化する

⑤切削加工機の工具寿命予測の事例の調査
金属加工機械(旋盤・マシニングセンタなど)で切削工具の寿命を予知する方法について調査した

⑥切削工具 耐久試験 (模擬加工) による交換時期推定の提案
切削工具メンテナンスコスト削減の目的に近づけるため、得られたデータを活用した切削工具の耐久試験の提案を行った

成果

加工機の稼働状態の自動判定と、加工動作結果の可視化/さらなる情報活用への提言

①複数のモータの動作状態を併せ見ることで、「切削区間」を高精度に切り出せることを確認できた。さらに、切り出した各切削区間のデータを処理し、切削時間、切削中の主軸モータの電力消費量などの特徴量を算出し可視化できた。特徴量の推移分析をすれば、工具や機械の状態変化が可観測となる

②取得された主軸および各軸の電流・周波数データに対して閾値を設定し、加工中、位置決め、停止の3種類のラベリングを行うプログラムをPythonで作成した。本プログラムに基づいて、加工時間を算出することで、加工機の稼働状況をより詳細に把握することが可能となる

③主軸の周波数データに着目し、加工内容のタイプ分けと、タイプ別の加工への番号付けを、生成AIにより作成したPythonプログラムによって実施。結果、対象としたデータ取得日は、計8タイプの動作を行っており、そのうち2タイプの動作が各71回観測された。これらは、荒加工と仕上げ加工に該当する

④工作機械の主軸回転数や電流値を記録した csv ファイルを取り込み、主軸回転用モーターの電流値のバラつきを算出するプログラムをhtml形式で作成した。このプログラムによって切削工具状態の見える化し、劣化診断への貢献が期待できる

⑤経験則ベースから、物理モデルベース、データ駆動 (AI) ベースまで、様々な手法で、検討・活用されていることがわかった。(経験則: Taylorの工具寿命則、物理モデル: 主軸負荷の監視・加速度センサ測定・加工音解析・切削力測定・切削温度測定、データ駆動: センサデータを学習して予知、ハイブリッド方式)

⑥加工機の計測システムの整備やそれに対応した「切削工具の劣化の見える化」等を活用して、劣化診断精度の向上を目指して切削工具の模擬加工による耐久試験の提案を行った。これによってメンテナンスコストの削減のための一つの道筋を提案できた

リーフ株式会社 (製造業) の取組み事例: 在宅・介護領域におけるセンシングDXプラットフォーム開発

参加者

企業	社名	リーフ株式会社
	業種	システム開発
	事業概要	医療機器・リハビリ支援機器・介護福祉機器などの (システム開発、製造、販売)
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県北九州市
参加した受講生の概要	チーム名	マナビの庭
	チーム人数	5名
	スキル・PR	ITやプログラミング初心者
	進める中で工夫したこと	チーム内で意志の疎通をしっかり図り、役割分担を明確化し、各自が参加意識を持てるようにした

実施概要

課題内容

ベッドセンサーからの情報を表示するUI開発

- 高齢者の体位変換・体重・体調変化を誰でも直観的に理解できるWEBアプリで可視化

実施した検討内容

見やすいUI開発のための検討と改善を実施した

- それぞれのベッドに横たわる高齢者の状態の把握と介入のための閾値を検討
- 協働企業に実施いただいた現場介護施設のPoCを踏まえて表示内容を見直した

検討の成果

閾値を4段階に変更、離床・起き上がりの表示機能を追加

- 当初案では、警告対象に離床や起き上がりは含まれなかったが追加をした
- 第2画面を設けて、それぞれの変化を表示・確認できるように変更をした

リーフ株式会社 (製造業) の取組み事例:
在宅・介護領域におけるセンシングDXプラットフォーム開発

実施内容の詳細

PoC用ローカル環境の構築により、ユーザーの声を受けて開発、検証を高速で回し、品質面のテストも実施

ローカルPC環境での高速開発

本来は物理環境を必要とするセンサー起点のアプリ開発において、機材調達に縛られず、ニーズ対応重視で開発

ユーザーの負荷軽減を考えた仕様調整

アラートが発報し続けないように、対応完了時の姿勢を記憶し、姿勢が変わらない限り再アラートを抑制

証跡管理機能の搭載

スタッフのアクション (対応開始・完了) を秒単位のタイムスタンプとともにデータベースへ保存し、業務の透明性と分析可能なDBを構築

管理対象ベッド数の拡張性を考えたUI設計

PoC段階で12台のベッド状況をリアルタイムに俯瞰できるダッシュボードと、過去120日分のデータを分析できる詳細画面を構築

成果 (成果物は別シート)

迅速な開発でアラート抑制と証跡管理を実現し、12台同時監視の安定稼働と品質を実証

開発スピードの向上と機材依存の解消

短期間のうちにソフトウェアロジックを実運用レベルへと昇華させ、検証のPDCAサイクルを劇的に高速化した

スタッフの精神的・実務的負担の軽減

現場の「アラート疲労」を抑制し、本来のケア業務への集中を支援できる可能性を見出した

客観的なデータに基づく証跡 (エビデンス) の確保

手書きの記録業務を削減しつつ、事故時の証明や業務負荷の定量的な分析も可能な仕組みへ昇華できた

多台数監視における安定性と視認性の実証

シミュレーションによる120日分の長期データを用いた負荷検証に成功、全23項目の機能テストをすべてクリアし、実運用に耐えうるシステム品質を実証できた

リーフ株式会社 (製造業) の取組み事例:
在宅・介護領域におけるセンシングDXプラットフォーム開発

成果物一覧

1. フロントエンド (サービス操作UI画面)

- ダッシュボード (第一画面): 施設内の12台のベッド状況をリアルタイムに俯瞰できる画面です。緊急度を4段階の色分け (緑・黄・橙・赤) とアニメーションで表現し、「今、誰に何をすべきか」を直感的に判断可能
- 詳細分析画面 (第二画面): 特定の入居者の詳細な履歴を確認する画面です。過去120日分の体重推移グラフや姿勢変化のタイムラインを表示し、サルコペニア (筋力減衰) などの健康リスクの早期発見に寄与

2. バックエンド (システム・プログラム構成物)

- APIサーバー (app.py / api_server.py)
  システムの司令塔として、フロントエンドへのデータ提供とスタッフの対応記録 (証跡) の保存
- データ処理ロジック (data_processor.py)
  システムの「頭脳」であり、4段階のアラート判定、体重スパイク検知、およびスタッフ対応後の不要なアラートを抑止機能の制御
- シミュレーター (simulator.py)
  12台の仮想ベッドの動きを再現するテストエンジン。起動時にランダムなトラブル状態を注入、テスト用にUIの動作を検証可能
- データ生成ツール (generate_data.py)
  分析画面のテスト用に、120日分の長期履歴データをデータベースに自動投入
- 一括起動バッチ (start_system.bat)
  データベースの初期化、シミュレーター、サーバーの起動、ブラウザの立ち上げをダブルクリックのみで自動実行し、デモ準備を高速化
- SQLiteデータベース (beds.db)
  姿勢・体重履歴に加えて、スタッフが「いつ、誰に、何をしたか」を秒単位で記録するテーブルなど、4つのテーブルで構成される永続化基盤

3. ドキュメント

- 技術仕様書 (システムアーキテクチャ、データベース設計、API仕様、データ処理ロジックの詳細)
- 環境構築手順書 (非エンジニア対象検証環境構築マニュアル)
- デモ環境構築手順補足資料 (手順書をスライド化)
- テスト結果報告書 (23のテスト項目の検証結果)
- 企業様用サービス提案資料
- プロジェクト管理ドキュメント (WBS、課題管理表)

株式会社 是永商会 (製造業) の取組み事例: Next Growth ～自走できるシステム開発～「社長ランチごちします。」

参加者

企業	社名	株式会社 是永商会
	業種	製造業
	事業概要	鋼材の加工・販売
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県北九州市
参加した受講生の概要	チーム名	Team D
	チーム人数	4名
	スキル・PR	多種多様なスキルを持ったメンバーがDX戦略プログラムを構築します
	進める中で工夫したこと	• 企業の詳細課題の理解 • 受講生間のコミュニケーション

実施概要

課題内容

n8nツールを活用した業務改善仕組みの試作・検討

- n8nの導入を検討しており、社員が自分で業務改善を行えるような仕組みを作りたいが、現状プログラミング等の知識に乏しく、検討すら難しいため、提案支援をお願いしたい

実施した検討内容

「社員が自走して業務改善できる仕組みづくり」をテーマに検討を進めた

- 現場・経理双方の負担を減らす業務フローの整理
- 福利厚生費 (食事補助) に関する現行運用と課題の整理
- 完全自動化ではなく、人による確認を前提とした「半自動連携 (Human-in-the-Loop) 」の設計
- n8n を活用したノーコード/ローコードによる業務自動化の実現可能性検討
- 将来的に社内で内製・改善を継続できる構成・運用方法の検討

検討の成果

現場・経理双方の負担を抑えつつ、DX を段階的に進められる具体的な仕組み案 を作ることができた

- n8n を活用し、ノーコード/ローコードで業務自動化が可能であることを確認
- 全データを経理システムへ即時連携しないことで、誤入力・過剰申請・税務リスクを抑制できる運用方針を明確化
- 福利厚生費申請において、現場での入力負荷を最小限に抑え経理が最終確認を行う「半自動連携」の運用モデルを設計

ザ・ハーモニー株式会社 (介護事業) の取組み事例: 認知症コミュニケーションロボットの開発

参加者

企業	社名	ザ・ハーモニー株式会社
	業種	介護事業
The Harmony Inc.	事業概要	CARE (ケア事業部) 認知症専門介護施設の運営
	所在地 (都道府県・ 市区町村)	福岡県飯塚市
参加した 受講生 の概要	チーム名	Team H
	チーム人数	5人
	スキル・PR	多様なスキルとバックグラウンドを持つミックス部隊による、多角的視点からの分析力
	進める中で 工夫したこと	取組期間が短かったため、フォーカスしたい点を協議で早めに絞り、PoCに取り組んだ

実施概要

課題内容

介護用対話ロボット「だいちゃん」のUXの向上

- 応答時間短縮方法を模索したい: LLM移行に伴う応答遅延を、UXの工夫や処理の効率化で解決することを目指す
- インターネット接続が難しい環境下の使用感の改善: 施設の不安定なWi-Fi環境に依存せず、共感性の高い対話を実現する

実施した検討内容

現状の課題分析と改善案の策定

- 実際の会話録画や満足度ヒアリングを分析し、会話のキャッチボールの不自然さや聴覚バリア等の技術的・運用的課題を抽出した
- 「傾聴モード」と「会話モード」の2チームに分かれ、音声サンプルの最適化や軽量ローカルLLMのプロンプト設計を検討した

検討の成果

エッジ環境におけるUX向上メソッドの確立

- ネット不要の「エンパスモード」を考案し、LLMの回答を待つ間に感情に合わせた相槌を即座に再生することで体感時間を短縮する手法を実証した
- Raspberry Pi 4から最新のミニPCまで、コストと処理速度を両立させるためのハードウェア選定基準を一覧化した

渡辺鉄工株式会社 (製造業) の取組み事例: 購買データに基づく購買最適化

参加者

企業	社名	渡辺鉄工株式会社
	業種	製造業
	事業概要	オーダーメイド機械を一貫して手がける老舗メーカー
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市博多区相生町
参加した受講生の概要	チーム名	mutable
	チーム人数	4名
	スキル・PR	AIやデータの利活用に関心のある方が集まってできたチームです
	進める中で工夫したこと	メンバーの得意な領域や関心のある領域を活かし、多角的な問題解決を試みた

実施概要

課題内容

購買の最適化

- 蓄積された購買データを活用したい
- 案件ごとの購買価格・条件が適正であったかを定量的に評価し、購買活動を最適化できるツールの構築を検討したい

実施した検討内容

購買データの傾向を調査・図面を用いた業務効率化

- 購買データをもとに、製造された装置の部品の組み合わせ傾向分析を実施
- 図面から重量を読み取る作業の省力化を検討

検討の成果

購買データの傾向調査・図面を用いた業務効率化

- 図面をOCR処理し、重量算出を自動化・簡易化した
- 購買データを分析し、取引・販売傾向を可視化した
- LLMを活用して分析結果の妥当性や傾向解釈を検証した

渡辺鉄工株式会社 (製造業) の取組み事例: 購買データに基づく購買最適化

実施内容の詳細

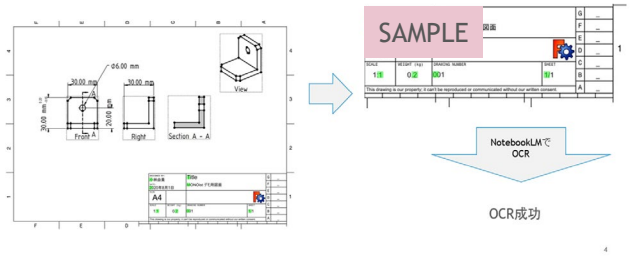
BI、OCR、LLMを用いて業務効率化・改善案を提案

- ●図面からOCR
  - ○図面に記載された部品の重量をOCRによって読み取り、最終的に複数の部品の重量の合計値を計算できるようにした。
- ●購買データの分析 (統計的アプローチ)
  - ○階層的クラスタリングにより装置番号ごとの組み合わせ傾向を分析した。主に9パターンに分類され、デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析は案件固有の組み合わせであることがわかった。
- ●購買データの分析 (PowerBI)
  - ○購買データをもとに、PowerBIを用いて、購買の傾向を調査した。例えば、1つの装置を製作するのにどのくらい購買の手間がかかりそうかなどを、可視化により示すことができた。
- ●LLMでデータを確認
  - ○提供されたサンプルデータについて、LLMにより、データの特徴や傾向をざっくりと把握しながら、企業様の求める改善策について、分析、提案した。

成果

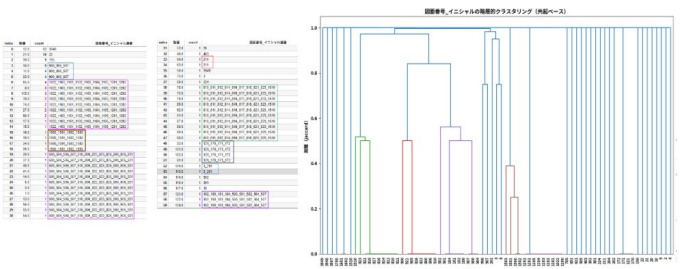
効率化する際の注目すべき点を提示し、併せて改善点を可視化することができた

図面からOCR



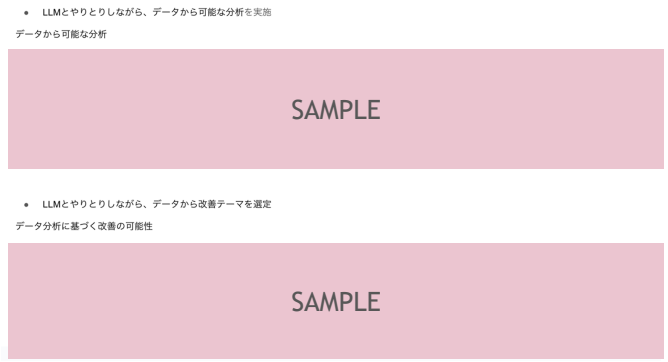
階層的クラスタリングを用いた装置番号の傾向調査

枠の色とデンドログラムの色が同じグループ分けになった



購買データの分析

LLMでデータを確認



※データや図面にはサンプルデータを使用しています。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

三和金属株式会社 (製造業) の取組み事例: 鉄鋼端材の「資産化」に向けた在庫管理モデルの構築と外販プラットフォームへのロードマップ

参加者

企業	社名	三和金属株式会社
	業種	鉄鋼卸・加工業
	事業概要	鉄鋼製品の卸売および一次加工 (切断・孔あけ 等)
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県北九州市、中間市
参加した受講生の概要	チーム名	あべんじゃーず
	チーム人数	5
	スキル・PR	現場オペレーションへの深い理解に基づく業務設計力
	進める中で工夫したこと	「現場の運用」と「コスト感覚」を重視

実施概要

課題内容

【現状】金属加工の過程で発生する「端材 (残材) 」は、本来は材料として価値があるにもかかわらず、管理工数の問題から「スクラップ」として廃棄、または定尺品と混在して放置されていた。(一部再利用されているものはアリ)
【課題】何がどこにあるか不明なため、再利用や販売の機会を損失している。端材の在庫管理を行おうとすると、現場の計測・登録負荷が高すぎて定着しない

実施した検討内容

1. 在庫管理の実証実験 (PoC)
現場負荷を最小化する管理手法を策定。特定の不定形残材に絞り、Excel簡易ツールを用いた在庫化・消込サイクルを実証
2. 外販・プラットフォーム化へのロードマップ策定
自社での活用にとどまらず、外部PFでの販売、さらには同業他社へのシステム展開、多素材 (紙・木材) への展開に向けた4段階のステップを定義

検討の成果

1. オペレーションの確立
「加工」と「登録」を分離する方式により、現場の生産性を落とさずに在庫データ化 (資産化) が可能であることを実証した
2. 投資判断基準の明確化
システム開発やAI導入等の高額投資に対し、まずは「人力＋既存ツール」でスモールスタートし、収益性が見えた段階で投資する確実なロードマップを策定した

三和金属株式会社 (製造業) の取組み事例: 鉄鋼端材の「資産化」に向けた在庫管理モデルの構築と外販プラットフォームへのロードマップ

実施内容の詳細

将来の外販・他社展開を見据えた在庫管理モデルを構築

1.実証実験 (PoC) の具体的な仕組み
現場の混乱を避けるため、以下の「3ステップ循環モデル」を構築・検証した。
STEP 1 一時保管: 加工担当者は、発生した残材を「中間棚」に置くだけとする (入力不要) 。
STEP 2 専任登録: 管理担当者がまとめて計測・Excel登録し、管理ラベルを貼付して「保管棚」へ移動。
STEP 3 使用・消込: 使用時はリストから検索し、現物をピックして消込ボタンを押下。
→ 結果: 現場作業時間を圧迫せず、在庫精度100%を維持することに成功。

2. 将来構想: 4段階の成長ロードマップ
STEP 1 (現在): 社内活用・Re-activeな販売 (問い合わせベースでの販売) 。
STEP 2 (直近): 外部PF「KAMAMESHI (日本製鉄社運営)」等への出品・Activeな販売。
STEP 3 (中期): 在庫管理システムのアプリ化・SaaS化による同業他社への展開。
STEP 4 (長期): 鉄の管理ノウハウを「紙・木材」へ横展開し、総合端材商社化。

成果

端材の「資産化」を実証し、外部PF連携・システム外販による収益化への道筋を確立

1.「見えない資産」の可視化
これまでキロ単価数円のスクラップとして処理されていた端材を、製品として管理することで、潜在的な利益創出額を試算・可視化した。

2. 技術実装の実現性評価 (カメラ計測)
他社展開時に必須となる「スマホ計測」について、コストと精度のバランスを分析。
結論: いきなり高額なAI開発 (1,000万円～) は行わず、まずは「参照マーカー方式 (数十万円～) 」での実装が最もROIが高いと結論付けた。
アクション: 0円でできるOS標準機能検証を経て、段階的に投資する計画を策定済み。

3. KAMAMESHI連携への布石
単なるユーザーではなく「端材カテゴリーの創出パートナー」として日本製鉄社側へアプローチするための、市場ニーズデータ (テスト販売結果) と供給オペレーション基盤を確立した。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

参加者

企業	社名	鹿児島ケース株式会社
	業種	製造業
	事業概要	ステンレス、鉄、アルミ等の鋼板の精密板金加工
	所在地 (都道府県・市区町村)	鹿児島県日置市
参加した受講生の概要	チーム名	CoDegi
	チーム人数	5人
	スキル・PR	製造業経験者、コンサルタント、エンジニアなど、技術背景の異なる人材がバランスよく在籍
	進める中で工夫したこと	各自の持つスキル特性を活かし、適材適所で作業を進めた

実施概要

課題内容

生産性の可視化

- 組織全体での生産性はデータで評価可能だが、個人単位での生産性可視化が困難

生産性の向上へつなげる

- 生産性の低い人材などに教育プログラムを行う判断材料にしたい

実施した検討内容

生産性の可視化

① 蓄積された作業データから過去の生産性も含めて可視化
② 作業者の研修へ繋げる目的で、各作業者の工程毎の得意・不得意をデータから推定
③ 業務システムのヒアリングとデータ可視化プログラムの作成

※検討の結果、生産性の可視化へ注力することに決定

検討の成果

生産性の可視化 (①～③全体として)

- これまで感覚的な判断に基づいていた得意不得意が、定量的に評価できるようになった
- 現場の人材ひとりひとりも、自身の生産性や得意不得意が把握できるようになった
- データを利活用して業務生産性向上や新たな価値創出に向けた気づきを産むことができた
- 総じて、生産性の向上につなげるための礎を築くことができた

鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

支援チーム側の振り返り: ①蓄積された作業データから過去の生産性も含めて可視化

実施内容の詳細

蓄積された作業データから過去の生産性も含めて可視化

ツール作成

1. 人材ごとの月間生産性を年度単位で一覧表化。月々の状況を把握できるように
2. 1 からドリルダウンで、日単位の生産性を一覧表示
3. さらに 2 からドリルダウンで、該当日に製造した製品の一覧を表示
4. 3 の表内に、過去に同じ製品を製造したときの生産性を表示

現地視察

1. ツールのセットアップに併せて、現地工場を視察。実際の製造作業や製造完了打刻作業の現場を確認し、実態をより正確に把握
2. データ上で生産性が700%を超える異常値を検出し、現地ヒアリングを実施。バーコードの「まとめ打ち」が原因であることを特定し、分析におけるノイズ除去を実現
3. 企業側担当者と実際に会って会話することで、より良質なコミュニケーションを構築

成果

勘や経験ではなく、データを元に客観的に生産性を評価できるように

- 該当日の生産性の可視化もさることながら、過去の生産性が参照できることが評価を得た
- 過去の生産性も可視化されたことで、作業自体の得意不得意や習熟の傾向などもデータで確認でき、新たな発見や今後の方針の立案に役立ったとの声をいただいた
- ツールを見た現場作業者からも「得意な製品、時間がかかっている製品が分かった」とポジティブな反応を獲得

- 企業側担当者とのコミュニケーションがより良質になることで、ツールの使用感などについても率直な意見を得られたと考えている

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

鹿児島ケース側の振り返り: ①蓄積された作業データから過去の生産性も含めて可視化

実施内容の詳細

各工程における作業工数のバラツキを可視化し、現場で発生しているムダやムラ、作業の不安定要因を明確にし各工程での標準時間を構築

- 工程別、進捗実績詳細の分析から各作業者の実績時間のバラツキが発生していることが判明。
- 作業者ごとの分析を通じて作業効率が高い商品、作業効率の低い商品を可視化した。
- この分析データを基に各作業者、工程ごとに集まって頂きミーティングを２回開催、分析データを共有することで、得意・不得意が明確に見えてきた。
- 得意な商品が明確になったことで効率よく作業を実施できる前向きに捉え作業ができるようになってきた。
- 不得意な商品については、教育カリキュラムとして計画を立て実施していくと提言した。

成果

作業工程の生産能力向上に向けて今後、社内教育の実施や商品パターンごとに作業手順を確立させ作業の安定化、さらなる向上を目指す

- 工程別の進捗実績を詳細に分析した結果、作業者ごとに実績時間のバラツキが発生していることが明確になった。これにより、現場で感じていた「ムラ」がデータとして裏付けられ、改善すべき工程や作業者の傾向を客観的に把握できるようになった。
- 作業者ごとの工数データを分析したことで、作業効率が高い商品と効率が低い商品が可視化された。これにより、どの商品が得意で、どの商品に時間がかかっているのかが明確になり、工程改善や教育計画の基礎データとして活用できる状態となった。
- 分析データを基に、作業者および工程ごとにミーティングを2回開催した。データを共有しながら議論を行ったことで、各作業者の得意・不得意が客観的に把握され、現場全体で共通認識を持つことができた。これにより、改善に向けた方向性が明確になり、現場のコミュニケーションも活性化した。
- 得意な商品が明確になったことで、作業者自身が自分の強みを理解し、効率よく作業を進められるようになった。作業への前向きな姿勢が生まれ、モチベーション向上にもつながっている。現場全体としても、適材適所の配置がしやすくなり、生産性向上に寄与している。
- 不得意な商品については、教育カリキュラムとして計画的に習得を進める方針を提言した。これにより、作業者のスキル底上げと工程全体の安定化が期待できる。今後は、教育内容の標準化や進捗管理を行い、継続的なスキル向上につなげていく。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

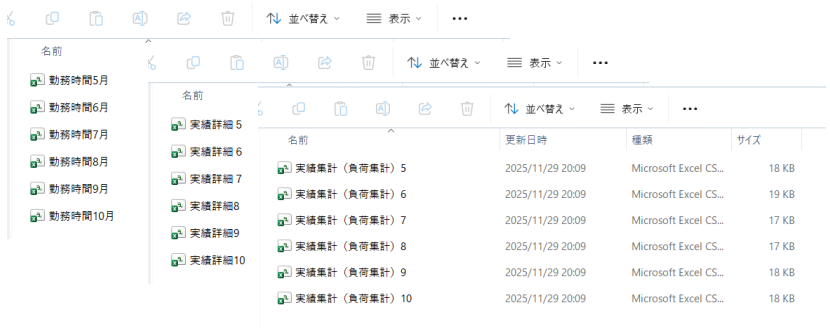
鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

支援チーム側の振り返り: ②作業者の研修へ繋げる目的で、各作業者の工程毎の得意・不得意をデータから推定

実施内容の詳細

作業者の研修へ繋げる目的で、各作業者の工程毎の得意・不得意をデータから推定するITプログラムを検討

- 作業者の工程ごとの得意・不得意をデータを活用して推定するITプログラムを構築を試みた。頂いたデータは下記の通り:
  (1) 各作業者が実施した受注先/図番毎の工程の標準の加工工数 (日単位・5-10月)
  (2) 各作業者が実施した工程の標準の段取工数と加工工数の各月の合計時間 (月単位・5-10月)
  (3) 各作業者の月毎の実績勤務時間合計(月単位・5-10月)
- 上記３つのデータの内容をヒアリング等で確認、データベースとしての相互整合性を整備。(工程名称確認や事務員除外など)
- 整備後の上記３つのデータのマスキング処理を実施。鹿児島ケース様の了承を得て生成AIに入れてITプログラムを構築。



成果

各作業者の工程ごとの得意・不得意をデータから定量的に判定するITプログラムを作成
現場の感覚による判定との違い等を認識頂いて、作業者の研修に活用いただく予定

- 各作業者の工程毎の日々の作業実績時間のデータは無かったが、月合計の各作業者の勤務実績時間があったことから、月毎での効率性の把握を検討。
- データがあった2025年5-10月のトータルでの生産性の判定結果を出すPythonプログラムを生成AIで構築できた。
- 毎月の生産性の推移を見た方が良いとのことから、チームメンバーで毎月の判定結果が出るようにPythonプログラムを改良いただけた。また、新規品率の影響も見ることができるようになった。

	A	B	C	D	E	F
1	担当者	工程名称	month_num	判定	月間生産性	新規品率
2	b001	ﾍﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	5	▼ 不得意/課題	0.35	15.6%
3	b001	ﾍﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	6	▼ 不得意/課題	0.41	0.0%
4	b001	ﾍﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	7	▼ 不得意/課題	0.42	11.7%
5	b001	ﾍﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	8	▼ 不得意/課題	0.42	15.1%
6	b001	ﾍﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	9	▼ 不得意/課題	0.37	26.7%
7	b001	ﾍﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	10	▼ 不得意/課題	0.48	15.9%
8	b003	処理1	5	◎ 得意	7.51	18.2%
9	b003	処理1	6	◎ 得意	7.94	0.0%
10	b003	処理1	7	◎ 得意	8.24	13.1%
11	b003	処理1	8	◎ 得意	1.23	30.9%
12	b003	処理1	9	◎ 得意	8.7	20.3%
13	b003	処理1	10	◎ 得意	2.86	24.8%
14	b004	皿加工	5	▼ 不得意/課題	0.65	4.3%
15	b004	皿加工	6	◎ 得意	0.95	0.0%
16	b004	皿加工	7	○ 標準	0.74	12.9%
17	b004	皿加工	8	○ 標準	0.74	14.0%
18	b004	皿加工	9	▼ 不得意/課題	0.68	25.9%
19	b004	皿加工	10	◎ 得意	0.89	10.4%
20	b004	ﾀｯﾌﾟ	5	▼ 不得意/課題	0.65	10.1%
21	b004	ﾀｯﾌﾟ	6	◎ 得意	0.95	0.0%
22	b004	ﾀｯﾌﾟ	7	○ 標準	0.74	5.2%
23	b004	ﾀｯﾌﾟ	8	○ 標準	0.74	13.6%
24	b004	ﾀｯﾌﾟ	9	▼ 不得意/課題	0.68	20.2%
25	b004	ﾀｯﾌﾟ	10	◎ 得意	0.89	5.4%
26	b004	ﾊﾞﾘ取り	5	▼ 不得意/課題	0.65	12.1%

単なる生産性 (実績工数÷標準工数) だけでなく、「新規品 (難易度が高い) 」を多く担当した場合の数値低下を考慮し、「新規品率」も併せて分析することで公平性を担保した。
判定基準をクライアント目標である「0.7」に設定し、現状の実力を「◎得意」「○標準」「▼課題」「△習熟中」の4段階で分類した。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

鹿児島ケース側の振り返り: ②作業者の研修へ繋げる目的で、各作業者の工程毎の得意・不得意をデータから推定

実施内容の詳細

各作業の生産性判定を可視化し、対応力・課題を見つけ、適材適所を明確にし公平な人事評価を構築

- 各作業者の月間生産性判定の分析から、どの月の商品が得意不得意が判明。
- 月間生産での新規品の作業率、◎得意▼不得意/課題を各作業者ごと可視化した。
- 詳細を算出し分析することで作業パターンなど明確になることができる。
- 人事評価と比較することで公平な評価につなげることできる。

成果

各作業の生産性判定を可視化したことで、作業者ごとの対応力や課題が明確になり、適材適所の配置が行いやすくなった。また、データに基づく客観的な判断が可能となり、公平性の高い人事評価を構築するための基盤が整った。

- 各作業者の月間生産性判定を分析した結果、月ごとにどの商品が得意で、どの商品が不得意なのかが明確になった。これにより、作業者ごとの特性を客観的に把握でき、適材適所の配置や教育計画の基礎データとして活用できるようになった。
- 月間生産データを基に、新規品に対する作業率を算出し、◎ (得意) ／▼ (不得意・課題) として各作業者ごとに可視化した。これにより、新規品への対応力や習熟度の差が一目で分かるようになり、現場のスキル状況をより正確に把握できるようになった。
- 詳細な算出と分析を行うことで、作業者ごとの作業パターンや傾向が明確になった。例えば、特定の工程に強い作業者、特定の製品で工数が増える傾向がある作業者など、これまで見えにくかった特徴がデータとして把握できた点は大きな成果である。
- 分析結果を人事評価と照らし合わせることで、評価の公平性を高めることが可能となった。感覚ではなくデータに基づいた評価ができるため、作業者の納得感向上にもつながり、組織としての透明性と信頼性が向上する基盤が整った。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

支援チーム側の振り返り: ③業務システムのヒアリングとデータ可視化プログラムの作成

実施内容の詳細

業務システムのヒアリングとデータ可視化プログラムの作成

1. 業務ヒアリングとデータ分析
- 業務内容 (作業の流れ、データ収集の方法) のヒアリング
- 提供いただいたデータの分析
  - 進捗実績詳細
  - 実績集計 (負荷集計)
- 探索的データ分析
  - 工程開始時間と工程完了時間から工程実施時間を計算
  - 作業者別の総作業時間を算出し、作業者ごとにばらつきが大きいことを確認 (実績詳細)

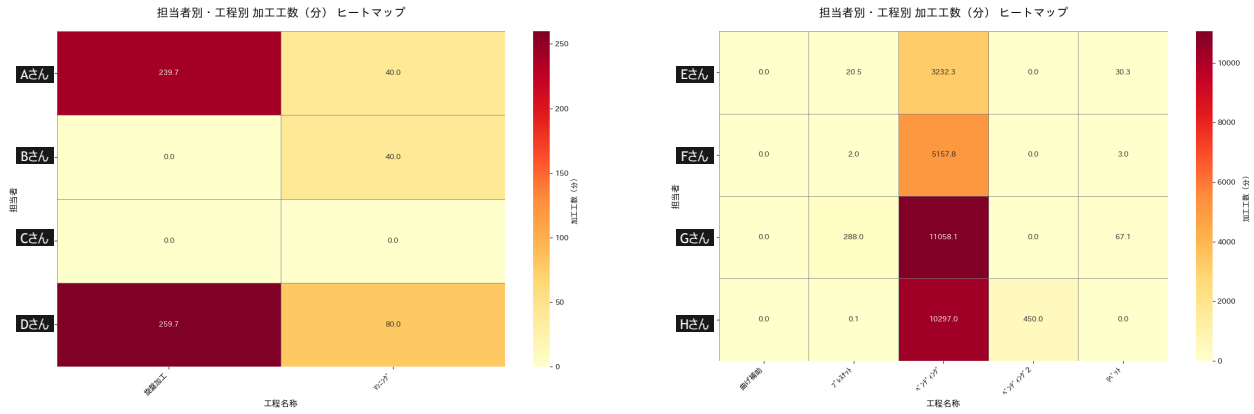
2. ヒートマップ生成プログラムの作成
- 60以上の工程名称を9つの主要工程に集約
- 主要工程ごとに担当者別の作業負荷をヒートマップで可視化
- 色の濃淡で作業量の偏りを一目で表示

3. 現場への導入
- 4台のPCへプログラム実行環境の構築
- 操作マニュアルの作成

成果

データ可視化コードの現場への導入とツールの改善

- ヒートマップにより工程別・作業者別の作業負荷の偏りを一目で可視化し、作業者別に割り当てられる工程の実態把握が可能になった。
- 現場への早期展開により使用感をフィードバックしていただき、60以上あった工程名称を9つに集約した分類を現場の実態に合わせて修正、より正確な可視化を実現した。



作成されたヒートマップの例

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

鹿児島ケース (製造業) の取組み事例: 教育カリキュラムへの連携に向け、個人の生産データから低生産性の加工実績を抽出

鹿児島ケース側の振り返り: ③業務システムのヒアリングとデータ可視化プログラムの作成

実施内容の詳細

各工程における作業量を可視化し、現場で発生している作業量の偏りを明確にし各工程での平準化を構築

- 工程負荷集計の分析から作業者ごとの実績時間から作業量が片寄っていることが判明。
- 作業者ごとの分析を通じて各工程での誰に作業量が集中しているのかをヒートマップで可視化した。
- この分析データを基に各作業者、工程ごとに集まって頂きミーティングを２回開催、分析データを共有することで、作業の偏りが見えてきた。
- 偏りが明確になったことで工程内で作業量を振り分け平準化作業が実施できることで協力体制での生産ができるようになる。
- スキルに応じてできる作業できない作業が発生することで教育カリキュラムとして計画を立て実施していけると提言した。

成果

各工程の作業量を可視化したことで、現場で発生していた作業量の偏りが明確になり、工程ごとの負荷バランスを客観的に把握できた。この結果を基に作業量の平準化を進める体制が整い、工程全体の安定化と生産性向上につながる基盤を構築する

- 工程負荷集計の分析により、作業者ごとの実績時間から作業量に偏りが生じていることが明確になった。これにより、負荷バランスの問題を客観的に把握でき、今後の作業量平準化や適材適所の配置検討につながる重要な気づきを得ることができた。
- 作業者ごとの実績データを分析し、ヒートマップを用いて各工程で「誰に作業量が集中しているのか」を視覚的に把握できるようにした。これにより、従来は感覚的にしか捉えられていなかった作業負荷の偏りが、客観的なデータとして明確になった。
- 可視化した分析データを基に、作業者および工程単位で2回のミーティングを開催した。データを共有しながら議論することで、現場全体で作業の偏りに対する認識が統一され、改善に向けた共通理解が形成された。
- 作業の偏りが明確になったことで、工程内で作業量を適切に振り分ける平準化作業が可能となった。これにより、特定の作業者に負荷が集中する状況が改善され、協力体制で生産を進められる環境が整いつつある。結果として、工程全体の生産性と安定性の向上につながる基盤が構築された。
- 分析を通じて、作業者ごとに「できる作業・できない作業」が明確になった。これを踏まえ、不得意な作業については教育カリキュラムとして計画的に習得を進める方針を提言した。これにより、スキルの底上げと工程全体の戦力強化が期待できる体制が整った。

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

株式会社ア・トスフーズ(食品加工業等) の取組み事例：AIとデータ活用による生産計画・営業管理の高度化および業務効率化の検討

参加者

企業

社名	株式会社ア・トスフーズ
業種	食品加工業等 (地元食材)
事業概要	地産地消を軸に、県内産素材で惣菜・OEM・特産品開発を行う食品メーカー
所在地	鹿児島県薩摩川内市
提供データ種類/蓄積量	原価・生産・売上・仕入実績 営業関連データ

参加した受講生の概要

チーム名	茶、やらんと始まらん！ -ちゃそっこを調教する会-
チーム人数	５名
スキル・PR	ITエンジニア、銀行リスク管理、インフラ現場、業務改善、ICT教育支援、個人投資家など
進める中で工夫したこと	データを補完・整理し、AIを活用して短期間で業務用モックを構築しながら、PoCを進めたこと

実施概要

課題内容

利益率を高め、その状態で売上げを更に増やしていけるような社内管理態勢の強化

- 生産計画が社長に属人化しており、事業承継に向けたデータ活用・仕組み化が必要
- 過去データや受注予測を活用した生産・営業管理(AI活用含む)の高度化が未整備
- 営業管理や発注管理の効率化に向けた簡易ツール導入とPDCA整備が必要

実施した検討内容

AIエージェントを活用したデータ整理＋専門家によるレビューによるPDCAの構築

- 原価・生産・売上・仕入データの統合と自動整理・確率的補完基盤の構築検討
- 社長依存の生産計画を再現可能な標準フローへ落とし込む分析
- 受注予測と連動した生産・在庫・発注ロット最適化モデルの検討
- Google Antigravityで即運用可能な営業・PDCA管理ツールの試作・検証

検討の成果

データ活用によるコスト削減・収益改善の定量的効果を可視化

- 年間管理コストを10～30%削減できる可能性を確認
- 在庫を10～25%削減し、キャッシュフロー改善効果を想定
- 利益率＋1～3%改善、年間約500万～1,500万円規模の利益向上を試算
- ROI300～1000%水準の高い投資対効果を想定

※チーム名は鹿児島県茶業会議所 かごしま茶PR漫画『ちゃのり部』を参考にしました。

株式会社ア・トスフーズ(食品加工業等) の取組み事例：AIとデータ活用による生産計画・営業管理の高度化および業務効率化の検討

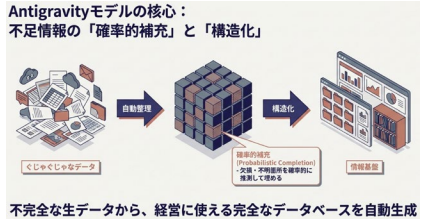
実施内容の詳細

データ整理と不足情報の確率的補充→システム化

1 人手での分析しやすいTidyデータ化は困難

社内の整理されていないデータを丁寧にクリーニングしていくことが望ましいが、通常業務に加え、時間や労力が相当にかかる。

2 AIエージェントを活用した社内データ整備



(1) 各種データの統合と自動整理・確率的補完
(2) 各担当の個別タスクの成果を段階的に投入
(3) 複数モデルによる監査および監査基準の更新

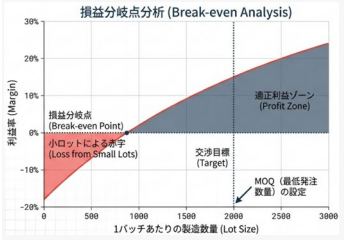
3 ブラウザベースの管理ダッシュボード構築

(1) 営業、受注、粗利、資金繰りなどを見える化
(2) ブラウザ情報を分析できるチャットボットを導入
(3) 修正点等は要件定義に追加、容易に変更

成果

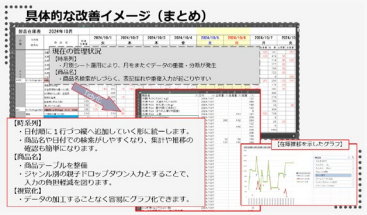
AIエージェントと担当の協働により、継続的に管理システムを進化させる態勢整備

■戦略法務

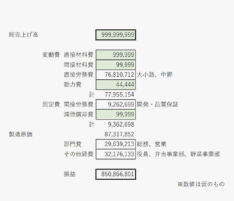


取引先と自社の複数のシナリオを勘案し、戦略的な契約文言で取引先をコントロール

■在庫最適化

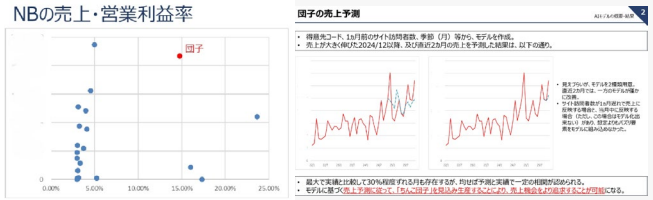


■月次採算性



データの確率的補完に加えて、在庫最適化の手法、月次採算の可視化の検討を行った。

■AIによる需要予測 (ちんこ団子)



■在庫回転を考慮した需要予測

保存食のため在庫を多めに持て需要予測の評価指標を調整

※ 2026年1月時点で企業様からご提供頂いた情報を基に試験的に実施した内容となります。この時点での正確性や効果を保証するものではありません。2枚目資料の数字は仮のものとなります。

株式会社別大興産 (不動産業) の取組み事例: デジタル技術を活用した社内マニュアルの高度化およびアメーバ経営の実現

参加者

企業	社名	株式会社別大興産
	業種	不動産業
	事業概要	不動産の販売、仲介、管理
	所在地 (都道府県・市区町村)	大分県別府市餅ヶ浜町 1
参加した受講生の概要	チーム名	TTS
	チーム人数	3名
	スキル・PR	チーム全員がSE
	進める中で工夫したこと	業務では活用できていないAIのサービスをフル活用した点

実施概要

課題内容

AI技術等を活用した社内マニュアルの検索性向上と業務標準化
- マニュアルの検索性が低いためタイムリーな活用ができず、判断が属人化 (先輩・上司への依存) している
- マニュアルに沿った顧客対応が徹底されていないため、手戻りや対応品質のばらつきが発生している

グループ内受発注業務の脱属人化とアメーバ経営実現に向けたコスト管理
- アナログ (メール) な受発注業務により、対応漏れや欠品が発生し、進捗状況もブラックボックス化している
- 物品発注や人員応援など、グループ間・事業所間のコスト移動 (請求) を正確かつ効率的に管理できていない作業工程の効率化による生産性の向上

実施した検討内容

AI技術 (NotebookLM) の実用性検証と導入環境の整理
- 実際の社内資料を取り込み、検索精度やQ&A機能などが業務で通用するかを多角的に検証

発注業務のTo-Beモデル策定と実現手段の具体化
- 発注業務および周辺プロセスを含めた理想的な業務フロー (To-Be) を設計し、画面モックアップを用いて操作性を検証
- 持続的な運用を見据え、「kintone」を活用したローコード開発への方針を決定

検討の成果

AI活用 (NotebookLM) の社内合意形成と全社展開の決定
- 実機デモにより経営層から高い評価を獲得し、導入に向けた社内合意を形成
- まずは2部門に限定してNotebookLMを展開

kintoneによるシステム構築方針の確立とアメーバ経営実現への道筋
- 物品発注と人的応援 (サービス) のサンプルアプリを提供

日向市観光協会 (運輸業) の取組み事例: 観光DXを通じた新たな顧客層の開拓

参加者

企業

社名	日向市観光協会
業種	デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析の運輸に附帯するサービス業
事業概要	観光を通じた地域活性化 (市民、事業者、行政一体で)
所在地 (都道府県・市区町村)	宮崎県日向市

参加した受講生の概要

チーム名	だれやみ
チーム人数	4名
スキル・PR	宮崎県出身のリーダーが「地元にご恩返ししたい!!」という熱い想いに意気を感じた九州好きの面々です
進める中で工夫したこと	スタンダードなツール・アプローチや生成AIを活用して短期間で成果を生み出すことにこだわりつつ、生まれた時間を議論や対話に使うことで相互の「学び」に努めました

実施概要

課題内容

マスツーリズム型のキャンペーンから戦略的デジタルマーケティングへの転換

- ポストコロナにおける観光客数の回復の遅れ、インバウンド・宿泊数・単価の伸び悩み
- 旅行者の利便性向上・周遊促進や体験型・個人向け情報の発信が不足
- 県北・日向市の魅力をストーリーとして伝えきれていない
- 限られた財源・人員体制の下での対応や、様々なステークホルダーとの合意形成が必要

実施した検討内容

スタンダードアプローチを活用したターゲット顧客絞り込みとウェブサイト改定に当たってのRFP検討

- 県北を訪れる周遊・長期滞在型観光客の潜在的市場規模の推定
- ターゲット顧客の選定とペルソナ・カスタマージャーニーの策定
- Google Analytics4を活用したインバウンド顧客の分析
- 競合サイトの評価とウェブサイト改定に向けたRFP検討項目・検討基準への落とし込み

検討の成果

ウェブサイト改定に向けた方針・戦略を3ヶ月という短期間で整理し、今後の観光DXに向けた関係者との間での議論の土台をつくることができた

- 定量的な分析を通じてターゲット顧客を選定することができた
- 生成AIを活用してターゲット顧客のペルソナ・カスタマージャーニーを短期に作成することができた
- 予算等の制約の下で、関係者の議論を進めるためのウェブサイト改定の方針・戦略を定めることができた

日向市観光協会 (運輸業) の取組み事例: 観光DXを通じた新たな顧客層の開拓

(1/2 - 検討プロセスにおけるステップ別成果)

実施ステップ (概ね週1回 (1.5時間程度) の定期的議論)

ステップ別成果

経営理念をDXを通じて実践可能な施策 (具体的にはウェブサイト改定) に落とし込んでいくためのプロセスを組み上げることが出来た

(経営理念: 人々の営みが育んだ**文化と自然**を背景に、常に**世界に選ばれるデスティネーション**を目指し、**持続可能な社会**を地域と一体的に実現する)

スタンダードなアプローチに基づく観光DX検討

ステップ別成果

要求定義 (11/5-11/26)

■ **1回目議論: ビジョン・戦略の確認と現状分析**
- 日向市観光戦略の確認
- 現行のウェブサイトの定性的・定量的解析

経営理念に基づく「強み」「弱み」を整理
強み: 県北・日向市ならでは強み**"海(自然)と神話(文化)"**。二つの柱で唯一無二の場所を訴求可能
弱み: 体験型・個人型ツーリズムにむけたインバウンド顧客の**利便性向上・周遊促進のための情報提供**

■ **2回目議論: 3C＋SWOT分析に基づく方針策定**
- 3Cに基づく観光地としての日向市の魅力の確認
- SWOTに基づく市場セグメント設定

九州観光の価値再発見のキーとしての「県北・日向市」の魅力が活きる顧客セグメントの定義
✓ 日向市単体としてより、**九州広域・周遊型観光のゲートウェイとして「県北・日向」**を位置づけ
✓ ３つの「深める」で長期滞在型顧客をセグメンテーション - **「九州への理解」「学び」「自己/家族への理解」**

マーケティング戦略策定 (12/3-12/26)

■ **3回目議論: 潜在的効果の可視化**
- インバウンド国別市場規模推定
- ウェブサイトの訪問前/訪問時のアクセス分析

県北・日向市が強みを持つ顧客セグメント攻略による潜在的市場規模・インパクトを可視化
✓ 福岡・熊本・大分から流入する長期滞在型インバウンド顧客として**年間約10万人、25億円/泊**と試算
イベント重視のウェブサイトのコンテンツを、インバウンド向けにコンテンツ見直すことで送客増の可能性あり

■ **4回目議論: プロモーションストーリー策定**
- 対象国の選定
- 対象国別のペルソナ・カスタマージャーニーの策定

国別顧客セグメントの特徴や潜在的市場規模にに応じたプロモーションストーリーの策定
✓ 顧客セグメンテーション・市場規模に基づく対象国を選定 (**シンガポール、台湾、フランス、インド、オーストラリア**)
✓ 九州周遊型観光の宮崎県のゲートウェイとしての**「県北・日向市」の魅力を訴求するためのストーリー策定**

■ **5回目-6回目議論: ウェブプロモーション戦略策定**
- 競合先ウェブサイトとの比較・分析
- RFPの構成要素の検討

対象国を想定してのウェブサイト改定の整理
✓ 対象顧客の「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」での**判断を助ける情報設計** (特に「**予約・決済の導線**」整備)
✓ RFP構成要素の整理 (①目的・背景、②ウェブ・SNS役割分担、③ターゲット、④スケジュール、⑤コンテンツ、⑥機能・UX要件、⑦運用、⑧価格)

RFP策定 (1/14-1/21)

■ **7回目-8回目議論: RFPへの落とし込み**
- 予算・人員等の制約要因の確認と優先順位の検討
- RFPの策定

ベンダーおよび関係者との議論を開始するためのRFPの整理
✓ 現状の予算・人員等の下でのウェブサイト改定要望に対する**ベンダー発注の優先事項の整理**
✓ 今回ベンダー発注できなかった改定要望に関する**今後の対応方針の整理**

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

日向市観光協会 (運輸業) の取組み事例: 観光DXを通じた新たな顧客層の開拓
(2/2 - 主要成果とその効果)

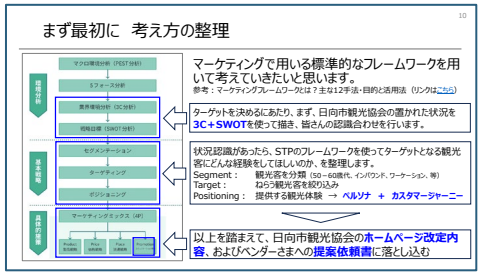
成果創出に向けたアプローチ

主要成果 (Output) とその効果 (Outcome)

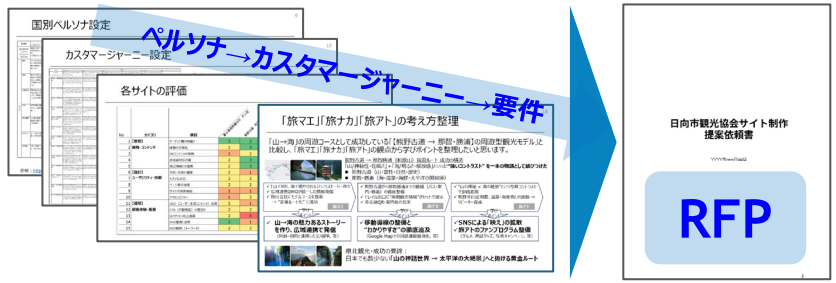
「品質が担保されたデータ」+「スタンダードアプローチ」+「生成AI」を活用することで、専門家でなくても**短期間で成果**が出せただけでなく今後、**多様なステークホルダーを巻き込んで議論を進めていく上での共通の土台**を築くことが出来た

スタンダードアプローチ＋生成AIの活用を通じた戦略・施策への落とし込み

参考: マーケティングフレームワークとは？主な12手法・目的と活用法

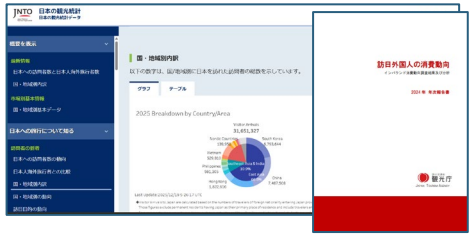


✓ 専門家が1～3ヶ月の期間を要して検討するWebマーケティング施策を、経験の乏しい者でも3ヶ月で検討することが出来た。

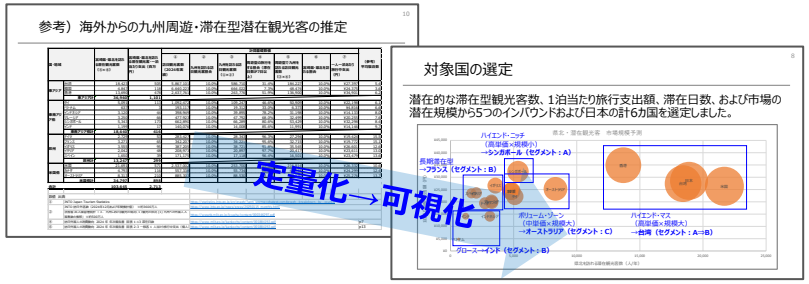


公的統計・オープンデータを活用した定量的な分析に基づく目標設定

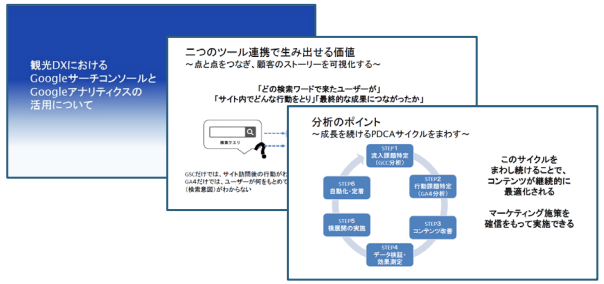
- 観光庁 「宿泊旅行統計調査 (2024 年1-12月 確定値) 」
- 観光庁 旅行・観光消費動向調査 2024年年間値 (確報)



✓ 観光客数・観光消費額につき、定量的かつ具体的な効果を示すことで、ターゲット選定における議論・合意形成を円滑に進めることが出来た。



Google Search Console / Google Analytics4を活用した効果測定・分析



✓ オープンかつ実績のあるテクノロジーを活用することで、自組織でウェブサイトの改善に取り組んでいくための下地を作ることが出来た。

日向市観光協会ウェブサイト: https://hyuga.or.jp/

Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

パターン③
「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」の取り組み事例

「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」の取り組み内容

企業の状態

- デジタル化の取組みは一定進んでおり、それらを活用した新しいビジネスモデルを創出したい

本段階で目指すゴール

- 新しいビジネスモデルの創出に向け、考え得るアイディアが幅広く示されている
- (可能であれば)
  取り組むべきアイディアが数個に絞られ、初期的なビジネスシナリオ案や、実現までの検討事項 /
  今後のロードマップが示されている

参加企業および実施内容の概要 -パターン③

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
75	株式会社西原商事ホールディングス	サービス業	福岡県	公益財団法人 九州先端科学技術 研究所	環境DXによる脱炭素・資源循環を起点とした新規事業創出
76	株式会社クリエスタ	情報通信業	福岡県		高齢者向けのAIパートナーのプロトタイプ開発と価値検証
77	株式会社デジオン	情報通信業	福岡県		個人識別情報 (PII) のセキュリティDX推進
78	URBANIX株式会社	サービス業	福岡県		まちの余白を資源化するまちづくりDX
79	株式会社美装社	建設業	宮城県	株式会社ミヤックス	「看板×データ」

株式会社西原商事ホールディングス (リサイクル・廃棄物処理事業) の取組み事例: 環境DXによる脱炭素・資源循環を起点とした新規事業創出

参加者

企業	社名	株式会社西原商事ホールディングス
	業種	リサイクル・廃棄物処理事業
	事業概要	廃棄物の収集運搬・処理 リサイクルプラント運営 環境管理システムの開発・提供
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県北九州市
参加した受講生の概要	チーム名	NSHD-3R
	チーム人数	3名
	スキル・PR	新規事業創出経験 業務効率化 PMO
	進める中で工夫したこと	チームメンバーの共通時間の作成 新規サービス検討というスコープ故のゴールの決め方

実施概要

課題内容

新サービスモデルの構築

- 人材リソースの限界や日々の業務による時間不足により、新しい取り組みが停滞
- これまでの考え方 (思考の固定化) にとらわれてしまい、新しい発想が出にくい
- 自社以外で様々な背景を持ったリソースをもとに新規事業の創出/既存事業の拡大を図りたい

実施した検討内容

サービス提供者のニーズ把握と市場性・利便性を踏まえたサービスモデルの検討

- サービス提供者がどのような課題を抱えているのか調査を実施
- 各課題についての、市場規模と獲得しうる市場の大きさの課題の調査を簡易的に実施
- DASTALKを利用したユーザーの利用フローについての検討

検討の成果

自治体や大手プラットフォーマーへの提案を通じた、サービス実用化に向けた協力体制の構築

- フリマアプリ事業者や自治体への事業提案の実施
- サービスの有効性とニーズの確認 (提案先からのフィードバックを通じて、このサービスが解決すべき課題に合致していることを確認、今後PoC工程に移っていく)

株式会社西原商事ホールディングス (リサイクル・廃棄物処理事業) の取組み事例: 環境DXによる脱炭素・資源循環を起点とした新規事業創出

実施内容の詳細

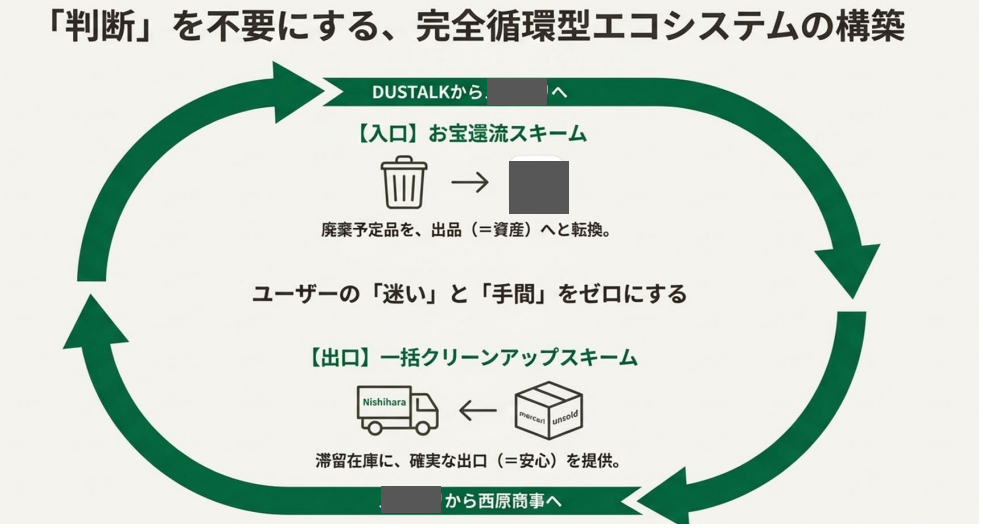
5つのプロセスにおいて、市場検証とサービス設計を簡易的に実施

1. **課題ヒアリング**
   - 西原商事HD様より現状の課題をヒアリングして課題一覧を作成
2. **市場調査**
   - どんな対策が打てるのか、市場規模/獲得余地がどのくらいあるかをAIなど用いて簡易的に調査
3. **サービス検討**
   - 西原商事HD様とすり合わせの上、DASTALKを利用したフリマアプリへの廃棄物出品サービスをPoC候補として選定
4. **提案資料作成**
   - 今回のサービスのメリットと想定フローを提案資料として作成
5. **提案活動**
   - フリマアプリ事業者や自治体へ提案
     (自治体からはおおむね好意的な回答かえってきており今後PoCへ着手)

成果

自治体とフリマアプリ事業者からは前向きな回答を受領
今後PoCへ着手、サービス化を想定

- ユーサニーズあるサービスを検討できた
- 自治体から好意的な回答あり (協力いただけそう)
- フリマアプリ事業者からも社内検討が必要なものの好意的な返答をいただている



株式会社クリエスタ (情報通信業) の取組み事例: 高齢者向けAIパートナーのプロトタイプ開発と価値検証

参加者

企業	社名	株式会社クリエスタ
	業種	情報通信業
	事業概要	webサイトや広告等クリエイティブ制作、事業戦略、マーケ戦略等の支援
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
参加した受講生の概要	チーム名	TEAM　KOMOREBI
	チーム人数	4名
	スキル・PR	メンバーごとのRP • 介護支援専門員 • PMO • 母親を介護している。様々なAIツールを使いこなす • 両親を介護している
	進める中で工夫したこと	企業様と毎週MTGの時、スライド作成し、報告、情報共有した

実施概要

課題内容

高齢者向けAIパートナーのプロトタイプ開発と価値検証

- 孤立した地方の高齢者の生きがい再創造を目的としたAIパートナーの事業化
- AIからの声かけが本当に行動のきっかけになるのか?という価値の検証

実施した検討内容

AIパートナーの問いからはじまり、ペルソナを設定、設計思想へ

- アイデア (ペルソナの状況、感情、ペイン、ゲイン 等) を出し、グルーピングを実施
- 「孤独」について考え抜いた
- 孤独の背景要因、ペルソナの悩み等から設計思想へ発展させた

検討の成果

AIパートナーの設計思想の土台を築くことができた

これまでに話しあってきた設計思想を盛り込んだ、AIのプロトタイプを作成
「はなまるチャレンジ」の全体像を考えながら、「ありがとうの循環 (会話AI) 」「役割ミッション」のプロトタイプの開発

株式会社クリエスタ (情報通信業) の取組み事例: 高齢者向けAIパートナーのプロトタイプ開発と価値検証

実施内容の詳細

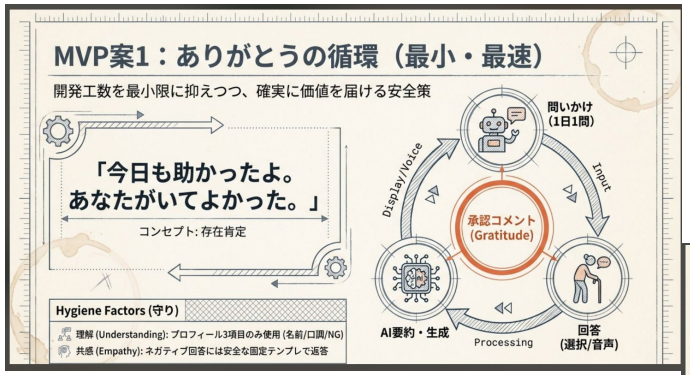
アイデア出しを行い、高齢者をとりまく環境や孤独の要因等を分類し、深堀りすることで分析

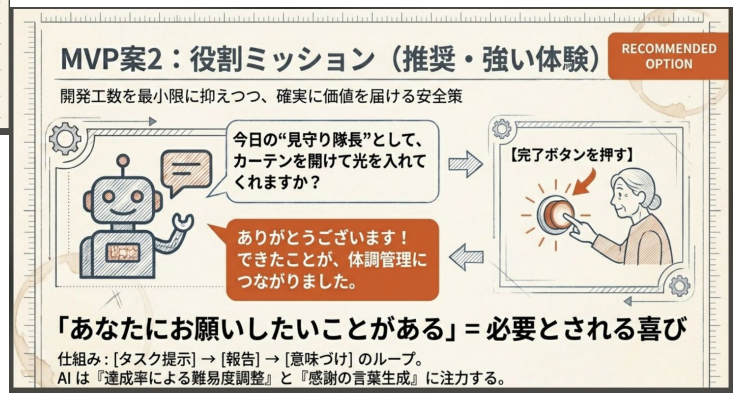
- アイデア出し (ターゲットの状況、気持ち、ペイン、ゲイン等) を行い「問い」ペルソナの設定
- アイデアを分類、ペルソナの1番の悩み、優先事項など深堀りすることで、高齢者をとりまく、要因を分析
- 分析結果から、設計思想の構築

成果

分析内容を、設計思想に昇華し、プロトタイプの開発へ

- 分析結果から、設計思想の構築
- やってはいけないこと、やらないことを定義





株式会社デジオン (情報通信業) の取組み事例: 個人識別情報 (PII) のセキュリティDX創出

参加者

企業	社名	株式会社デジオン
	業種	情報通信業
	事業概要	マルチメディアホームネットワーク事業 セキュリティ事業 IoTプラットフォーム事業 衛星・宇宙事業
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
参加した受講生の概要	チーム名	チームP
	チーム人数	5人
	スキル・PR	ローコード/AI/インフラの知見を持つメンバーが連携し、課題解決を行う
	進める中で工夫したこと	プロジェクト外の知見 (営業/AI有識者など) を巻き込み、関連部署へのヒアリングを実施した

実施概要

課題内容

- データ・デジタル技術を用いた「PIIのセキュリティDX」をテーマとした新規サービス開発を検討しているものの、市場ニーズとフィジビリティの不透明さから、検討が停滞していた

実施した検討内容

- PIIの取り扱い部署に対しアンケート調査を実施
- アンケート結果をもとに非効率化の要因の特定、課題抽出
- 課題に対するコンセプト設計

検討の成果

- アンケート結果をもとにPII取り扱い部署が抱える課題の可視化
- 効率化とセキュリティの両立を可能とするAIを活用したPII統合管理のコンセプトの策定

株式会社デジオン (情報通信業) の取組み事例: 個人識別情報管理におけるDX促進サービスのコンセプト提案

実施内容の詳細

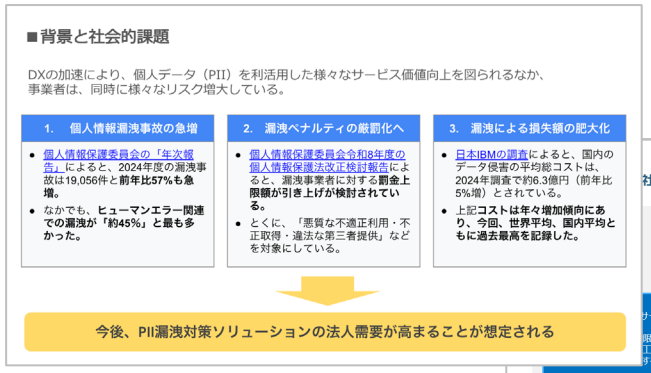
PIIの取り扱い事業者への聞き取りによる実査、およびデスクリサーチによる市場課題の調査にもとづき、ソリューションコンセプトを設計

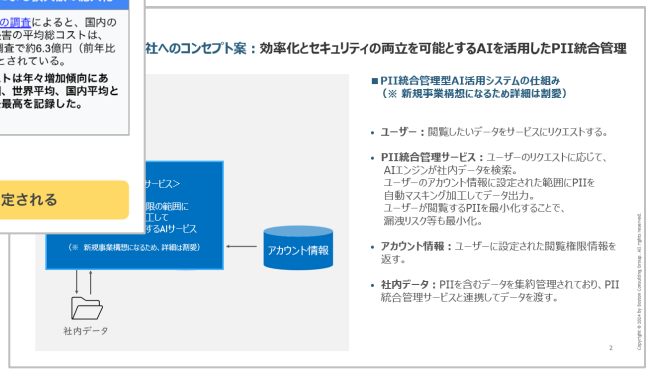
- 個人識別情報 (PII) 取り扱い部署 (営業担当、営業支援担当、派遣スタッフ登録担当、総務担当、健康管理担当) に対し、アンケート調査を実施
- アンケートの結果、「データの点在・煩雑化による工数過多」や「削除対象データの追跡性の欠如」等の課題を抽出
- 調査内容と抽出課題をもとに「効率化とセキュリティの両立を可能とするAIを活用したPII統合管理サービス」をコンセプト提案資料としてまとめ、デジオン社へ提示

成果

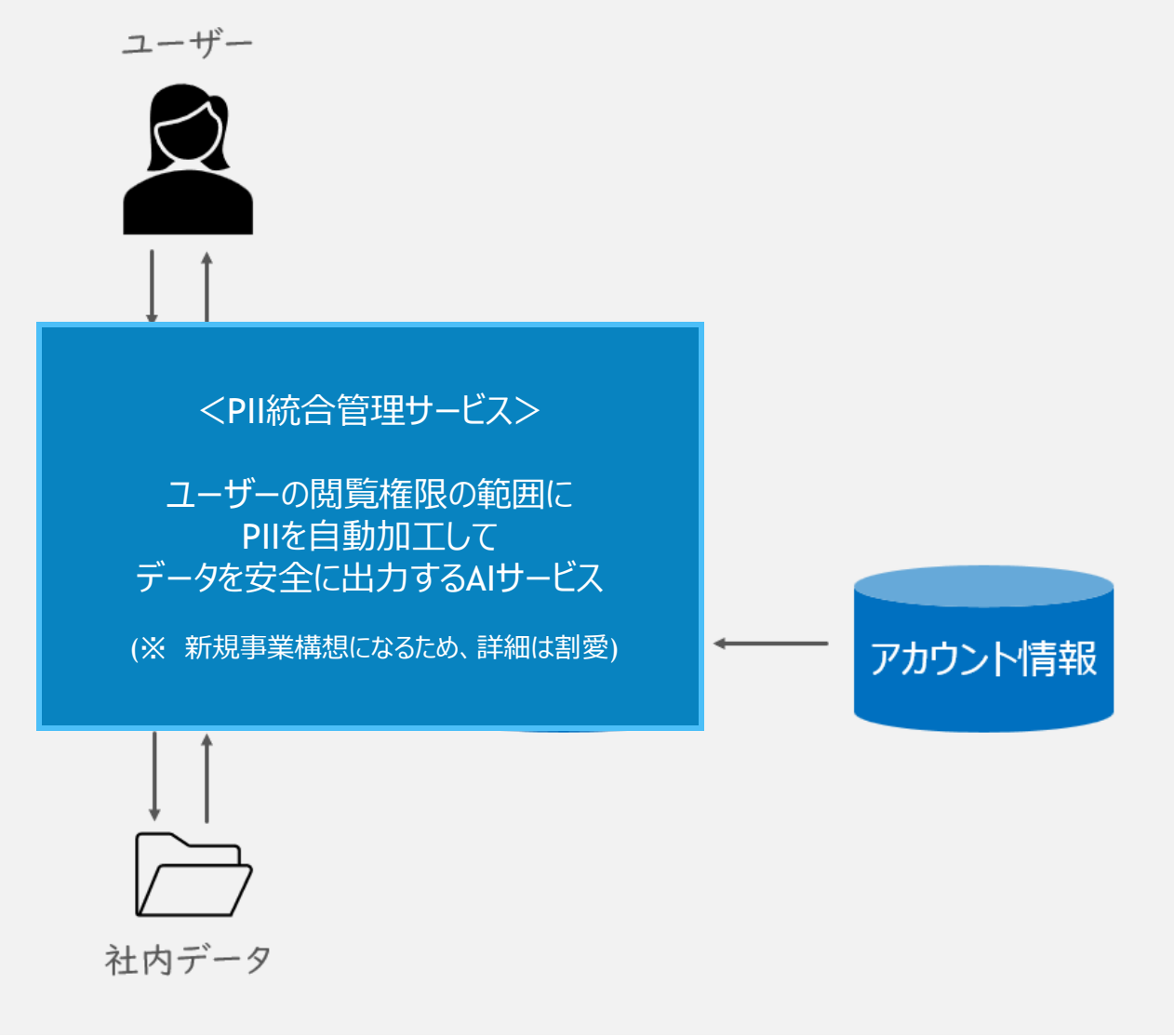
提案コンセプトが、マッチング企業の新規事業企画案のベースコンセプトとして採用され、同社の事業推進に貢献した。

- コンセプトと合わせて研究開発内容まで提示することで、同社の企画承認プロセスに合わせた内容を提案することができた。
- 提案したコンセプトは、後日同社の経営層を含む企画会議へエスカレーションされた。





株式会社デジオン (情報通信業) の取組み事例: 効率化とセキュリティの両立を可能とするAIを活用したPII統合管理



■PII統合管理型AI活用システムの仕組み
(※ 新規事業構想になるため詳細は割愛)

- **ユーザー:** 閲覧したいデータをサービスにリクエストする。
- **PII統合管理サービス:** ユーザーのリクエストに応じて、AIエンジンが社内データを検索。
  ユーザーのアカウント情報に設定された範囲にPIIを自動マスキング加工してデータ出力。
  ユーザーが閲覧するPIIを最小化することで、漏洩リスク等も最小化。
- **アカウント情報:** ユーザーに設定された閲覧権限情報を返す。
- **社内データ:** PIIを含むデータを集約管理されており、PII統合管理サービスと連携してデータを渡す。

URBANIX株式会社 (まちづくり・観光・不動産) の取組み事例: まちの余白を資源化するまちづくりDX

参加者

企業	社名	URBANIX株式会社
	業種	まちづくり・観光・不動産
	事業概要	都市の中の "変わり目" にある場所に入り込み、調査・企画・プロデュース・実装支援を行う
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
	提供データ種類/蓄積量	人口動態や店舗商業施設に関する立地データ
参加した受講生の概要	チーム名	よかまちイノベーターズ
	チーム人数	4名
	スキル・PR	機械学習、データ分析、まちづくり、社会福祉士、ITシステム構築、等
	進める中で工夫したこと	QGISを用いて、地図上でデータを可視化しながら、企業様と視覚的に確認を進めた

実施概要

課題内容

都市資産をDXで再定義し、新しい市場を生み出す新規事業プロジェクト

- 空間や場所と、挑戦したい個人・事業者をつなぐマップ型プラットフォーム「Placebook」を題材に、都市に眠る未活用資産 (空き店舗・公園・広場など) を DXの力で可視化し、新しいビジネスモデルを生み出す
- UI/UXの観点から、ユーザーが受け取りやすい (出店しようと判断できる) 情報加工とはどういうものか、受講生チームから提案

実施した検討内容

必要データの洗い出し、オープンデータの収集 (計10種) と可視化

- 必要データの洗い出し: ペルソナ設定、UI/UXの検討、現地調査、等
- オープンデータを収集し可視化して有効性を確認: 人口統計、駅乗降客数、用途地域データ、建物用途、食品等事業者の営業許可・届出情報、等

検討の成果

出店希望者が直感的に活用できるUI/UX機能を実装可能に

- 収集したデータの中から出店希望者が直感的に活用できるデータを選定して表示方法を検討
- 「Placebook」マップ機能への実装を想定した具体的なデザイン案 (駅乗降客数表示モード、地域特性表示モード) を作成→実装へ

URBANIX株式会社 (まちづくり・観光・不動産) の取組み事例: まちの余白を資源化するまちづくりDX

実施内容の詳細

必要データの洗い出し
オープンデータの収集 (計10種) と可視化

1.必要データの洗い出し

・出店者のペルソナを設定し、想定される業種ごとに出店の参考となると考えられるデータ・UI/UX案を検討

・ペルソナの設定例

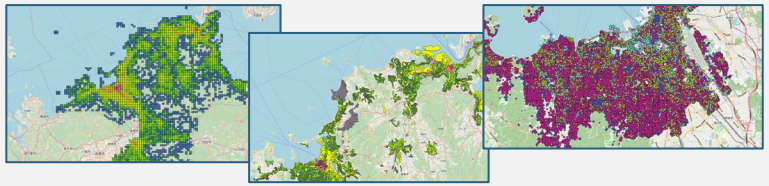
・出店の参考となるデータの例

人口統計 (年齢別人口、世帯構成、世帯年収分布)
周辺環境 (子育て施設、公共施設、駅乗降客数)
競合分析 (同業態店舗数、相乗効果店舗数)
立地環境 (アクセス条件、人・車通行量、用途地域)
不動産 (家賃相場・路線価)

・UI/UXの検討例

2.オープンデータを収集し可視化して有効性を確認。

① 国勢調査メッシュ統計	② 人流データ
③ 駅乗降客数	④ 建物用途データ(PLATEAU)
⑤ 用途地域	⑥ 地価情報
⑦ 飲食店営業許可情報	⑧ 経済センサス
⑨ 道路交通量	⑩ Google Maps API



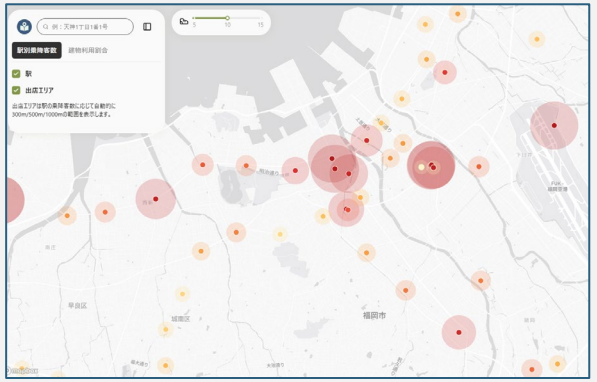
成果

出店希望者が直感的に活用できるUI/UX機能を「Placebook」に実装！

3.出店希望者が直感的に活用できるUI/UX機能を提案→実装へ

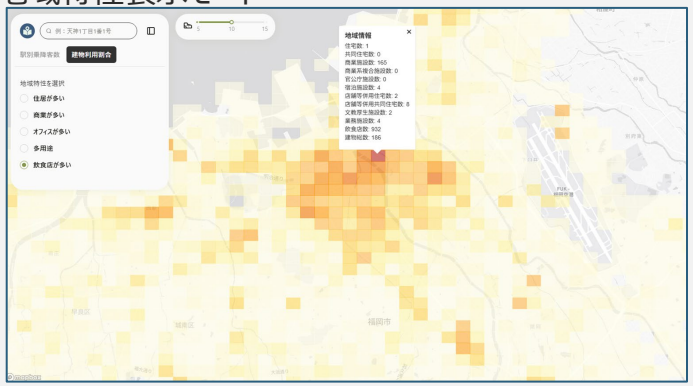
・収集したデータの中から出店希望者が直感的に活用できるデータを選定して表示方法を検討
・ Placebookマップ機能への実装を想定した具体的なUI/UXデザイン案を提案→実装へ

①駅乗降客数表示モード



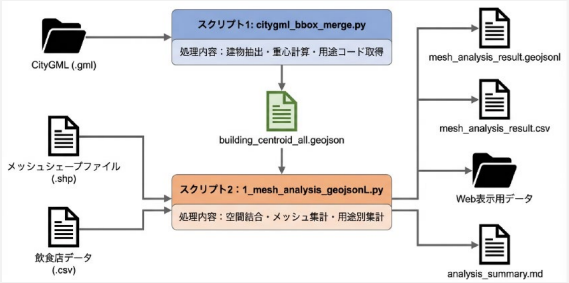
表示方法:駅の乗降客数に応じた半径の円(バッファー)で出店ポテンシャルの高いエリアを表示

②地域特性表示モード



表示方法:ラジオボタンで出店者が希望する特性に一致する地域を表示 (5モード切替) 、メッシュクリックで詳細を表示

・ 実装に必要なデータ変換スクリプトを作成



・ 得られた成果の意義

地域特性の直感的把握
出店者が地図上でエリア特性を直感的に理解可能に

未活用資産の再定義
空き店舗等のデータに新たな価値を付与

新規事業の発展に貢献
データドリブンなマッチングで新規事業に貢献

(株) 美装社 (広告サイン業) の取組み事例:「看板 x データ」

参加者

企業	社名	株式会社美装社
	業種	広告サイン業
	事業概要	屋外・屋内サイン広告全般のデザイン・製作・施工
	所在地 (都道府県・市区町村)	宮城県大崎市
	提供データ種類/蓄積量	看板 (サイン) に関するデータ
参加した受講生の概要	チーム名	五常
	チーム人数	5名
	進める中で工夫したこと	新規事業として実現可能かつ、美装社さんの強みを活かせる方向性を固めるための調査に時間をかけた点

実施概要

課題内容

新たな看板 x データの新規事業の検討

- 実証や過去の取り組みを踏まえ、事業化に向けた新規事業の検討

実施した検討内容

新規事業案の作成のための過去取り組み・データの精査、新規事業案の策定

- 過去の取り組みとデータを精査し、社内アセットを確認
- 社内アセットを活かせる新規事業案の策定

検討の成果

新規事業案を策定し、社外向けにピッチプレゼンを実施

- 宮城県の地域企業リバースピッチで新規事業案をプレゼン実施
- リバースピッチで技術的な課題が明確化された

(株) 美装社 (広告サイン業) の取組み事例:「看板 x データ」

実施内容の詳細

看板✕データ新規事業へのヒアリング

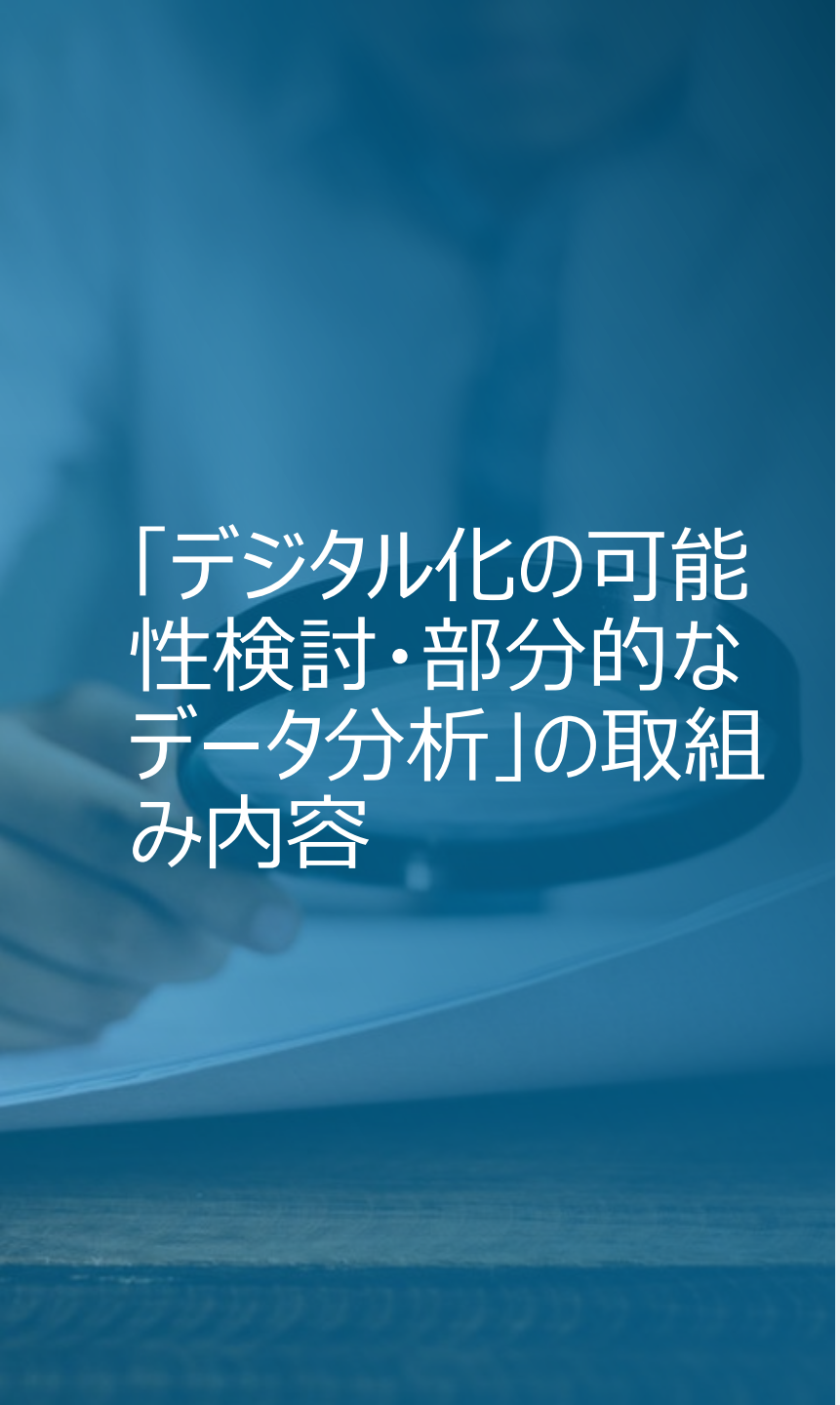
- 過去の実証実験の内容把握を実施した
- 過去の活動で得られたデータを共有いただいた
- 現場視察により、美装社さんとして今後やりたい方向性を共有いただいた
- BLEビーコン✕看板で人流予測・コントロールを提案した

成果

看板✕データ新規事業の活動成果

- 過去の実証実験では大学と協働し、「量子アニーリング」を用いた人流予測を検討した
- 現場視察により、美装社さんの重点を置きたいビジョンが明瞭に把握できた
- BLEビーコン✕看板の人流予測・コントロールのピッチプレゼン資料を作成し、プレゼン完成度を高めていった
- リバースピッチで得られたフィードバックをもとに、今後の新規事業プランをビーコンのみではなく、カメラによる画像解析も視野に入れてさらにブラッシュアップさせる必要がある

パターン1.5
「データ・デジタル技術を用いた新規事業検討」の取り組み事例



「デジタル化の可能性検討・部分的なデータ分析」の取組み内容

企業の状態

- デジタル化に向けた構想をブラッシュアップしたい
- 保有データの有効性を確認しつつ、ロードマップを具体化したい
- 活用可能なデータがある場合は、その一部を使って分析や活用方法を試行したい

本段階で目指すゴール

- 保有するデータの有効性が検証できており、データが活用可能な場合は打ち手の具体化が完了している(データが不足している場合は、取得方法の検討ができている)
- DX推進ロードマップが具体化されている

参加企業および実施内容の概要 -パターン1.5

#	企業名	業種	所在	地域ハブ団体	実施テーマ
80	株式会社ラブリントン	サービス事業	熊本県	有限責任監査法人トーマツ	アナログ業務における非効率やヒューマンエラーの特定・業務改革の検討
81	株式会社崎浜商店	卸売業・小売業	沖縄県		配送業務をデジタル化し、配送効率向上、属人化の解消を実現するDX

株式会社ラブリントン (フォト・ウェディング事業) の取組み事例: アナログ業務における非効率やヒューマンエラーの特定・業務改革の検討

参加者

企業	社名	株式会社ラブリントン
	業種	フォト・ウェディング事業
	事業概要	フォト事業、コスチューム事業、ウエディング事業
	所在地 (都道府県・市区町村)	熊本県熊本市
参加した受講生の概要	チーム名	未来ラボ
	チーム人数	4名
	スキル・PR	IT企業社員4名 (SE,営業) 実運用の経験を元に現場に寄り添った取り組みを実施 資格: ITコーディネータ、E資格
	進める中で工夫したこと	課題の見える化 共通言語でのコミュニケーション

実施概要

課題内容

衣装準備の非効率改善 (紙運用や業務フロー未整備)

- 衣装準備は、紙を印刷して手書きで追記・修正する運用が中心となっており、転記や確認の手間、更新漏れが発生しやすい
- 準備手順や確認観点が統一されておらず、抜け漏れや手戻りが起きやすい

実施した検討内容

業務フローの分解・課題抽出と、データ活用による効率化効果の検証

- 現場ヒアリングを通じて衣装準備業務の手順を整理、工程を分解したうえで各工程での課題点を深掘り
- 準備情報をデータの状態で参照・活用する運用を想定。テストツールを作成し、効率化効果を体感ベースで検証

検討の成果

業務課題の構造化、データ活用による改善効果の方向性を提示

- 現状業務を工程分解し、非効率の要因を整理
- データのまま参照する運用を試行し、確認作業の短縮・抜け漏れ抑制が期待できることを体感的に確認

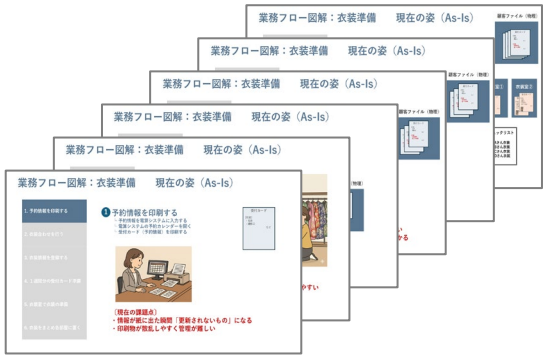
株式会社ラブリントン (フォト・ウェディング事業) の取組み事例: アナログ業務における非効率やヒューマンエラーの特定・業務改革の検討

実施内容の詳細

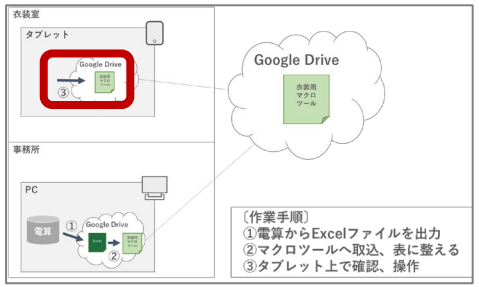
衣装準備業務を工程分解し、紙依存の課題を可視化。データのまま参照する運用を試行し、改善効果を検証

- 現場ヒアリングにより衣装準備業務を整理し、工程を分解して課題箇所を明確化
- システム構成のBefore/Afterを整理し、改善後の活用イメージを作成
- 紙に印刷せずデータ参照するテストツールを作成し、運用面の効果を体感検証

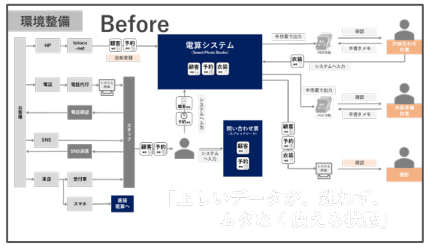
【業務フロー工程分解】

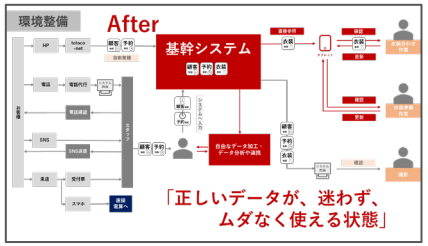


【テストツールによる試行】



【システム構成 Before/After 】





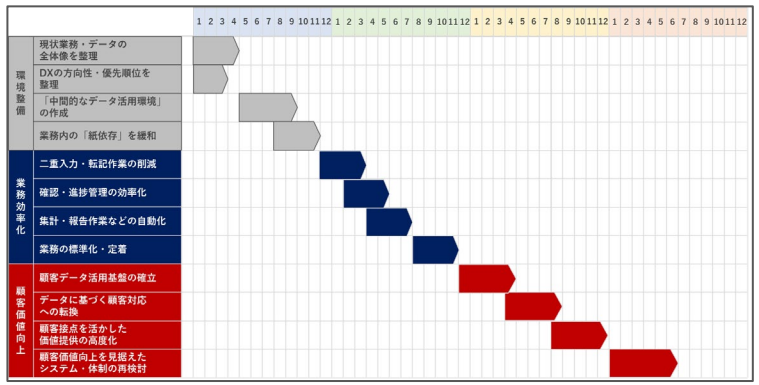
成果

準備状況を“見える化”する方向性を整理し、確認負荷・抜け漏れ低減に向けた改善案とロードマップを提示

- 工程別に非効率の要因を整理し、属人化ポイントを可視化
- データ参照での準備状況の一覧把握・検索性向上が有効であることを体感
- 次フェーズに向けて、段階導入のロードマップとして改善優先度を整理

【テストツールデモ画面 (一覧表) 】

【段階導入ロードマップ】



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

崎浜商店 (総合卸業) の取組み事例: 配送業務をデジタル化し、配送効率向上、属人化の解消を実現するDX

参加者

企業	社名	株式会社崎浜商店
	業種	総合卸業 (流通)
	事業概要	総合卸問屋として、食品流通で飲・食・健康に貢献
	所在地 (都道府県・市区町村)	沖縄県名護市
参加した受講生の概要	チーム名	ナカミ・スカイベアーズ
	チーム人数	5名
	スキル・PR	DX、データ分析 システム構想、PoC コンサルティング
	進める中で工夫したこと	DXロードマップをお互いに確認しながら、企業様が実施されたいことを整理した

実施概要

課題内容

A: 在庫管理・出荷・荷積のデジタル化
- 出荷ミス防止のため、出荷・積荷リストの改善、在庫管理数量管理を精緻化したい

B: 配送ルート最適化を図りたい
- ドライバーの経験と勘に依存した配送箇所順を最適な配送順として自動計算したい

実施した検討内容

A: 作業ミス防止のためのPCA外部でのメタデータモデル検討
- 今後業務DX化を図るためにDXロードマップの策定、PCAの管理に限界があるのでPCA外部にDBを置き、商品の状態管理モデルを検討

B: 配送順自動計算における制約条件など業務要件の整理
- 「焼きなまし法」計算スピード改善、配送締切時刻などの制約条件の操作を検討

検討の成果

A: PCA商管の数値を現実在庫に合わせる業務の確立
- PCA商管データが現物数量と相違する原因調査を実施、出荷・積荷リスト改善によるミス防止方法を提案

B: 配送順入換時に配送順自動計算を行う
- 実運転データなどから「焼きなまし法」による最適配送順推定をシステム化

崎浜商店 (総合卸業) の取組み事例: 配送業務をデジタル化し、配送効率向上、属人化の解消を実現するDX

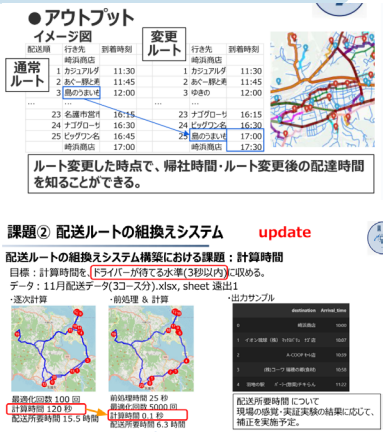
実施内容の詳細

A：PCA商管の数値を現実在庫に合わせる業務の確立

- 崎浜商店様にご訪問させていただき実際の集荷から配送までの運用業務を見学させていただいた。
- 崎浜商店様の販売・管理までの業務調査 (PCA商魂・商管の運用調査)
- 企業のIT成熟度を測るモデルとしてCMMIのご説明
- 他物流企業の事例調査

B：得意先リストから配送順自動計算を行う

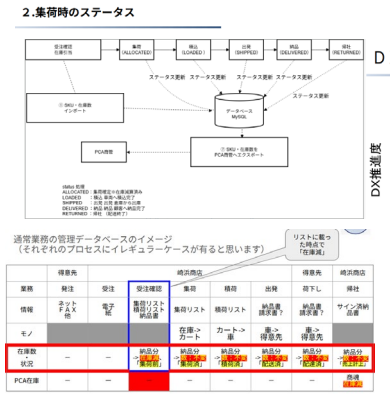
- 得意先リストとして、名称・緯度・経度・業務所要時間を使って、最適な配送順と地図上へのルート作成システムを実装
- 「○時までに配送」という得意先があり、配送業務や交通の都合で間に合わなくなったときに配送ルートの再計算が必要になる仕様に対する検討を行った



成果

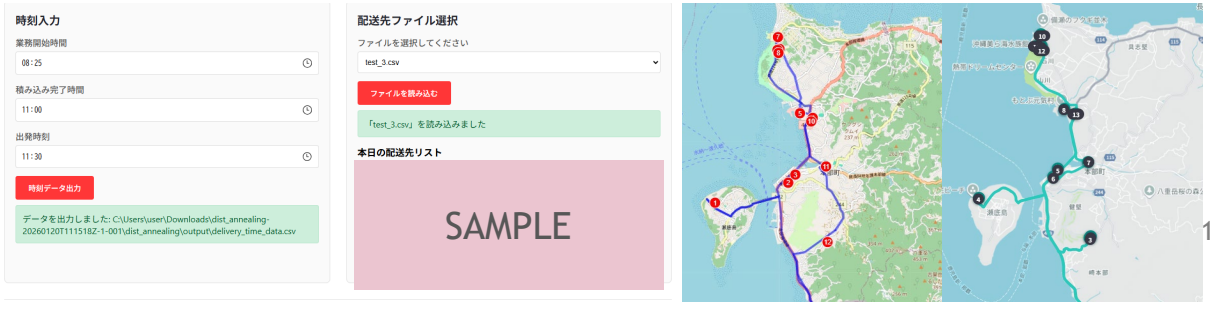
A：DXロードマップの策定・理解、出荷・積荷プロセスの確立に目処が立った

- 運用業務を見学させていただいた結果、現状集荷から配送までの商品の状態 (status) を確認することが出来ない状態と判明したため、在庫管理を行う場合はその重要性 (status管理、モデル図など使用) の知見を提供する事ができた
- 在庫管理で使用しているPCA商管の機能の重要性の知見を提供する事ができた
- CMMIやデジタル経営成熟度などをDXロードマップに盛り込み、IT整備と従業員のIT受容度を同時に上げていく取組の重要性をお伝え出来た



B：ドライバーの経験・勘とシステムによる配送順自動計算がほぼ一致

- 想定どおり、「焼きなまし法」を使った配送順の自動計算については従来よりも効率的なルート探索(449号線から③、449号線から⑦までの片道分を節約できる) が可能になり、経験や勘の属人性を解消出来た (下図右が実際通過したルート、左が計算したルート)
- 今後については提供済のシステムを(1)他のルート設計などに活用、(2)「明らかに他から見てもこのコースの走り方はおかしいよね」という点を可視化するツールとして属人化の排除、(3)効率化による時間短縮やコース増設の可能性にも繋がり配送だけでなく経営全体に有効につながるイメージが持てた、とのご評価をいただけた



Copyright © 2024 by Boston Consulting Group. All rights reserved.

Thank you